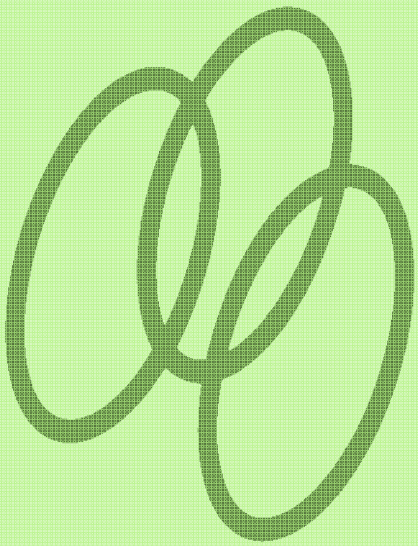
Musashigaoka College
Department of Health Science
Nutrition /Sports Science /Management

# SYLLABUS

2019



授業計画

武蔵丘短期大学

健康生活学科

健康栄養専攻／健康スポーツ専攻／健康マネジメント専攻

# 武蔵丘短期大学教育目標

## 武蔵丘短期大学　教育目標

本学は、人格教育、専門知識の習得、社会への貢献の基本理念のもと、次の目標達成を図る。

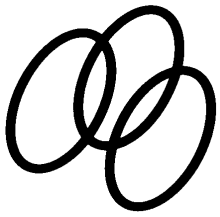
一、礼節を尊び、教養と情操豊かな人格を備えた人間性の養成

二、広い視野、深い思考力、豊かな表現力の養成

三、自分の進むべき道を切り拓く、自立心と創造力の養成

四、栄養と運動の両面から健康を支援する実践的指導者の育成

**【校章】**



**緑豊かな環境に恵まれた武蔵丘短期大学。このマークは自然（グリーン）と本学（M）の調和を表し、そこで学ぶ若者たちへのメッセージとして、創造、勇気、慈愛という言葉を３つのリングに託しているのです。本学はどんな時にでも健康生活のリーダーとして次世代を担う若者たちへ熱きエールを贈り続けているのです。**

# 専攻別の教育目的・教育目標

本学 健康生活学科は、健康栄養専攻、健康スポーツ専攻と健康マネジメント専攻の３専攻から構成される。次に専攻別の教育目的・教育目標をあげる。

## (1) 健康栄養専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

栄養士免許証、栄養教諭二種免許状の取得を主とした専攻として専門教科の充実を図り、健康生活を支援する実践的指導者を育成する。

② 教育目標

- 健康な体と心を食から支える力を養う
- 実験・実習で実践力・行動力を養う
- 栄養の幅広い知識やスキルを身につけ、スポーツや健康について学ぶ

## (2) 健康スポーツ専攻の教育目的・教育目標

① 教育目的

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者を育成する。

② 教育目標

- スポーツで心身を鍛え、社会に貢献する
- 健康づくりの実践的指導者を目指す
- 運動を安全に、楽しく継続するための手法を身につける

## (3) 健康マネジメント専攻の教育目的・教育目標

①教育目的

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にマネジメントできる力を養成し、社会人力や起業力など実社会で役立つ能力を持った人材を育てる。

②教育目標

- 健康生活を幅広く学んで実践し、社会に貢献する力を養う
- 健康な生活をプロデュースできる能力をはぐくむ
- 社会のニーズに対応した健康ビジネスを起業できる人材を育成する

# 武蔵丘短期大学 ３つの方針（ポリシー）

## ◆ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

**健康生活学科**

本学は建学の精神、教育理念に基づき、学位授与の方針を定めている。学則に明記された卒業要件を満たした以下の者に学位を授与する。

礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を有した慈愛あふれる社会人となる資質を備えている者。

自ら学ぶ積極性と探究心を育みつつ、広い視野と深い思考力を身につけ、栄養科学と運動スポーツ科学の理論を基礎とした健康生活のあり方を学修し、社会に貢献できる実践力を身につけた者。

**健康栄養専攻**

様々な現場に対応できる栄養の専門知識・技術を身につけ、さらにスポーツに関する基礎知識を加えた総合的な健康管理の指導技術を修得している。

**健康スポーツ専攻**

運動スポーツ科学・栄養科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための幅広い知識と技能を修得し、健康づくりの実践的指導者となる能力を有している。

**健康マネジメント専攻**

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にプロデュースできる知識と技術を修得し、実社会で役立つ能力を有している。

## ◆ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

**健康生活学科**

本学は、自ら学ぶ積極性と探究心を持ち、豊かな人間性と社会性、充実したコミュニケーションスキルを有した、社会に貢献できる健康生活の実践的指導者を育成する。この目的のために、基礎教育科目等、共通専門教育科目及び専門教育科目を設置し、講義、演習、実験、実習、実技の授業形態を体系的に配置している。

基礎教育科目等を中心として、礼節を尊び、高い教養と情操豊かな人格を育み、現代に必要なコミュニケーションスキルを持ち、社会に貢献できる資質を培う。

共通専門科目で、栄養と運動・スポーツに関する理論を基礎とした健康生活のあり方を学習し、健康生活を科学する実践力を養う。

**健康栄養専攻**

専門科目を通して､高度で多彩な要求に対応できる栄養に関する専門知識･技術を育む。

**健康スポーツ専攻**

専門科目を通して、運動スポーツ科学に基づき、運動を安全に効果的に楽しく継続するための知識と技能を育む。

**健康マネジメント専攻**

専門科目を通して、食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にプロデュースするための知識と技術を会得し、実社会での実践力を育む。

## ◆ アドミッションポリシー（入学者に関する受け入れ方針）

**健康生活学科**

本学の求める学生像とは、これらの教育目標に向けて、何事にも全力投球できる人、目的意識の明確な人、そして何よりも本学において学びたいと強く希望している人です。

**健康栄養専攻**

栄養士資格を主として栄養の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

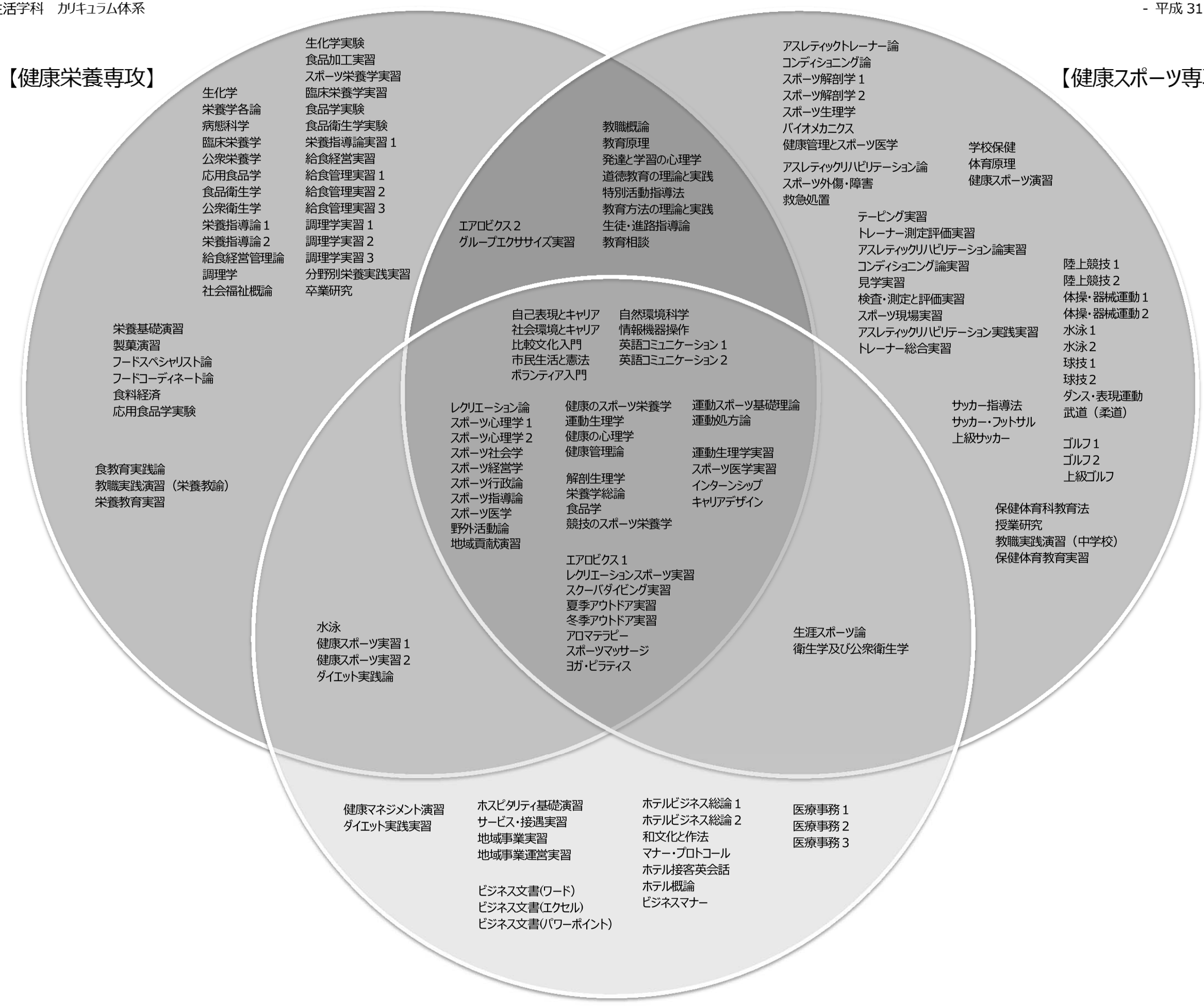
**健康スポーツ専攻**

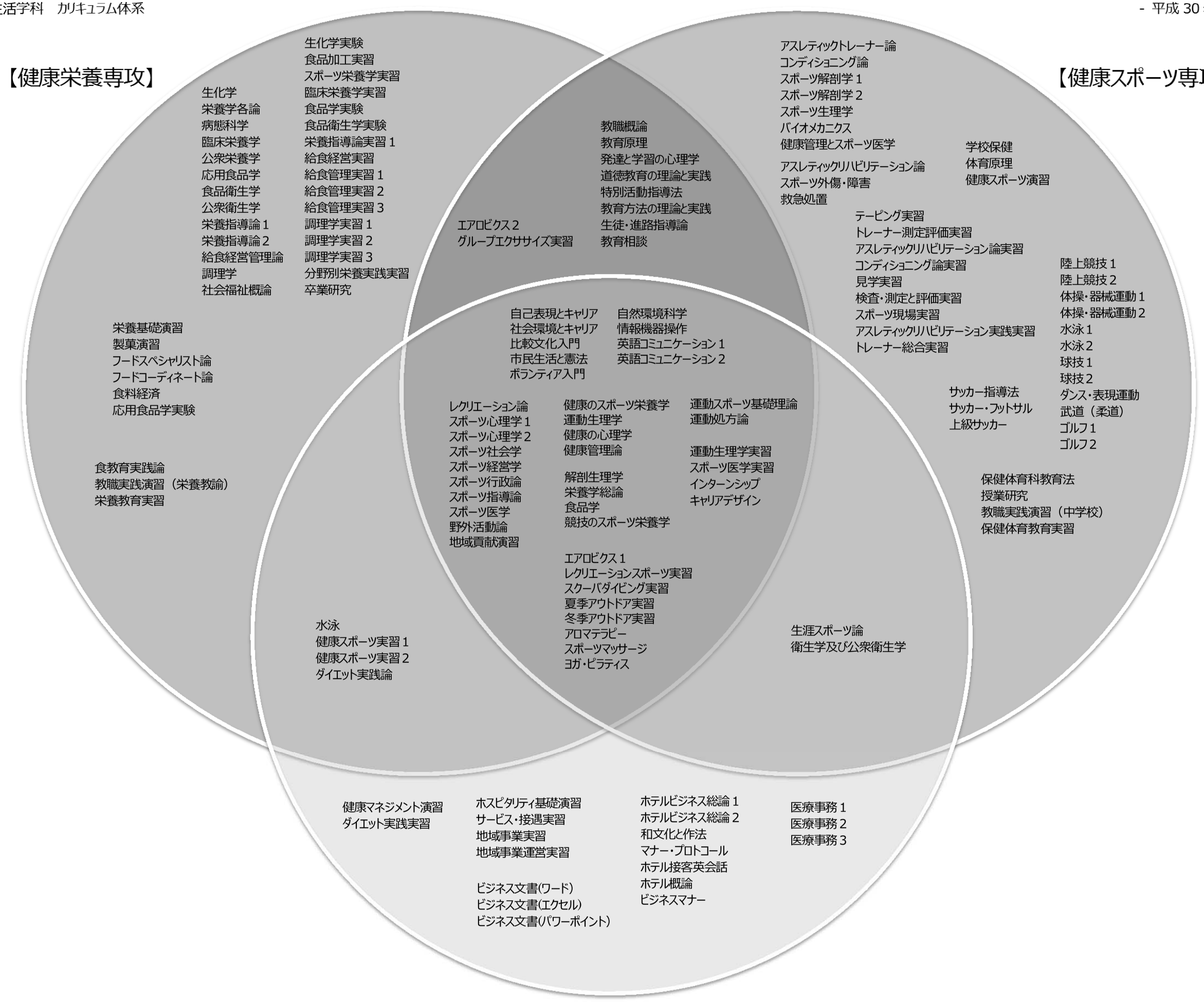
運動・スポーツの実践的指導の側面から、社会で即戦力として活躍したい人

**健康マネジメント専攻**

健康生活を総合的にプロデュースする側面から、社会で即戦力として活躍したい人

# 授業科目及び開講年次配当表


【健康栄養専攻】
生化学実験
食品加工実習
スポーツ栄養学実習
臨床栄養学実習
食品学実験
食品衛生学実験
栄養指導論実習１
給食経営実習
給食管理実習１
給食管理実習２
給食管理実習３
調理学実習１
調理学実習２
調理学実習３
分野別栄養実践実習
卒業研究
生化学
栄養学各論
病態科学
臨床栄養学
公衆栄養学
応用食品学
食品衛生学
公衆衛生学
栄養指導論１
栄養指導論２
給食経営管理論
調理学
社会福祉概論
栄養基礎演習
製菓演習
フードスペシャリスト論
フードコーディネート論
食料経済
応用食品学実験
食教育実践論
教職実践演習（栄養教諭）
栄養教育実習
【健康スポーツ専攻】
アスレティックトレーナー論
コンディショニング論
スポーツ解剖学１
スポーツ解剖学２
スポーツ生理学
バイオメカニクス
健康管理とスポーツ医学
アスレティックリハビリテーション論
スポーツ外傷・障害
救急処置
学校保健
体育原理
健康スポーツ演習
テーピング実習
トレーナー測定評価実習
アスレティックリハビリテーション論実習
コンディショニング論実習
見学実習
検査・測定と評価実習
スポーツ現場実習
アスレティックリハビリテーション実践実習
トレーナー総合実習
陸上競技１
陸上競技２
体操・器械運動１
体操・器械運動２
水泳１
水泳２
球技１
球技２
ダンス・表現運動
武道（柔道）
サッカー指導法
サッカー・フットサル
上級サッカー
ゴルフ１
ゴルフ２
上級ゴルフ
保健体育科教育法
授業研究
教職実践演習（中学校）
保健体育教育実習
教職概論
教育原理
発達と学習の心理学
道徳教育の理論と実践
特別活動指導法
教育方法の理論と実践
生徒・進路指導論
教育相談
エアロビクス２
グループエクササイズ実習
自己表現とキャリア
社会環境とキャリア
比較文化入門
市民生活と憲法
ボランティア入門
自然環境科学
情報機器操作
英語コミュニケーション１
英語コミュニケーション２
レクリエーション論
スポーツ心理学１
スポーツ心理学２
スポーツ社会学
スポーツ経営学
スポーツ行政論
スポーツ指導論
スポーツ医学
野外活動論
地域貢献演習
健康のスポーツ栄養学
運動生理学
健康の心理学
健康管理論
解剖生理学
栄養学総論
食品学
競技のスポーツ栄養学
運動スポーツ基礎理論
運動処方論
運動生理学実習
スポーツ医学実習
インターンシップ
キャリアデザイン
エアロビクス１
レクリエーションスポーツ実習
スクーバダイビング実習
夏季アウトドア実習
冬季アウトドア実習
アロマテラピー
スポーツマッサージ
ヨガ・ピラティス
水泳
健康スポーツ実習１
健康スポーツ実習２
ダイエット実践論
生涯スポーツ論
衛生学及び公衆衛生学
健康マネジメント演習
ダイエット実践実習
ホスピタリティ基礎演習
サービス・接遇実習
地域事業実習
地域事業運営実習
ビジネス文書(ワード)
ビジネス文書(エクセル)
ビジネス文書(パワーポイント)
ホテルビジネス総論１
ホテルビジネス総論２
和文化と作法
マナー・プロトコール
ホテル接客英会話
ホテル概論
ビジネスマナー
医療事務１
医療事務２
医療事務３
【健康マネジメント専攻】


【健康栄養専攻】
生化学実験
食品加工実習
スポーツ栄養学実習
臨床栄養学実習
食品学実験
食品衛生学実験
栄養指導論実習１
給食経営実習
給食管理実習１
給食管理実習２
給食管理実習３
調理学実習１
調理学実習２
調理学実習３
分野別栄養実践実習
卒業研究
生化学
栄養学各論
病態科学
臨床栄養学
公衆栄養学
応用食品学
食品衛生学
公衆衛生学
栄養指導論１
栄養指導論２
給食経営管理論
調理学
社会福祉概論
栄養基礎演習
製菓演習
フードスペシャリスト論
フードコーディネート論
食料経済
応用食品学実験
食教育実践論
教職実践演習（栄養教諭）
栄養教育実習
【健康スポーツ専攻】
アスレティックトレーナー論
コンディショニング論
スポーツ解剖学１
スポーツ解剖学２
スポーツ生理学
バイオメカニクス
健康管理とスポーツ医学
アスレティックリハビリテーション論
スポーツ外傷・障害
救急処置
学校保健
体育原理
健康スポーツ演習
テーピング実習
トレーナー測定評価実習
アスレティックリハビリテーション論実習
コンディショニング論実習
見学実習
検査・測定と評価実習
スポーツ現場実習
アスレティックリハビリテーション実践実習
トレーナー総合実習
陸上競技１
陸上競技２
体操・器械運動１
体操・器械運動２
水泳１
水泳２
球技１
球技２
ダンス・表現運動
武道（柔道）
ゴルフ１
ゴルフ２
サッカー指導法
サッカー・フットサル
上級サッカー
保健体育科教育法
授業研究
教職実践演習（中学校）
保健体育教育実習
教職概論
教育原理
発達と学習の心理学
道徳教育の理論と実践
特別活動指導法
教育方法の理論と実践
生徒・進路指導論
教育相談
エアロビクス２
グループエクササイズ実習
自己表現とキャリア
社会環境とキャリア
比較文化入門
市民生活と憲法
ボランティア入門
自然環境科学
情報機器操作
英語コミュニケーション１
英語コミュニケーション２
レクリエーション論
スポーツ心理学１
スポーツ心理学２
スポーツ社会学
スポーツ経営学
スポーツ行政論
スポーツ指導論
スポーツ医学
野外活動論
地域貢献演習
健康のスポーツ栄養学
運動生理学
健康の心理学
健康管理論
解剖生理学
栄養学総論
食品学
競技のスポーツ栄養学
運動スポーツ基礎理論
運動処方論
運動生理学実習
スポーツ医学実習
インターンシップ
キャリアデザイン
エアロビクス１
レクリエーションスポーツ実習
スクーバダイビング実習
夏季アウトドア実習
冬季アウトドア実習
アロマテラピー
スポーツマッサージ
ヨガ・ピラティス
水泳
健康スポーツ実習１
健康スポーツ実習２
ダイエット実践論
生涯スポーツ論
衛生学及び公衆衛生学
健康マネジメント演習
ダイエット実践実習
ホスピタリティ基礎演習
サービス・接遇実習
地域事業実習
地域事業運営実習
ビジネス文書(ワード)
ビジネス文書(エクセル)
ビジネス文書(パワーポイント)
ホテルビジネス総論１
ホテルビジネス総論２
和文化と作法
マナー・プロトコール
ホテル接客英会話
ホテル概論
ビジネスマナー
医療事務１
医療事務２
医療事務３
【健康マネジメント専攻】

# シラバスについて

本学は、教育理念である「人格教育」→「専門知識の習得」→「社会への貢献」に基づき人材養成の目標を学則上に定めております。また、学生へのメッセージとして「創造」「勇気」「慈愛」の想いを込めた校章を公表しております。

こうした本学の基本方針及びカリキュラムポリシーを具現化していくために、各授業科目の内容を記したものがシラバス（授業計画）になります。学生は、各授業を履修するにあたり、ご活用ください。

### ◆アクティブ・ラーニングの要素を含む授業について

下記のアクティブ・ラーニングの要素を含む授業を行っている場合は、「授業形態」欄に「アクティブ・ラーニング」と記載されています。

ア　協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
イ　ディスカッション、ディベート
ウ　グループワーク
エ　プレゼンテーション
オ　実習、フィールドワーク

### ◆実務家教員による授業科目

「担当教員名」の右端の欄に「 実 」と記載のある科目は、実務家教員による授業科目を表します。

### ◆科目ナンバーについて

科目ナンバーは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものとなります。ただし、授業科目の大きな再編等があった場合は、再付番することがあります。

科目ナンバー（例）　NSM　－　B　1　023
①　②　③　④

①…「開講されている専攻」を表します。
N：健康栄養専攻　S：健康スポーツ専攻　M：健康マネジメント専攻

②…「科目の種別」を表します。
B：基礎教育科目　S：専門教育科目　T：教職に関する専門教育科目

③…「科目のレベル・性格」を表します。

| No. | レベル・性格 | No. | レベル・性格 |
|---|---|---|---|
| 1 | 全学教育科目（英語２を除く） | 5 | 発展的な演習･実習･実験･実技 |
| 2 | 基礎的な内容の科目、英語２ | 6 | 卒業研究、ゼミ科目 等 |
| 3 | 発展的な内容の科目 | 9 | レベル分けが困難な科目<br>（インターンシップ、教育実習 等） |
| 4 | 基礎的な演習･実習･実験･実技 | | |

④…「分類番号（数字３桁）」通し番号を表します。

# 授業科目及び開講年次配当表(平成31年度・2019年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康栄養専攻)

平成31年度・2019年生

| 区分 | | | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 栄養教諭免許状 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育科目 | 人文 | 自己表現とキャリア | 2 | | 必修を含め10単位以上 | 半期 | 2 | | | | | 27 |
| | | 比較文化入門 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 28 |
| | 社会 | 社会環境とキャリア | 2 | | | 半期 | | 2 | | | | 29 |
| | | 市民生活と憲法 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | 30 |
| | | ボランティア入門 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | 31 |
| | 自然 | 自然環境科学 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 32 |
| | | 情報機器操作 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | 33 |
| | 外国語 | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | 34 |
| | | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | 35 |
| 合計 | | | 4 | 14 | | | | | | | | |

卒業要件単位数

基礎教育科目合計
- 健康栄養専攻 10単位以上
- 健康スポーツ専攻 10単位以上
- 健康マネジメント専攻 10単位以上

自己表現とキャリア 2単位
社会環境とキャリア 2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から 6単位以上

保健体育科目
- 健康栄養専攻 専門教育科目をもってふりかえる
- 健康スポーツ専攻 専門教育科目をもってふりかえる
- 健康マネジメント専攻 専門教育科目をもってふりかえる

専門教育科目合計
- 健康栄養専攻 52単位以上
- 健康スポーツ専攻 52単位以上
- 健康マネジメント専攻 52単位以上

**卒業要件単位数**
- **健康栄養専攻 62単位以上**
- **健康スポーツ専攻 62単位以上**
- **健康マネジメント専攻 62単位以上**

## 2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

平成31年度・2019年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 栄養士免許証 | 健康運動実践指導者 | ピアヘルパー | GFI | フードスペシャリスト | 健康管理士一般指導員 | NR・サプリメントアドバイザー | レクリエーション・インストラクター | キャンプインストラクター | スポーツ栄養士共通ⅠⅡⅢ | 介護予防運動スペシャリスト | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康栄養専攻 専門教育科目 | 健康のスポーツ栄養学 | | 2 | 3科目以上必修 | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | 39 |
| | 運動生理学 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | 40 |
| | 健康の心理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | 41 |
| | 健康管理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | ○ | 42 |
| | 解剖生理学 | | ＊2 | ＊印の科目から11科目22単位以上必修 | 半期 | | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | 43 |
| | 栄養学総論 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | 45 |
| | 食品学 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | | 47 |
| | 競技のスポーツ栄養学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 49 |
| | スポーツ運動学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | | ○ | | | | | | | | 50 |
| | 運動処方論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | | 51 |
| | レクリエーション論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | 52 |
| | スポーツ心理学1 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | | 53 |
| | スポーツ心理学2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 54 |
| | スポーツ社会学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | 55 |
| | スポーツ経営学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | 56 |
| | スポーツ行政論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | 57 |
| | スポーツ指導論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | 58 |
| | スポーツ医学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | ○ | 59 |
| | 野外活動論 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | 60 |
| | 地域貢献演習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 61 |
| | 生化学 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | 62 |
| | 栄養学各論 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | 63 |
| | 病態科学(臨床栄養学、病理学含) | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | 64 |
| | 臨床栄養学 | | ＊2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | 65 |
| | 公衆栄養学 | | ＊2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | | | | | | | | 66 |
| | 応用食品学(加工学含) | | ＊2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | 67 |
| | 食品衛生学 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | 68 |
| | 公衆衛生学 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | 69 |
| | 栄養指導論1 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | | | | | | | | 70 |
| | 給食経営管理論 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | 71 |
| | 調理学 | | ＊2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | 72 |
| | 生化学実験 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | ○ | | | | | | | | | | | 73 |
| | 食品加工実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | ○ | | | | | | | | | | | 74 |
| | 運動生理学実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | | | | | | | | ○ | ○ | 102 |
| | スポーツ栄養学実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 75 |
| | 臨床栄養学実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 76 |
| | 食品学実験 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 77 |
| | 応用食品学実験(加工学実習含) | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | 78 |
| | 食品衛生学実験 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 79 |
| | 社会福祉概論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | | | | | | | | 80 |
| | 栄養指導論2 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | 81 |
| | 栄養指導論実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 82 |
| | 給食経営実習 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | 83 |
| | 給食管理実習1 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | 84 |
| | 給食管理実習2 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 85 |
| | 給食管理実習3(校外実習) | | 1 | | 集中 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 86 |
| | 調理学実習1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 87 |
| | 調理学実習2 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 88 |
| | 調理学実習3 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 89 |
| | 分野別栄養実践実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 90 |
| | フードスペシャリスト論 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | ○ | | | | | | | 91 |
| | 食料経済 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | 92 |
| | フードコーディネート論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | 93 |
| | 卒業研究 | | 4 | | 通年 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | 94-100 |
| | 栄養基礎演習 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 101 |
| | 製菓演習 | | 1 | | 集中 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | - |
| | インターンシップ | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | △ | | | | 186 |
| | スポーツ医学実習 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | ○ | 103 |
| | 水泳 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | | | | | | | | | 105 |
| | エアロビクス1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | ◇ | | | | | | | | 156 |
| | エアロビクス2 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | ◇ | | | | | | | | 157 |
| | グループエクササイズ実習 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | | | ○ | | | | | | | | 193 |
| | レクリエーションスポーツ実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | ○ | | | | 187 |
| | 健康スポーツ実習1 | 1 | | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | 106 |
| | 健康スポーツ実習2 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | 107 |
| | スクーバダイビング実習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 188 |
| | 夏季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | | | 1 | | | | | | | | | 1単位以上 | 1単位以上 | | | - |
| | 冬季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 189 |
| | アロマテラピー | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 190 |
| | スポーツマッサージ | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 191 |
| | ヨガ・ピラティス | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 192 |
| | キャリアデザイン | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | 194 |
| | ダイエット実践論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 176 |
| 計 | | 1 | 118 | 52 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

# 授業科目及び開講年次配当表（平成30年度・2018年生）

## 1. 基礎教育科目等 （健康栄養専攻）

平成30年度・2018年生

| 区分 | | | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 栄養教諭免許状 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育科目 | 人文 | 自己表現とキャリア | 2 | | 必修を含め10単位以上 | 半期 | 2 | | | | | 27 |
| | | 比較文化入門 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 28 |
| | 社会 | 社会環境とキャリア | 2 | | | 半期 | | 2 | | | | 29 |
| | | 市民生活と憲法 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | 30 |
| | | ボランティア入門 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | 31 |
| | 自然 | 自然環境科学 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 32 |
| | | 情報機器操作 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | 33 |
| | 外国語 | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | 34 |
| | | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | 35 |
| 合計 | | | 4 | 14 | | | | | | | | |

卒業要件単位数

基礎教育科目合計
- 健康栄養専攻 10単位以上
- 健康スポーツ専攻 10単位以上
- 健康マネジメント専攻 10単位以上

自己表現とキャリア 2単位
社会環境とキャリア 2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から 6単位以上

保健体育科目
- 健康栄養専攻 専門教育科目をもってふりかえる
- 健康スポーツ専攻 専門教育科目をもってふりかえる
- 健康マネジメント専攻 専門教育科目をもってふりかえる

専門教育科目合計
- 健康栄養専攻 52単位以上
- 健康スポーツ専攻 52単位以上
- 健康マネジメント専攻 52単位以上

**卒業要件単位数**
- **健康栄養専攻 62単位以上**
- **健康スポーツ専攻 62単位以上**
- **健康マネジメント専攻 62単位以上**

## 2. 専門教育科目（健康栄養専攻）

平成30年度・2018年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 栄養士免許証 | 健康運動実践指導者 | ピアヘルパー | GFI | フードスペシャリスト | 健康管理士一般指導員 | NR・サプリメントアドバイザー | レクリエーション・インストラクター | キャンプインストラクター | スポーツ栄養士共通ⅠⅡⅢ | 介護予防運動スペシャリスト | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康栄養専攻 専門教育科目 | 健康のスポーツ栄養学 | | 2 | 3科目以上必修 | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | 39 |
| | 運動生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | 40 |
| | 健康の心理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | 41 |
| | 健康管理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | ○ | 42 |
| | 解剖生理学 | | ＊2 | ＊印の科目から11科目22単位以上必修 | 半期 | | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | 43 |
| | 栄養学総論 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | 45 |
| | 食品学 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | | 47 |
| | 競技のスポーツ栄養学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 49 |
| | 運動スポーツ基礎理論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | 50 |
| | 運動処方論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | | 51 |
| | レクリエーション論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | 52 |
| | スポーツ心理学1 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | | 53 |
| | スポーツ心理学2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 54 |
| | スポーツ社会学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | 55 |
| | スポーツ経営学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | 56 |
| | スポーツ行政論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | 57 |
| | スポーツ指導論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | 58 |
| | スポーツ医学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | ○ | 59 |
| | 野外活動論 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | 60 |
| | 地域貢献演習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 61 |
| | 生化学 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | 62 |
| | 栄養学各論 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | 63 |
| | 病態科学(臨床栄養学、病理学含) | | ＊2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | | ○ | | | | | | 64 |
| | 臨床栄養学 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | 65 |
| | 公衆栄養学 | | ＊2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | | | | | | | | 66 |
| | 応用食品学(加工学含) | | ＊2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | 67 |
| | 食品衛生学 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | | | 68 |
| | 公衆衛生学 | | ＊2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | 69 |
| | 栄養指導論1 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | | | | | | | | 70 |
| | 給食経営管理論 | | ＊2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | | | | | | | | 71 |
| | 調理学 | | ＊2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | 72 |
| | 生化学実験 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | ○ | | | | | | | | | | | 73 |
| | 食品加工実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | ○ | | | | | | | | | | | 74 |
| | 運動生理学実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | ○ | | | | | | | | ○ | ○ | 102 |
| | スポーツ栄養学実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 75 |
| | 臨床栄養学実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 76 |
| | 食品学実験 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 77 |
| | 応用食品学実験(加工学実習含) | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | 78 |
| | 食品衛生学実験 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 79 |
| | 社会福祉概論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | | | | | | | | 80 |
| | 栄養指導論2 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | 81 |
| | 栄養指導論実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 82 |
| | 給食経営実習 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | 83 |
| | 給食管理実習1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | 84 |
| | 給食管理実習2 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 85 |
| | 給食管理実習3(校外実習) | | 1 | | 集中 | | | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | 86 |
| | 調理学実習1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 87 |
| | 調理学実習2 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 88 |
| | 調理学実習3 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | 89 |
| | 分野別栄養実践実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 90 |
| | フードスペシャリスト論 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | ○ | | | | | | | 91 |
| | 食料経済 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | 92 |
| | フードコーディネート論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | 93 |
| | 卒業研究 | | 4 | | 通年 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | 94-100 |
| | 栄養基礎演習 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 101 |
| | 製菓演習 | | 1 | | 集中 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | - |
| | インターンシップ | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | △ | | | | 186 |
| | スポーツ医学実習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | ○ | 103 |
| | 水泳 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | | | | | | | | | 105 |
| | エアロビクス1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | ◇ | | | | | | | | 156 |
| | エアロビクス2 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | ◇ | | | | | | | | 157 |
| | グループエクササイズ実習 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | | | ○ | | | | | | | | 193 |
| | レクリエーションスポーツ実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | ○ | | | | 187 |
| | 健康スポーツ実習1 | 1 | | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | 106 |
| | 健康スポーツ実習2 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | 107 |
| | スクーバダイビング実習 | | 1 | | 集中 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 188 |
| | 夏季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | 1単位以上 | 1単位以上 | | | - |
| | 冬季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 189 |
| | アロマテラピー | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 190 |
| | スポーツマッサージ | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 191 |
| | ヨガ・ピラティス | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 192 |
| | キャリアデザイン | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | 194 |
| | ダイエット実践論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 176 |
| 計 | | 1 | 118 | 52 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

# 授業科目及び開講年次配当表(平成31年度・2019年生)

## 1. 基礎教育科目等 (健康スポーツ専攻)

平成31年度・2019年生

| 区分 | | | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 教育職員免許状 | 障がい者初級スポーツ指導者 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育科目 | 人文 | 自己表現とキャリア | 2 | | 必修を含め10単位以上 | 半期 | 2 | | | | | | 27 |
| | | 比較文化入門 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | 28 |
| | 社会 | 社会環境とキャリア | 2 | | | 半期 | | 2 | | | | | 29 |
| | | 市民生活と憲法 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | 30 |
| | | ボランティア入門 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | ○ | 31 |
| | 自然 | 自然環境科学 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | 32 |
| | | 情報機器操作 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | 33 |
| | 外国語 | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1 | | 2 | | 半期 | 2 | 2 | | | ○ | | 34 |
| | | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | 35 |
| 合計 | | | 4 | 14 | | | | | | | | | |

卒業要件単位数

基礎教育科目合計
- 健康栄養専攻 10単位以上
- 健康スポーツ専攻 10単位以上
- 健康マネジメント専攻 10単位以上

自己表現とキャリア 2単位
社会環境とキャリア 2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から 6単位以上

保健体育科目
- 健康栄養専攻 専門教育科目をもってふりかえる
- 健康スポーツ専攻 専門教育科目をもってふりかえる
- 健康マネジメント専攻 専門教育科目をもってふりかえる

専門教育科目合計
- 健康栄養専攻 52単位以上
- 健康スポーツ専攻 52単位以上
- 健康マネジメント専攻 52単位以上

**卒業要件単位数**
- **健康栄養専攻 62単位以上**
- **健康スポーツ専攻 62単位以上**
- **健康マネジメント専攻 62単位以上**

## 2. 専門教育科目 （健康スポーツ専攻）

平成31年度・2019年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 教育職員免許状 | 健康運動実践指導者 | ピアヘルパー | GFI | NR・サプリメントアドバイザー | 障がい者初級スポーツ指導者 | スポーツ指導者等共通科目 | 日体協アシスタントマネジャー | 日体協アスレティックトレーナー | レクリエーション・インストラクター | キャンプインストラクター | サッカー公認C級コーチ | スポーツクラブインストラクター | 子ども身体運動発達指導士 | 中高者年期運動指導士 | 介護予防運動スペシャリスト | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康スポーツ専攻 専門教育科目 | 健康のスポーツ栄養学 | | 2 | 3科目以上必修 | 半期 | | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | 39 |
| | 運動生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | 40 |
| | 健康の心理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 41 |
| | 健康管理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | 42 |
| | 解剖生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | 44 |
| | 栄養学総論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | 46 |
| | 食品学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | 48 |
| | 競技のスポーツ栄養学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 49 |
| | スポーツ運動学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | | | | 50 |
| | 運動処方論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | △ | ○ | | ○ | | | ◎ | | ○ | | | | | | | | 51 |
| | レクリエーション論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | 52 |
| | スポーツ心理学1 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | △ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | | 53 |
| | スポーツ心理学2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 54 |
| | スポーツ社会学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | △ | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | 55 |
| | スポーツ経営学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | △ | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | 56 |
| | スポーツ行政論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | 57 |
| | スポーツ指導論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | 58 |
| | スポーツ医学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | 59 |
| | 野外活動論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | 60 |
| | 地域貢献演習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 61 |
| | 生涯スポーツ論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | 108 |
| | 運動生理学実習 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ◎ | | ○ | | | | | | | ○ | 102 |
| | スポーツ解剖学1 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 109 |
| | スポーツ解剖学2 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 110 |
| | トレーナー測定評価実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 111 |
| | アスレティックリハビリテーション論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 112 |
| | アスレティックリハビリテーション論実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 113 |
| | スポーツ医学実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 104 |
| | 衛生学及び公衆衛生学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | | | 114 |
| | 健康スポーツ演習 | 4 | | | 通年 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 115-123 |
| | 学校保健 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 124 |
| | インターンシップ | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | | | △ | | | | | | | 186 |
| | 体育原理 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 125 |
| | バイオメカニクス | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 126 |
| | テーピング実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 127 |
| | アスレティックトレーナー論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 128 |
| | スポーツ生理学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 129 |
| | スポーツ外傷・障害 | | 4 | | 通年 | | 4 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 130 |
| | 健康管理とスポーツ医学 | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 131 |
| | コンディショニング論 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 132 |
| | コンディショニング論実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | 133 |
| | 救急処置 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 134 |
| | 見学実習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 135 |
| | 検査・測定と評価実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 136 |
| | スポーツ現場実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 137 |
| | アスレティックリハビリテーション実践実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 138 |
| | トレーナー総合実習 | | 2 | | 通年 | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 139 |
| | 陸上競技1 | | ＊1 | 実技科目は＊印から8単位以上 | 半期 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 140 |
| | 陸上競技2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 141 |
| | 体操・器械運動1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | ○ | | | 142 |
| | 体操・器械運動2 | | ＊1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 143 |
| | 水泳1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 144 |
| | 水泳2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 145 |
| | 球技1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | サッカー | | | | | 146-150 |
| | 球技2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 151-153 |
| | 武道（柔道） | | ＊1 | | 集中 | | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 154 |
| | ダンス・表現運動 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | ○ | | | 155 |
| | エアロビクス1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | ◇ | | | | | | | | | ○ | | | | 156 |
| | エアロビクス2 | | ＊1 | | 半期 | | | | 1 | | | | ◇ | | | | | | | | | | | | | 157 |
| | ゴルフ1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 158 |
| | ゴルフ2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 159 |
| | 上級ゴルフ | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 160 |
| | レクリエーションスポーツ実習 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | 187 |
| | スクーバダイビング実習 | | ＊1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 188 |
| | 夏季アウトドア実習 | | ＊1 | | 集中 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1単位以上 | 1単位以上 | | | | | | － |
| | 冬季アウトドア実習 | | ＊1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 189 |
| | グループエクササイズ実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | 193 |
| | サッカー・フットサル | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 161 |
| | 上級サッカー | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 162 |
| | サッカー指導法 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 163 |
| | アロマテラピー | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 190 |
| | スポーツマッサージ | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 191 |
| | ヨガ・ピラティス | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 192 |
| | キャリアデザイン | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 194 |
| 計 | | 4 | 121 | 52 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。

各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

# 授業科目及び開講年次配当表（平成30年度・2018年生）

## 1. 基礎教育科目等 （健康スポーツ専攻）

平成30年度・2018年生

| 区分 | | | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 教育職員 免許状 | 障がい者初級スポーツ指導者 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育科目 | 人文 | 自己表現とキャリア | 2 | | 必修を含め10単位以上 | 半期 | 2 | | | | | | 27 |
| | | 比較文化入門 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | 28 |
| | 社会 | 社会環境とキャリア | 2 | | | 半期 | | 2 | | | | | 29 |
| | | 市民生活と憲法 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | 30 |
| | | ボランティア入門 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | ○ | 31 |
| | 自然 | 自然環境科学 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | 32 |
| | | 情報機器操作 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | ○ | | 33 |
| | 外国語 | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1 | | 2 | | 半期 | 2 | 2 | | | ○ | | 34 |
| | | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | 35 |
| 合計 | | | 4 | 14 | | | | | | | | | |

卒業要件単位数

基礎教育科目合計
- 健康栄養専攻　10単位以上
- 健康スポーツ専攻　10単位以上
- 健康マネジメント専攻　10単位以上

自己表現とキャリア　2単位
社会環境とキャリア　2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から　6単位以上

保健体育科目
- 健康栄養専攻　専門教育科目をもってふりかえる
- 健康スポーツ専攻　専門教育科目をもってふりかえる
- 健康マネジメント専攻　専門教育科目をもってふりかえる

専門教育科目合計
- 健康栄養専攻　52単位以上
- 健康スポーツ専攻　52単位以上
- 健康マネジメント専攻　52単位以上

**卒業要件単位数**
- **健康栄養専攻　62単位以上**
- **健康スポーツ専攻　62単位以上**
- **健康マネジメント専攻　62単位以上**

## 2. 専門教育科目 （健康スポーツ専攻）

平成30年度・2018年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 教育職員免許状 | 健康運動実践指導者 | ピアヘルパー | GFI | NR・サプリメントアドバイザー | 障がい者初級スポーツ指導者 | スポーツ指導者等共通科目 | 日体協アシスタントマネジャー | 日体協アスレティックトレーナー | レクリエーション・インストラクター | キャンプインストラクター | サッカー公認C級コーチ | スポーツクラブインストラクター | 子ども身体運動発達指導士 | 中高者年期運動指導士 | 介護予防運動スペシャリスト | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康スポーツ専攻 専門教育科目 | 健康のスポーツ栄養学 | | 2 | 3科目以上必修 | 半期 | | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | 39 |
| | 運動生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | 40 |
| | 健康の心理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 41 |
| | 健康管理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | 42 |
| | 解剖生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | 44 |
| | 栄養学総論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | 46 |
| | 食品学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | 48 |
| | 競技のスポーツ栄養学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 49 |
| | 運動スポーツ基礎理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | | ○ | | | | 50 |
| | 運動処方論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | △ | ○ | | ○ | | | ◎ | | ○ | | | | | | | | 51 |
| | レクリエーション論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | 52 |
| | スポーツ心理学 1 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | △ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | | 53 |
| | スポーツ心理学 2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 54 |
| | スポーツ社会学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | △ | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | 55 |
| | スポーツ経営学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | △ | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | 56 |
| | スポーツ行政論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | 57 |
| | スポーツ指導論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | 58 |
| | スポーツ医学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | 59 |
| | 野外活動論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | 60 |
| | 地域貢献演習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 61 |
| | 生涯スポーツ論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | 108 |
| | 運動生理学実習 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ◎ | | ○ | | | | | | | ○ | 102 |
| | スポーツ解剖学 1 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 109 |
| | スポーツ解剖学 2 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 110 |
| | トレーナー測定評価実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 111 |
| | アスレティックリハビリテーション論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 112 |
| | アスレティックリハビリテーション論実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 113 |
| | スポーツ医学実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 104 |
| | 衛生学及び公衆衛生学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | | | 114 |
| | 健康スポーツ演習 | 4 | | | 通年 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 115-123 |
| | 学校保健 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 124 |
| | インターンシップ | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | | | △ | | | | | | | 186 |
| | 体育原理 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 125 |
| | バイオメカニクス | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 126 |
| | テーピング実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 127 |
| | アスレティックトレーナー論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 128 |
| | スポーツ生理学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 129 |
| | スポーツ外傷・障害 | | 4 | | 通年 | | 4 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 130 |
| | 健康管理とスポーツ医学 | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 131 |
| | コンディショニング論 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 132 |
| | コンディショニング論実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | 133 |
| | 救急処置 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 134 |
| | 見学実習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 135 |
| | 検査・測定と評価実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 136 |
| | スポーツ現場実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 137 |
| | アスレティックリハビリテーション実践実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 138 |
| | トレーナー総合実習 | | 2 | | 通年 | | | 2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | 139 |
| | 陸上競技 1 | | ＊1 | 実技科目は＊印から8単位以上 | 半期 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 140 |
| | 陸上競技 2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 141 |
| | 体操・器械運動 1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | ○ | | | 142 |
| | 体操・器械運動 2 | | ＊1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 143 |
| | 水泳 1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 144 |
| | 水泳 2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 145 |
| | 球技 1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | サッカー | | | | | 146-150 |
| | 球技 2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 151-153 |
| | 武道（柔道） | | ＊1 | | 集中 | | 1 | | | △ | | | | | | | | | | | | | | | | 154 |
| | ダンス・表現運動 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | ○ | | | 155 |
| | エアロビクス 1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | | | | | ○ | | ◇ | | | | | | | | | ○ | | | | 156 |
| | エアロビクス 2 | | ＊1 | | 半期 | | | | 1 | | | | ◇ | | | | | | | | | | | | | 157 |
| | ゴルフ 1 | | ＊1 | | 半期 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 158 |
| | ゴルフ 2 | | ＊1 | | 半期 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 159 |
| | レクリエーションスポーツ実習 | | ＊1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | | | 187 |
| | スクーバダイビング実習 | | ＊1 | | 集中 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1単位以上 | | | | | | | 188 |
| | 夏季アウトドア実習 | | ＊1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1単位以上 | | | | | | － |
| | 冬季アウトドア実習 | | ＊1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 189 |
| | グループエクササイズ実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | 193 |
| | サッカー・フットサル | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 161 |
| | 上級サッカー | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 162 |
| | サッカー指導法 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 163 |
| | アロマテラピー | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 190 |
| | スポーツマッサージ | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 191 |
| | ヨガ・ピラティス | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 192 |
| | キャリアデザイン | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 194 |
| 計 | | 4 | 120 | 52 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目。「介護予防運動スペシャリスト」は学内特別講座を別途受講する。

各資格において ○＝必修 △＝選択 ◇＝資格の種類により必修

# 授業科目及び開講年次配当表（平成31年度・2019年生）

## 1. 基礎教育科目等 （健康マネジネント専攻）

平成31年度・2019年生

| 区分 | | | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 障がい者初級スポーツ指導者 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育科目 | 人文 | 自己表現とキャリア | 2 | | 必修を含め10単位以上 | 半期 | 2 | | | | | 27 |
| | | 比較文化入門 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 28 |
| | 社会 | 社会環境とキャリア | 2 | | | 半期 | | 2 | | | | 29 |
| | | 市民生活と憲法 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | 30 |
| | | ボランティア入門 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | 31 |
| | 自然 | 自然環境科学 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 32 |
| | | 情報機器操作 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 33 |
| | 外国語 | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1 | | 2 | | 半期 | 2 | 2 | | | | 34 |
| | | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | 35 |
| 合計 | | | 4 | 14 | | | | | | | | |

卒業要件単位数

基礎教育科目合計
- 健康栄養専攻　10単位以上
- 健康スポーツ専攻　10単位以上
- 健康マネジメント専攻　10単位以上

自己表現とキャリア　2単位
社会環境とキャリア　2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から　6単位以上

保健体育科目
- 健康栄養専攻　専門教育科目をもってふりかえる
- 健康スポーツ専攻　専門教育科目をもってふりかえる
- 健康マネジメント専攻　専門教育科目をもってふりかえる

専門教育科目合計
- 健康栄養専攻　52単位以上
- 健康スポーツ専攻　52単位以上
- 健康マネジメント専攻　52単位以上

**卒業要件単位数**
- **健康栄養専攻　62単位以上**
- **健康スポーツ専攻　62単位以上**
- **健康マネジメント専攻　62単位以上**

## 2. 専門教育科目 （健康マネジメント専攻）

平成31年度・2019年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 医療事務 | 医事コンピュータ | 介護職員初任者研修 | 健康運動実践指導者 | ピアヘルパー | 障がい者初級スポーツ指導者 | 日体協アシスタントマネジャー | スポーツ指導者等共通科目 | レクリエーション・インストラクター | キャンプインストラクター | 中高老年期運動指導士 | 介護予防運動スペシャリスト | 社会福祉主事(任用資格) | MOS | マナー・プロトコール検定 | ホテルビジネス実務検定 | アロマテラピー検定 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康マネジメント専攻 専門教育科目 | 健康のスポーツ栄養学 | | 2 | 3科目以上必修 | 半期 | | 2 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 39 |
| | 運動生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 40 |
| | 健康の心理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | 41 |
| | 健康管理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | 42 |
| | 解剖生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 44 |
| | 栄養学総論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 46 |
| | 食品学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 48 |
| | 競技のスポーツ栄養学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 49 |
| | スポーツ運動学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 50 |
| | 運動処方論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | ○ | | | | ◎ | | | | | | | | | | 51 |
| | レクリエーション論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 52 |
| | スポーツ心理学1 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | 53 |
| | スポーツ心理学2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 54 |
| | スポーツ社会学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 55 |
| | スポーツ経営学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 56 |
| | スポーツ行政論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 57 |
| | スポーツ指導論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 58 |
| | スポーツ医学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | 59 |
| | 野外活動論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 60 |
| | 地域貢献演習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 61 |
| | 医療事務1 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | 164 |
| | 医療事務2 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | 164 |
| | 医療事務3 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 165 |
| | ビジネス文書（ワード） | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | | 166 |
| | ビジネス文書（エクセル） | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | | 167 |
| | ビジネス文書（パワーポイント） | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | | 168 |
| | ホテルビジネス総論1 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 169 |
| | ホテルビジネス総論2 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 170 |
| | 和文化と作法 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 171 |
| | マナー・プロトコール | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | ☆ | | 172 |
| | ホテル接客英会話 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 173 |
| | ホテル概論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 174 |
| | ビジネスマナー | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | 175 |
| | ダイエット実践論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 176 |
| | ダイエット実践実習 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 177 |
| | ホスピタリティ基礎演習 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | ☆ | | 178 |
| | サービス・接遇実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 179 |
| | 地域事業実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 180 |
| | 地域事業運営実習 | | 2 | | 集中 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 181 |
| | 健康マネジメント演習 | 4 | | | 通年 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 182-185 |
| | 生涯スポーツ論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | 108 |
| | 運動生理学実習 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | ○ | | | | ◎ | | | | ○ | | | | | | 102 |
| | スポーツ医学実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | 104 |
| | 衛生学及び公衆衛生学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 114 |
| | インターンシップ | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 186 |
| | レクリエーションスポーツ実習 | | 1 | | 半期 | | | 1 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | 187 |
| | 健康スポーツ実習1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | 106 |
| | 健康スポーツ実習2 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 107 |
| | 水泳 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 105 |
| | エアロビクス1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 156 |
| | スクーバダイビング実習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 188 |
| | 夏季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | | | 1 | | | | | | | | | | 1単位以上 | 1単位以上 | | | | | | | | – |
| | 冬季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 189 |
| | アロマテラピー | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 190 |
| | スポーツマッサージ | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 191 |
| | ヨガ・ピラティス | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 192 |
| | キャリアデザイン | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 194 |
| 計 | | 4 | 103 | 52 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目

各資格において ○＝必修　☆＝推奨

# 授業科目及び開講年次配当表（平成30年度・2018年生）

## 1. 基礎教育科目等 （健康マネジネント専攻）

平成30年度・2018年生

| 区分 | | | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 障がい者初級スポーツ指導者 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育科目 | 人文 | 自己表現とキャリア | 2 | | 必修を含め10単位以上 | 半期 | 2 | | | | | 27 |
| | | 比較文化入門 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 28 |
| | 社会 | 社会環境とキャリア | 2 | | | 半期 | | 2 | | | | 29 |
| | | 市民生活と憲法 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | 30 |
| | | ボランティア入門 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | 31 |
| | 自然 | 自然環境科学 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 32 |
| | | 情報機器操作 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | 33 |
| | 外国語 | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1 | | 2 | | 半期 | 2 | 2 | | | | 34 |
| | | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | 35 |
| 合計 | | | 4 | 14 | | | | | | | | |

卒業要件単位数

基礎教育科目合計
- 健康栄養専攻　10単位以上
- 健康スポーツ専攻　10単位以上
- 健康マネジメント専攻　10単位以上

自己表現とキャリア　2単位
社会環境とキャリア　2単位
その他 人文・社会・自然・外国語から　6単位以上

保健体育科目
- 健康栄養専攻　専門教育科目をもってふりかえる
- 健康スポーツ専攻　専門教育科目をもってふりかえる
- 健康マネジメント専攻　専門教育科目をもってふりかえる

専門教育科目合計
- 健康栄養専攻　52単位以上
- 健康スポーツ専攻　52単位以上
- 健康マネジメント専攻　52単位以上

**卒業要件単位数**
- **健康栄養専攻　62単位以上**
- **健康スポーツ専攻　62単位以上**
- **健康マネジメント専攻　62単位以上**

## 2. 専門教育科目 （健康マネジメント専攻）

平成30年度・2018年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 卒業要件 | 開講期 | 1年 前学期 | 1年 後学期 | 2年 前学期 | 2年 後学期 | 医療事務 | 医事コンピュータ | 介護職員初任者研修 | 健康運動実践指導者 | ピアヘルパー | 障がい者初級スポーツ指導者 | 日体協アシスタントマネジャー | スポーツ指導者等共通科目 | レクリエーション・インストラクター | キャンプインストラクター | 中高老年期運動指導士 | 介護予防運動スペシャリスト | 社会福祉主事(任用資格) | MOS | マナー・プロトコール検定 | ホテルビジネス実務検定 | アロマテラピー検定 | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康マネジメント専攻 専門教育科目 | 健康のスポーツ栄養学 | | 2 | 3科目以上必修 | 半期 | | 2 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 39 |
| | 運動生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 40 |
| | 健康の心理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | 41 |
| | 健康管理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | 42 |
| | 解剖生理学 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 44 |
| | 栄養学総論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 46 |
| | 食品学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 48 |
| | 競技のスポーツ栄養学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 49 |
| | 運動スポーツ基礎理論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 50 |
| | 運動処方論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | ○ | | | | ◎ | | | | | | | | | | 51 |
| | レクリエーション論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 52 |
| | スポーツ心理学1 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | 53 |
| | スポーツ心理学2 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 54 |
| | スポーツ社会学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 55 |
| | スポーツ経営学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 56 |
| | スポーツ行政論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 57 |
| | スポーツ指導論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 58 |
| | スポーツ医学 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | 59 |
| | 野外活動論 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 60 |
| | 地域貢献演習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 61 |
| | 医療事務1 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | 164 |
| | 医療事務2 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | 164 |
| | 医療事務3 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | 165 |
| | ビジネス文書（ワード） | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | | 166 |
| | ビジネス文書（エクセル） | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | | 167 |
| | ビジネス文書（パワーポイント） | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | | 168 |
| | ホテルビジネス総論1 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 169 |
| | ホテルビジネス総論2 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 170 |
| | 和文化と作法 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 171 |
| | マナー・プロトコール | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | ☆ | | 172 |
| | ホテル接客英会話 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 173 |
| | ホテル概論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | 174 |
| | ビジネスマナー | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | | | 175 |
| | ダイエット実践論 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 176 |
| | ダイエット実践実習 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 177 |
| | ホスピタリティ基礎演習 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | ☆ | | 178 |
| | サービス・接遇実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 179 |
| | 地域事業実習 | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 180 |
| | 地域事業運営実習 | | 2 | | 集中 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 181 |
| | 健康マネジメント演習 | 4 | | | 通年 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 182-185 |
| | 生涯スポーツ論 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | 108 |
| | 運動生理学実習 | | 2 | | 半期 | 2 | | | | | | | ○ | | | | ◎ | | | | ○ | | | | | | 102 |
| | スポーツ医学実習 | | 2 | | 半期 | | 2 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | 104 |
| | 衛生学及び公衆衛生学 | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | 114 |
| | インターンシップ | | 2 | | 集中 | | 2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 186 |
| | レクリエーションスポーツ実習 | | 1 | | 半期 | | | | 1 | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | 187 |
| | 健康スポーツ実習1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | 106 |
| | 健康スポーツ実習2 | | 1 | | 半期 | | 1 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 107 |
| | 水泳 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 105 |
| | エアロビクス1 | | 1 | | 半期 | 1 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | 156 |
| | スクーバダイビング実習 | | 1 | | 集中 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 188 |
| | 夏季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | 1 | | | | | | | | | | | | 1単位以上 | 1単位以上 | | | | | | | | － |
| | 冬季アウトドア実習 | | 1 | | 集中 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 189 |
| | アロマテラピー | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | ☆ | 190 |
| | スポーツマッサージ | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 191 |
| | ヨガ・ピラティス | | 2 | | 半期 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 192 |
| | キャリアデザイン | | 2 | | 半期 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 194 |
| 計 | | 4 | 103 | 52 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎は「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」免除申請の場合さらに必要な科目

各資格において ○＝必修　☆＝推奨

## 3. 教職に関する専門教育科目

### 健康栄養専攻

平成31年度･2019年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | 開講期 | 1 年 | | 2 年 | | 栄養教諭免許状 | レクリエーション・インストラクター | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 教職必修 | | 前学期 | 後学期 | 前学期 | 後学期 | | | |
| 教職に関する専門教育科目 | 教職概論 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 197 |
| | 教育原理 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 198 |
| | 発達と学習の心理学 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 199 |
| | 特別支援教育 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 200 |
| | 道徳教育の理論と実践 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 201 |
| | 特別活動指導法 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 202 |
| | 総合的な学習の時間指導法 | 1 | 半期 | | | | 1 | ○ | | － |
| | 教育方法の理論と実践 | 1 | 集中 | | 1 | | | ○ | | 203 |
| | 生徒・進路指導論 | 1 | 半期 | | | | 1 | ○ | | 204 |
| | 教育相談 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 205 |
| | 食教育実践論 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 208 |
| | 教職実践演習（栄養教諭） | 2 | 半期 | | | | 2 | ○ | | 210 |
| | 栄養教育実習 | 2 | 半期 | | | 2 | | ○ | △ | 212 |
| 計 | | 19 | | 各資格における ○＝必修 △＝選択 | | | | | | |

### 健康スポーツ専攻

平成31年度･2019年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | 開講期 | 1 年 | | 2 年 | | 教育職員免許状 | レクリエーション・インストラクター | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 教職必修 | | 前学期 | 後学期 | 前学期 | 後学期 | | | |
| 教職に関する専門教育科目 | 教職概論 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 197 |
| | 教育原理 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 198 |
| | 発達と学習の心理学 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 199 |
| | 特別支援教育 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 200 |
| | 道徳教育の理論と実践 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 201 |
| | 特別活動指導法 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 202 |
| | 総合的な学習の時間指導法 | 1 | 半期 | | | | 1 | ○ | | － |
| | 教育方法の理論と実践 | 1 | 集中 | | 1 | | | ○ | | 203 |
| | 生徒・進路指導論 | 1 | 半期 | | | | 1 | ○ | | 204 |
| | 教育相談 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 205 |
| | 保健体育科教育法 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 206 |
| | 授業研究 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 207 |
| | 教職実践演習（中学校） | 2 | 半期 | | | | 2 | ○ | | 209 |
| | 保健体育教育実習 | 5 | 半期 | | | 5 | | ○ | △ | 211 |
| 計 | | 24 | | 各資格における ○＝必修 △＝選択 | | | | | | |

注　中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者は、必要な単位のほかに、
**「介護等体験」**が義務付けられている。

## 3. 教職に関する専門教育科目

### 健康栄養専攻

平成30年度･2018年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | 開講期 | 1 年 | | 2 年 | | 栄養教諭免許状 | レクリエーション・インストラクター | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 教職必修 | | 前学期 | 後学期 | 前学期 | 後学期 | | | |
| 教職に関する専門教育科目 | 教職概論 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 197 |
| | 教育原理 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 198 |
| | 発達と学習の心理学 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 199 |
| | 道徳教育の理論と実践 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 201 |
| | 特別活動指導法 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 202 |
| | 教育方法の理論と実践 | 1 | 集中 | | 1 | | | ○ | | 203 |
| | 生徒・進路指導論 | 2 | 半期 | | | | 2 | ○ | | 204 |
| | 教育相談 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 205 |
| | 食教育実践論 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 208 |
| | 教職実践演習（栄養教諭） | 2 | 半期 | | | | 2 | ○ | | 210 |
| | 栄養教育実習 | 2 | 半期 | | | 2 | | ○ | △ | 212 |
| 計 | | 19 | | 各資格における ○＝必修 △＝選択 | | | | | | |

### 健康スポーツ専攻

平成30年度･2018年生

| 区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | 開講期 | 1 年 | | 2 年 | | 教育職員免許状 | レクリエーション・インストラクター | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 教職必修 | | 前学期 | 後学期 | 前学期 | 後学期 | | | |
| 教職に関する専門教育科目 | 教職概論 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 197 |
| | 教育原理 | 2 | 半期 | 2 | | | | ○ | | 198 |
| | 発達と学習の心理学 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 199 |
| | 道徳教育の理論と実践 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 201 |
| | 特別活動指導法 | 1 | 半期 | | 1 | | | ○ | | 202 |
| | 教育方法の理論と実践 | 1 | 集中 | | 1 | | | ○ | | 203 |
| | 生徒・進路指導論 | 2 | 半期 | | | | 2 | ○ | | 204 |
| | 教育相談 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 205 |
| | 保健体育科教育法 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 206 |
| | 授業研究 | 2 | 半期 | | 2 | | | ○ | | 207 |
| | 教職実践演習（中学校） | 2 | 半期 | | | | 2 | ○ | | 209 |
| | 保健体育教育実習 | 5 | 半期 | | | 5 | | ○ | △ | 211 |
| 計 | | 24 | | 各資格における ○＝必修 △＝選択 | | | | | | |

注 中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者は、必要な単位のほかに、
**「介護等体験」**が義務付けられている。

# 基礎教育科目

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 人文 | 自己表現とキャリア [Self-Expression and Career] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 高橋 勇一 ・ 植松 大介 ・ 田中 直美 ・ 江原 義智 | | NSN-B1001 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 日本語の使い方<br>レポートの書き方<br>一般教養・マナー | 一般教養やマナーの基本を身につけると同時に、すべての学問の基礎である「言葉の力」と「自己表現力」を磨き、社会人的基礎力の養成を目指す。レポートの書き方をはじめとする初年次教育を実施するとともに、キャリア教育につながる第一歩を踏み出す。 |

学習の到達目標

本学における学習や社会活動において、より積極的に取り組むために必要な一般教養やマナーを身につけることを目標とする。また、大学や実社会で役立つ「日本語の使い方」や「基本的な知識」を習得し、論理的な表現力・レポート力を養うことを目指す。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1<br>〜<br>15 | オリエンテーション<br>【グループ授業】<br>自己紹介・スピーチ<br>図書館ガイダンス<br>メールシステム・使い方<br>哲学対話<br>【全体授業】<br>地域学習<br>労働法セミナー<br>マナー講座<br>健康リテラシー<br>哲学対話<br>ジョハリの窓<br>ビブリオバトル | ○全体ガイダンスの実施、小論文・レポートの書き方の説明（研究倫理教育を含む）など<br>○各教員が、輪番でグループごとに授業を実施し、次の内容について学習する<br>・自己紹介・スピーチ<br>・図書館の利用についてのガイダンス・・・各グループでの図書館見学、利用の仕方などの説明<br>・短大のメールシステム及びメールの書き方・・・短大のメールシステムと個別使用のメールアドレスの確認、メールの書き方を学ぶ（情報リテラシー含む）<br>○地域学習・地域の人々から学ぶ授業を実施する。キャリア教育の一環として、地域貢献活動を推奨する<br>○働き方・アルバイトに関して、基礎からわかる「労働法セミナー」を実施する<br>○次のようなマナーの基本について学習するとともに、グループ討議を通じて自己表現力を高める<br>・「挨拶・姿勢」「礼儀・正しい座り方」について<br>・「笑顔トレーニング」「返事・挙手」について<br>・「服装」「社会人基礎力」について<br>・「健康リテラシー」について<br>・「哲学対話」（聴く力と自己表現力を高める）<br>・「ジョハリの窓」（客観的に自分を知る）<br>・「ビブリオバトル」（知的書評合戦）<br>・「総合・まとめ」<br>☆課題提出・・・読書レポートや小論文・レポートなどの提出 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：『ステップアップ日本語講座』(中級) 東京書籍、 『就職活動テキスト』（「社会環境とキャリア」で使用する）
その他、必要に応じて、適宜教材・資料を配付・指示する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.0 時間）：書籍やインターネット・新聞やニュース・雑誌等を通して、次回の授業内容にかかわる情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容を復習するとともに、一般教養を培い、マナーの向上に努めること。

課題に対するフィードバックの方法

レポートやリアクションペーパーにコメントを入れて返却する。

成績評価の目安と方法

課題のレポート・提出物（60%） 授業中の理解度・態度・表現力などの平常点（40%）を考慮し、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて十分に理解し、優れたレポート力・表現力を十分に養っている。 |
| A | 日本語の使い方や基本的な知識・マナーについてかなり理解し、優れたレポート力・表現力を養っている。 |
| B | 日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて理解し、一般的なレポート力・表現力を養っている。 |
| C | 日本語の使い方や基本的な知識・マナーについて学習し、最低限のレポート力・表現力を養っている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 人文 | 比較文化入門 [Introduction of Comparative Culture] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・演習 | 植松 大介 | | NSM-B1002 | | |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 文化事象<br>相違点・類似点<br>相対的な視点 | 現代社会における様々な文化事象をフォーカスし、類似点や相違点などについて解説・考察する。<br>その後クラスでプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の意見を発表する。 |

学習の到達目標

本講の目標は、事象に対して客観的かつ相対的な見方を学び、外部へ発信できる能力を養う。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 「比較文化」とは | 一般的な「比較文化」の定義、授業の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など |
| 2 | 主観的と客観的 | 物の見方を学ぶ |
| 3 | 類似と相違 | 似ているものと異なるもの。「アカデミック」って何？ |
| 4 | 引用と参考 | 引用＝コピーではない。本当の引用とは？ |
| 5 | 比較文化研究 ① | マンションとアパート/野球とベースボール |
| 6 | 〃 | 発表＆フィーバックディスカッション |
| 7 | 比較文化研究 ② | サービスとホスピタリティ / メイドとバトラー |
| 8 | 〃 | 発表＆フィードバックディスカッション |
| 9 | 比較文化研究 ③ | 英語と米語 （社会は英国式、教育は米国式） |
| 10 | 〃 | 発表＆フィーバックディスカッション |
| 11 | 比較文化研究 ④ | 共通テーマを設定しグループ発表準備 |
| 12 | 〃 | 〃 |
| 13 | 〃 | 〃 |
| 14 | 〃 | 〃 |
| 15 | 発表 | 総合プレゼンテーション・フィードバックディスカッション |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考書：比較文化入門 ―衣食住から宗教までー 狐野利久
＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。

成績評価の目安と方法

プレゼンテーション 80%、平常点及び提出物など 10% 授業中のクラスディスカッションの発表・まとめ（レポート）10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 「文化事象」に関して、類似点相違点などを深く理解し、相対的な見方と共に外部への発信が十分にできる。 |
| A | 「文化事象」に関して、類似点相違点などを良く理解し、相対的な見方と共に外部への発信がほぼできる。 |
| B | 「文化事象」に関して、類似点相違点などをかなり理解し、相対的な見方と共に外部への発信がある程度できる。 |
| C | 「文化事象」に関して、類似点相違点などを理解し、相対的な見方と共に外部への発信が一応できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 社会 | 社会環境とキャリア　[Social Environment and Career] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・演習 | 岡﨑 英規 ・ 川井 明 ・ 太田 あや子 | | NSM-B1003 | | |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 就職活動<br>就職試験<br>就業意識 | 自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先またはキャリア）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方など）、就職（及び編入、進学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などを行い、就職活動等のキャリアデザインに役立てるようにする。 |

学習の到達目標

社会人として自立できるように、職業に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識、技能を身につける。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション：受講上の注意、働く人の法律知識 |
| 2 | 適性診断検査：筆記試験（マークシート）パーソナリティ・価値分析・適職診断など） |
| 3 | ナビ登録：マイナビ：スマートフォン等からの就活ナビへの登録 |
| 4 | 就業意識の涵養：労働と家計、社会や雇用情勢の解説 |
| 5 | 企業情報の集め方：企業の情報収集の方法や企業研究の方法 |
| 6 | 自己 PR、自己分析：自己 PR を作成する作業①（高校までの自分を振り返る） |
| 7 | 自己 PR、自己分析：自己 PR を作成する作業②（短期大学での自分を振り返る） |
| 8 | 履歴書作成：履歴書を作成する作業①履歴書の書き方のポイント |
| 9 | 履歴書作成：履歴書を作成する作業②個人紹介書の書き方 |
| 10 | 履歴書作成：履歴書を作成する作業③履歴書の完成 |
| 11 | 就職活動・社会人のマナー：コミュニケーションの大切さを学ぶ面接対策セミナー：集団面接と個人面接の概要 |
| 12 | 面接対策①個人面接のモデル授業 |
| 13 | 面接対策②模擬面接（受験者、面接員、採点員のロールプレイ） |
| 14 | 内定者フォーラム：就職が内定した先輩のシンポジウム |
| 15 | 分野別企業説明会（専門企業）：栄養士、スポーツ産業、健康産業の人事担当者の業界説明、ふり返りシートの作成 |
| 試験等 | なし |

教科書及び参考図書

教科書：就職活動テキスト（授業で配布する）

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　授業で配布するテキストの関連ページを事前に読んで授業に取り組む。
事後学習（週 1.5 時間）：　授業で行った内容について積極的に取り組む。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題にコメントを入れて返却する。

成績評価の目安と方法

平常点（授業の態度・意欲・服装など）80%　提出物（感想文など）20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 授業の成果を活かし、将来の進路を決定する応用力を身につけている。 |
| A | 授業の成果を活かし、将来の進路を決定する基礎的な力を身につけている。 |
| B | 授業の成果を活かし、将来の進路を決定する準備ができている。 |
| C | 授業の成果から、将来の進路について考えをまとめられる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 社会 | 市民生活と憲法　[Civil Life and Constitution] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義 | 塚林　美弥子 | | NSM-B1004 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 教員免許（保健体育、栄養教諭） |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 日本国憲法<br>基本的人権<br>近代立憲主義 | 本授業は、憲法の基本原理を学び、「憲法に基づいたものの見方」を養うことを目指す。下記の授業計画テーマごとに、各領域における基本的な問題設定、具体的判例、主な争点を採り上げ、受講生の日常生活で生じている出来事を「憲法問題」として考えられるようにする。 |

| 学習の到達目標 |
|---|
| 日本国憲法の基本原理について学習し、日常生活に潜む「憲法問題」を見抜く力を養うことを目標とする。 |

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション；憲法とは何か | 講義担当者の自己紹介、講義の進め方と講義内容の全体像についての説明等に加え、そもそも憲法とは何かを学ぶ |
| 2 | 国民主権と天皇の地位 | 日本国憲法の基本的原理の一つとしてなぜ「主権」が挙がるのか、憲法成立の歴史的経緯を含めて学ぶ |
| 3 | 平等権 | 憲法上の「平等」とはなにか、具体的判例を用いて学ぶ |
| 4 | 思想・良心と信教の自由 | 個人の良心や信仰がなぜ憲法上保障されるのか、具体的判例を用いて学ぶ |
| 5 | 表現の自由 | 表現の自由はなぜ憲法上保障されるのか、「保護されない」言論はあるのか、争点を整理する |
| 6 | 人身の自由 | 将来の裁判員候補である受講生が、憲法的に考えるべきことは何であるかを学ぶ |
| 7 | 経済的自由 | 経済的諸権利が保障される根拠と同時に、制限される場面がいかなるものかを検討する |
| 8 | 生存権 | 「貧困は自己責任」なのか。判例も交えながら憲法的に考える |
| 9 | 教育権 | 学習権といった基本的な考え方を身に着け、改正教育基本法の憲法的問題点を探る |
| 10 | ９条と平和的生存権 | ９条解釈の変遷、９条と自衛隊、米軍基地との関係について判例や学説を通じて学ぶ。「平和的生存権」の発展可能性について考える |
| 11 | 憲法改正 | 憲法改正の性格と限界を学び、「改正」を支持する根拠、支持しない根拠を受講生と検討する |
| 12 | 参政権・国会 | 参政権が権利として保障されることの意味を、国会の役割と関連させて学ぶ |
| 13 | 内閣 | 内閣の憲法上の地位や権限について学ぶ |
| 14 | 裁判所 | 裁判所の果たす憲法上の役割について学ぶ |
| 15 | まとめ | 講義全体の総括など |
| 試験等 | 筆記試験　：基本的に記述式の問題を出題する | |

| 教科書及び参考図書 |
|---|
| 教科書：毛利透『グラフィック憲法入門 補訂版』（2016 年、新世社）<br>参考図書：水島朝穂『18 歳からはじめる憲法 第 2 版』（2016 年、法律文化社）<br>駒村圭吾編『プレステップ憲法 第二版』（2018 年、弘文堂） |

| 準備学習・事後学習 |
|---|
| 準備学習（週 1.5 時間）：新聞やニュースで気になった「事件」をメモにとる等し、どんな憲法上の問題点があるかを考えてきて欲しい。<br>事後学習（週 1.5 時間）：教科書や資料、授業プリントをしっかり読み込み、基本的な憲法の考え方、争点、判例等を改めて整理して欲しい。 |

| 課題に対するフィードバックの方法 |
|---|
| 授業中及び授業前後の時間を用いて適宜対応する。授業内で試験勉強の方法等、適宜助言する。 |

| 成績評価の目安と方法 |
|---|
| 筆記試験 80%　平常点（発言、授業態度を含む）20%　但し、理由のない欠席、遅刻は減点とする |

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点についての十分な知識を適切に用い、これに依拠して独自の考えを論述することができる。 |
| A | 日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点についての基本的な理解を基にして論述することができる。 |
| B | 日本国憲法の基本原理を理解し、事例、争点についての基本的な知識を習得できる。 |
| C | 日本国憲法についての基本的な知識を習得することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 社会 | ボランティア入門　[Introduction to Volunteer Activities] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・グループワーク<br>アクティブラーニング | 江森 孝夫 | | NSM-1005 |

この授業に関係する資格

障がい者初級スポーツ指導者

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ボランティア精神<br>社会福祉<br>地域・社会貢献 | 生きることの意味について、そして人間と社会について幅広く考えると同時に、ボランティアの理念およびその精神、社会福祉施策・障がい者スポーツ、そして、教育・環境・企業ボランティアなど、さまざまな地域・社会貢献活動について学習する。なお、NPO やボランティア活動に関わる人から学ぶ機会も設定し、グループで内容をまとめる。 |

学習の到達目標

ボランティアに関する基本的な知識を身につけ、ボランティア精神の養成を目指すと同時に、社会が求める支援や障がい者などに対する理解を深める。また、必要とされるボランティア活動や地域・社会貢献活動について理解し、それらの活動にチャレンジする実践力を養うことを目指す。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 初回は、「オリエンテーション」として、授業概要・評価の方法、履修上の注意点などを説明する　※ボランティアは随時紹介する |
| 2 | 「事始め 1」として、基本用語、ボランティア精神、ボランティア理念、伝達手段としての日本語の大切さについて学習する |
| 3 | 「事始め 2」として、ボランティア活動を支える。福祉教育について、共に生きる地域作りについて学習する |
| 4 | 「ボランティア」について、実際の探し方やボランティアの基本的姿勢などを理解する　※　体験レポートに関する説明を行う<br>※「ボランティア体験」は、できる範囲で各自が適切なボランティア活動を選んで参加し、体験レポートを提出する |
| 5 | 2020 年、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障がい者スポーツの課題と展望について学習する |
| 6 | 前時の内容をもとに障がい者スポーツを体験する。（グループごとに 4～5 種目を体験） |
| 7<br>～<br>11 | ※共に生きる地域作りのために、自分に何が出来るかを外部講師を招いて学習する<br>（1）児童福祉について（保育所指導員、学童保育指導員）<br>（2）高齢者福祉について（特別養護老人ホーム職員、介護施設ヘルパー）<br>（3）障がい者福祉について（視覚障がい者・盲導犬ユーザー）<br>（4）障がい者福祉について（聴覚障がい者・障がい者本人と手話サークルの方）<br>（5）障がい者福祉について（身体障がい者・車イスユーザー） |
| 12 | 五つの課題別グループに分かれて、自分たちで調べる |
| 13 | 五つの課題別グループに分かれて、調べた内容をまとめる |
| 14 | 課題別グループ学習の発表会をする |
| 15 | 「総合・まとめ」として、振り返り学習を実施する |
| 試験等 | 筆記試験、レポート課題 |

教科書及び参考図書

授業内で使用する資料を配付する

参考図書：『ボランティア論』（ミネルヴァ書房）、『いちばんはじめのボランティア』（樹村房）、
『共に生きること・共に学びあうこと』（大学図書出版）　その他、適宜紹介する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　次回の学習内容として提示された課題について、雑誌やインターネット・書籍等で情報収集しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：　授業中の内容を整理してまとめ、課題別グループ学習発表会に向けての準備お進める。

課題に対するフィードバックの方法

・理解度確認のレポートを回収後、解説を行う 。　・課題別発表会の内容にコメントする。

成績評価の目安と方法

平常点（授業の理解度・提出物）40%　授業内課題 30%　　ボランティア体験レポート 30%で総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、積極的に実践し、レポート力を十分に身に付けている。 |
| A | ボランティアに関する一般的な知識と態度を身につけ、実践し、レポート力を身に付けている。 |
| B | ボランティアに関する基礎的な知識と態度を身につけ、実践している。 |
| C | ボランティアに関する基礎的な知識と態度を学習している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 自然 | 自然環境科学 [Natural Environmental Science] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 高橋 勇一 | | NSM-B1006 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 環境問題<br>エコシステム<br>持続可能な発展 | 環境問題の現状について自然科学・社会科学双方の観点から学習し、美しい地球を守るために、「宇宙船地球号」の一員でもある私たちが心がけるべきことやできることについて考察する。なお、教養教育として、自然科学の基礎力および論理力・思考力を身につけることも重要なテーマとする。 |

学習の到達目標

自然科学の基礎及び地球環境問題に関する一般的な知識を習得するとともに、論理的に物事を考え、表現する力を養うことを目指す。また、生命や自然を大切にし、環境保全および持続可能な発展に寄与する精神・態度を養うことを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 宇宙船地球号 | イントロダクションとして、宇宙の歴史・宇宙の中の地球について学習する |
| 2 | 地球と生命の歴史 | 地球と生命の歴史について学習し、生命の誕生の謎に触れる |
| 3 | 環境と文明 | 地球システムについて学習し、環境と文明の関係について概説する |
| 4 | 生態系・物質循環 | エコシステム（生態系）の仕組み及び物質の循環について学習する |
| 5 | 環境とエネルギー | 地震（津波含む）発生のメカニズムを学習し、エネルギー問題を考える |
| 6 | 食物連鎖・生物多様性 | 生産者・消費者・分解者の役割及び生物の多様性について学習する |
| 7 | 現代の地球環境問題 | 人間圏の拡大とともに、改めて「地球環境問題とは何か」を検討する |
| 8 | 地球の温暖化 | 地球温暖化のメカニズム及びその対策について学習する |
| 9 | オゾン層破壊・酸性雨 | オゾン層破壊と酸性雨について学習する |
| 10 | 森林劣化・洪水問題 | 森林の多面的機能について学習し、森林劣化による洪水問題を考える |
| 11 | 砂漠化 | カシミヤ人気が砂漠を拡大？ 中国の砂漠化の原因と対策について考える |
| 12 | 環境価値・環境ビジネス | 環境はいくらか？ 生態系サービスの価値や環境ビジネスについて学ぶ |
| 13 | 世界遺産・循環型社会 | 世界遺産について学習すると同時に、循環型社会について検討する |
| 14 | 環境倫理・環境教育 | 環境問題を題材とした作品を学び、持続可能な発展に資する倫理や教育を考える |
| 15 | 総合・まとめ | 総括・振り返り学習 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書・参考資料等 環境・循環型社会・生物多様性白書、Newton、日経サイエンスの他、授業で紹介する
参考 URL ; http://www.env.go.jp/

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.0 時間） : 書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。
事後学習（週 2.0 時間） : 授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題やリアクションペーパーなどにコメント等を入れて返却する。

成績評価の目安と方法

授業参加態度・小レポートの内容 ５０%、授業内課題 ５０%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 自然や環境問題に関する一般的な知識を身につけ、積極的に取り組み、論理力・表現力を十分に培っている。 |
| A | 自然や環境問題に関する一般的な知識を身につけ、論理力・表現力を培っている。 |
| B | 自然や環境問題に関する基礎的な知識を身につけ、ある程度は説明する力を培っている。 |
| C | 自然や環境問題に関する基礎的な知識を学習し、部分的には説明する力を培っている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 自然 | 情報機器操作　[Computer Literacy] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 佐藤 亮輔 | | NSM-B1007 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育、栄養教諭）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 情報の管理<br>情報の作成・発信<br>パソコン・スマートフォン連携 | 毎回出題されるテーマに対する課題に挑戦しながら、コンピュータに関する基本的な操作方法および用語について学習する。課題の提出が必須であるため、授業時間内に終わらない場合は、授業時間外に課題に取り組み、提出する。 |

学習の到達目標

コンピュータの基本用語の習得や基本的なアプリケーションソフトの操作、簡単な文書、表計算、プレゼンテーション、学内メールシステムのスマートフォンとの連動について理解し、コンピュータを自由自在に操作できるようになることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業目標やスケジュール、具体的にどのようにすすめるのかなどの説明を行う |
| 2<br>3 | 情報機器に関する基本用語を理解しよう | パソコンやスマートフォンなどの情報機器を操作するにあたり、知っておくべき基本用語について学習し、今後の授業内容の理解度を高められるようにする |
| 4<br>5 | メールシステムの理解 | メールの利用方法について学ぶ |
| 6<br>7 | インターネットの活用 | インターネットから情報を収集する |
| 8 | 文書作成 | 文書作成ソフトであるドキュメントを使って文書作成をする |
| 9 | プレゼンテーション | プレゼンテーション作成であるドキュメントを使ってプレゼンテーションを行う資料の作成をする |
| 10 | 表計算 | 表計算ソフトであるドキュメントを使って表計算を行う |
| 11 | 自己紹介シートの作成 | スマホと連動させ、自己紹介シートをつくる |
| 12<br>13<br>14 | プレゼンテーション（グループワーク） | 課題に対するプレゼンテーションを行う資料を作成し、実際にプレゼンテーションする |
| 15 | まとめ | これまでの内容についてふり返り、内容の理解を深める |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：初心者のためのパソコン入門　富士通エフ・オー・エム出版(2016)
一瞬で片づく! ずるいパソコン仕事術 中山 真敬宝島社 (2017)

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：パソコン操作に関する基本的な情報を収集しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業の内容を復習し、操作を覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

提出課題の内容 70%　授業への参加度 30%　（未提出な課題がある場合、成績の評価はされない）

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | パソコンやスマートフォンに関する知識や操作技術を、各自の生活に応用できる能力を身に付けている。 |
| A | 用語についてとても良く理解し、パソコンおよびスマートフォンを自在に操作し、目的に応じて成果物を提出できる。 |
| B | 用語について理解し、パソコンおよびスマートフォンの操作をスムースにすることができる。 |
| C | 用語について理解し、パソコンおよびスマートフォンの簡単な操作ができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 外国語 | 英語コミュニケーション 1　[English Communication 1] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブラーニング | 植松 大介 | | NSM-B1008 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育、栄養教諭）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | コミュニケーション<br>基本的な口語表現<br>自己欲求を満たす英語 | 視聴覚教材などを効率よく使用し、自分の欲求を満たす英語表現・ゼスチャー等を身につける。<br>基本的なフレーズ（文語・口語）を講義とロールプレイングを通じて養う。<br>コミュニケーションに必要な英語の基本的な文法力・語彙力も身に付ける。 |

学習の到達目標

日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本的な表現やフレーズを反復練習することにより、日本と英語圏の文化や、自分の欲求を満たすための簡単でシンプルな英語コミュニケーションの技術を習得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | Introduction | 授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など |
| 2 | Communication | 日本語はポエム、英語はソング。 言語の根底を学ぶ |
| 3 | Self-Introduction | 自己・他己紹介　私は誰？あなたは誰？ |
| 4 | Unit 1　Weather | お天気ネタは万国共通！会話の切り口を知る |
| 5 | Unit 2　Emotions | 感情と気持ちははっきりと！ |
| 6 | Unit 3　Real ENG 1 | Native 講師と交流① |
| 7 | Unit 4　Time | やっぱりオシャレはクウォーツ時計　時間のかっこいい読み方 |
| 8 | Unit 5　Numbers | 日本は「万」、英語は「千」 数字の読み方を学ぶ |
| 9 | Unit 6　Direction | 方角・道案内はこれで万全！ |
| 10 | Unit 7　AA、BA&JA | 米語？英語？豪語？和製？同じ言葉でも意味が違う |
| 11 | Unit 8 Real ENG 2 | Native 講師と交流② |
| 12 | Unit 9　How～？ | 分らないことは何でも聞く！正しい質問のしかた |
| 13 | Unit 10 Hot or Hot? | 状況や味覚などはキチンと伝える |
| 14 | Unit 11 Role Play | なりきりロールプレイング |
| 15 | まとめ・総括 | まとめと総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：Kayo Shigemori 全くダメな英語が 1 年で話せた！ アラフォーOL Kayo の「秘密ノート」
＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験・ロールプレイング 80%　予習状況、及び授業中の積極的な態度などを平常点 20%として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。 |
| A | 基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。 |
| B | 基本的な文法事項に理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を良く身に付けている。 |
| C | 基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を 6 割程度身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 外国語 | 英語コミュニケーション 2　[English Communication 2] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習・アクティブラーニング | 植松 大介 | | NSM-B2009 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 自己欲求を満たす英語<br>応用口語表現<br>長文暗唱・読解力の向上 | 更なる自分の欲求を満たす英語表現を身につける。基本的なフレーズ（文語・口語）の確認と応用的なフレーズも講義とロールプレイングを通じて学ぶ。さらに編入学試験・就職試験などに必要な、長文読解力や文法力のアップを目指す。 |

**学習の到達目標**

日常生活の中での英語の役割を理解すると同時に、英語が身近な道具であることを学ぶ。さらに基本から応用までの表現やフレーズを学び、更なる自己欲求を満たす英語コミュニケーションの技術と就職や編入等に必要な英語の技術を習得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | Introduction | 授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など |
| 2 | Unit 12 History | 英語は難解？簡単？英語のルーツを学ぶ |
| 3 | Unit 13 Gestures | 握手と Hug だけが挨拶じゃない！外国式ゼスチャー＆フレーズを知る |
| 4 | Unit 14 Preposition | 場所や位置の表現方法を完全マスター！前に置くことば（詞）を知っておけば怖いものなんてない |
| 5 | Unit 15 Real ENG 1 | Native 講師との交流① |
| 6 | Unit 16 CIQ | 旅に出よう　①入国からチェックインまで |
| 7 | Unit 17 F & B | 旅に出よう　②食べたい物を飲み食いする |
| 8 | Unit 18 Sightseeing | 旅に出よう　③観光＆お土産を買う |
| 9 | Unit 19  Check Out | 旅に出よう　④チェックアウトから出国まで |
| 10 | Unit 20 Real ENG 2 | Native 講師との交流② |
| 11 | Unit 21 Sports | これ英語で説明できますか？①（スポーツ編） |
| 12 | Unit 22 Culture | これ英語で説明できますか？②（文化編） |
| 13 | Unit 23 Receipt | これ英語で説明できますか？③（レシピ編） |
| 14 | Unit 24 Role Play | なりきりロールプレイング |
| 15 | まとめ・総括 | まとめと総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：Kayo Shigemori 全くダメな英語が 1 年で話せた！ アラフォーOL Kayo の「秘密ノート」
＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験・ロールプレイング 80%　予習状況及び授業中の積極的な態度などを平常点 20%　として総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を十分身に付けている。 |
| A | 基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力をほぼ身に付けている。 |
| B | 基本的な文法事項に理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を良く身に付けている。 |
| C | 基本的な文法事項の理解と慣用的な英語の表現を駆使し、平易な英語でのコミュニケーション能力を 6 割程度身に付けている。 |

# 専門教育科目

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 健康のスポーツ栄養学　[Nutrition for Health and Fitness] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 長島 洋介 | NSM-S2010 |

**この授業に関係する資格**

栄養士免許、教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、健康運動実践指導者、GFI、NR・サプリメントアドバイザー、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスティックトレーナー、子ども運動発達指導士

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 健康<br>生活習慣病<br>スポーツ活動 | ヒトの身体組成や運動におけるエネルギー代謝、エネルギー消費量に関する評価方法を学び、健康づくりのための生活習慣に関する知識を身につける。また、スポーツをする際の水分補給方法について学ぶ。 |

**学習の到達目標**

身体活動と栄養の関連性について学び、身体活動量に応じた食事内容や摂取方法を身につけることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 健康づくりと食生活 | 健康づくりのためのスポーツと食事・栄養の意義 |
| 2 | 生活習慣病 1 | 生活習慣病とメタボリックシンドローム 1 |
| 3 | 生活習慣病 2 | 生活習慣病とメタボリックシンドローム 2 |
| 4 | エネルギー代謝 1 | 肥満の定義と測定法 |
| 5 | エネルギー代謝 2 | 消費エネルギー測定法 |
| 6 | エネルギー代謝 3 | 食事と運動による体重コントロール |
| 7 | 糖質の摂取 | 糖質の摂取と持久力 |
| 8 | 筋力アップ | たんぱく質の摂取と筋肉づくり |
| 9 | 疲労回復 | ビタミンの摂取と体調管理 |
| 10 | 貧血予防 | スポーツにおける貧血 |
| 11 | 骨づくり | ミネラルの摂取と骨づくり |
| 12 | 水分補給 | 水分摂取の種類とタイミング |
| 13 | サプリメント | サプリメントと食事　サプリメントの種類と使い方 |
| 14 | ライフスタイルと栄養 | 年代　性別　食環境別の食事とスポーツの関わり |
| 15 | まとめ | 全体の統括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：　なし（プリント配布）　　参考図書：　解剖生理学　人体の構造と機能、　第 2 版　羊土社

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：参考図書の「解剖生理学」を読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

試験の解答はオフィスアワーで行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 90%　平常点 10%　理由のない遅刻、欠席は減点として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 健康のためのスポーツ栄養学を十分理解し、応用力を身に付けている。 |
| A | 健康のためのスポーツ栄養学をよく理解している。 |
| B | 健康のためのスポーツ栄養学を理解している。 |
| C | 健康のためのスポーツ栄養学の基礎的な知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 運動生理学 [Exercise Physiology] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 玉木 啓一 | | NSM-S2011 |

**この授業に関係する資格**

栄養士免許、教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ栄養士、共通科目Ⅰ Ⅱ、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | エネルギー消費量<br>運動強度<br>トレーニング | 生理学的な知識を基本として、健康のための運動、スポーツ競技力の向上について、理解し指導できる能力を養うことを目標とする。運動中の生体内現象を、神経系・筋系ならびにエネルギー供給に関連した生理学的観点から解説する。また、体力向上の生理学的基礎について、トレーニングによる身体適応の変化を生理学的に明らかにしていく。 |

**学習の到達目標**

運動生理学の基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 健康生活と運動生理学 | 健康と運動生理学の関連を理解する |
| 2 | 運動とエネルギー代謝１ | エネルギー代謝とは |
| 3 | 運動とエネルギー代謝２ | エネルギー代謝の測定方法と意義 |
| 4 | 運動とエネルギー代謝３ | 運動とエネルギー代謝 |
| 5 | 身体運動のしくみ　1 | 呼吸・循環器と運動 |
| 6 | 身体運動のしくみ　2 | 筋収縮のしくみ |
| 7 | 身体運動のしくみ　3 | 筋収縮のエネルギー |
| 8 | 運動の種類 | 有酸素運動と無酸素運動 |
| 9 | 筋線維タイプ | 筋線維タイプとその特性 |
| 10 | 運動と栄養素 | 様々な栄養素と運動の関係 |
| 11 | 体力 | 体力とその意義 |
| 12 | トレーニング　1 | トレーニングの原理・原則 |
| 13 | トレーニング　2 | トレーニングの効果 |
| 14 | 運動と健康 | 運動が健康におよぼす効果 |
| 15 | まとめ | 運動と健康、運動とスポーツについて考える |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：「栄養・スポーツ系の運動生理学」 樋口満 監修　湊久美子・寺田新 編 南江堂
参考書：コーチと選手のためのスポーツ生理学 フォックス 大修館書店、 健康運動実践指導者養成用テキスト

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）： 事前に指示教科書資料を読み自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること。
事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）をこころみること。

**課題に対するフィードバックの方法**

各授業終了後、オフィスアワーの時間等を利用して、フィードバックを行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 95% 平常点５％ 理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 運動生理学の知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分に持っている。 |
| A | 運動生理学の知識を良く理解し、健康・スポーツへ活かすことができる。 |
| B | 運動生理学の知識を理解している。 |
| C | 運動生理学の基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎教育 自然 | 健康の心理学 [Health Psychology ] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 高橋 勇一 | | NSM-S2012 |

この授業に関係する資格

ピアヘルパー、健康管理士一般指導員、社会福祉主事

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ストレス<br>健康リスク<br>ポジティブ心理 | 健康心理学は心理学から派生した応用心理学の 1 つの領域である。健康に影響を与える要因を心理的な側面はもとより、行動的・社会的など様々な観点から学習する。また、脳科学の研究成果も取り入れ、ストレスとの上手なつきあい方や健康維持法についても考察する。 |

学習の到達目標

人間が生活していくうえで起こりうる様々な健康問題に対する知識の理解を深める。健康と疾病には心理的な要因はもとより、他の様々な要因が影響していることを理解する。そして、各自が適したストレス解消法や最善の状態（健康）を維持するスキルを習得することを目指す。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 健康心理学とは | 授業の概要説明、健康及び心理学、健康心理学の基礎 |
| 2 | 健康と心理学 | 新しい健康の概念、脳の構造、ポジティブ感情とネガティブ感情、セロトニン活性法 |
| 3 | ストレスと心の健康 1 | ストレス、ストレス理論、ストレス対処（コーピング） |
| 4 | ストレスと心の健康 2 | ストレスとの捉え方、ストレスとの上手なつきあい方、健康と自己肯定感 |
| 5 | 健康心理アセスメント | QOL、対人関係、生活習慣のアセスメント、意志を科学する |
| 6 | 健康とパーソナリティ | パーソナリティについて、タイプ A 行動パターン、心の病気とパーソナリティ |
| 7 | 心の病気 | 心の健康に関する統計、生まれてきた意味、思春期の精神疾患 |
| 8 | 健康行動と生活習慣 | 気をつけるべき生活習慣、生活習慣病予防など |
| 9 | 劣等感とコンプレックス | さまざまなコンプレックス、劣等感、コンプレックスを克服する方法 |
| 10 | リラクセーション | 心身を健康に保つリラクセーション法、健康法など |
| 11 | 健康心理カウンセリング | カウンセリング、幸せにする思考法、マインドフルネス、アンガーマネジメント |
| 12 | 健康教育 | 健康教育、ストレスマネジメント教育 |
| 13 | 健康とポジティブ心理学 | ポジティブ心理学、レジリエンス、人生の選択 |
| 14 | 人生と健康心理学 | ベスト・パフォーマンス、自己実現の過程、寿命（死）について |
| 15 | 総合・まとめ | 総合・まとめ、振り返り学習 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：森和代 石川利江 茂木俊彦 編 よくわかる健康心理学 ミネルヴァ書房
野口京子 著 健康心理学がとってもよくわかる本 東京書店

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.0 時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。
事後学習（週 2.0 時間）：授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題やリアクションペーパーに対して授業内でフィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

授業参加の意欲・態度・提出物（リアクションペーパー） 50% 授業内課題 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 健康の心理学全般についての深い知識を身につけ、応用的なスキルを養っている。 |
| A | 健康の心理学全般についての一般的な知識を身に付けている。 |
| B | 健康の心理学の基礎について概ね理解している。 |
| C | 健康の心理学の基礎について部分的に理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 健康管理論　[Health Care Theory] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 佐藤　亮輔 | | NSM-S2013 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、介護予防運動スペシャリスト、 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 健康管理<br>運動指導<br>運動実践 | 「健康」はどのように定義されるか、過去から現代においてどのような課題があるのか、健康づくりの施策にはどのようなものがあるかについて理解し、健康を増進させる健康管理について修得する。 |

**学習の到達目標**

健康管理に関する基礎知識を習得し、自身の生活に役立てるだけでなく、周囲に応用できる基盤を作る。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 授業計画 | 授業計画の説明 |
| 2 | 健康と健康増進の概念 | 健康の定義・アルマ・アタ宣言・オタワ憲章 |
| 3 | 現代社会と健康１ | 生活習慣病 |
| 4 | 現代社会と健康２ | メタボリックシンドローム |
| 5 | 健康の三要素１ | 健康と栄養 |
| 6 | 健康の三要素２ | 運動時におけるエネルギー源、適切な減量計画 |
| 7 | 健康の三要素３ | 健康づくりと運動プログラム |
| 8 | 健康の三要素４ | ウォーミングアップとクーリングダウン、有酸素性運動とその効果 |
| 9 | 健康づくり１ | 健康づくりとは、第１次国民健康づくり施策 |
| 10 | 健康づくり２ | 第２次国民健康づくり施策（アクティブ 80 ヘルスプラン） |
| 11 | 健康づくり３ | 第３次国民健康づくり施策（健康日本 21） |
| 12 | 健康づくり４ | 健康づくりのための運動基準 2006（エクササイズガイド 2006） |
| 13 | 運動指導の心理学・社会学的基礎 | 運動実践に関わる要因、トランスセオレティカル・モデル |
| 14 | 健康づくり運動の実際 | 運動実践に必要とされる能力 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：健康運動実践指導者養成テキスト、健康運動指導のための健康管理概論、基礎から学ぶ健康管理概論
※授業中にプリントを配布する

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）： 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）： 健康運動実践指導者養成テキスト、問題集を復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

オフィスアワーで適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 90%　平常点及び提出物など 10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 健康管理に関する知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分にもっている。 |
| A | 健康管理に関する知識をよく理解し、健康・スポーツへ活かすことができる。 |
| B | 健康管理に関する知識を理解している。 |
| C | 健康管理に関する基本的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 解剖生理学　[Anatomy and Physiology] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義 | 長島 洋介 ・ 板橋 明 | 実 | NSM-S2014 | | |

この授業に関係する資格

栄養士免許、健康運動実践指導者、GFI、NR・サプリメントアドバイザー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 消化器<br>循環器<br>内分泌 | 人体を構成する細胞から器官まで組織について、構造と機能との関連性を深く考えていく科目である。将来、栄養士として、人々の健康増進や病気の予防に、対応できること見据えて学習する。 |

学習の到達目標

人体の構造と機能を理解し、各組織・器官系がどのように協同して人体機能を遂行しているかを考察できるようになる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 細胞・組織・器官 | 細胞と組織学 |
| 2 | 消化器系 1 | 咀嚼 嚥下 消化管運動のしくみ |
| 3 | 消化器系 2 | 糞便形成 消化・吸収 |
| 4 | 血液・造血器・リンパ系 | 骨髄 造血器細胞 各血球の分化と成熟 |
| 5 | 循環器系 1 | 心臓の構造と働き |
| 6 | 循環器系 2 | 循環系 |
| 7 | 呼吸器系 | 気道 肺の構造と働き 呼吸機能 |
| 8 | 腎・尿路系 1 | 腎臓の構成と働き |
| 9 | 腎・尿路系 2 | 体液の働き |
| 10 | 生殖器系 | 生殖器の構造と働き 女性の性周期 |
| 11 | 骨格系 | 骨の構造と働き 骨の成長と老化 |
| 12 | 筋肉系と運動機能 | 筋肉の種類と働き 筋繊維の種類 |
| 13 | 内分泌系 | 内分泌系の構成とホルモンの働き |
| 14 | 免疫系 | 免疫とは何か 非特異的防御機構　生体防御機構における免疫系の特徴 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第２版 羊土社

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：教科書「解剖生理学」を読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

試験の解答はオフィスアワーで行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 ９０％、平常点１０％、として、総合的に評価する。

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 人体の構造と機能に関する知識を非常によく理解し、応用力を身につけている。 |
| A | 人体の構造と機能に関する知識を十分に理解している。 |
| B | 人体の構造と機能に関する知識を理解している。 |
| C | 人体の構造と機能に関する基本的な知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 解剖生理学　[Anatomy and Physiology] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 佐藤 亮輔 | NSM-S2014 |

この授業に関係する資格

健康運動実践指導者、GFI、NR・サプリメントアドバイザー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 代謝<br>構造<br>機能 | スポーツ（運動）を正しく理解するために必要な人体のかたち（解剖学）とはたらき（生理学）の基本的な知識を習得する。講義が主体であるが、必要に応じて視聴覚的教材および資料等を活用し、基本的な知識を習得する。 |

学習の到達目標

人体のかたち（解剖学）とはたらき（生理学）の基本的な知識を習得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 人体の概観 | 人体の各部分の名前と関連用語 |
| 2 | 細胞・組織・器官 | 細胞についての理解、組織や器官の種類 |
| 3 | 骨と関節 | 主な骨や関節の名前、関節の働き |
| 4 | 筋 | 主な筋の種類と働き、筋収縮と代謝 |
| 5 | 感覚 | 感覚器の種類、伝達神経と中枢のつながり |
| 6 | 神経系 | 中枢神経と抹消神経、体性神経と自律神経 |
| 7 | 内分泌系 | 内分泌による体の調節、内分泌臓器の位置と構造 |
| 8 | 循環器系 | 血管系とリンパ系、体循環と肺循環など |
| 9 | 血液 | 血液のでき方と種類、血液の種類とそのはたらき |
| 10 | 呼吸 | 酸素・二酸化炭素の摂取と排泄、気管支と肺の働き |
| 11 | 消化・呼吸 | 消化器官の名前と働き、消化腺とその作用 |
| 12 | 泌尿器系 | 腎臓の構造、尿の生成、水と電解質の排泄 |
| 13 | 免疫とアレルギー | 白血球の種類と働き、免疫グロブリン、免疫とアレルギー |
| 14 | 生殖と発生 | 生殖器の構造とその働き、遺伝とＤＮＡ、ＡＲＴやｉＰＳ細胞など近年のトピックスについて |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：佐藤昭夫他編「人体の構造と機能（第３版）」（医師薬出版）、安藤幸夫監修「人体の不思議」（ナツメ社）
※授業中にプリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業終了時に指定した参考図書の復習と問題を解いておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

筆記試験　９０％　　平常点及び提出物など　１０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 解剖生理学の知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分に身に付けている。 |
| A | 解剖生理学の知識を良く理解し、健康・スポーツへ活かすことができる。 |
| B | 解剖生理学の知識を理解している。 |
| C | 解剖生理学の基礎的な知識を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 栄養学総論　[Nutritional Science] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 小河原　佳子 | | NSM-S2015 |

**この授業に関係する資格**

栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 栄養素<br>消化・吸収<br>働き | 栄養の意義を理解する。ヒトは栄養素をどのように消化・吸収しているのか、また吸収した栄養素はどうなるのか、代謝調節も含め身体全体で考え、健康の保持増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、基礎的知識を習得する。 |

**学習の到達目標**

栄養の意義を理解し、栄養素の代謝および生理的役割を理解することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 栄養の概念 | 栄養とは何か。栄養学の歴史 |
| 2 | 栄養素の種類と働き | 栄養素の種類と体内での栄養の異化・同化 |
| 3 | 消化と吸収 | 各栄養素の消化と吸収の仕組みの概説 |
| 4 | 炭水化物の栄養 | 糖質の消化吸収・機能、血糖の調節、糖新生 |
| 5 | 食物繊維の種類と働き | 食物繊維の定義と分類・機能、腸内細菌との関わり、糞便組成 |
| 6 | タンパク質の栄養 | タンパク質の消化吸収・機能、タンパク質の栄養価 |
| 7 | 脂質の栄養 | 脂質の消化吸収・機能、脂質の体内移動、必須脂肪酸の機能、 |
| 8 | ビタミンの栄養① | ビタミンの分類と種類　脂溶性ビタミンの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症 |
| 9 | ビタミンの栄養② | 水様性ビタミンの消化吸収・機能、欠乏症 |
| 10 | ミネラルの栄養① | ミネラルの分類と種類　多量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症 |
| 11 | ミネラルの栄養② | 微量ミネラルの消化吸収・機能、欠乏症・過剰症 |
| 12 | 食事摂取基準 | 食事摂取基準の基本的事項 |
| 13 | 水のはたらき | 水の出納（水分摂取、代謝水、水分排泄）、体液分布、細胞内外のミネラル |
| 14 | エネルギー代謝 | エネルギーの定義と消費エネルギーの量とエネルギー代謝の測定方法 |
| 15 | まとめ・振り返り | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：栄養科学シリーズ 新・栄養学総論 講談社　参考図書：日本人の食事摂取基準 2015 年版

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）： 指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）： 毎回、授業の始めに前回の授業内容の小テストを行うので、復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

授業内容の小テストの解答の解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験で 70%、確認テスト・授業への積極的態度などで 30%として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 栄養とは何かを十分に理解し、栄養素の役割、基礎的知識を十分に身に付けている。 |
| A | 栄養とは何か、栄養素の役割を理解し、基礎的知識を身に付けている。 |
| B | 栄養とは何か、栄養素の役割、基礎的知識を十分に理解している。 |
| C | 栄養とは何か、栄養素の役割、基礎的知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 栄養学総論　[Basic Nutrition] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 茗荷 尚史 | | NSM-S2015 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| NR・サプリメントアドバイザー、社会福祉主事 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 栄養素<br>消化<br>代謝 | 栄養とは、生体が栄養成分を取り入れて利用し、成長、発育して生命を維持し、健全な生命活動を営むためのエネルギーを得ることである。すなわち栄養とは食物側の問題でなく身体側の問題であり、健康は食物を摂取した際、それを処理する状態が心身ともに良好な場合に達成される。このような観点から、栄養学を理解するためには、生体機能や代謝を理解することが不可欠であり、これらを概説しつつ、栄養学の基礎について解説していく。 |

**学習の到達目標**

本講義内容は、栄養学の基礎知識を習得することをテーマとし、栄養に関わる基礎知識、とりわけ消化および代謝を理解することを到達目標として、ワークシート形式で授業を展開していく。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 栄養とは何か | 1.定義　2.語源　3.栄養素と機能 |
| 2 | エネルギー比率と体組成　その１ | 1.体組成　2.三大栄養素の相互変換 |
| 3 | エネルギー比率と体組成　その２ | 1.平均的な食事のエネルギー比率　2.空腹時の反応　3.満腹時の反応 |
| 4 | エネルギー比率と体組成　その３ | 1.摂取優先順位　2.理想的な摂取比率 |
| 5 | 消化のしくみ その１ | 1.消化器官の基本構造　2. 口腔、咽頭、喉頭 |
| 6 | 消化のしくみ その２ | 1.胃の構造　2.胃のはたらき　3.逆流性食道炎　4.ピロリ菌について　5.ダンピング症候群 |
| 7 | 消化のしくみ その３ | 1.小腸の構造　2.十二指腸　3.空腸　4.回腸 |
| 8 | 消化のしくみ その４ | 1.大腸の構造　2.大腸のはたらき　3.糞便の組成　4.便量と健康　5.腸内マイクロフローラ |
| 9 | 糖質代謝 その１ | 1.解糖系　2.筋肉中の反応　3.肝臓中の反応 |
| 10 | 糖質代謝 その２ | 1.炭素数の変化と $CO_2$　2.補酵素の生成　3.ATP の収支 |
| 11 | 糖質代謝 その３ | 1.エネルギー効率　2.グリセミック・インデックス |
| 12 | タンパク質代謝 | 1.アミノ酸の種類　2.アミノ酸の代謝とアミノ基転移反応　3.尿素合成経路と尿形成 |
| 13 | 脂質代謝 その１ | 1.中性脂肪の分解　2.グリセリンの代謝 |
| 14 | 脂質代謝 その２ | 1.脂肪酸の種類　2.β-酸化 |
| 15 | 総まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教 科 書：特に指定しないが、単元ごとに配布するワークシートおよび板書がその代用となる
参考図書：栄養学 ―総論とスポーツ栄養学― 池上幸江他 著　酒井書店 育英堂

**準備学習・事後学習**

準備および事後学習：授業ノート、ワークシートを参考にして、復習を中心とした授業外学習を励行して、次回の授業に臨むこと。
（週３時間）　　講義で得た知識を実生活に役立て、健康生活の実践・指導を行うための基礎とすること。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、ワークシートを添削後、コメントを入れて返却する。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　平常点(ワークシート提出、発言、態度を含む) 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 各栄養素の消化および代謝について、よく理解している。 |
| A | 各栄養素の消化および代謝について、理解している。 |
| B | 各栄養素の消化および代謝について、基礎的な理解している。 |
| C | 各栄養素の消化および代謝について、最低限の理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 食品学　[Food Science] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 茗荷 尚史 | | NSM-S2016 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許、フードスペシャリスト、NR・サプリメントアドバイザー |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食品成分<br>栄養特性<br>食品機能 | 健康な生活を論ずる上で、エネルギーは食品から得ていることを考えれば、食品に関する基本的な知識を得ることは必須である。本講義では食品各成分の栄養特性について学ぶとともに、最近の知見を取り入れながら、健康な生活を食品とのかかわりの中で考える。 |

**学習の到達目標**

本講義は個々の食品成分に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。適宜、高等学校までに学習した内容の復習と食品成分表の扱いについても触れ、栄養士としての専門知識の基礎を磐石にする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 人間と食品 | 1.食物連鎖　2.食品と栄養　3.食糧と環境問題　4.食品の分類 |
| 2 | 食品の栄養素と成分表 (その 1)水 | 1.水の構造と性質　2.水の存在状態　3.水分活性 |
| 3 | 食品の栄養素と成分表 (その 2)炭水化物 | 1.生体内での役割　2.構造　3.分類 |
| 4 | 食品の栄養素と成分表 (その 3)脂質 | 1.生体内での役割　2.構造と分類　3.食品中の主要脂質　4.脂肪酸の分解と合成 |
| 5 | 食品の栄養素と成分表 (その 4)タンパク質 | 1.構成成分　2.構造　3.等電点　4.アミノ酸と味　5.栄養素としてのタンパク質 |
| 6 | 食品の栄養素と成分表 (その 5)ビタミンその 1 | 1.定義　2.脂溶性ビタミン |
| 7 | 食品の栄養素と成分表 (その 6)ビタミンその 2 | 1.水溶性ビタミン　2.その他ビタミン様物質 |
| 8 | 食品の栄養素と成分表 (その 7)無機質その 1 | 1.主要無機質 |
| 9 | 食品の栄養素と成分表 (その 8)無機質その 2 | 1.主要無機質(続き)　2.その他人体に必要な微量無機質 |
| 10 | 食品の栄養素と成分表 (その 9)食物繊維 | 1.定義および目標摂取量　2.効果　3.食品添加物としての使用基準 |
| 11 | 食品の嗜好成分(その 1) | 1.色素　2.香気成分 |
| 12 | 食品の嗜好成分(その 2) | 1.呈味成分　2.毒性成分 |
| 13 | 食品の変化 | 1.褐変反応　2.でんぷんの反応　3.油脂の反応　4.食品の物性 |
| 14 | 食品の機能性 | 1.強調表示　2.保健機能食品　3.特別用途食品　4.栄養補助食品 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：食べ物と健康　－食品の栄養成分と加工－　國﨑直道編著　同文書院
参考図書：イラスト食品学総論　種村安子他著　東京教学社
食べ物と健康　食品学・食品機能学・食品加工学　長澤治子編著　医歯薬出版

**準備学習・事後学習**

準備および事後学習（週３時間）：栄養士として必要な知識の基礎となる科目の一つなので、その日に学習した知識を定着させるために、復習を中心とした授業時間外学習を励行して、次回の授業に臨むこと。
各テーマ毎に小テストを行う予定である。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　平常点(小テスト、発言、態度を含む) 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食品成分の面から食品学の知識をよく理解している。 |
| A | 食品成分の面から食品学の知識を理解している。 |
| B | 食品成分の面から食品学の基本的知識を理解している。 |
| C | 食品成分の面から食品学の最低限の知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 食品学　[Food Science] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 茗荷 尚史 | | NSM-S2016 |

この授業に関係する資格

NR・サプリメントアドバイザー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食品成分<br>栄養特性<br>食品機能 | 健康な生活を論ずる上で、エネルギーは食品から得ていることを考えれば、食品に関する基本的な知識を得ることは必須である。本講義では食品各成分の栄養特性について学ぶとともに、最近の知見を取り入れながら、健康な生活を食品とのかかわりの中で考える。 |

学習の到達目標

本講義は個々の食品成分に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。適宜、高等学校までに学習した内容を復習しつつ、食品成分表の扱いについて概説し、特にスポーツ選手の食品選択のあり方についても、一般食品とサプリメントの両面から触れる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 人間と食品 | 1.食物連鎖　2.食品と栄養　3.食糧と環境問題　4.食品の分類 |
| 2 | 食品の栄養素と成分表 (その 1)水 | 1.水の構造と性質　2.水の存在状態　3.水分活性 |
| 3 | 食品の栄養素と成分表 (その 2)炭水化物 | 1.生体内での役割　2.構造　3.分類 |
| 4 | 食品の栄養素と成分表 (その 3)脂質 | 1.生体内での役割　2.構造と分類　3.食品中の主要脂質　4.脂肪酸の分解と合成 |
| 5 | 食品の栄養素と成分表 (その 4)タンパク質 その 1 | 1.構成成分　2.構造　3.等電点　4.アミノ酸と味 |
| 6 | 食品の栄養素と成分表 (その 5)タンパク質 その 2 | 1.栄養素としてのタンパク質　2.タンパク質の分解とアミノ酸体内動態 |
| 7 | 食品の栄養素と成分表 (その 6)ビタミン その 1 | 1.定義　2.脂溶性ビタミン |
| 8 | 食品の栄養素と成分表 (その 7)ビタミン その 2 | 1.水溶性ビタミン　2.その他ビタミン様物質 |
| 9 | 食品の栄養素と成分表 (その 8)無機質 その 1 | 1.主要無機質 |
| 10 | 食品の栄養素と成分表 (その 9)無機質 その 2 | 1.主要無機質(続き)　2.その他人体に必要な微量無機質 |
| 11 | 食品の栄養素と成分表 (その 10)食物繊維 | 1.定義および目標摂取量　2.効果　3.食品添加物としての使用基準 |
| 12 | 食品の嗜好成分 (その 1) | 1.色素　2.香気成分 |
| 13 | 食品の嗜好成分 (その 2) | 1.呈味成分　2.毒性成分 |
| 14 | サプリメント | 1.種類　2.使用の現状　3.効能 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：なし　　参考図書：イラスト食品学総論　種村安子他 著　東京教学社
＊必要に応じて資料を配布する

準備学習・事後学習

準備および事後学習（週３時間）：授業ノート、プリントを参考にして、復習を中心とした授業外学習を励行して、次回の授業に臨むこと。
講義で得た知識を実生活に役立て、健康生活の実践・指導を行うための基礎として欲しい。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、必要に応じて授業ノートを提出させ、コメントを入れて返却する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 70%　平常点(ノート提出、発言、態度を含む) 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食品成分の面から食品学の知識をよく理解している。 |
| A | 食品成分の面から食品学の知識を理解している。 |
| B | 食品成分の面から食品学の基本的知識を理解している。 |
| C | 食品成分の面から食品学の最低限の知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 競技のスポーツ栄養学 [Sports Nutrition for Athlete] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 長島 洋介 | | NSM-S3017 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスリート<br>障害予防<br>パフォーマンス向上 | 競技スポーツを行う上でのコンディション維持や、必要な栄養・食事の重要性について学習する。<br>また、栄養不良による疾病予防と種目特性やトレーニング状況に応じた具体的、実践的な栄養・食事のとり方について学ぶ。 |

学習の到達目標

競技特性やトレーニング状況、コンディションを整えるための食事・栄養の基礎と現場での応用力を身に付ける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 競技、スポーツと食生活 | 競技スポーツと食事・栄養の意義 スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素 |
| 2 | トレーニングと食事 ① | スポーツ選手の身体活動とエネルギー トレーニングとエネルギー消費量 |
| 3 | トレーニングと食事 ② | 競技特性とエネルギー摂取量 トレーニング期の食事 |
| 4 | 競技特性別の食事 ① | 糖質の摂取と持久力の関係 グリコーゲンローディング |
| 5 | 競技特性別の食事 ② | たんぱく質の摂取と筋肉づくりについて 効果的な摂取タイミング |
| 6 | 遠征、合宿時の食事 | 合宿 遠征時の食事のポイント 摂取タイミング |
| 7 | 試合期の食事・栄養 | 試合前、試合中、試合後の食事と水分補給のポイント 摂取タイミング |
| 8 | アスリートの抱える問題と食事 ① | 競技スポーツと貧血 摂食障害 月経障害 |
| 9 | アスリートの抱える問題と食事 ② | 競技スポーツと骨粗鬆症 怪我・故障予防 |
| 10 | アスリートの抱える問題と食事 ③ | 競技スポーツとウエイトコントロール 増量 |
| 11 | 環境とアスリートの食事・栄養 ① | 暑熱環境下での食事・栄養と水分補給 寒冷環境下および低気圧環境下での食事・栄養 |
| 12 | サプリメントについて | サプリメントの種類 効果的な利用方法 摂取上の注意点 |
| 13 | スポーツ選手への栄養教育① | アスリートに対する具体的な食事支援の方法 |
| 14 | スポーツ選手への栄養教育② | アスリートに対する具体的な栄養教育 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | レポート課題 | |

教科書及び参考図書

参考図書：「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポートと栄養」 財団法人日本体育協会
「アスリートのための栄養・食事ガイド」 第一出版

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：参考図書を読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

レポート課題 80%、平常点 20%として総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスリートのためのスポーツ栄養学の知識を活かし、現場での応用力を十分に身に付けている。 |
| A | アスリートのためのスポーツ栄養学の知識をよく理解している。 |
| B | アスリートのためのスポーツ栄養学の知識を理解している。 |
| C | アスリートのためのスポーツ栄養学の基礎的な知識を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 運動スポーツ基礎理論 / スポーツ運動学<br>[Basic Theory of Physical Exercise and Sport] | 2 | N | S | M |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義 | 杉山 仁志 | | NSM-S2018 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、アスレティックトレーナー、スポーツクラブインストラクター |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | スポーツ指導<br>トレーニング理論<br>社会体育 | 社会体育指導者として、必須の項目を扱い、テーマに応じた授業を行う。又、競技指導者として必要な知識を学習する。 |

**学習の到達目標**

成人を対象とする社会体育指導者として必要な知識を、運動・スポーツ指導に関連付けた内容の習得を目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業概要を説明する |
| 2 | 各運動の基礎知識（1） | トレーニング理論 1 |
| 3 | 各運動の基礎知識（2） | トレーニング理論 2 |
| 4 | 各運動の基礎知識（3） | トレーニング理論 3 |
| 5 | 各運動の基礎知識（4） | 運動指導法 1 |
| 6 | 各運動の基礎知識（5） | 運動指導法 2 |
| 7 | 各運動の基礎知識（6） | 運動指導法 3 |
| 8 | 各運動の基礎知識（7） | 運動指導法 4（競技指導を含む） |
| 9 | 各運動の基礎知識（8） | 運動指導法 5（競技指導を含む） |
| 10 | 各運動の基礎知識（9） | ジョギング・ウォーキング指導法 |
| 11 | 各運動の基礎知識（10） | 水泳・水中運動指導法 |
| 12 | 各運動の基礎知識（11） | エアロビックダンス指導法 |
| 13 | 各運動の基礎知識（12） | マシーントレーニング理論 1 |
| 14 | 各運動の基礎知識（13） | マシーントレーニング理論 2 |
| 15 | まとめ | 運動指導法のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：健康運動実戦指導者用テキスト （公財）健康・体力づくり事業財団

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：運動・スポーツの指導において、基礎となる部分なので、教科書等を利用し、情報収集しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：自分なりのノートを作成し、欠席等で資料を受け取っていない場合は、資料を受け取り復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、授業の初めに前回の内容が理解できているか確認する。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 90%　平常点 10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を十分身に付けている。 |
| A | 社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を身に付けている。 |
| B | 社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を十分理解している。 |
| C | 社会体育指導者及び運動・スポーツ指導のために必要な知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 運動処方論 [Exercise Prescription] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義 | 玉木 啓一 | | NSM-S2019 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、健康管理士一般指導員、スポーツ栄養士、共通Ⅰ Ⅱ Ⅲ、アスレティックトレーナー |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 運動と健康<br>運動と安全<br>運動強度 | 生活習慣病の予防や改善のために運動をどのように役立て、安全に健康増進をはかるための指導者としての能力を高める。具体的な運動処方の立案を実施し、実践的な手法として日常生活に応用できる能力を習得していく。運動処方は、トレーニングの原理・原則にしたがって身体適応が起こる過程であることを理解していく。**配布資料を毎回すべて持参すること。欠席等の場合、次回までにスポーツ生理学研究室前のレターボックスから入手しておくこと。** |

| 学習の到達目標 |
|---|
| 安全で効果的な運動処方を出来るための知識を習得し、実際に運動処方を出来るような実践力を身につけることを目標としている。 |

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 授業計画 | 授業の進め方、運動処方の基礎的な解説 |
| 2 | 運動処方 | 運動処方の本質である、運動の種類、強度、持続時間、頻度、進め方を学ぶ |
| 3 | 運動と健康 | 健康と運動の関連を学ぶ（運動不足病、エアロビック、アネロビック運動） |
| 4 | 運動と疾病 | 運動に関連する病気について学ぶ（肥満、循環器系疾患、糖尿病など） |
| 5 | 中高年者の特性 | 運動処方の主な対象者である中高年者の体力と運動によるリスクについて学習する |
| 6 | 運動によるリスク | 運動実施に伴うリスクについて学び、その回避方法を理解する |
| 7 | 体力・運動強度 | 体力・運動強度の把握、利用方法について学ぶ |
| 8 | 運動強度の理解 | 各々が実施した運動強度の把握方法を習得する |
| 9 | メディカルチェック１ | 運動リスク把握のためのメディカルチェックについて学ぶ |
| 10 | メディカルチェック２ | 運動強度決定のためのメディカルチェックについて学習する |
| 11 | 運動処方の実際　1 | 運動処方（トレーニングの原理・原則）を理解する |
| 12 | 運動処方の実際　2 | 運動を安全に実施するための方法（運動の種類によるトレーニング）について理解する |
| 13 | 運動処方の実際　3 | 運動プランの立案 |
| 14 | 運動処方の実際　4 | 運動プランの評価・改善能力を養う |
| 15 | 運動処方の実際　5 | 運動処方のプランを自ら検討・改善する能力を養う |
| 試験等 | 筆記試験 | |

| 教科書及び参考図書 |
|---|
| 教科書　：「栄養・スポーツ系の運動生理学」 樋口満 監修　湊久美子・寺田新 編 南江堂<br>参考図書：運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン 坂本静男監訳 有限会社 ナップ |

| 準備学習・事後学習 |
|---|
| 準備学習（週 1.5 時間）： 事前に指示教科書資料を読み自分なりの理解をし、理解できない部分は質問できるように準備すること。<br>事後学習（週 1.5 時間）： 授業で行った内容を復習し理解の確認（自分の言葉で他人へ説明できるか？）をこころみること。 |

| 課題に対するフィードバックの方法 |
|---|
| 課題、質問については、原則として次回の授業で解説する。資料を配布することもある。 |

| 成績評価の目安と方法 |
|---|
| 筆記試験　９０%、 平常点及び提出物など　１０%　　理由のない遅刻・欠席は減点する　以上を総合的に評価する |

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 運動と健康および運動のリスクを良く理解し、メカニズムからリスクを避ける方法も自ら考え、運動処方を安全に実施することができる。 |
| A | 運動と健康および運動のリスクを良く理解し、安全な運動処方を実施する能力がたかい。 |
| B | 運動と健康および運動のリスクを良く理解し、運動処方を実施することができる。 |
| C | 運動と健康および運動のリスクを理解し、基本的な運動処方を実施することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | レクリエーション論　[Recreation] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 | | NSM-S2020 |

この授業に関係する資格

ピアヘルパー、レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、
アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | レクリエーション<br>レジャー<br>自由時間 | レクリエーションが必要とされてきた歴史・社会的な背景について学び、生活における生きがいづくりとしてのレク支援活動を理解する。ホスピタリティトレーニングやアイスブレーキングについての知識を深め、障がい形態別のレクについても学ぶことで、豊かな人生を築くために必要な知識を身につける。 |

学習の到達目標

レクリエーションの基本原理と意義を理解し、レクリエーション支援の理念とその必要性、支援者の役割について学び、応用力を身に付けることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | レクリエーションとは | 授業概要　用語の定義とレクリエーション・インストラクターの役割 |
| 2 | レクとレジャー | 労働と遊び、レジャーとレクリエーションについて |
| 3 | 労働・余暇・レク | レクリエーション・余暇の現状と課題　余暇と自由時間 |
| 4 | レクリエーション運動 | レクリエーション運動の歴史と概念　砂場づくり運動から興亜厚生大会 |
| 5 | 現在のレク運動 | 戦後のレクリエーションの変遷と制度 |
| 6 | 楽しさと元気づくり | 楽しさを通した心の元気づくり並びにアイスブレーキングについて |
| 7 | 心の元気と地域づくり | コミュニケーションと関係づくり　地域のきずなについて |
| 8 | ホスピタリティ | レクリエーション支援とホスピタリティトレーニング　コミュニケーションワークについて |
| 9 | 仲間づくり集団づくり | 集団に対するレクリエーション支援ついて |
| 10 | 障がいとﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ1 | みんなのスポーツ　楽しむ力　障がいに対する理解 |
| 11 | 障がいとﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ2 | 障がい者のスポーツ大会についてとノーマライゼーションについて |
| 12 | レクと環境問題 | 身近な生活環境の問題と世代間問題について |
| 13 | レクでの安全管理 | リスクマネジメント |
| 14 | レクの事故と責任 | シーズンスポーツの事例を中心として |
| 15 | まとめ | この講義で取り上げたレクリエーション理論のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり、（財）日本レクリエーション協会、 レクリエーション支援の基礎、（財）日本レクリエーション協会
その他：必要に応じて資料を配付する。

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：毎時間配付する資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、毎時間ミニレポートを回収し、次回授業始めに解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。

成績評価の目安と方法

毎回のミニレポート 70%　課題・提出物 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | レクリエーションを活かした、健康生活への応用力を十分に身に付けている。 |
| A | レクリエーションを良く理解している。 |
| B | レクリエーションを理解している。 |
| C | レクリエーションの基礎的な知識を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | スポーツ心理学１　[Sport Psychology 1] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 藤巻 公裕 | | NSM-S2021 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、ピアヘルパー、GFI、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 運動学習<br>動機づけ<br>練習と効果 | スポーツの心理的効果、スポーツの動機づけ、スポーツ技能の練習と効果、メンタルプラクティス、スポーツと集団、運動不振・不器用、恐怖感等について学習する。必要に応じてグループディスカッション、演習を行う。 |

学習の到達目標

スポーツ心理学の基礎知識を習得・理解し、スポーツ指導における実践力を身に付ける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | スポーツ心理学1について | 何を学ぶか、授業の方針と進め方、評価の仕方、受講上の注意など |
| 2 | スポーツとこころ | スポーツ・運動の心の及ぼす影響と心理的効果、重要性について |
| 3 | スポーツと発達 | 幼年、青少年、壮年、高年者の発達の特徴とスポーツ・運動指導について |
| 4 | 運動学習と情報処理 | 運動学習とは何か、上達の仕組み、フィードバックなどについて |
| 5 | 運動学習の理論 | S－R理論、洞察理論、閉回路理論、スキーマ理論などについて |
| 6 | スポーツと動機づけ | 動機づけの理論と方法、やる気を高める方法、原因帰属などについて |
| 7 | 心理的競技能力の測定 | 心理的競技能力診断検査を実施し、結果の見方と解釈について演習を行う |
| 8 | スポーツ技能の心理 | ブロック練習、ランダム練習、恒常練習、変動練習、課題の分割などについて |
| 9 | 練習の方法と効果 | フィードバックと効果、文脈干渉効果、性格タイプとの関係、集中-分散効果等について |
| 10 | メンタルプラクティス | メンタルプラクティスの効果的な行い方について概述し、演習を行う |
| 11 | スポーツと集団心理 | 集団の構造と機能、リーダーの課題、集団のモラールなどについて |
| 12 | スポーツ指導者の心理 | 指導者のアドバイス、誉め方しかり方、望ましい指導者像などについて |
| 13 | スポーツ・運動の不振 | スポーツ・運動の不振の心理的特徴と指導について |
| 14 | スポーツ・運動指導と恐怖感 | スポーツ・運動指導における恐怖感、対策などについて |
| 15 | まとめ | スポーツ心理学１のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：スポーツ心理学入門　マット・ジャーヴィス著　工藤和俊・平田智秋　訳　新曜社
参考図書：　よくわかるスポーツ心理学　中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著　ミネルヴァ書房
参考図書：公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）公益財団法人　日本体育協会

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：配布のテキストを予習した上で授業に臨むこと。
事後学習（週 1.5 時間）：学習した内容を十分復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

理解度テストを行った後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 50%　意欲・態度・準備学習や事後学習の状況・提出物・グループディスカッションへの参加度等 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ心理学の基礎知識を習得し、理解した上で実践に応用する力を身につけた。 |
| A | スポーツ心理学の基礎知識を習得し、十分理解した。 |
| B | スポーツ　心理学の基礎知識を習得し、ある程度理解した。 |
| C | スポーツ心理学の基礎知識を習得し、部分的に理解した。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | スポーツ心理学２　[Sport Psychology 2] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 藤巻 公裕 | | NSM-S3022 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | メンタルマネジメント<br>コーチングの心理<br>スポーツカウンセリング | メンタルマネジメント、イメージや集中力のトレーニング、心理的コンディショニング、競技不安、コーチングの心理、スポーツカウンセリングなどについて学習する。必要に応じてグループディスカッション、演習を行う。 |

学習の到達目標

スポーツ心理学の専門知識を習得し、スポーツ指導の実践において活用する力を身に付ける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | スポーツ心理学2について | 何を学ぶか、授業の方針と進め方、評価の仕方、受講上の注意など |
| 2 | メンタルマネジメント | メンタルマネジメントの方法、メンタルトレーニングについて概述する |
| 3 | リラクセーション | リラクセーション方法、覚醒水準とピークパフォーマンスについて概述し、演習を行う |
| 4 | イメージトレーニング | イメージトレーニングの種類、方法について概述し、演習を行う |
| 5 | 集中力 | 集中力について概述し、演習を行う |
| 6 | 心理的コンディショニング | パフォーマンスとの関係について概述し、心理検査（気分調査票）で演習を行う |
| 7 | あがり、不安、スランプ、プレッシャー | 技能のパフォーマンス曲線、緊張、あがり、競技不安、スランプについて概述する |
| 8 | 競技不安の測定 | 競技不安検査の実施法、結果の解釈について演習を行う |
| 9 | コーチングの心理1 | 技能習得と指導の心理、指導者によるサポートについて概述する |
| 10 | コーチングの心理2 | 個人の指導と心理的問題、日常生活における相談などについて概述する |
| 11 | コーチングの心理3 | チームワーク、チームに関わる心理的問題などについて概述する |
| 12 | コーチングの心理4 | 指導者と指導理念、コーチングスタイル、行動規範などについて概述する |
| 13 | スポーツカウンセリング1 | スポーツカウンセリングの進め方、利用される技術・技法などについて概述する |
| 14 | スポーツカウンセリング2 | けがと心理サポート、バーンアウト、イップスなどについて概述する |
| 15 | まとめ | スポーツ心理学2のまとめを行う |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：「スポーツ心理学の世界」杉原隆・船越正康・工藤孝幾・中込四郎編著　福村出版
参考図書：「運動心理学入門」松田岩男・杉原隆編著　大修館書店
参考図書：公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）、公益財団法人日本体育協会

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：配布のテキストを予習した上で授業に臨むこと。
事後学習（週 1.5 時間）：学習した内容を十分復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

理解度テストを行った後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 50%　意欲・態度・準備学習や事後学習の状況・提出物・提出物・グループディスカッションへの参加度等 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、理解した上で実践に応用する力を身に付けた。 |
| A | スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、十分理解した。 |
| B | スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、ある程度理解した。 |
| C | スポーツ心理学の専門知識や技法を習得し、部分的に理解した。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門教育 | スポーツ社会学　[Sports Sociology] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 山本 恵弥里 | | NSM-S2023 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 社会学<br>歴史<br>文化 | スポーツと社会の関わりについて、スポーツの歴史的変遷から生活や文化の中でスポーツがどのように変化して来たかを理解し、様々な社会的要因がスポーツに影響を与えることを学び、スポーツ指導者に必要とされる知識を習得する。 |

**学習の到達目標**

スポーツの指導者を目指すものとして必要な知識の中で、特に本授業は社会的文化的概念を中心にスポーツを理解することを目指す。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | スポーツの概念 | スポーツとは何かを理解する |
| 2 | スポーツの歴史（1） | 古代ギリシャ・ローマ時代のスポーツ |
| 3 | スポーツの歴史（2） | 中世ヨーロッパのスポーツ |
| 4 | スポーツの歴史（3） | 近代イギリスにおけるスポーツと教育 |
| 5 | 現代のスポーツ | 歴史的変遷を経て現代スポーツを理解する |
| 6 | スポーツ文化（1） | 文化について理解する |
| 7 | スポーツ文化（2） | スポーツの文化的特性 |
| 8 | スポーツ文化（3） | スポーツ文化の内容 |
| 9 | スポーツ文化（4） | スポーツ文化から発生した価値（フェアプレイ）について |
| 10 | 社会とスポーツ（1） | 現代社会とスポーツ |
| 11 | 社会とスポーツ（2） | 政治とスポーツの関わりについて |
| 12 | 社会とスポーツ（3） | 経済とスポーツの関わりについて |
| 13 | 社会とスポーツ（4） | 教育とスポーツの関わりについて |
| 14 | 社会とスポーツ（5） | スポーツ基本法について |
| 15 | まとめ | まとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ、Ⅱ

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：　次回の授業範囲についてテキストを読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：　授業内容の復習を行うこと。加えて、日常的にスポーツに関する報道に興味関心を持ち、情報に目を通すこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

授業時間の前後を利用して、適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　平常点及び提出物など 30%　理由のない遅刻や欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ社会学の内容を大変よく理解している。 |
| A | スポーツ社会学の内容をよく理解している。 |
| B | スポーツ社会学の内容を理解している。 |
| C | スポーツ社会学の基礎的な知識を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | スポーツ経営学　[Sports Management] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 太田 あや子 | | NSM-S2024 |

**この授業に関係する資格**

教員免許（保健体育）、スポーツ栄養士、共通科目ⅠⅡⅢ、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツクラブインストラクター

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | スポーツ産業 | 「スポーツを売る」、「スポーツで売る」業界の「人」「金」「モノ（サービス）」「情報」を利用した売る仕組みを学ぶ。 |
| 2 | フィットネス産業 | フィットネス・スポーツクラブ産業の現状を経営学の視点から理解する。 |
| 3 | スポーツマーケティング | マーケティングの４Ｐからスポーツ・フィットネス産業を分析的に理解する。 |

**学習の到達目標**

健康、フィットネス、スポーツ、体育の管理運営に関する現状を把握し、当該業界のモノ、サービス、人、金、情報の流れを分析し、経営学的な側面を理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業計画、スポーツ経営学の対象領域とその意味 |
| 2 | フィットネス業界(1) | 産業の概要と現況、産業界発展の社会・経済的背景 |
| 3 | フィットネス業界(2) | プログラムのデザインと施設機器の管理 |
| 4 | フィットネス業界(3) | 営業システム |
| 5 | フィットネス業界(4) | 人材と資格、組織運営 |
| 6 | スポーツマーケティング(1) | マーケティングミックスの４Ｐ　（スポーツシューズの事例から） |
| 7 | スポーツマーケティング(2) | スポーツマーケティングの事例研究（プロスポーツの事例から） |
| 8 | スポーツマーケティング(3) | スポーツマーケティングの事例研究（Ｊリーグチームマネジマメントの仕事の事例から） |
| 9 | スポーツマーケティング(4) | スポーツマーケティングのまとめ |
| 10 | スポーツ用品産業 | スポーツ用品産業の概要と現況 |
| 11 | 総合型地域スポーツクラブの経営 | 総合型地域スポーツクラブ経営の概要とその役割 |
| 12 | 公共スポーツ施設の経営 | 指定管理者制度 |
| 13 | 学校体育の経営 | 学校体育の経営管理 |
| 14 | スポーツ産業の事例 | スポーツマネジメントの事例研究 |
| 15 | 顧客満足 | 期待と満足度から顧客を理解する |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（財）日本体育協会Ⅰ、Ⅱ　，　スポーツ産業論　大修館書店

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：次回のテーマに関するニュースをインターネットや新聞、テレビ等で収集しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：返却されたワークシートを振り返り、キーワードを確認しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎時限ワークシートを回収し、テーマごとにキーワードの確認をする。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　平常点 30%　平常点にはフィットネスクラブ運営に関するレポートを含む

**成績評価の目安と方法**

| | |
|---|---|
| S | スポーツ経営学について十分に理解し、専門職に就くための準備ができている。 |
| A | スポーツ経営学について十分に理解している。 |
| B | スポーツ経営学についてよく理解している。 |
| C | スポーツ経営学について理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | スポーツ行政論 [Public Administration of Sports] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 太田 あや子 | | NSM-S2025 |

この授業に関係する資格

スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | スポーツ基本法<br>スポーツ基本計画<br>スポーツ庁、文部科学省 | スポーツ庁・文部科学省を中心とした国のスポーツ行政について、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を中心に学び、公共性にもとづくスポーツのあり方を考える。「競技スポーツの振興」、「総合型地域スポーツクラブ」、「暴力防止」への取り組みを、事例を用いて学習する。 |

学習の到達目標

国のスポーツ行政の根幹をなす「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」を理解し、社会におけるスポーツのあり方を考えて、「する」、「見る」、「支える」形でスポーツ参加を促進する役割をになう人材となる知識を身につける。また、アシスタントマネジャーとして総合型地域スポーツクラブで活動できる基礎能力を獲得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業計画の確認、スポーツ行政論の対象領域とその意味 |
| 2 | スポーツ行政の組織 | スポーツ行政組織や機構制度 |
| 3 | スポーツ振興施策 | スポーツ基本法とスポーツ基本計画 |
| 4 | 地域におけるスポーツ振興 | 地域におけるスポーツ振興 |
| 5 | 総合型地域スポーツクラブ(1) | 総合型地域スポーツクラブの事例研究 |
| 6 | 総合型地域スポーツクラブ(2) | 総合型地域スポーツクラブの概要 |
| 7 | 総合型地域スポーツクラブ(3) | 外国の地域スポーツクラブ |
| 8 | 総合型地域スポーツクラブ(4) | クラブマネジャーの役割 |
| 9 | スポーツ活動の財源 | スポーツ活動の経済的基盤と助成制度 |
| 10 | 国の重点施策(1) | 競技力向上 |
| 11 | 国の重点施策(2) | アンチドーピング |
| 12 | 国の重点施策(3) | スポーツ選手のセカンドキャリア |
| 13 | 国の重点施策(4) | オリンピックムーブメント |
| 14 | スポーツと法(1) | スポーツ指導者の法的責任（安全配慮義務） |
| 15 | スポーツと法(2) | スポーツ指導者の法的責任（スポーツと暴力問題） |
| 試験等 | レポート課題 | |

教科書及び参考図書

教科書（購入）：公認スポーツ指導者テキスト（財）日本体育協会Ⅰ、Ⅱ

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：テーマに関するニュースをインターネット、テレビ、新聞等で収集しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：返却されたワークシートを振り返り、キーワードを確認し、レポート作成につなげる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時前回のワークシートを返却し、キーワードを確認する。

成績評価の目安と方法

レポート 70%　平常点 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ行政のシステムを十分に理解し、知識をスポーツ活動の支援に活用できる。 |
| A | スポーツ行政のシステムを十分に理解している。 |
| B | スポーツ行政のシステムをよく理解している。 |
| C | スポーツ行政のシステムを理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | スポーツ指導論　[Coaching Method] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 川合　武司 ・ 川井　明 | | NSM-S2026 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、スポーツクラブインストラクター |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | スポーツ指導法<br>指導者の資質と役割<br>ロジカルコミュニケーション | 前半は、競技上の成功者の例から、その要素・要因を探り、毎時間、理解度確認レポート提出。<br>後半は、指導現場に有効なロジカルコミュニケーションの基礎を学習して実際のディベートに備える。さらに、指導現場でのタイムリーなトピックスを随時取り上げてその背景とともに理解していく。 |

**学習の到達目標**

成功したアスリートに関する指導法を理解したうえで、過去に受けた指導との比較から現状や個人に適した指導法を探ることができる。指導者としてのロジカルコミュニケーションを理解したうえで、有効・的確・シンプルな伝え方を習得する。指導現場でのトピックスの背景を理解できる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス他 | スポーツ指導者とは　その資質と役割 |
| 2 | 指導者の倫理 | スポーツ指導者の倫理：マナーと体罰・ハラスメント他 |
| 3 | 指導者の心構えと視点 | スポーツ指導者の心構え・視点と指導現場でのスタンス |
| 4 | 発育・発達と一貫指導 | プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジ、ポストゴールデンエイジにおける特性とその一貫指導 |
| 5 | タレント発掘と選手育成 | 世界に通用するアスリートを発掘・育成していくための方法を探る |
| 6 | 指導計画の作成 | 指導上のピリオダイゼーション（期分け）とテーマに則ったコーチング |
| 7 | スポーツ活動と安全管理 | 活動に関わる危険性を理解し、安全に指導するための方法を理解する |
| 8 | 選手と指導者の関係 | 選手の心理と対コーチ受容およびコミュニケーション |
| 9 | ロジカルコミュニケーション① | 情報のとらえ方および指導者の話し方と伝え方 |
| 10 | ロジカルコミュニケーション② | 指導者の用いる言葉とその使用法 |
| 11 | コーチング方法の実際 | ミーティング、シンクロコーチング、フリーズコーチング他 |
| 12 | トップアスリートの育成① | 育成・強化の在り方と指導者の役割 |
| 13 | トップアスリートの育成② | 指導者の資質と持つべき視点 |
| 14 | トップアスリートの育成③ | 育成・強化の方法とその評価 |
| 15 | まとめ | 良い指導者の資質と役割等についてのグループディスカッションから本科目をまとめる |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ（公益財団法人日本体育協会）

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）： 体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。
事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習すること。

**課題に対するフィードバックの方法**

理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。

**成績評価の目安と方法**

理解度確認レポート 70%　平常点 20%　筆記試験 10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 毎時の指導に関する課題を深く理解したうえで、各自の考えや将来の展望を論理的にまとめることができる。 |
| A | 毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えや将来の展望をまとめることができる。 |
| B | 毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の考えをまとめることができる。 |
| C | 毎時の指導に関する課題を理解したうえで、各自の感想をまとめることができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | スポーツ医学　[Sport Medicine] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 高橋 琴美 ・ 板橋 明 | 実 | NSM-S2027 |

**この授業に関係する資格**

教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、GFI、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、
アスレティックトレーナー、スポーツクラブインストラクター、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 内科的スポーツ障害<br>整形外科的スポーツ傷害<br>対処と予防 | スポーツは現代社会において、人々の健康を維持・向上する上で必要であるとの認識が高く、生活習慣病等の疾病対策にも応用されている。しかしその反面、スポーツ活動に伴う事故・傷害も存在する。この授業では指導者として必要なスポーツ医学の基本的な知識を理解し、いろいろな疾患・傷害だけではなく、現場での救急対策などについて学ぶ。 |

**学習の到達目標**

スポーツ指導者として、必要なスポーツ医学の知識を身につけ、いろいろな疾患に対する基礎知識や現場での救急対策について習得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | スポーツ医学とは |
| 2 | 生活習慣病と運動 | 肥満、脂質異常症、糖尿病、高血圧とは |
| 3 | 内科的スポーツ障害 1 | 体温調節、熱中症、特殊環境 |
| 4 | 内科的スポーツ障害 2 | 過換気症候群、運動誘発性喘息、運動誘発性アナフィラキシー、貧血 |
| 5 | 内科的スポーツ障害 3 | スポーツ活動と疲労、オーバートレーニング症候群 |
| 6 | メディカルチェックと健康管理 | 内科的・整形外科的メディカルチェックの目的、方法 |
| 7 | 整形外科的スポーツ傷害 1 | スポーツ傷害とは、上肢のスポーツ傷害 |
| 8 | 整形外科的スポーツ傷害 2 | 下肢のスポーツ傷害 |
| 9 | 整形外科的スポーツ傷害 3 | 体幹のスポーツ傷害、頭・頚部のスポーツ傷害 |
| 10 | リハビリテーション | アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 |
| 11 | スポーツ選手の健康管理 | スポーツ選手の健康管理、内科的障害と対策、外傷・障害と対策 |
| 12 | 発育期とスポーツ | 発育期の特徴と代表的なスポーツ傷害 |
| 13 | 女性スポーツ医学 | 女性の特徴と代表的なスポーツ傷害 |
| 14 | 中高老年者とスポーツ | 中高老年期の特徴と代表的なスポーツ傷害 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 4 スポーツ医学（嵯峨野書院）、はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ 8 スポーツ医学【内科】（化学同人）、健康運動実践指導者養成テキスト、公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ
※毎時間、プリントを用いて授業を行うため、各自でしっかりと管理すること。

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：参考図書の該当ページを読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：返却された課題について、配布された資料等を見直しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、毎時間授業の最後に提出された課題にコメントを入れ返却する。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　平常点 20%　小テスト 10%　理由のない遅刻・欠席は減点とする

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ医学に関する基本的な知識を大変良く理解している。 |
| A | スポーツ医学に関する基本的な知識をかなり理解している。 |
| B | スポーツに関する基本的な知識をおおよそ理解している。 |
| C | スポーツ医学に関する基本的な知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 野外活動論　[Outdoor Activity] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 | | NSM-S2028 |

この授業に関係する資格

公社）日本キャンプ協会　キャンプインストラクター

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 野外活動<br>アウトドア<br>自然体験 | この授業では野外活動を安全に楽しむために必要な基礎的知識や指導法について学習していく。さらに、組織キャンプを中心に、野外での危険予知や危険回避の具体的方法についても学習することで、いろいろな野外活動にチャレンジできる知識を身につける。 |

学習の到達目標

野外活動の理論的背景を理解し、自己や環境に対する応用力を身に付けることを目標とする。
なお本授業はキャンプインストラクター資格取得のための必修科目となっている。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 野外活動とは | 授業概要　用語の定義と「屋外」スポーツとの違いについて |
| 2 | 人間と自然 | 自然とのかかわり　野外活動の目的と意義について |
| 3 | さまざまな野外活動 | 野外で親しまれる、さまざまな活動について |
| 4 | 野外活動の基礎知識 | 野外活動のルールとマナー　環境への配慮について |
| 5 | 野外活動と健康 | 野外活動の健康への効果について |
| 6 | 基礎技術　読図 | 地図の種類と読図について |
| 7 | 基礎技術　ロープ | ロープワークの理論と実際 |
| 8 | 野外活動とキャンプ | キャンプの意義と目的、その歴史について |
| 9 | 組織キャンプ | 教育キャンプについて民間団体の活動や環境教育をとりあげる |
| 10 | 教育キャンプ | キャンプにおけるコミュニケーションスキル |
| 11 | 指導者の役割と機能 | キャンプを中心にした、野外活動における指導者の役割 |
| 12 | 水辺活動の安全管理 | 水辺活動中の事故を事例として |
| 13 | 山岳活動の安全管理 | 登山活動やキャンプ中の事故を事例として |
| 14 | 冬季活動の安全管理 | 冬季の活動を事例として |
| 15 | まとめ | この講義で取り上げた内容のまとめと課題作成 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：野外活動　その考え方と実際、日本野外教育研究会編、杏林書院
　　キャンプ指導者入門、（社）日本キャンプ協会
その他　：必要に応じて資料を配付する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：授業のテーマに関した情報を新聞や雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポートに生かせるようにしておく。
事後学習（週 1.5 時間）：配布された資料はと返却されたミニレポートを保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、毎時間ミニレポートを回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。

成績評価の目安と方法

毎回のミニレポート 70%　課題・提出物 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 野外活動の理論を活かした、健康生活への応用力を十分に身に付けている。 |
| A | 野外活動の理論を良く理解している。 |
| B | 野外活動の理論を理解している。 |
| C | 野外活動の基礎的な知識を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | 地域貢献演習　[Seminar for Contribution to Community] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 演習 | 本学 専任教員 | NSM-S9029 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 地域貢献<br>ボランティア<br>気づき学習 | 武蔵丘短期大学が持つ地域貢献のシード（種）を活かし、地域のニーズを解決し、地域貢献することを通じて自らの資質を高めていく科目である。<br>事前指導を受けたのちに地域貢献を体験し、事後指導を通して自らの社会貢献の能力を伸ばしていく。 |

学習の到達目標

地域貢献を体験し、体験の中から自分の可能性に気づきさらなる、地域貢献、ひいては社会貢献に資する能力を身につけることを目標としている。本学あるいは教員が地域に貢献する事業を体験し、自分の能力に気づき、さらに能力を伸ばして欲しい。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1<br>～<br>8 | この科目は、開催時期が地域貢献事業に合わせて、その前後を含めて開講される。<br>原則として一カ月前に授業の内容が掲示等により公開され、その指示に従うことにより履修登録となります。地域貢献の内容により、所属専攻や、専門性によって受講対象者を制限することもある。<br>事前指導、事後指導が行われる。<br>異なる地域貢献事業に参加した場合、修得単位数が加算される。<br><br>開講授業例<br>地域の健康・体力測定の実施運営<br>各種イベント等の運営手伝い |
| 試験等 | なし |

教科書及び参考図書

担当教員から、必要に応じて資料が配布される。
参考：本学ホームページ＞ 学生主体の地域貢献（http://www.musashigaoka.ac.jp/campus/cam_009.html）

準備学習・事後学習

原則として、事前指導１日、地域貢献体験１日、事後指導１日の授業形態になる。
体調を整え、体験する事業をよく理解しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

原則として、オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

活動状況　８０％　面接またはレポート　２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく応用力を持っている。 |
| A | 地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく力を持っている。 |
| B | 地域貢献での体験でその役割を果たし、将来自ら地域貢献を実施していく基礎を持っている |
| C | 地域貢献の体験を基に、社会貢献の意義を感じることができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 生化学　[Biochemistry] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 岡﨑 英規 | N-S2030 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 細胞<br>代謝<br>恒常性 | 全ての生物は細胞から成り立ち、その細胞の中では、さまざまなドラマが生まれている。<br>この様な数々のドラマが集約されて私たちは「生きて」いる。<br>生化学ではこの数々のドラマについて理解する。 |

学習の到達目標

正常な人体の仕組みを、遺伝子レベル、細胞レベルについて理解する。
摂った食べ物は体内でどうなるのか、絶えず体内で起こっている様々な物質の合成や分解、恒常性の維持について理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 人体の成り立ち 1 | 細胞の基本構造と機能（細胞小器官の特徴とはたらき） |
| 2 | 人体の成り立ち 2 | 生体膜の基本構造とその機能、受動輸送・能動輸送・膜輸送（膜サイトーシス） |
| 3 | 人体の成り立ち 3 | 生体エネルギー（ＡＴＰ）、同化・異化 |
| 4 | 糖質の化学 | 糖質の構造、種類および性質（単糖類、二糖類、多糖類、誘導糖） |
| 5 | 糖質の代謝 1 | 同化・異化、グルコース（ブドウ糖）の代謝（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系） |
| 6 | 糖質の代謝 2 | 糖質の合成や分解（グリコーゲンの合成と分解、ペントースリン酸回路、ウロン酸回路） |
| 7 | 脂質の化学 | 脂質の化学的特徴（構造、種類および性質） |
| 8 | 脂質の代謝 | 中性脂肪合成・分解、脂肪酸合成・分解、イコサノイド、コレステロール合成、ケトン体生成 |
| 9 | たんぱく質の化学 | たんぱく質・アミノ酸の化学的特徴（構造、種類および性質） |
| 10 | たんぱく質の代謝 | アミノ酸合成（アミノ基転移反応）と分解（尿素回路）、アミノ酸から合成される情報伝達物質 |
| 11 | 三大栄養素代謝まとめ | 様々な代謝経路のつながり、コリ回路、グルコース-アラニン回路 |
| 12 | 酵素 | 酵素の種類、働き、特徴、補助因子（補酵素）を必要とする酵素、酵素の阻害（競走・非競争） |
| 13 | 核酸の化学 | 核酸の化学的特徴と代謝、遺伝の仕組み |
| 14 | ホルモンの化学 | ホルモンの特徴と作用機構、血液中カルシウムイオン濃度の調節、血糖の調節 |
| 15 | 免疫の化学・まとめ | 身体を守る防衛反応（液性免疫・細胞性免疫）、免疫グロブリンの種類と働き、アレルギー |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：＜はじめて学ぶ＞健康・栄養系教科書シリーズ２　生化学　化学同人
参考図書：イラスト生化学入門　東京教学社

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：　授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの返却時に正答及び解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験　９０％　小テスト１０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、様々な代謝を理解している。 |
| A | 摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識を理解している。 |
| B | 摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識をやや理解している。 |
| C | 摂った食べ物が体内でどうなるのか細胞レベルでの合成・分解について、基礎知識を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 栄養学各論　[Nutrition in Life Stage] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 長島 洋介 | | N-S3031 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ライフステージ<br>特殊環境下<br>栄養摂取方法 | ライフステージ別の生理的変化に応じた栄養摂取方法や、特殊環境下での代謝変化や栄養摂取方法について学ぶ。 |

**学習の到達目標**

ライフステージごとの栄養管理、食事摂取基準に関する基礎的知識を習得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 栄養ケア・マネジメント① | 栄養ケア・マネジメントの定義やプロセス |
| 2 | 栄養ケア・マネジメント② | 栄養スクリーニング、栄養アセスメントの指標、栄養ケア、マネジメントの評価 |
| 3 | 食事摂取基準 | 食事摂取基準活用のための理論と方法 |
| 4 | 成長、発達、加齢 | 成長、発達、加齢に機能変化 |
| 5 | 妊娠期 | 妊娠期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア |
| 6 | 授乳期 | 授乳期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア |
| 7 | 新生児期・乳児期① | 新生児期・乳児期の生理的特徴 |
| 8 | 新生児期・乳児期② | 新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア |
| 9 | 成長期① | 成長期の生理的特徴 |
| 10 | 成長期② | 成長期の栄養アセスメントと栄養ケア |
| 11 | 成人期 | 成人期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア |
| 12 | 高齢期① | 高齢期の生理的特徴 |
| 13 | 高齢期② | 高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント・栄養ケア |
| 14 | 環境と栄養 | ストレス、特殊環境における生理変化 |
| 15 | まとめ | 全体のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：応用栄養学　羊土社

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：教科書「応用栄養学」を読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

試験の解答はオフィスアワーで行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 ９０％ 平常点 １０％　遅刻欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を非常によく理解し、応用力を身につけている。 |
| A | ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を十分に理解している。 |
| B | ライフステージ別の栄養摂取に関する知識を理解している。 |
| C | ライフステージ別の栄養摂取に関する基本的な知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 病態科学　[Pathologic Condition Science] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 岩井 秀明 | | N-S3032 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許、健康管理士一般指導員 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 疾患の概要<br>疾患の成因・予防<br>食事療法 | 解剖生理学、生化学で学んだ正常な人体の形態と機能を基礎に、疾患の概要を知り、疾患の成因・予防を学び、臨床栄養学につなげる。生涯健康には生活環境と共に生活習慣が重要であることを学ぶ。 |

**学習の到達目標**

病態科学の学習を通じて各種の病気の概要を理解し、予防と食事療法につなげられる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ～はじめに～ | 人類の感染症との闘い、日本人に多い疾病と死因 |
| 2 | 悪性新生物（がん） | がん（がん研究）の歴史、成因、各種のがんの特徴 |
| 3 | 動脈硬化症 | 成因、種類、食事療法 |
| 4 | 虚血性心疾患 | 狭心症、心筋梗塞、食事療法 |
| 5 | 脳血管障害、パーキンソン病 | 脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血、認知症、パーキンソン病 |
| 6 | 高血圧症 | 高血圧症の成因と分類、診断基準、食事療法 |
| 7 | メタボリックシンドローム | 肥満、内臓脂肪症候群、概念の根拠、成因 |
| 8 | 糖尿病 | 成因、種類、診断基準、合併症、食事療法 |
| 9 | 脂質異常症 | リポタンパク質、成因、診断基準、食事療法 |
| 10 | 痛風、先天性代謝異常症、 | 成因、プリン体、食事療法、アミノ酸代謝異常症の種類と病態、糖質代謝とその異常 |
| 11 | 感染症 | 1～5 類感染症、免疫不全症候群、予防接種 |
| 12 | 免疫、アレルギー | 炎症、免疫、ワクチン、食物アレルギー |
| 13 | 血液系疾患、運動器系疾患 | 血液の機能とその異常、貧血、血友病、白血病、骨粗しょう症、サルコペニア、ロコモ、フレイルティ |
| 14 | 腎・尿路系疾患<br>内分泌系疾患 | 糸状体腎炎、ネフローゼ症候群、食事療法<br>甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング病 |
| 15 | 消化器・呼吸器系疾患 | 消化器：消化性潰瘍、炎症性腸疾患（クローン病）、肝炎、脂肪肝、ＮＡＳＨ、肝硬変<br>呼吸器：肺炎、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ） |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教 科 書：田中　明、加藤　昌彦編　疾病の成り立ち：臨床医学（第４版）（建帛社）（変更の場合は事前に公示する）
参考図書等：その他の参考資料は適宜紹介する

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：次回のテーマとその内容について、教員に指示された教科書の該当箇所を事前に読了する。
事後学習（週 1.5 時間）：講義で提示された資料の未読部分を読了し、教科書を参照しつつ、講義を再度振り返りまとめる。

**課題に対するフィードバックの方法**

講義の最後に講義の振り返り課題を提示し、回収する。次回の講義冒頭時に、質問・要望・感想について紹介し、回答・感想を述べる。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　レポート点 15%　平常点 15%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 授業態度が特に良好、特に積極的に授業に参加。病態科学の基となる知識を十分に会得している。 |
| A | 授業態度は良好、積極的に授業に参加。病態科学の基となる知識を会得している。 |
| B | 授業態度・取り組みは普通。授業内容は概ね理解している。 |
| C | 授業態度・取り組みに更に努力が必要。授業内容の理解に努力が必要である。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 臨床栄養学　[Clinical Nutrition] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 木元　泰子 | N-S3033 |

**この授業に関係する資格**

栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 疾患、病態<br>栄養ケアマネジメント<br>医療 | さまざまな疾患、病態の成因・進展・治癒に栄養学がどのようにかかわっているか、疾患、病態に対してどのような栄養ケアが必要か、生活習慣病を中心に学ぶ。 |

**学習の到達目標**

各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 臨床栄養学の概念 | 意義と目的、入院時食事療法、診療報酬、障害者の権利 |
| 2 | 医療と臨床栄養 | 栄養ケアマネジメント |
| 3 | 栄養補給法 | 各種栄養補給法 |
| 4 | 代謝疾患① | 糖尿病、糖尿病食品交換表の使い方 |
| 5 | 代謝疾患② | 脂質異常症、高尿酸血症、痛風、肥満症、るい痩 |
| 6 | 循環器疾患① | 高血圧 |
| 7 | 循環器疾患② | 動脈硬化、心疾患、脳血管障害 |
| 8 | 消化器疾患① | 胃炎、胃（十二指腸）潰瘍 |
| 9 | 消化器疾患② | 下痢、便秘、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患、術前・術後（胃大腸） |
| 10 | 消化器疾患③ | 肝炎（急性・慢性）、肝硬変、脂肪肝、胆石症、胆のう炎、膵炎（急性・慢性） |
| 11 | 腎臓疾患 | 腎炎、ネフローゼ、糖尿病性腎症、急性腎不全、慢性腎不全、人工透析、腎臓病交換表の使い方 |
| 12 | 血液疾患・骨疾患 | 貧血、骨粗鬆症 |
| 13 | 呼吸器疾患、内分泌疾患 | COPD、甲状腺機能亢進症・低下症 |
| 14 | その他の疾患 | 免疫アレルギー、小児疾患、薬剤 |
| 15 | まとめの講義 | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：臨床栄養学概論（化学同人社）
糖尿病食事療法のための食品交換表（第４回 糖尿病）　腎臓病食品交換表（第 11 回 腎臓病）

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：新聞記事等を読み、臨床栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

確認テストを行い、採点後、解答の解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　確認テスト 30%　理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を十分身につけ、応用力を持っている。 |
| A | 各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識をよく理解している。 |
| B | 各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を理解している。 |
| C | 各疾患、病態およびそれらに対する適切な栄養ケアの基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 公衆栄養学　[Public Health Nutrition] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 木元　泰子 | | N-S2034 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 公衆栄養活動<br>栄養政策<br>プログラム | 公衆栄養の概念、公衆栄養活動、健康・栄養の現状と課題、健康・栄養施策、公衆栄養プログラムを中心に学ぶ。 |

**学習の到達目標**

わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれに対応した栄養施策について理解する。また、社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について、基礎的なことが理解できるように学習する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 公衆栄養学の概念 | 公衆栄養学の概念、公衆栄養活動の歴史・種類 |
| 2 | 健康・栄養問題の現状と課題① | 疾病構造の変化、食事の変化、食生活の変化 |
| 3 | 健康・栄養問題の現状と課題② | 食環境の変化、食料需給 |
| 4 | 栄養政策① | 行政の組織と施策、行政栄養士の役割、公衆栄養法規、地域保健法、健康増進法、栄養士法 |
| 5 | 栄養政策② | 国民健康・栄養調査、食生活指針、食事バランスガイド、運動指針、食品の表示、特定給食施設指導 |
| 6 | 健康食育対策、地方計画 | 健康フロンティア戦略、健康日本２１、食育推進基本計画 |
| 7 | 諸外国の栄養状況、施策 | 先進諸国の健康・栄養問題の現状と課題、開発途上国の健康・栄養問題の現状と課題 |
| 8 | 食事摂取基準の活用方法 | 食事摂取基準の概要（復習）、活用の基本、指標別活用の留意点、食事摂取基準を集団に用いる場合 |
| 9 | 栄養疫学 | 栄養疫学の概要、研究の種類、食事の個人内変動と個人間変動、食事調査法 |
| 10 | 公衆栄養マネジメント | 公衆栄養マネジメントとは、公衆栄養アセスメント、プログラムの目標設定、評価 |
| 11 | 公衆栄養プログラム | 公衆栄養プログラムとは |
| 12 | 公衆栄養プログラムの展開(演習)① | 演習①地域住民向けの健康教室を企画する |
| 13 | 公衆栄養プログラム課題発表 | 課題の発表およびグループディスカッションを行う |
| 14 | 公衆栄養プログラムの展開(演習)② | 演習②食環境づくり：適切な食情報についての企画を考える |
| 15 | まとめの講義 | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：公衆栄養学　建帛社　参考図書：日本人の食事摂取基準（2015 年版）、国民健康・栄養調査結果

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：　新聞記事等を読み、栄養に関する最新の情報を収集しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：　授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

確認テストを行い、採点後、解答の解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験　70%　　確認テスト 30%　理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を十分に修得し、公衆栄養プログラムへの応用力を持っている。 |
| A | 健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について基礎的な知識を身につけ、公衆栄養プログラムの実際を理解している。 |
| B | 健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について、基礎的な知識を理解している。 |
| C | 健康・栄養問題に関する動向および栄養施策、公衆栄養活動について、基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 応用食品学（食品加工学を含む） [Applied Food Science] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 茗荷 尚史 | N-S3035 |

この授業に関係する資格

栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食材<br>品質の鑑別<br>食品選択 | 食品の種類は非常に多く、現在食品成分表に記載されたものだけでも 2,000 品目以上、さらに世界各地より食材や加工品が入り、その種類は増加しつづけている。また魚類の中には稚魚から成魚になるときに名称が変化したり、地方により呼称が異なったり、調理方法により栄養成分値が変動するものがある。野菜・果実などは年々改良されている。本講義ではこれら詳細を食材ごとに解説するとともに、近年増えつづけているバイオ食品についても概説する。 |

学習の到達目標

本講義では個々の食材に着目して、食品全体を理解することに主眼を置く。各食材の概要、品質の鑑別、栄養特性、加工や調理などを系統的に学ぶことにより、各食品の特徴、季節、栄養バランス、嗜好性、経済性等を加味した食品選択を可能にする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 食品の貯蔵・加工による変化 | 1.褐変反応 2.ミオグロビンの変化 3.クロロフィルの変化 |
| 2 | 穀類と加工品 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 |
| 3 | イモ類、豆類と加工品 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 |
| 4 | 種実類、野菜類と加工品 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 |
| 5 | 果実類と加工品 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 |
| 6 | キノコ類、藻類 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 |
| 7 | 肉類と加工品 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.機能性 |
| 8 | 乳、卵と加工品 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.乳加工品と殺菌法 4.鶏卵の構造 5.機能性 |
| 9 | 魚介類と加工品 | 1.種類と性状 2.成分と栄養価 3.加工品 4.鮮度判定 5.機能性 |
| 10 | 油脂食品 | 1.種類と性状 2.食用油脂の製造工程 3.油脂の酸化 4.加工品 5.機能性 |
| 11 | 甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料 | 1.種類と特性 2.成分 3.機能性 |
| 12 | 微生物利用食品 | 1.発酵乳製品 2.漬け物 3.みそ、しょう油 4.アルコール飲料 5.食酢 6.納豆 |
| 13 | 新しい加工法による食品 | 1.レトルトパウチ食品 2.超高圧処理食品 3.凍結乾燥食品 4.コピー食品 |
| 14 | バイオ食品 | 1.遺伝子工学を用いたバイオ食品 2.発生工学を用いたバイオ食品<br>3.バイオリアクターを利用したバイオ食品 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教 科 書：改訂食品学Ⅰ・Ⅱ 菅原龍幸・福澤芙喜男 編著 建帛社
食品の官能評価・鑑別演習(第３版) (社)日本フードスペシャリスト協会編 建帛社
参考図書：食べ物と健康 食品学各論 下橋淳子編著 八千代出版
食品加工学 加工から保蔵まで 第２版 露木英男・田島眞編 共立出版
分子栄養学 金本龍平編 化学同人

準備学習・事後学習

準備および事後学習（週３時間）：本講義では一部の時間を使って、各種資格試験の対策講座を行う。さらに隔週でレポート課題および小テストを課すので、日頃から復習を中心とした授業外学習を励行して、学習したことをまとめる習慣を身につける。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、レポート添削、小テスト解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 50%　平常点(小テストの得点、発言、態度を含む) 25%　レポート 25%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食材の面から食品学の知識をよく理解している。 |
| A | 食材の面から食品学の知識を理解している。 |
| B | 食材の面から食品学の基本的知識を理解している。 |
| C | 食材の面から食品学の最低限の知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 食品衛生学　[Food Hygiene] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 岡﨑 英規 | | N-S2036 |

この授業に関係する資格

栄養士免許、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食中毒<br>食品添加物<br>食品衛生行政 | 食品はヒトの生命を維持し、健康の保持、増進に欠かせないものであるが、時には健康障害を引き起こす。生命を脅かす原因となることもある。食中毒を起こさない、または被害に遭わない様、飲食に関わる有害なものや国の施策について解説する。 |

学習の到達目標

食中毒予防のため、食品の取り扱いだけでなく食に関わる全ての環境に対して衛生的な配慮ができるよう幅広い知識を身につける。
食品中の有害物質について、正しい知識を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 食品衛生とは | 食品衛生の重要性、食品衛生行政の概要 |
| 2 | 食品衛生と微生物 | 微生物について、生育条件、汚染指標細菌 |
| 3 | 食品の変質とその防止 | 腐敗とその判定、食品の変質防止方法 |
| 4 | 食中毒について | 食中毒の定義、発生状況、年内変動の周期性 |
| 5 | 微生物による食中毒 | 微生物による食中毒について、概要を各自で調べる |
| 6 | 細菌性食中毒各論１ | 食中毒菌の特徴と予防方法（サルモネラ、腸炎ビブリオ、病原大腸菌、カンピロバクター） |
| 7 | 細菌性食中毒各論２ | （ウェルシュ菌、セレウス菌、ブドウ球菌、ボツリヌス菌） |
| 8 | 細菌性食中毒各論３ | （NAG ビブリオ、リステリア、エルシニア）、経口感染症、人畜共通感染症 |
| 9 | ノロウイルス | ノロウイルスの特徴と予防方法 |
| 10 | 寄生虫 | 寄生虫症の特徴と予防方法 |
| 11 | 自然毒食中毒、 | 動物性自然毒と植物性自然毒食中毒の特徴と毒性 |
| 12 | カビ毒、有害化学物質 | カビ毒の特徴と毒性、有害化学物質の特徴と過去の事例、食品成分の変化による有害物質 |
| 13 | 食品添加物１ | 食品添加物の分類、用途、規格基準 |
| 14 | 食品添加物２ | 食品添加物の安全性と毒性試験、毒性の指標 |
| 15 | 食品衛生管理、まとめ | HACCP、食品工場における一般衛生管理事項、マスターテーブル |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：カレント食べ物と健康３　食品衛生学（第２版）　　建帛社
参考図書：食中毒予防必携 第３版　日本食品衛生協会

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの返却時に正答及び解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 ９０％　小テスト１０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を幅広く習得している。 |
| A | 食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を習得している。 |
| B | 食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識をやや習得している。 |
| C | 食中毒の特徴や予防手段について、栄養士として必要な知識を最低限習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 公衆衛生学　[Public Health] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 岡﨑 英規 | N-S2037 |

この授業に関係する資格

栄養士免許、健康管理士一般指導員、NR・サプリメントアドバイザー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 環境と健康<br>保健統計<br>疫学 | 公衆衛生学は、人々の疾病予防、健康の保持増進をはかるため、国や自治体など組織的な取り組みにより推進していくことを目的としている。衛生行政、保健統計について解説し、日本の保健衛生を世界各国と比較し、現在と将来の公衆衛生上の問題を認識させる。 |

学習の到達目標

生態系の中の人間について考え、社会や環境の変化が健康に与える影響を理解する。
免疫学の基礎知識を身につけ、科学的根拠（エビデンス）に基づく保健対策について理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 健康と公衆衛生 | 健康・公衆衛生の定義、歴史、予防医学、ハイリスク・ポピュレーションアプローチ |
| 2 | 環境と健康１ | 環境基本法、地球環境問題、大気・水に関する環境基準 |
| 3 | 環境と健康２ | ダイオキシン類対策、日本の公害、環境衛生（空気組成、騒音、温熱、放射線） |
| 4 | 環境と健康３ | 環境衛生の続き（上下水道、居住・衣服環境、廃棄物処理、リサイクル率） |
| 5 | 統計資料１ | 保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計 |
| 6 | 統計資料２ | 生命表、平均寿命、健康寿命、傷病統計（患者調査、国民生活基礎調査）、その他 |
| 7 | 疫学１ | 疫学の概念・時系列、疫学の指標（疾病頻度、暴露効果測定「相対危険、寄与危険、オッズ比」） |
| 8 | 疫学２ | 疫学の方法（生態学的・横断・症例対照・コホート・介入研究）、バイアスと交絡 |
| 9 | 疫学３ | スクリーニング、根拠の質（系統的レビュー、メタ解析）、リスクアナリシス |
| 10 | 主要疾患の疫学 | がん、循環器疾患（脳血管疾患、虚血性心疾患）、たばこ対策、飲酒行動、歯科疾患と予防 |
| 11 | 感染症対策、精神保健 | 感染症法、結核対策、予防接種、精神保健福祉法、自殺対策、外因死の現状 |
| 12 | 母子保健 | 母子保健に関係する統計資料の現状、母子保健の目的や活動 |
| 13 | 産業保健 | 労働災害、職業病、労働安全衛生、トータルヘルスプロモーションプラン（THP） |
| 14 | 学校保健 | 学校保健の目的や活動、児童生徒の健康、学校感染症 |
| 15 | 国際保健・地域保健 | 国際保健の意義、機関、活動・保健所と保健センターの役割・まとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：健康・栄養科学シリーズ　社会・環境と健康　改訂第５版　南江堂
参考図書：国民衛生の動向 2018/2019　厚生統計協会

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　シラバスを確認して教科書を読んでおくこと。分かることと分からないことを整理しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：　授業で理解したこと、理解できなかったことを整理する。毎回の復習小テストで半分正解を目標とする。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの返却時に正答及び解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験　９０％　小テスト１０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 社会や環境の変化が健康に与える影響について、幅広い知識を習得している。 |
| A | 社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を習得している。 |
| B | 社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識をやや習得している。 |
| C | 社会や環境の変化が健康に与える影響についての知識を最低限習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 栄養指導論１ [Nutrition Education 1] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 小河原 佳子 | | N-S2038 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 栄養の指導<br>PDCA サイクル<br>栄養指導計画 | 個人・集団・地域での栄養指導に必要な基本的役割を知り、指導の意義を明確にする。栄養の指導に必要な基礎知識を系統的に学ぶ。これを活用して、栄養マネジメントに必要なアセスメントの方法・分析、企画や指導方法、評価方法を身につける。 |

学習の到達目標

栄養の指導の目的と意義を学ぶとともに、栄養マネジメントを理解し、「栄養の指導」する能力を身に付けることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 栄養指導の概念 | 栄養士の仕事を理解し、栄養指導の目的・目標を学ぶ。望ましい"食生活"の考え方を学ぶ |
| 2 | 栄養指導の沿革 | 栄養指導の歴史・食生活を取りまく環境・食生活と栄養政策について学ぶ |
| 3 | 栄養指導の現状と展望 | 栄養政策の取り組みやこれからの食生活のあり方、問題、関連法規について学ぶ |
| 4 | 栄養教育のためのアセスメント① | 栄養アセスメントの意義・目的や種類（身体計測・臨床検査・臨床審査・食事調査）と方法を学ぶ |
| 5 | 栄養教育のためのアセスメント② | 食事摂取基準の総論について学ぶ |
| 6 | 栄養教育のためのアセスメント③ | 食事摂取基準と食事調査・分析方法・情報収集について学ぶ |
| 7 | 栄養指導計画① | 栄養マネジメントサイクル（PDCA）と栄養指導計画立案と目標設定を学ぶ |
| 8 | 栄養指導計画② | 栄養指導計画書の作成を学ぶ |
| 9 | 栄養教育と行動科学 | 栄養教育のための行動科学的アプローチの理論について学ぶ |
| 10 | 栄養指導の実施 | 栄養教育方法と学習形態の種類と選択を学ぶ |
| 11 | 栄養教育の教材、媒体 | 教材・媒体の活用の意義、種類などについて学ぶ |
| 12 | カウンセリングと栄養教育 | カウンセリングの基本と技法を用いた栄養教育について学ぶ |
| 13 | 栄養教育の評価（１） | 栄養教育の評価内容と意義、評価方法の種類を学ぶ |
| 14 | 栄養教育の評価（２） | 栄養教育評価の必要なスキル（測定・調査・記録など）について学ぶ |
| 15 | まとめ・振り返り | 栄養指導論のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：栄養教育論 光生館
参考図書：食事摂取基準 2015 年版、「七訂 食品成分表 2019」女子栄養大学出版部

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： 指定している教科書の該当箇所を事前に読んでおく。
事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業の始めに、前回の授業内容の振り返りの小テストを行うので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

振り返り小テストの解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 60%と、授業への積極的な参加態度や復習状況などで 40%として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 栄養指導の基礎知識を十分習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を十分に理解している。 |
| A | 栄養指導の基礎知識を習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法をよく理解している。 |
| B | 栄養指導の基礎知識をおおよそ習得し、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を理解している。 |
| C | 栄養指導の基礎知識、PDCA サイクル、アセスメントの方法や指導方法、評価方法を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 給食経営管理論　[Institutional Food Service Management] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 菊地 亨 | 実 | N-S2039 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 特定給食施設<br>給食関連法規<br>衛生管理・食中毒 | 特定給食施設等における給食運営に必要な基礎知識を学ぶ。 |

学習の到達目標

1. 給食管理の目的と方法、給食業務に関連する法規について説明できる。
2. 栄養管理の意義と具体的方法について説明できる。
3. HACCP システムと大量調理衛生管理マニュアルに基づいた、衛生管理・食中毒の防止方法について説明できる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 総論 | 給食の定義・目的、特定給食施設 |
| 2 | 経営管理 | 給食管理の意義、マーケティング |
| 3 | 栄養・食事管理 ① | 栄養・食事管理の意義と目的 |
| 4 | 栄養・食事管理 ② | 栄養・食事のアセスメント |
| 5 | 栄養・食事管理 ③ | 食事計画の実施・評価・改善 |
| 6 | 品質管理、会計・原価管理 | 給食品質の標準化・評価・改善、経営分析、原価計算の方法 |
| 7 | 食材料管理 | 食材料の発注計画、在庫管理、購入価格の分析 |
| 8 | 生産管理 | 生産計画（調理工程、作業工程） |
| 9 | 安全・衛生管理 ① | 衛生管理の意義と目的、HACCP システムの概念 |
| 10 | 安全・衛生管理 ② | 大量調理衛生管理マニュアル |
| 11 | 施設・設備管理 | 食中毒・感染症、危機管理対策 |
| 12 | 人事・事務管理 | 給食従事者の教育・評価、給食部門における事務処理 |
| 13 | 各種給食施設の特徴 ① | 医療施設 |
| 14 | 各種給食施設の特徴 ② | 高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障害者福祉施設 |
| 15 | 各種給食施設の特徴 ③ | 学校、事業所 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教 科 書：「エッセンシャル 給食経営管理論」 医歯薬出版
参考図書：「七訂 食品成分表 2019」 女子栄養大学出版　「給食施設のための献立作成マニュアル」 医歯薬出版

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書を用いて、授業範囲の予習を行うこと。
事後学習（週 1.5 時間）：教科書・参考図書・配布資料を用いて、授業範囲の復習を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストを行い、採点後、解答の解説を行う。適宜、オフィスアワーで対応する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 70%　小テスト及び提出物 30%　理由のない遅刻・欠席・早退は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。 |
| A | 学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。 |
| B | 学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。 |
| C | 学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 調理学 [Cookery Science] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 小板 由美子 | | N-S2040 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許、フードスペシャリスト |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食文化・美味論<br>調理操作<br>食品の調理性 | 食品から食物へ作り上げていく過程を中心に、食品の調理上での変化、調理と衛生、日本とその他の国の食文化、献立の立て方・考え方、調理操作方法（新調理機器を含む）、人間と嗜好（おいしさの科学）などを解説する。また、栄養士実力認定試験の対策等も行う。 |

**学習の到達目標**

調理の目的（衛生的に安全で、栄養効率を高め、嗜好性を向上させ、食文化を理解する）を前提に人間が食物を摂取する最終段階としての調理方法とその体系を理解することを目標とする。

| 回 | | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 調理学序論 | 調理学で扱う範囲。食の問題と調理が関わる内容、世界の食文化の概要（食の世界無形文化遺産など） |
| 2 | 食事設計・献立論 | 食事設計の考え方、献立・供食、食文化からみた食事（日常食・供応食）について考える |
| 3 | 美味論① | 食物のおいしさとその要因、食物側と人間側から見たおいしさの視点を理解する |
| 4 | 美味論② | おいしさの評価法：理化学的評価法（食品物性を中心）、官能評価法など |
| 5 | 調理システム① | 調理操作論：調理の意義、非加熱調理操作、加熱調理操作、調味操作 |
| 6 | 調理システム② | 調理システム（厨房設備、真空低温調理、クックチルシステムなど新しい調理機器を含む） |
| 7 | 調理システム③ | 調理機器、調理用計器、非加熱用器具、加熱用器具、食器、容器など |
| 8 | 食材の調理機能① | 調理機能論、植物性食品の調理機能（穀類/米・小麦他） |
| 9 | 食材の調理機能② | 植物性食品の調理機能（豆類、イモ類、野菜類、果実類など） |
| 10 | 食材の調理機能③ | 動物性食品の調理機能（畜肉類、魚介類、卵、乳類およびその加工品など） |
| 11 | 食材の調理機能④ | 抽出性食品の調理機能（でん粉、油脂、ゼラチン、寒天などのそれぞれの特性） |
| 12 | 食材の調理機能⑤ | 調味料・香辛料の調理機能、調味料の役割と種類など |
| 13 | 調理環境論① | 調理環境とは？調理行動からみた食生活の特徴、食情報、スローフードなど |
| 14 | 調理環境論② | 外食産業（内食・中食・外食）、エコクッキング、調理と衛生など |
| 15 | まとめ | 調理に関する現代の問題点・栄養士実力認定試験対策法など |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：時代とともに歩む新しい調理学 川端・永島他著 学建書院

参考図書：栄養士実力認定試験過去問題集 全栄施協編 建帛社

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：事前に指定したテキストのページ内容よりキーワード及び専門用語について調べた上で授業に臨む。

事後学習（週 1.5 時間）：当日の授業で解説した範囲で次回に小テストを行うので、専門用語及び項目についてノートにまとめておく。

**課題に対するフィードバックの方法**

授業内で実施する小テストを添削後返却。ポートフォリオとして再提出。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 80%　講義終了時に実施する小テスト 20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 調理学の内容をきわめて高いレベルで理解している。 |
| A | 調理学の内容をかなり高いレベルで理解している。 |
| B | 調理学の内容をほぼ理解している。 |
| C | 調理学の内容を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 生化学実験　[Experiments in Biochemistry] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実験<br>アクティブラーニング | 岡﨑 英規 | | N-S4041 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 酵素<br>消化<br>化学反応 | 体内で起こっている様々な現象を、実験上で再現し、からだの働きを理解する。<br>栄養素の消化や代謝に関する実験を身近な食品を用いて行う。 |

学習の到達目標

中和や分析など基礎的な実験を通じて、物事を科学的に捉える基礎を養う。
栄養管理に関係する栄養素と疾病やからだの関係について理解を深める。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | オリエンテーション | 生化学実験における諸注意、実験の基礎、濃度計算の基礎、<br>次回使用する試薬の濃度を測定 |
| 3・4 | 身近な食品のｐＨ測定 | 様々な食品のｐＨを測定し、ｐＨの意味を理解する |
| 5・6 | 酸と塩基 | 酸・塩基の意味、そして中和の意味を知ろう　～代表的な酸と塩基を使って中和反応～<br>スッパイ！！の秘密　～中和による果汁のクエン酸定量～ |
| 7・8 | 定量分析の基本 | 分光光度計を使って、量・反応関係を観察しよう　～分析実験の基礎を学ぶ～ |
| 9・10 | 酵素の実験- 1 | 温度依存性って何？　～温度とブドウ糖代謝に関わる酵素反応～ |
| 11・12 | 酵素の実験- 2 | ｐＨ依存性って何？　～ｐＨとブドウ糖代謝に関わる酵素反応～ |
| 13・14 | 酵素の実験- 3 | 補酵素って何？　～補酵素の有無とブドウ糖代謝に関わる酵素反応～ |
| 15・16 | たんぱく質の実験- 1 | 温泉卵の秘密　～たんぱく質の熱変性について～<br>ヨーグルトの秘密　～たんぱく質の等電点沈殿について～ |
| 17・18 | たんぱく質の実験- 2 | たんぱく質を食べるとどうなる？　～たんぱく質と消化酵素の働き～ |
| 19・20 | 糖質の実験- 1 | でんぷんを食べるとどうなる？①　～炭水化物の種類と消化～ |
| 21・22 | 糖質の実験- 2 | でんぷんを食べるとどうなる？②　～消化酵素の違いと消化～ |
| 23 | まとめ | 本実験の総まとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：生化学実験ノート　岡﨑、浅香、長島　著
参考図書：イラスト　栄養生化学実験　東京教学社

準備学習・事後学習

準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。
事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。

課題に対するフィードバックの方法

レポートを返却する。

成績評価の目安と方法

筆記試験　５０％　レポート提出状況　５０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 分析法の基礎知識を習得し、栄養素と身体の関係について積極的に取り組み理解している。 |
| A | 分析法の基礎知識を習得し、栄養素と身体の関係について理解している。 |
| B | 分析法の基礎知識や、栄養素と身体の関係について理解している。 |
| C | 分析法の基礎知識や、栄養素と身体の関係について最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 食品加工実習　[Food Processing Practice] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブラーニング | 木元　泰子 | | N-S5042 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 加工食品の製造原理<br>加工食品の保存方法<br>食品添加物 | 食品加工の基である食品素材の特徴を学び、日常利用されている加工食品について実習を通して具体的に加工の原理と方法を学ぶ。 |

学習の到達目標

食品における貯蔵および加工の目的を知り、加工食品の原材料、製造原理、工程、保存、包装技術また、食品の成分や物性の変化を学び、知識だけでなく栄養士として食生活に役立つ食品加工の理論と実際を体得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | オリエンテーション | 食品加工の概念及び実習のガイダンス |
| 3・4 | 農産物の加工①　穀類１ | ・うどん：小麦粉のグルテン形成について　食塩がうどんの生地に与える影響を学ぶ<br>・中華麺：かん水と小麦粉中の成分の反応　中華麺の性質を学ぶ |
| 5・6 | 農産物の加工②　穀類２ | ・パン：酵母の発酵作用を通して微生物の食品加工への有効利用を学ぶ |
| 7・8 | 農産物の加工③　穀類３ | ・饅頭：生物的・化学的膨化の違いを学ぶ |
| 9・10 | 農産物の加工④　野菜類<br>包装材料について | ・トマトケチャップ：野菜の加工目的について学ぶ<br>・瓶詰・真空包装：包装容器について学ぶ |
| 11・12 | 農産物の加工⑤　果実類 | ・ジャム・マーマレード：ペクチンのゲル化について　貯蔵効果について学ぶ |
| 13・14 | 農産物の加工⑥　豆類 | ・木綿豆腐・絹ごし豆腐：大豆たんぱく質と凝固剤の反応について学ぶ<br>・がんもどき：豆腐の加工品について学ぶ |
| 15・16 | 農産物の加工⑦　いも類 | ・こんにゃく：こんにゃく粉の成分であるグルコマンナンのゲル化について学ぶ |
| 17・18 | 水産物の加工　　魚類 | ・かまぼこ・さつま揚げ：魚肉練り製品の物性の変化を学ぶ |
| 19・20 | 畜産物の加工①　乳類 | ・ヨーグルト・チーズ：乳酸菌の作用と牛乳たんぱく質の変性について学ぶ |
| 21・22 | 畜産物の加工②　肉類 | ・ソーセージ　肉色素の変化や燻煙作用、ケーシングについて学ぶ |
| 23 | まとめの講義 | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：食品加工貯蔵学　東京化学同人　　参考図書：日本食品大事典　医歯薬出版株式会社、食品加工学実習テキスト　建帛社

準備学習・事後学習

準備学習：　実習で行う内容の加工食品について情報を収集しておくこと。
事後学習：　授業プリント、確認テストの内容を復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストを行い、採点後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 50%　確認テスト 30%　平常点 20%　理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食品加工学に関する基本的な知識を大変よく理解している |
| A | 食品加工学に関する基本的な知識をかなり理解している。 |
| B | 食品加工学に関する基本的な知識をおおよそ理解している。 |
| C | 食品加工学に関する基本的な知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ栄養学実習 [Practice in Sports Nutrition] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブラーニング | 長島 洋介 | | N-S5043 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 身体組成<br>アセスメント<br>身体活動 | ヒトの身体組成や生化学検査、血圧、体温、味覚などを栄養と結び付けて考察する。<br>身体活動によって変化するヒトの身体を体感的に学び、栄養士としてスポーツ選手への食事の提供や支援の方法を考える。欠席した場合には別の日に休んだ日の実験を行い、自分の実験結果に対するレポートを作成する。 |

**学習の到達目標**

身体活動や栄養状態を正しく評価できるようなり、栄養指導や栄養サポート方法への応用力を身につけることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 消費エネルギー測定 | 消費エネルギーの測定 履修に関する注意点と実習の概要説明 |
| 3・4 | ヒトのからだと栄養状態１ | ヒトの身体組成を評価方法について |
| 5・6 | ヒトのからだと栄養状態２ | 尿検査から対象者を評価方法について |
| 7・8 | ヒトのからだと栄養状態３ | 血液・唾液と栄養状態について |
| 9・10 | ヒトのからだと栄養状態４ | 食事歴法食事調査と栄養状態について |
| 11・12 | ヒトのからだと栄養状態５ | 生活習慣と栄養状態について |
| 13・14 | スポーツ選手への栄養教 | スポーツ栄養学を応用した栄養教育の基礎 具体的な支援方法 |
| 15・16 | 運動環境の評価 | ＷＢＧＴ 熱中症 水分補給の関連性 |
| 17・18 | 身体活動と生体変化１ | 安静時の呼吸数、血圧、体温、味覚について |
| 19・20 | 身体活動と生体変化２ | 身体活動後の呼吸数、血圧、体温、味覚について |
| 21・22 | 身体活動と生体の変化３ | 生体バイオマーカーを用いた運動前後における身体の変化の評価 |
| 23 | まとめ | 本実験の総まとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：なし（プリント配付） 参考図書：解剖生理学教科書、健康のスポーツ栄養学配付物

**準備学習・事後学習**

準備学習：参考図書を読んでおくこと。
事後学習：授業中の内容を復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

オフィスアワーで適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 40%、提出物 40%、平常点 20%として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ栄養の知識や技術を、十分に理解し応用力を身に付けている。 |
| A | スポーツ栄養の知識や技術を、よく身に付けている。 |
| B | スポーツ栄養の知識や技術を、身に付けている。 |
| C | スポーツ栄養の知識や技術の基礎を、身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 臨床栄養学実習　[Clinical Nutrition Practice] | 1 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・演習・実習<br>アクティブ・ラーニング | 島野　僚子　・　木元　泰子 | 実 | N-S5044 | | |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 臨床調理<br>実践力<br>疾患別献立作成 | 献立作成を通して、形態別・成分別の献立作成の基礎的知識・実際を学び、調理実習を通して、臨床調理と一般調理の違いを体得する。 |

学習の到達目標

治療の一環としての栄養療法の基本を習得し、各疾患に適した食事づくりができるよう既得の知識と実技を生かして、実践即戦力を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | オリエンテーション<br>治療食の献立作成とは<br>献立作成の基本復習<br>摂食嚥下障害食とは | 実習の目的　履修上の注意事項　など<br>献立作成のための基礎知識の復習<br>摂食嚥下障害食の現場での提供の実際 |
| 3・4 | 流動食・嚥下食の調理・供食実習 | 流動食調理実習　経管栄養剤,高栄養食品等の試飲、試食　増粘剤の使い方及び試飲　など |
| 5・6 | 一般治療食の献立作成 | 一般治療食（軟菜食）の献立作成 |
| 7・8 | 軟菜食調理・供食実習 | 軟菜食調理実習 |
| 9・10 | 糖尿病の献立作成<br>食品交換表の使い方<br>糖尿病食の調理・供食実習 | 食品交換表のしくみ、献立作成の実際<br>糖尿病の調理実習 |
| 11・12 | 食塩制限食の献立作成 | 食塩制限食の献立作成 |
| 13・14 | 食塩制限食の調理・供食実習 | 食塩制限食の調理実習 |
| 15・16 | 腎臓病の献立作成<br>食品交換表の使い方 | 食品交換表を用いた腎臓病の献立作成 |
| 17・18 | 腎臓病の調理・供食実習 | 腎臓病調理実習　特殊治療食品の試食 |
| 19・20 | 展開食の調理・供食実習 | 展開食とは、展開食の調理実習 |
| 21・22 | 臨床調理の現場での実際<br>（外部講師：現役栄養士） | 医療機関における栄養管理システムとその実際について<br>栄養士、管理栄養士の業務の実際を知る |
| 23 | まとめ | 全体の総括、確認テスト |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版）　糖尿病食事療法のための食品交換表　腎臓病食品交換表

準備学習・事後学習

準備学習：　シラバスで授業内容を確認し、教科書で予習をしておくこと。
事後学習：　授業プリントの内容を復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題にコメントを入れ、返却する。

成績評価の目安と方法

提出物（課題レポート）70%　平常点 30%　※理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 治療の一環としての栄養療法の基本を十分修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力を十分に持っている。 |
| A | 治療の一環としての栄養療法の基本を修得し、各疾患に適した食事づくりができる実践即戦力を持っている。 |
| B | 治療の一環としての栄養療法の基本を理解し、各疾患に適した食事づくりを身につけている。 |
| C | 治療の一環としての栄養療法の基本を理解し、各疾患に適した食事づくりの基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 食品学実験　[Experimental Food Science] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実験<br>アクティブラーニング | 茗荷 尚史 | | N-S4045 |

この授業に関係する資格

栄養士免許、フードスペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食品成分分析<br>食品成分表<br>商品開発 | 栄養士が現場で献立作成や栄養指導を行う際、常に食品成分表を参考し、使いこなさなければならない。しかし実際の食品成分表を見ると実に多くの数字が羅列されており、これを自在に活用するためにはそれらのデータが出された過程および方法を熟知しておく必要がある。そのため本授業では実験を通して食品成分分析法を学ぶとともに、自らデータを出す体験をする。 |

学習の到達目標

食品の一般成分分析に関する実験を通して、食品学実験の基本操作と基礎知識を習熟し、食品成分分析の技術を体得するとともに、食品成分表の理解を深める。さらにスポーツドリンクを題材にして、食商品開発の体験実験も行う。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1･2 | 食品学実験の概説 | 1.一般的諸注意　2.実験器具の種類と使用法　3.分析法 |
| 3･4 | 食品中の水分の定量　（その 1） | 1.概説　2.常圧加熱乾燥法　3.恒量の求め方 |
| 5･6 | 食品中の水分の定量　（その 2） | 1.試料の調製　2.採取　3.定量条件の検討 |
| 7･8 | 食品中の粗灰分の定量（その 1） | 1.概説　2.るつぼの恒量を求める　3.試料の調製　4.試料の灼熱 |
| 9･10 | 食品中の粗灰分の定量（その 2） | 1.恒量を求める　2.計算　3.小麦粉の種類、等級およびその鑑別 |
| 11･12 | 自家製スポーツドリンク作り | 1.概説　2.作製　3.甘味料・酸味料の官能評価 |
| 13･14 | 食品中の粗脂肪の定量（その 1） | 1.概説　2.ソックスレー抽出法　3.定量びんの恒量測定　4.脂肪の抽出 |
| 15･16 | 食品中の粗脂肪の定量（その 2） | 1.脂肪の恒量測定　2.計算 |
| 17･18 | 食品成分の分離　（その 1） | 1.小麦粉からのデンプンとグルテンの分離 |
| 19･20 | 食品成分の分離　（その 2） | 1.グリアジンの分離　2.グルテニンの分離 |
| 21･22 | タンパク定量 | 1.ローリー法　2.計算　3.総括 |
| 23 | 総まとめ | 1.まとめの講義　2.質問受付 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：食品学実験書(第 3 版)　藤田修三・山田和彦　編　医歯薬出版
　　食品の官能評価・鑑別演習(第 3 版)　(社)日本フードスペシャリスト協会　建帛社
＊単元ごとに詳細を板書する

準備学習・事後学習

準備および事後学習：各実験の意味をよく理解し、率先して操作に関わる積極性が求められる。なお本授業科目は、評価に占めるレポート点の比重が大きいため、レポート作成時によく復習するとともに、期限に遅れずにレポートを提出する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、レポートにコメントを入れて返却する。

成績評価の目安と方法

レポート 60%　平常点(取り組み姿勢、発言を含む) 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、よく理解している。 |
| A | 食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、理解している。 |
| B | 食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、基本的知識を理解している。 |
| C | 食品成分分析の手法および結果の解析法に関して、最低限の知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 応用食品学実験 (食品加工学実習を含む)<br>[Experimental Applied Food Science] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 実験<br>アクティブラーニング | 茗荷 尚史 | | N-S5046 | | |

この授業に関係する資格

フードスペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食品鑑別<br>食品加工<br>バイオ食品 | 食品学実験で習熟した実験の基本操作や基礎知識を発展させて、食品学や食品加工学に関する実験・実習を行う。内容は、細胞融合技術を用いた品種改良、バイオリアクター技術の応用、パンや人工イクラ作りの実習、DNA 鑑定、油脂や鶏卵の品質・鮮度鑑定等多岐にわたる。なお反応時間等を有効利用して、資格試験の過去問題を解くとともに必要な知識の解説およびまとめを行う。 |

学習の到達目標

食品学や食品加工学に関するより高度な実験・実習を行うことにより、応用力と考察力を養う。なお、本授業科目では、アルコール発酵や一塩基多型解析を題材にした長期の実験に取り組むことにより、試薬調製からデータ解析までの一連の流れを体験させ、能動的な実験姿勢も養いたい。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 応用食品学実験の概説 | 1.一般的諸注意 2.データ整理とレポート作成 3.実験計画の概説 |
| 3・4 | 酵素的褐変反応 | 1.反応機構 2.代表的な褐変基質 3.褐変阻止法 4.酵素極在性 |
| 5・6 | 食品の細胞組織学的実験 | 1.塩蔵・糖蔵・酢漬中の組織変化 2.プロトプラスト作製法・応用例の概説 3.ナスとアロエのプロトプラスト 4.細胞融合 5.観察 |
| 7・8 | 電子レンジを用いたパン作り ～調理パン編～ | 1.概説 2.パン生地の調製 3.一次発酵 4.二次発酵 5.焼成 |
| 9・10 | 電子レンジを用いたパン作り ～メロンパン編～ | 1.概説 2.パン生地の調製 3.一次発酵 4.二次発酵 5.焼成 |
| 11・12 | 鶏卵の鮮度判定 | 1.概説 2.ハウユニット、pH、卵黄係数、気室径、比重の測定 |
| 13・14 | 油脂の酸化 | 1.概説 2.過酸化物価の定量 |
| 15・16 | 簡易バイオリアクターシステムを用いたアルコール生産(その 1) | 1.概説 2.試薬調製 |
| 17・18 | 簡易バイオリアクターシステムを用いたアルコール生産(その 2) | 1.概説 2.固定化酵素の作製 3.人工イクラの作製 |
| 19・20 | 簡易バイオリアクターシステムを用いたアルコール生産(その 3) | 1.アルコール定量 2.アルコール飲料の種類と鑑別 |
| 21・22 | 一塩基多型解析 (その 1) | 1.概説 2.試薬調製 3.DNA 抽出 |
| 23・24 | 一塩基多型解析 (その 2) | 1.概説 2.DNA の定量 3.DNA の純度検定 4.計算 |
| 25・26 | 一塩基多型解析 (その 3) | 1.概説 2.PCR 法によるアルデヒドデヒドロゲナーゼ 2 遺伝子の増幅 |
| 27・28 | 一塩基多型解析 (その 4) | 1.概説 2.アガロースゲル電気泳動 3.判定 |
| 29・30 | まとめ | 一塩基多型解析の総括 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教 科 書：なし ＊単元ごとに詳細を板書し、プリントを配布する(但し 3,4 回目,11,12 回目,13,14 回目のみ参考図書①,②を使用)。
参考図書: ①食品学実験書(第 2 版) 藤田修三・山田和彦 編 医歯薬出版
②食品の官能評価・鑑別演習(第 3 版) (社)日本フードスペシャリスト協会 建帛社
③食品加工実習・実験書 吉田企世子 編 医歯薬出版

準備学習・事後学習

準備および事後学習：各実験の意味をよく理解し、率先して操作に関わる積極性が求められる。資格試験対策の内容を多く含むので、日頃から学習した内容をまとめる習慣をつけ、資格試験に合格できる実力を身につけるよう心掛けて欲しい。隔週で小テストを課す予定である。なお本授業科目は、評価に占めるレポート点の比重が大きいため、レポート作成時によく復習するとともに、期限に遅れずにレポートを提出することが絶対必要条件である。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、レポート添削、小テスト解説を行う。

成績評価の目安と方法

レポート 60% 平常点(小テスト、取り組み姿勢、発言を含む) 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における応用力と考察力が身に付いている。 |
| A | 食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における一応の応用力と考察力が身に付いている。 |
| B | 食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における基本的な力が身に付いている。 |
| C | 食品学および食品加工学の実験・実習を通して、その分野における最低限の力が身に付いている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 食品衛生学実験　[Experiments in Food Hygiene] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実験<br>アクティブラーニング | 岡﨑 英規 | | N-S4047 |

この授業に関係する資格

栄養士免許、フードスペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 細菌検査<br>鮮度判定<br>衛生指標 | 食品衛生学で学んだ内容について、実体験により知識を深める。<br>微生物に関する基礎的実験により、普段は見えない微生物がとても身近なものであること、どのような特徴があるのか体験する。 |

学習の到達目標

食品の細菌検査法、鮮度判定など品質管理の基礎的技術を修得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | オリエンテーション<br>手指の洗浄消毒効果 | 食品衛生学実験における諸注意<br>集団給食における手指の洗浄消毒効果の大切さを体得させる |
| 3・4 | 手指の洗浄消毒効果観察<br>様々な消毒方法 | 手指の洗浄消毒効果について観察をする<br>様々な消毒方法や滅菌方法について学習する |
| 5・6 | 細菌観察<br>腸炎ビブリオ検査 | グラム染色により細菌の形態に関する知識を高める<br>市販魚介類を用い、身近に腸炎ビブリオがいることを認識する |
| 7・8 | 生菌数の測定 | 市販食品を用いて、衛生指標である生菌数測定法を体得する |
| 9・10 | 生菌数測定の観察 | 市販食品にはある程度の生きた細菌や芽胞が存在することや衛生指標菌について学習する |
| 11・12 | 加熱温度と生菌数 | 50℃から 100℃まで加熱した時の生菌数の変化を観察する<br>加熱殺菌の意義と耐熱芽胞の存在について認識する |
| 13・14 | 大腸菌群の測定 | 食品の衛生指標である大腸菌群の測定方法を体得する |
| 15・16 | 糞便系大腸菌群検査<br>ブドウ球菌検査<br>空中落下細菌検査 | 大腸菌群の中には、糞便由来のものと環境由来のものが含まれることを理解する<br>各人のブドウ球菌汚染実態と検査方法を学ぶ<br>調理場などの環境衛生指標とされる大気中の細菌について認識する |
| 17・18 | 魚介類の鮮度判定 | 短時間で結果の出る鮮度判定の検査法（揮発性ちっ素測定）を体得する |
| 19・20 | 魚介類のヒスタミン検査 | アレルギー様食中毒の原因物質ヒスタミンの検査法を体得する |
| 21・22 | 飲料水検査 | 水道水の塩素濃度を測定し、安全性の確認方法を体得する |
| 23 | まとめ | 本実験の総まとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：食品衛生学実験ノート　岡﨑、浅香　著
参考図書：食品衛生検査指針　微生物編・理化学編　2015　日本食品衛生協会

準備学習・事後学習

準備学習：シラバスを確認してテキストをあらかじめ読んでおくこと。操作の流れを整理しておく。
事後学習：疑問に思った事を調べる。授業によって理解したこと理解できなかったことを整理し、レポートに記す。

課題に対するフィードバックの方法

レポートを返却する。

成績評価の目安と方法

筆記試験　５０％　レポート提出状況　５０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の様々な知識を積極的に取り組み習得している。 |
| A | 食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を積極的に取り組み習得している。 |
| B | 食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を習得している。 |
| C | 食品の鮮度判定や細菌検査法など、品質管理の知識を最低限習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 社会福祉概論　[Social Security Schemes] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 林　亜美 | | N-S2048 | | |

この授業に関係する資格

栄養士免許、社会福祉主事

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 社会保険<br>公的扶助<br>社会福祉 | 本授業では、日本の社会保障の基本的な制度である社会保険・公的扶助・社会福祉を講義およびグループワークを通して学ぶ。社会保障を学ぶことは、日常生活・ライフサイクルを取り巻く諸制度の理解を深めるだけではなく、多くの時事問題に触れるため、家族生活・職業生活の充実にも活かすことができる。 |

学習の到達目標

①日本における社会保障制度（社会保険、公的扶助、社会福祉）の意義を認識し、そのおおよその仕組みを理解する。
②自身のライフサイクルとの関連で各々の制度を捉え、多様な視点から社会保障制度の知識を応用できるようになる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 授業計画・概要、評価方法の確認、社会保障体系の概要などを確認する（教科書範囲：序章・8 章） |
| 2 | 介護保険（Ⅰ） | 介護保険制度の導入の背景や仕組みなど制度の概要について解説する（教科書範囲：3 章） |
| 3 | 介護保険（Ⅱ） | 介護労働者や在宅医療問題など、介護現場を取り巻く課題を映像を観ながら学ぶ（映像視聴） |
| 4 | 医療保険（Ⅰ） | 国民皆保険制度、公的医療保険の仕組みと現状を理解する（教科書範囲：1 章） |
| 5 | 医療保険（Ⅱ） | 医療保険未加入者が多数を占める米国の医療問題について映像を観ながら学ぶ（映像視聴） |
| 6 | 年金保険 | 公的年金の仕組みと現状を現在の高齢化問題と合わせて理解する（教科書範囲：4・7 章） |
| 7 | 労働保険（Ⅰ） | 雇用保険、労働者災害補償保険の仕組みと労働市場の現状について学ぶ（教科書範囲：5・6 章） |
| 8 | 労働保険（Ⅱ） | 労働問題の専門家の報告を聴講し、現代の労働市場の課題について知る（教科書範囲：5 章） |
| 9 | 公的扶助 | 公的扶助である生活保護制度の仕組みと貧困問題について解説する（教科書範囲：2 章） |
| 10 | 社会福祉 | 社会福祉の枠組み、障害者総合支援法における障害者福祉を紹介する（教科書範囲：2 章） |
| 11 | 子育て支援 | 子ども・子育て支援制度、同政策の社会的意義を少子化問題から解説する（教科書範囲：2 章） |
| 12 | ポスターセッション（Ⅰ） | グループワークでこれまでに学んだ各制度のポスターを作成することで、各制度を体系的に理解する |
| 13 | ポスターセッション（Ⅱ） | 各制度のポスターをグループごとに発表し、相互に報告しあうことで理解を深める |
| 14 | これからの生活保障 | 価値観の多様化・家族形成の変化・共働き社会・働き方改革と関連づけた社会保障像を学ぶ |
| 15 | 日本の社会保障まとめ | 日本の社会保障の仕組みや役割を振り返り、総括を行う |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障―福祉を学ぶひとへ 第 15 版』有斐閣アルマ、2018 年
参考図書：①駒村康平ほか『社会政策―福祉と労働の経済学』有斐閣、2015 年　②最新の『厚生労働白書』、『社会保障統計年報』

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　シラバスで指定した教科書の該当個所を事前に読んでくること。
事後学習（週 1.5 時間）：　各回で配布する授業の資料を再度熟読し、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

期末筆記試験 60%　毎授業のリアクションペーパー20%　グループ行動 20%
※講義および相互学習形式の授業である　授業中にスマホを利用する、他用を行う、授業やグループワークの進行に加わらない、などの態度は減点とする

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 社会保障・社会福祉にかんする時事問題を批判的に検討し、今後の展望および自分なりの案を考えることができる。 |
| A | 社会保障・社会福祉の中の一つの制度の仕組みの詳細を深く理解し、社会の変化に伴いその制度が直面している課題を検討できる。 |
| B | 年金保険、医療保険、介護保険、労働保険、生活保護、社会福祉それぞれのおおまかな基本的な仕組みを理解している。 |
| C | 日本の社会保障体系の全体像についての基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 栄養指導論２　[Nutrition Education 2] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 小河原　佳子 | | N-S3049 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ライフステージ<br>栄養特性<br>疾病の予防・治療 | 栄養指導論１を基に、ライフステージ・ライフスタイル別に、それぞれの特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を理解し、指導方法を学ぶ。また食環境や国際的動向についても学ぶ。 |

学習の到達目標

ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導のポイント等を知り、対象者を考慮した指導方法を身に付ける。様々な環境に対応できるような知識・技術を学び、実践できる応用力を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 災害時における栄養士の役割 | 災害時における栄養士の役割と栄養の指導について学ぶ |
| 2 | ライフステージ別栄養指導（１） | 妊娠・授乳期の特性に基づく栄養の指導についてと女性の権利について学ぶ |
| 3 | ライフステージ別栄養指導（２） | 乳児期（離乳の支援などを含む）の特性に基づく栄養の指導について学ぶ |
| 4 | ライフステージ別栄養指導（３） | 幼児期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ |
| 5 | ライフステージ別栄養指導（４） | 学童期の特性に基づく栄養の指導と学校に基づく食育の取り組みについて学ぶ |
| 6 | ライフステージ別栄養指導（５） | 思春期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ |
| 7 | ライフステージ別栄養指導（６） | 成人期・更年期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ |
| 8 | ライフステージ別栄養指導（７） | 高齢期の特性に基づく栄養の指導について学ぶ |
| 9 | 障がい者の栄養教育 | 障がい者などの特性に基づく栄養の指導について学ぶ |
| 10 | 食物アレルギーと栄養指導 | 食物アレルギーの概要と食物アレルギーの栄養の指導について学ぶ |
| 11 | 生活習慣病と栄養指導 | メタボリックシンドローム・生活習慣病の予防・治療と栄養の教育（特定保健指導も含む）について学ぶ |
| 12 | 運動・休養・睡眠と栄養指導 | 運動・休養・睡眠の指針と栄養の指導について学ぶ |
| 13 | 食環境づくりにおける栄養指導 | 食環境づくりにおける栄養教育（食物・情報へのアクセス面での栄養指導）を学ぶ |
| 14 | 国際栄養の理解 | 国際栄養施策、諸外国の取り組み（発展途上国、ハーレル、ベジタリアン、など）を学ぶ |
| 15 | まとめ・振り返り | 栄養指導のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：栄養教育論　岡崎光子編集　光生館
参考図書：新ビジュアル食品成分表 ・ 日本人の食事摂取基準　2015 年版

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおく。
事後学習（週 1.5 時間）：　毎回授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業の振り返りの小テストの解答を解説する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 60%、授業の積極的な参加と小テスト 40%として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点をよく理解し、対象者に適切な指導方法を十分に習得している。 |
| A | ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点を理解し、対象者への適切な指導方法を習得している。 |
| B | ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点や指導方法をよく理解している。 |
| C | ライフステージ・ライフスタイル別の特性、栄養上の問題点と対象者への指導を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 栄養指導論実習 [Practice in Nutrition Education ] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習・演習・アクティブ・ラーニング | 小河原 佳子 | | N-S5050 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | PDCA サイクル<br>栄養評価<br>栄養指導計画 | 「栄養指導論１・２」を基に PDCA サイクルに基づいた計画が立てられる。食生活実態や栄養状態等の情報収集し、栄養アセスメントから栄養評価まで行い、正しい食生活について検討する。ライフステージ別の対象者に対する指導計画作成方法、実施方法、教材作成の方法、およびそれらの評価方法などをについて学ぶ。 |

**学習の到達目標**

栄養指導を行なうために必要なアセスメントの方法と評価を理解し、実践できる。また、栄養アセスメントの結果から分析し、対象者の問題改善、行動変容を促す栄養指導計画を立て、指導し、指導評価が出来る。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 栄養アセスメント① | 栄養アセスメント方法を学ぶ。食事調査の評価方法（栄養計算ソフトを含む） を学ぶ |
| 3・4 | 栄養アセスメント② | 身体状況などのアセスメントを分析する |
| 5・6 | 消費エネルギー評価 | 生活活動記録の消費エネルギー量の評価・考察を行う |
| 7・8 | 食生活の改善・目標設定 | 栄養アセスメントより食生活の問題を把握し、改善点を考察し、目標を設定する |
| 9・10 | 指導案作成（１） | ライフステージ別対象者の特性把握と問題把握、目標の設定、カリキュラムを立案する |
| 11・12 | 指導案作成（２） | 栄養指導計画（６Ｗ１Ｈに基づき）の立案する |
| 13・14 | 媒体・教材づくり | 指導案に基づく教材・媒体作成計画の立案し、作成する |
| 15・16 | 献立作成 | 栄養指導案に沿った栄養補給計画（献立作成）をする |
| 17・18 | 栄養指導の実施（１） | グループ毎の栄養指導実施（ロールプレイング）とその評価をする① |
| 19・20 | 栄養補給の実施 | グループ毎の栄養指導案に沿った栄養補給計画（献立）の実習とその評価をする |
| 21・22 | 栄養指導の実施（２） | グループ毎の栄養指導実施（ロールプレイング）とその評価をする② |
| 23 | まとめ | 栄養アセスメントと指導計画・実施のまとめ |
| 試験等 | 課題レポート | |

**教科書及び参考図書**

教科書：栄養教育論実習・演習　岡崎光子編集　光生館　　栄養教育論　岡崎光子編集　光生館
参考図書：新ビジュアル食品成分表　・　日本人の食事摂取基準　２０１５年版

**準備学習・事後学習**

準備学習：　実習前に指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。実習に必要な情報を収集しておくこと。
事後学習：　実習後にグループでの進捗状況を把握しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

レポートは返却時にコメントを記入する。実技テストは実施後にコメントをする。

**成績評価の目安と方法**

レポートの提出状況と内容で 50%、ロールプレイング 20%、授業の積極的に参加する態度などで 30%として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 栄養アセスメントの方法とその評価を十分に理解し、実践的な指導計画を立て、指導が適切に出来る。栄養補給の計画が出来る。 |
| A | 栄養アセスメントの方法とその評価を十分に理解し、実践的な指導計画を立て、指導が適切に出来る。 |
| B | 栄養アセスメントの方法とその評価を理解し、実践的な指導計画を立て、指導が出来る。 |
| C | 栄養アセスメントの方法とその評価を理解し、指導計画立を立て、指導が出来る。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 給食経営実習　[Food Service Management Practical ] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習・実習<br>アクティブ・ラーニング | 菊地　亨 | 実 | N-S4051 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 献立作成<br>栄養計算<br>給食管理計画 | 栄養計画から給食提供までに必要となる業務、書類作成について網羅的に学ぶことで、給食提供に関する一連の流れを理解する。 |

学習の到達目標

1. 献立作成に必要な栄養価計算、廃棄率の計算等について理解し、実際の書類作成に応用できる。
2. 給食施設の衛生管理について理解した上で、大量調理の一連の作業計画を立案できる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 演習 | 給食管理の目的・栄養計画 |
| 3・4 | 演習 | 献立計画 |
| 5・6 | 演習 | 献立作成 ① |
| 7・8 | 演習 | 献立作成 ② |
| 9・10 | 演習 | 栄養計算ソフトの活用 |
| 11・12 | 演習 | 献立作成 ③ |
| 13・14 | 演習 | 献立作成 ④ |
| 15・16 | 実習 | 給食施設の衛生管理の実際、給食設備・機器の使用方法 ① |
| 17・18 | 実習 | 給食施設の衛生管理の実際、給食設備・機器の使用方法 ② |
| 19・20 | 演習 | 発注書・作業工程書の作成 |
| 21・22 | 実習 | 給食実習 ① |
| 23 | 実習 | 給食実習 ② |
| 試験等 | 課題提出 | |

教科書及び参考図書

教 科 書：「給食の運営管理実習テキスト」 第一出版
参考図書：「七訂 食品成分表 2019」 女子栄養大学出版　　「調理・献立作成の基礎」 化学同人

準備学習・事後学習

準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習時間外での検品・発注業務、各種書類作成が必要となる場合がある（栄養士担当学生のみ）。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を返却する。

成績評価の目安と方法

提出物 70%　平常点 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。 |
| A | 学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。 |
| B | 学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。 |
| C | 学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 給食管理実習 1　[Food Service Management Practical 1] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習・実習<br>アクティブ・ラーニング | 菊地　亨 | 実 | N-S4052 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 衛生管理<br>給食管理<br>集団給食 | 給食経営実習で学んだことを踏まえた上で、給食提供に関する一連の作業を繰り返し行い、給食管理業務に対する理解を深める。毎回、実習グループ・試作グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。 |

学習の到達目標

1. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、適切な献立、その他給食運営に必要な書類を作成できる。
2. 給食管理の要点を把握した上で、給食業務を実施できる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | オリエンテーション | 給食実習の事前準備・大掃除 |
| 3・4 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ① |
| 5・6 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ② |
| 7・8 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ③ |
| 9・10 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ④ |
| 11・12 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ⑤ |
| 13・14 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ⑥ |
| 15・16 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ⑦ |
| 17・18 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ⑧ |
| 19・20 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ⑨ |
| 21・22 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ⑩ |
| 23 | 演習・実習 | 給食実習・試作・書類作成 ⑪ |
| 試験等 | 課題提出 | |

教科書及び参考図書

教 科 書：「給食の運営管理実習テキスト」 第一出版
参考図書：「七訂 食品成分表 2019」 女子栄養大学出版部　　「調理・献立作成の基礎」 化学同人

準備学習・事後学習

準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習時間外での検品・発注業務、各種書類作成が必要となる場合がある（栄養士担当学生のみ）。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を返却する。

成績評価の目安と方法

提出物 70%　平常点 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。 |
| A | 学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。 |
| B | 学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。 |
| C | 学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。 |

2019　武蔵丘短期大学

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 給食管理実習 2　[Food Service Management Practical 2] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習・実習<br>アクティブ・ラーニング | 菊地　亨 | 実 | N-S5053 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 衛生管理<br>管理運営<br>集団給食 | 給食経営実習・給食管理実習 1 で学んだことを踏まえた上で、引き続き、給食提供に関する一連の業務を繰り返し行い、実践力の向上を目指す。栄養士業務のみならず、調理従事者への調理・衛生指導についても積極的に行ってもらう。毎回、実習グループ・試作グループ・演習グループに分かれ、それぞれの作業を実施する。 |

学習の到達目標

1. 授業で設定した給与計画やテーマに基づき、各種書類の作成・調理従事者への指導・衛生管理・事後評価を適切に行える。
2. 大量調理のレシピ・作業工程などの指示書の内容を把握し、給食業務を的確に実施できる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 演習・実習 | 書類作成 |
| 3・4 | 演習・実習 | 書類作成 |
| 5・6 | 演習・実習 | 書類作成・試作 |
| 7・8 | 演習・実習 | 書類作成・試作 |
| 9・10 | 演習・実習 | 書類作成・給食実習 ① |
| 11・12 | 演習・実習 | 書類作成・給食実習 ② |
| 13・14 | 演習・実習 | 書類作成・試作 |
| 15・16 | 演習・実習 | 書類作成・試作 |
| 17・18 | 演習・実習 | 書類作成・給食実習 ③ |
| 19・20 | 演習・実習 | 書類作成・給食実習 ④ |
| 21・22 | 演習・実習 | 書類作成 |
| 23 | 演習・実習 | 給食実習 ⑤ |
| 試験等 | 課題提出 | |

教科書及び参考図書

参考図書：「新ビジュアル食品成分表」 大修館書店　　「調理・献立作成の基礎」 化学同人

準備学習・事後学習

準備学習・事後学習：献立作成に利用できるレシピ等資料の収集。実習時間外での検品・発注業務、各種書類作成が必要となる場合がある（栄養士担当学生のみ）。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を返却する。

成績評価の目安と方法

提出物 70%　平常点 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。 |
| A | 学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。 |
| B | 学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。 |
| C | 学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 給食管理実習 3　[Food Service Management Practical 3] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 校外実習<br>アクティブ・ラーニング | 菊地 亨 ・ 小板 由美子 | 実 | N-S5054 |

この授業に関係する資格

栄養士免許

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 校外実習<br>栄養士<br>実践 | 学内で学んだ知識・技術を各自で整理の上、校外実習で実践・応用力を身につける。また、社会人としての勤労の精神・責任感・積極性・実践力の重要性を体得する。 |

学習の到達目標

校外実習は本学を離れ指定された施設において、所属の責任者から 1 週間(45 時間)指導を受け、栄養士として具備すべき知識や技術全般を習得させる事を目的としている。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1～2 | 校外実習報告会 | 1 年次に 2 年生による校外実習報告会への参加(2 回) |
| 3 | 校外実習セミナー | 現場の栄養士による特別講義(施設の概要、栄養士業務、心構え等) |
| 4 | 校外実習事前ガイダンス | 校外実習事前準備(書類作成) |
| 5 | 校外実習事前ガイダンス | 校外実習事前準備・心構え(ノート作成等) |
| 6～22 | 校外実習<br>(各実習施設) | (学習内容)<br>・給食の概要を知る<br>・業務の内容を知る<br>・現場作業・施設設備及び衛生管理の実際を知る<br>・栄養士の業務の概要を知る<br>・給食の運営・喫食者の意見を知る<br>・グループで課題を設定する<br>・実習日誌の記録<br>・感想及び反省<br>・レポートの作成 |
| 23 | 校外実習報告会 | 校外実習終了後、グループごとの研修発表 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：校外実習ノート、給食経営管理の教科書、配布プリント他

準備学習・事後学習

準備学習：今までに学んだ全ての科目をよく復習する事。各実習施設について、給食管理の教科書を中心に事前に学習し、実習課題を決定しておく事。校外実習前に実施するセミナーやガイダンス等で学んだ内容を再度確認する事。学外授業という認識を持ち、より十分な体調管理をを心掛けておく事。

事後学習：実習を振り返り、注意を受けた事等を反省し、今後栄養士として、どのような事が必要かまとめる。また報告会にて、様々な施設の体験を聞く事により、実施した実習先以外の理解を深める事が出来る。

課題に対するフィードバックの方法

校外実習ノートにコメントを入れ、返却する。

成績評価の目安と方法

校外実習実施評価 50%　研修発表 25%　提出物 25%　理由のない事前ガイダンス等の欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 実習生として、栄養士の業務に関心を持ち、業務全般に責任と自覚をもち、積極的に行動している。 |
| A | 実習生として、栄養士業務に責任と自覚をもち実習に臨んでいる。 |
| B | 実習生として、栄養士の知識を活かし実習に臨んでいる。 |
| C | 実習生として、栄養士の自覚をもち実習に臨んでいる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 調理学実習 1 [Food Preparation 1 ] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 小板 由美子 | | N-S4055 |

この授業に関係する資格

栄養士免許、フードスペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 基本調理<br>湿式・乾式加熱法<br>日本の供応食 | 日常の日本料理の献立を中心に前半は非加熱調理操作（切り方など）、加熱調理操作（ゆで方、煮方、焼き方など）の組み合わせを実習、後半は供応食としての日本料理を学習し、合わせて作業効率を高めるための作業動線を理解させる。 |

学習の到達目標

調理の基本操作、調理器具の使いこなし、最終的に料理として完成させる技術を習得し、時間通りに熟すことや基本的な日本料理が作れるような応用力を身に着けることを目標にする。

| 回 | | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1･2 | 調理学実習 1 総論 | 調理学実習の目的・調理と衛生（身支度含む）、ポートフォリオ作成の解説、味覚テストなど |
| 3･4 | 包丁法の理論・切り方 | 包丁の種類と用途、扱い方の実際、動植物食品から数種選び切り方の実習を行う |
| 5･6 | 調理材料の前処理法 | だしの種類と取り方の実際などを学習する。この回より、作業動線について学習していく |
| 7･8 | Unit Operation (1) | 湿式加熱法：煮方の種類、調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する |
| 9･10 | Unit Operation (2) | 湿式加熱法：炊き方の種類、調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する |
| 11･12 | Unit Operation (3) | 湿式加熱法：蒸し方の種類、調理器具の選び方、調味料の種類と使い方などを学習する |
| 13･14 | Unit Operation (4) | 乾式加熱法：焼き方の種類と利用法などを学習する |
| 15･16 | Unit Operation (5) | 乾式加熱法：揚げ方（炒め方含む）の種類と利用法などを学習する |
| 17･18 | Unit Operation (6) | 和え方・寄せ方の種類と利用法を学習する |
| 19･20 | Unit Operation (7) | マイクロ波加熱を利用しての調理法を学習する |
| 21～23 | 調理学実習 1 のまとめ | 実技試験 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理篇）川端・永島他共著　家政教育社
新しい調理学　川端・永島他共著　学建書院　　調理のためのベーシックデータ第 5 版　女子栄養大学出版部

準備学習・事後学習

準備学習：事前に配布する単元の授業内容を確認する。事後学習：授業後、レポートにまとめる作業を通じて内容を理解・確認する。
別記のテキストをもとに進めていくが、技術的な部分は自己研鑽をつむこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。

成績評価の目安と方法

単元ごとにレポートの提出、中間と学期末にポートフォリオを提出
評価：ポートフォリオ 50%　単元のレポート 30%　実技試験 10%　日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 基本調理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。 |
| A | 基本調理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。 |
| B | 基本調理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。 |
| C | 基本調理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 調理学実習 2 [Food Preparation 2] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 小板 由美子 | | N-S4056 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 栄養士免許、フードスペシャリスト |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 供応食<br>本膳料理<br>中国四大料理 | 前半は日本料理（供応食）についての理論と実習を行う。後半は世界三大様式別料理のうち、中国料理について正餐の献立構成に従っての理論と実習、また、学外において日本料理の理論を駆使した食卓作法を体験学習する。 |

**学習の到達目標**

前半は供応食としての供応食としての日本料理を学習し、合わせて作業効率を高めるための作業動線を理解させる。後半は中国料理の理論（献立論含む）と正しい調理技術の習得および食材の理解を目指し、応用献立に発展するように進める。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1･2 | 調理学実習 2 総論 | 供応食としての日本料理の種類と歴史について学習する |
| 3･4 | 供応食（1） | 本膳料理の理論と献立実習を通じて学習する |
| 5･6 | 供応食（2） | 茶懐石および会席料理の理論と献立実習を通じて学習する |
| 7･8 | 供応食（3） | 精進料理の理論と献立実習を通じて学習する |
| 9･10 | 供応食まとめ | 日本料理食卓作法（学外実習） |
| 11･12 | 供応食まとめ | 日本料理食卓作法（学外実習） |
| 13･14 | 中国料理総論中国料理① | 中国料理総論と湯菜の種類と実習を行う |
| 15･16 | 中国料理② | 炒菜・炸菜の理論と献立実習を行う　南方系の料理の特徴を解説 |
| 17･18 | 中国料理③ | 蒸菜の理論と献立実習を行う　東方系の料理の特徴を解説 |
| 19･20 | 中国料理④ | 前菜・煨菜の理論と献立実習を行う　西方系の料理の特徴を解説 |
| 21～23 | 中国料理⑤・まとめ | 点心・飲茶の理論と献立実習を行う　北方系の料理の特徴を解説　大量調理への応用献立の実践 |
| 試験等 | 課題提出 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：教科書：応用自在な調理の基礎（日本料理・中国料理篇）　川端・永島他著　家政教育社
新しい調理学　川端・永島他共著　学建書院　　調理のためのベーシックデータ第 5 版　女子栄養大学出版部

**準備学習・事後学習**

準備学習：事前に提示する授業内容の確認を行う。 事後学習：授業終了後に単元ごとにレポートとしてまとめ、内容を理解する。
テキストをもとに進めていくが、技術的な部分は自己研鑽をつみ、グループによるチームワークを築くことが望まれる。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。

**成績評価の目安と方法**

単元ごとにレポートの提出、中間と学期末にポートフォリオを提出
評価：ポートフォリオ 50%　単元のレポート 30%　実技試験 10%　日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 供応食・中国料理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。 |
| A | 供応食・中国料理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。 |
| B | 供応食・中国料理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。 |
| C | 供応食・中国料理の理論・実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 調理学実習 3 [Food Preparation 3] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習・実験<br>アクティブ・ラーニング | 小板 由美子 | | N-S5057 |

この授業に関係する資格

栄養士免許、フードスペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 西洋料理<br>行事食<br>食品物性・官能評価 | 前半では、食品の調理上での特性の把握や食品の鑑別法（食品物性・官能評価）の実験を通じて学習する。後半では、応用実践実習として、テーマごとに健康づくりのための調理実習をおこなう。また、行事食（クリスマス・おせち料理）や最終の実習として今日の日本の食生活スタイルである折衷料理へと展開する。 |

学習の到達目標

前半は西洋料理の理論と実習。後半は実習 1、2 で学習した食品の調理上での変化や新しい食品開発を踏まえた上での調理科学的な事象の探求。応用実践調理学実習とし、健康的な食生活の基盤となる調理法や動植物性食品の鑑別を行いながら知識を深めることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 調理学実習 3 西洋料理① | 西洋料理総論、フォンとソースの理論と献立実習を行う |
| 3・4 | 西洋料理② | 前菜・スープの理論と献立実習を行う |
| 5・6 | 西洋料理③ | 鶏卵・魚介類の理論と献立実習を行う |
| 7・8 | 西洋料理④ | 獣鳥肉料理・野菜サラダの理論と献立実習を行う |
| 9・10 | 西洋料理⑤ | アントルメとパティスリーの理論と献立実習を行う |
| 11・12 | 西洋料理⑥ | 行事食（クリスマス料理）の理論と献立実習を行う |
| 13・14 | 調理学実験① | 食品物性 |
| 15・16 | 調理学実験② | 官能評価 |
| 17・18 | 調理学実験③ | 動植物性食品の調理上での特性の理解 |
| 19・20 | 健康調理学実習① | 課題実習 |
| 21～23 | 健康調理学実習②・西洋料理まとめ | バイキング形式の理論と実際　テーブルマナー（学外実習） |
| 試験等 | ポートフォリオ | |

教科書及び参考図書

参考図書：応用自在な調理の基礎（西洋料理編）川端・永島他著　家政教育社、身近な調理の科学実験　長野・永島他著　地人書館
食品の官能評価・鑑別論　日本フードスペシャリスト協会編　建帛社　など教科書

準備学習・事後学習

準備学習：事前に提示する授業内容を確認する。 事後学習：授業後にレポートとしてまとめた上で、その内容を理解する。
前半は西洋料理についての理論と実習を行う。また、学外において西洋料理のテーブルマナーを行う。後半は調理学実験のテキストを使用。総仕上げになるので、調理工程作業、調理技術の最終確認をしてほしい。

課題に対するフィードバックの方法

課題としてのレポートを添削後返却。その後ポートフォリオとして再提出。

成績評価の目安と方法

単元ごとにレポートの提出、中間と学期末にポートフォリオを提出
評価：ポートフォリオ 50%　単元のレポート 30%　実技試験 10%　日常の実習態度（身支度、実習準備・片づけなど）10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 西洋料理・日本の行事食などの理論・実習内容を理解し、ポートフォリオの内容（まとめ方）がきわめてすぐれている。 |
| A | 西洋料理・日本の行事食などの理論・実習内容を理解し、ポートフォリオにすべての内容をまとめることができる。 |
| B | 西洋料理・日本の行事食などの理論・実習内容を理解し、ポートフォリオに大部分をまとめることができる。 |
| C | 西洋料理・日本の行事食などの理論・実習内容を理解し、ポートフォリオにほぼまとめることができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 分野別栄養実践実習　[Practice of Nutritional Field] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 茗荷尚史 ・ 岡﨑英規 ・ 小板由美子 ・ 長島洋介 ・ 菊地　亨 | | N-S5058 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 栄養士業務<br>就職<br>スキルアップ | これまでに学習した栄養士業務に関して、実習面での学び直しにより、実践力を養う。<br>就職先毎の実習を行い、様々な栄養士業務に対応する能力を高める。 |

学習の到達目標

栄養士としての専門性に関する意識を高め、就職に備えた技術を身につける。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ガイダンス・受講状の注意、スケジュール |
| 2<br>～<br>14 | 分野別に、各回の課題を実施・解決する。<br>調理技術：<br>献立作成：<br>アレルギー対応：<br>基礎実験： |
| 15 | まとめ・総括 |
| 試験等 | なし |

教科書及び参考図書

教科書：なし（適宜プリント配布）
参考図書：献立作成マニュアル、新ビジュアル食品成分表、日本人の食事摂取基準　2015 年版　他

準備学習・事後学習

準備学習：次回行う実習について、目的や作業について理解しておく。
事後学習：出来なかったことや、理解できなかったことについて会得する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を返却する。

成績評価の目安と方法

平常点８０％　提出物２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 積極的に実習へ参加し、十分に理解や技術を深め、実践的な能力を身に付けている。 |
| A | 積極的に実習へ参加し、理解や技術を深め、実践的な能力を身に付けている。 |
| B | 実習へ参加し、理解や技術を深め、実践的な能力をやや身に付けている。 |
| C | 実習へ参加し、理解や技術を深め、一定の能力を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | フードスペシャリスト論　[Theory of Food Specialist] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 茗荷　尚史 | | N-S2059 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| フードスペシャリスト |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食の専門職<br>世界と日本の食<br>食品産業と品質規格 | 食品(食べ物）に関する資格制度、フードスペシャリストとしての役割、人類と食物の歩み、世界の食と日本の食、現代日本の食生活、環境と食の問題、食品産業の種類と役割、様々な食に関する法律と食の品質の見方、および食情報のとらえ方や消費者の保護の制度などを述べる。 |

**学習の到達目標**

専門職であるフードスペシャリストとしての責務と活躍の場を認識させることを目標とする。現代の日本と世界を取り巻く食環境の中で、安全で豊かな食生活・食文化を推進する役目を担う立場や生産者（加工を含む）と消費者の間を取り持つ役割の魅力について学んでいく。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | フードスペシャリストとは | 1.食とは何か　2.専門職の成立　3.食の専門職の現状 |
| 2 | フードスペシャリストとは | 1.フードスペシャリストの概念・業務とその専門性、養成と資格、活躍の分野　2.食育活動 |
| 3 | 人類と食物 | 1.人類の歩みと食物の関係　2.食品の加工・保存技術の歴史 |
| 4 | 世界の食 | 1.食作法の文化　2.手食、箸食、ナイフ・フォーク・スプーン食　3.食の禁忌、世界の食事情 |
| 5 | 日本の食 | 1.日本食物の歴史　2.食の地域差、郷土食 |
| 6 | 現代日本の食生活① | 1.戦後の食生活の変化　2.食生活の現状と消費生活 |
| 7 | 現代日本の食生活② | 1.食生活の変化と食産業　2.食料の供給と自給率　3.環境と食、フードマイレージなど |
| 8 | 食品産業の役割① | 1.フードシステムと食品産業　2.食品製造業の目的と特徴・規模と動向 |
| 9 | 食品産業の役割② | 1.食品卸売業、食品小売業の種類と役割　2.外食産業の特徴・動向 |
| 10 | 食品品質規格と表示 | 1.食品の品質規格と表示にかかわる法律　2.JAS 法による規格と表示　3.食品衛生法による表示 |
| 11 | 食品品質規格と表示 | 1.健康増進法による表示　2.景品表示法　3.計量法、コーデックス規格など |
| 12 | 食品品質規格と表示 | 1.食品の品質規格の現状と問題点　2.消費者庁の業務など |
| 13 | 食情報と消費者保護 | 1.食情報の発信と受容（インターネット情報など）　2.食情報の濫用 |
| 14 | 食情報と消費者保護 | 1.食品の情報管理(トレーサビリティなど)　2.食品の安全　3.消費者保護の制度(国民生活センターなど) |
| 15 | まとめ・資格試験演習 | 1.フードスペシャリスト論のまとめ　2.フードスペシャリスト資格認定試験の科目と出題範囲・解説 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：フードスペシャリスト論（四訂・第４版）日本フードスペシャリスト協会編　建帛社

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：事前に提示するテキストの内容を熟読し、質問項目を考えてくる。
事後学習（週 1.5 時間）：授業後に内容をきちんとノートに整理する。特に食のキーワードや年号による法律の内容を理解する。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 70%　　平常点（小テスト、発言、態度を含む）　30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | フードスペシャリスト論の内容をきわめて高いレベルで理解している。 |
| A | フードスペシャリスト論の内容をかなり高いレベルで理解している。 |
| B | フードスペシャリスト論の内容をほぼ理解している。 |
| C | フードスペシャリスト論の内容を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 食料経済　[Food Economics] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 小川 真如 | | N-S3060 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| フードスペシャリスト |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食市場<br>食品流通<br>食生活 | 教科書よりも若干幅を広げ、日本の食料生産やマスコミなどで取り上げられているトピックスも紹介しながら講義をする。 |

**学習の到達目標**

食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識の修得を目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 食市場の変化１ | 高度経済成長期以降の食市場の変化について、社会背景を踏まえて解説する |
| 2 | 食市場の変化２ | 食市場に関連した食品消費および食生活の変化について解説する |
| 3 | 食品流通の概要１ | 食品の小売流通（店舗販売）の概要について解説する |
| 4 | 食品流通の概要２ | 食品の小売流通（店舗販売）の概要について解説する |
| 5 | 食品流通の概要２ | 食品の小売流通（無店舗販売）の概要について解説する |
| 6 | 食品流通の概要４ | 生鮮食品の卸売流通の概要について解説する |
| 7 | 食品流通の概要５ | 加工食品の卸売流通の概要について解説する |
| 8 | 外食産業のマーチャンダイジング | 外食産業のマーチャンダイジングについて解説する |
| 9 | 中食産業のマーチャンダイジング | 中食産業のマーチャンダイジングについて解説する |
| 10 | 主要食品の流通１ | 主要な生鮮食品等の流通について解説する |
| 11 | 主要食品の流通２ | 主要な加工食品の流通について解説する |
| 12 | フードマーケティング | フードマーケティングの基礎的な考え方について解説する |
| 13 | 食料消費の課題１ | 食に関連した環境問題について解説する |
| 14 | 食品消費の課題２ | 食に関連した安全確保等の問題について解説する |
| 15 | まとめ | 関連統計・資料の解説および授業の総括を実施する |
| 試験等 | レポート課題 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：日本フードスペシャリスト協会編 改訂版『三訂　食品の消費と流通』建帛社

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：　食品消費や食品流通に関する話題や情報を、新聞やネットニュース、テレビなどを通じて意識して収集する。
事後学習（週 1.5 時間）：　各回で行うディスカッションや確認問題の内容について、わからなかった内容を調べておく。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、各回講義にて確認問題を実施して解答を解説するほか、ディスカッションにて補足・解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

レポート課題　70%　ディスカッションへの参加状況　30%　として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を十分に理解している。 |
| A | 食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をよく理解している。 |
| B | 食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識を理解している。 |
| C | 食市場、食品流通、食生活に関連する基本的な知識をある程度は理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | フードコーディネート論　[Theory of Food Coordinate] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義（演習を含む）<br>アクティブ・ラーニング | 小河原　佳子 | | N-S3061 |

この授業に関係する資格

フードスペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アメニティ・ホスピタリティ<br>フードマネージメント<br>テーブルコーディネート | 最初にフードコーディネートの基礎理論、現代の食事文化と課題、メニュープランニング、テーブルウェアと食卓の演出、サービスなどを講述などした後、テーブルセッティティング、サービス法など実習してより実践に近い形で進めていく。さらにフードサービスマネージメントについて具体的な例を挙げながら演習形式で講述する。 |

学習の到達目標

食事を提供する時、単においしいものを出すだけでなく、食空間（環境）が充実し、サービスも最良で、人と人とが心豊かに食事ができきる要素も重要である。フードコーディネートのターゲットは食のアメニティの創造とホスピタリティを持つことであり、講義のほかに演習を組み合わせてこれらが実践できることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | フードコーディネート総論と基本理念 | フードコーディネートで総論の説明、アメニティ、ホスピタリティの概念を学ぶ　フードコーディネートのための 6W1H など |
| 2 | 食事の文化 | 世界（日本・諸外国）の食事文化の実際、現代日本の食事文化の創造と変容など |
| 3 | 食卓のコーディネート① | 食器・食具、食卓とテーブルウェア、テーブルセッティティングの基礎理念（一部演習も取り入れる）について学ぶ（日本料理と中国料理） |
| 4 | 食卓のコーディネート② | 食器・食具、食卓とテーブルウェア、テーブルセッティティングの基礎理念（一部演習も取り入れる）について学ぶ（西洋料理） |
| 5 | 食卓のサービスとマナー | 食卓のホスピタリティ、サービスとマナーの実際、食事マナーの伝承と現代的課題などを学ぶ（日本中国西洋料理） |
| 6 | メニュープランニング | メニュープランニングの基本を学ぶ（要件、配慮など）料理様式別の創造と変容など |
| 7 | 食空間のコーディネート | 食事空間およびキッチンのコーディネートや環境について学ぶ |
| 8 | フードサービスマネージメント | フードマネージメントの概念と事業の構想（計画立案、遂行、展開）を学ぶ |
| 9 | 食企画の実践コーディネート | 現場における食企画の基本的な流れと、企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて学ぶ |
| 10 | 資格認定試験対策講座 | 過去問を解説しながら章ごとの内容とキーワードを整理する |
| 11 | サービスマナー・その 1（実習） | システムサービスなどの実際、ワイン・スープなどのサービスの実際、コーディネートなど実習する |
| 12 | サービスマナー・その 2（実習） | テーブルセッティティングなどの実際　食事の提供側と喫食側の関係、西洋における果実などのカットサービスを実習する |
| 13 | フードコーディネートの企画①（演習） | 食企画の実際　ある団体からのブース出展の依頼について課題を設定し、その企画立案までの内容について演習を行う（企画書作成） |
| 14 | フードコーディネートの企画②（演習） | 食企画の実際　ある団体からのブース出展の依頼について課題を設定し、その企画立案までの内容について演習を行う（企画案提案書作成） |
| 15 | まとめ・総括 | フードスペシャリストとなってフードコーディネートをどう活用するか？和洋中テーブルマナー体験後の総括をする |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：三訂フードコーディネート論　日本フードスペシャリスト協会編　建帛社　　その他・プリントなど

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　指定した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：　キーワードなどをまとめておくこと。資格試験過去問題集の該当箇所を解いておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。授業の始めに前回の授業内容の確認プリントを解説する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 80%、授業などでの取り組み方など 20%として、総括的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | フードコーディネートの理論を大変良く理解し、フードコーディネートの企画・実践力を十分に身に付けている。 |
| A | フードコーディネートの理論を良く理解し、フードコーディネートの企画・実践力を十分に身に付けている。 |
| B | フードコーディネートの理論を理解し、フードコーディネートの企画・実践力を身に付けている。 |
| C | フードコーディネートの理論を理解し、フードコーディネートの実践力を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 卒業研究　[Graduation Study] | 4 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 実験・演習<br>アクティブ・ラーニング | 茗荷 尚史 | | N-S6062 | | |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食商品開発<br>食品機能<br>遺伝子解析 | 例年2～4名程度の研究チームを編成して、チームごとに一つのテーマについて通年で研究活動を行っている。毎週一チーム10分程度のディスカッションの時間と80分程度の研究活動の時間を設けている。ディスカッションの時間では、主に前の週に行なった実験の反省・まとめおよび次週の予定決めを行っている。研究活動の時間では実際に手を動かして研究を行っている。過去の年度では、重点テーマとして遺伝子組換え食品の解析、コーヒー由来の美白成分の研究、イチゴ萎黄病に対する微生物農薬の開発および易剥性和栗品種「ポロタン」の機能性、各種健康食材を利用した食品加工学的研究等について調査・研究を実施した。数年間稼働していないテーマも含めると現在18 種と多彩なテーマを提示可能である。学術的価値のあるテーマについては学生発案の新規テーマも取り上げる。なお年に少なくとも数回ほどは、研究室全体で動く活動(サンプリング、学生企画の学外実習等)も企画している。<br>なお若者の自由な発想を大切にする研究室なので、研究の方向性のみならず研究室の企画・運営に関しても積極的な提案を歓迎する。研究というものの性格上、規定時間通りには進行しないことがあるが、例年卒業の頃までには研究室が我が家のような感覚になってくれるようである。研究室の仲間が一生の友になる例もまま見受けられる。本研究室は10年連続で学生による学会発表を成し遂げた実績のある研究室である。 |

学習の到達目標

研究活動の中で様々な障壁に遭遇するが、その原因と結果の関係を科学的かつ論理的に洞察し、解決の糸口を見出していく力を養うことを最大の到達目標としたい。常に最新の情報を得る術についても学び、それに基づいた栄養指導が行える真に実力のある栄養士になるための素養を身につけてもらいたい。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1･2 | 導入教育 | 先行研究の解説、研究テーマの説明 |
| 3･4 | 研究テーマの決定 | 希望調査、提案受入れ、研究チーム編成 |
| 5･6 | 研究活動の開始 | 研究テーマについての理解熟知 |
| 7･8 | 研究活動 | 当面必要な技術についての説明 |
| 9･10 | 研究活動 | 技術的習熟 |
| 11･12 | 研究活動 | 習熟技術による実験 |
| 13･14 | 研究活動 | 新たに必要となる先行研究の洗い出し |
| 15･16 | 情報収集・整理法 | 文献検索の実習(図書館＆ネット)、学術論文の構成および整理法の講義 |
| 17･18 | 研究活動 | 次に必要となった技術の解説 |
| 19･20 | 研究活動 | 技術的習熟 |
| 21･22 | 研究活動 | 習熟技術による実験 |
| 23･24 | 研究活動 | 改良点の発見、再実験 |
| 25･26 | まとめ | データ整理 |
| 27･28 | まとめ | 卒業研究発表の準備 |
| 29･30 | 発表 | 卒業研究発表 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教 科 書：文献検索の際に収集した学術論文、図書（研究班ごとに異なる）
参考図書：グリネルの科学研究の進め方・あり方　Frederik Grinnell 著　Haklak Rockbill 訳　共立出版

準備学習・事後学習

準備および事後学習：本科目は常に毎回出たデータについて解析し、次の方針を決定し、さらなる施策を講じる科目で、計画書のようなものには書き表すことのできない流動性のある科目である。だからこそその過程の中に学ぶことが多い科目でもある。よって、テーマ毎に手順や進行度合は異なる場合もある。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックは、毎回のディスカッションを通じて行う。

成績評価の目安と方法

ディスカッションおよび研究活動に対する姿勢・貢献度 80%　研究発表の成果 20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 研究室活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。 |
| A | 研究室活動にかなり積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。 |
| B | 研究室活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。 |
| C | 研究室活動に最低限活動し、やや弱いが成果を上げている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 卒業研究　[Graduation Study] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実験・演習<br>アクティブ・ラーニング | 岡﨑 英規 | | N-S6062 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食品衛生<br>細菌検査<br>実態調査 | 身近な食品を用いて、社会的に注目されている食品衛生上の問題点を扱う。<br>これまでは、寄生虫汚染調査、着色料の使用実態調査、食肉の大腸菌やサルモネラ汚染調査、冷凍食品の生菌数、賞味期限を過ぎた牛乳の生菌数推移などについて調査・研究を行った。 |

**学習の到達目標**

卒業論文を完成させる。研究を通して人と人の調和や協調性・積極性などを養う。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 顔合わせ、過去の研究内容紹介、研究内容決定に向けて情報収集 |
| 2 | 研究内容に関する情報収集 |
| 3 | 個人で調べたいことや興味のある内容を発表し、実現可能か検討 |
| 4 | 研究テーマの決定、テーマごとにグループ分け |
| 5~14 | グループごとに活動（研究計画、資料調査、実験準備、実験など） |
| 15 | 進捗状況をグループごとに発表（研究室内中間発表会）、発表内容を学園祭で発表できるようにする |
| 16 | 進捗状況から、今後の活動計画を検討（追加実験・調査の実施、論文作成など） |
| 17~19 | グループごとに活動（追加実験・調査の実施、論文作成など） |
| 20・21 | 全グループによる卒業論文作成 |
| 22 | 卒業論文の印刷・製本 |
| 23~25 | 卒業研究発表準備（パワーポイントによる発表媒体作成） |
| 26 | 卒業研究発表会　発表練習 |
| 27 | 発表内容見直し、修正、練習 |
| 28 | 卒業研究発表会　発表最終練習 |
| 29・30 | 卒業研究発表会 |
| 試験等 | なし |

**教科書及び参考図書**

参考図書：食品衛生検査指針 2015、月刊食品衛生研究；日本食品衛生協会、食品衛生学雑誌；日本食品衛生学会　など

**準備学習・事後学習**

予習・復習は、調査・実験するために必要な知識の向上、結果などから疑問に思った事への考察を行う。
授業時間以外に活動することもある。特に細菌検査は連日となることもある。

**課題に対するフィードバックの方法**

作成した卒業論文を配布する。

**成績評価の目安と方法**

研究テーマに関する論文作成 50%　研究発表会 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 研究室活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。 |
| A | 研究室活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。 |
| B | 研究室活動に積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。 |
| C | 研究室活動に最低限活動し、やや弱いが成果を上げている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 卒業研究　[Graduation Study] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実験・実習・演習・アクティブ・ラーニング | 小河原 佳子 | | N-S6062 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 栄養の指導<br>食生活調査<br>媒体作成 | 地域の高齢者の健康増進・健康長寿のための栄養指導を行う。<br>ライフステージ別対象者の食生活の栄養指導案・媒体作成などを行う。 |

**学習の到達目標**

健康の維持・増進を目的としたライフスタイルの追求。特に地域社会との交流により、食生活を始めとする栄養の実態を知り、問題把握や対策・指導方法について検討し、実施できる能力を養う。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1<br>～<br>30 | 情報収集（1～6）<br>対象者のアセスメント（7～10）<br>計画（11～16）<br>実施（17～20）<br>評価（21～24）<br>フィードバック（25～26）<br>改善・見直し（27～29）<br>まとめ | テーマを考えるための情報収集　テーマを考える。（対象者の決定）<br>対象者のアセスメント・対象者の情報を収集する。<br><br>実態調査の計画・調査用紙の作成・指導媒体作成・フィールワークでの準備する。<br>計画の実施（フィールドワーク）<br>調査・指導結果の統計処理・分析する。<br>対象者への結果のフィードバック<br><br>調査・指導の改善・見直しする。<br><br>1 年間のまとめ・総括 |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：食事摂取基準 2015 年　食品成分表　など

**準備学習・事後学習**

必要な情報を事前に収集しておくこと。
授業で学んだことを振り返ってまとめておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

オフィスアワーで各自に対応する。

**成績評価の目安と方法**

授業に対する積極的な態度（40%）と研究テーマに対するレポート（40%）と卒業研究発表会などの結果（20%）から総合的に判断する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 調査の企画・運営・調査結果の分析がしっかりでき、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施できる能力がある。 |
| A | 調査の企画・運営・調査結果の分析ができ、調査を反映させた栄養指導計画立案及び実施できる能力がある。 |
| B | 調査の企画・運営・調査結果の分析や栄養指導計画立案及び実施できる能力がある |
| C | 調査の企画・運営・調査結果の分析や栄養指導計画立案及び実施が 6 割方できる能力がある。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 卒業研究　[Graduation Study] | 4 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 実習・演習<br>アクティブ・ラーニング | 小板 由美子 | | N-S6062 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食育<br>行事食<br>料理教室 | 著しい成長期にある中学生の食育について、継続的・実践的に指導を行う。食事では補えないエネルギーや栄養を補食として補うための食育の実践、調理方法、食選択等を通じ、食育計画を検討する。また、地域と密接な活動を通して調理法及び料理の工夫を学習する。 |

**学習の到達目標**

卒業研究の完成。調査・研究を通して栄養士としての見聞を広め、今後の食育に生かすことを目標とする。また、人との調和や協調性・積極性などを養う。

| 回 | | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 活動内容・活動実績の説明 |
| 2 | 食育指導 | 園児を対象にした献立作成及び食育 |
| 3~5 | 食育指導 | サポート用指導案作成 |
| 6~8 | 食育指導 | サポート用媒体作成 |
| 9~11 | 食育指導実践 1.2.3 | 園児を対象にした献立実習「おやつ実習」 |
| 12・13 | 健康料理教室献立作成 | 季節の会席弁当 |
| 14・15 | 健康料理教室献立実施 | 季節の会席弁当 |
| 16~18 | 健康料理教室献立実施 | 季節の会席弁当 |
| 19 | 献立作成 | 園児献立 |
| 20 | 献立実習 | 園児を対象にした献立実習 |
| 21~25 | 食育指導 | 園児を対象にした食育媒体作成・園児を対象にした行事食「クリスマスパーティー」の献立作成 |
| 26 | 食育指導 | 園児を対象にした食育媒体作成・園児を対象にした行事食「クリスマスパーティー」の献立作成 |
| 27 | 食育授業 | 保育園にて食育授業の実施 |
| 28 | 献立実習（行事食） | 園児を対象にした行事食「クリスマスパーティー」 |
| 29・30 | まとめ | 卒業研究発表会 |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：「小・中学生のスポーツ栄養ガイド」女子栄養大学出版部、「食に関する指導の手引き」文部科学省
その他適宜資料配布

**準備学習・事後学習**

準備学習：指導を実施するための指導案作成、媒体作成の研究を行い、模擬操作による調整をしておくこと。
事後学習：園児の特徴を踏まえた献立のふり返りを実施し、検討を行う。園児及び中学生への実践的な食育指導は非常に貴重な経験となる。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題としての献立及び媒体を添削後グループごとにディスカッションを実施。

**成績評価の目安と方法**

平常点 60%　研究テーマに対する課題・研究発表・学外活動 40%　　授業での活動を中心に総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 研究室活動にきわめて積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。 |
| A | 研究室活動に積極的に活動し、高いレベルで成果を上げている。 |
| B | 研究室活動にほぼ積極的に活動し、標準的なレベルで成果を上げている。 |
| C | 研究室活動に参加し、やや弱いが成果を上げている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 卒業研究　[Graduation Study] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 長島　洋介 | | N-S6062 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスリート<br>健康<br>評価 | 健康づくりやアスリート支援をテーマに、効果的な食事内容や食品について研究を行っていく。<br>また、実際にスポーツ選手に対して身体活動量を評価し、応用的な食事・食品の摂取についてのサポートを行う。 |

**学習の到達目標**

健康づくりから競技力向上まで幅広くスポーツ栄養に関する基礎知識・応用力を身につけること。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ガイダンス |
| 2~3 | スポーツ栄養学に関する研究の概要 |
| 4~5 | スポーツ栄養学に関する研究のキーワードと文献検索の方法 |
| 6~7 | 研究課題の設定と方法の検討 |
| 8 | スポーツ栄養学研究の被験者の選定 |
| 9 | 調査研究の方法 |
| 10~15 | スポーツ栄養学　調査・研究の準備 |
| | スポーツ栄養学　調査・研究の実践　　（時間外） |
| 16~20 | データ処理方法の学習、データ処理 |
| 21~24 | 統計解析方法の学習、統計処理 |
| 25~26 | レポート作成、文献収集 |
| 27 | 発表資料作成 |
| 28 | 発表練習、ディスカッション |
| 29・30 | 卒業研究発表会、まとめ |
| 試験等 | なし |

**教科書及び参考図書**

参考図書：「スポーツ栄養の科学的基礎」杏林書院、「アスリートのための栄養・食事ガイド」第一出版

**準備学習・事後学習**

準備学習：　参考図書を読んでおくこと。
事後学習：　授業中の内容を復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

オフィスアワーで適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

平常点 100%として評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 研究活動に積極的に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、十分に身に付けている。 |
| A | 研究活動に積極的に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、よく身に付けている。 |
| B | 研究活動に参加して、スポーツ栄養に関する知識やスキルを、身に付けている。 |
| C | 研究活動に参加して、スポーツ栄養に関する知識を、身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 卒業研究　[Graduation Study] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習・演習<br>アクティブ・ラーニング | 木元 泰子 | | N-S6062 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 栄養管理<br>食事療法<br>地域貢献 | 医療・福祉施設の栄養士に必要な食事療法の基礎的知識および実際を、実践を通して体感、検討する。<br>特に食事療法が重要となる疾患について、おいしく食べやすい食事を探求する。 |

**学習の到達目標**

基本的な調理技術を習得し、各種疾病に適応した食事提供を目指すとともに、栄養士に必要な実践力向上を図ることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 研究テーマの検討 |
| 2 -4 | 食事療法について | 各疾病の病態の食事療法の実際を文献、書籍を用い調べ、まとめる<br>食事療法に関する文献検索よび講読会 |
| 5･6 | 調理実習① | 一般治療食 |
| 7･8 | コンテスト応募準備 | 糖尿病レシピコンテスト　献立作成　食材発注 |
| 9-11 | 調理実習② | 糖尿病レシピコンテスト　試作 |
| 12-14 | コンテスト応募 | 応募資料　レシピ作成 |
| 15 | 前学期のまとめ | 前学期に実施した内容についてのまとめ |
| 16 | オリエンテーション | イベント企画・立案について検討 |
| 17･18 | イベント運営① | イベント運営の企画・準備 |
| 19-21 | イベント運営② | イベント運営の実施 |
| 22 | イベント運営③ | イベント運営の振り返り |
| 23･24 | データ処理① | 前学期のデータ処理 |
| 25･26 | データ処理② | 後学期のデータ処理 |
| 27･28 | 卒業研究発表会準備 | 卒業研究発表　資料作成 |
| 29･30 | まとめ | 卒業研究発表 |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

教科書：臨床栄養学実習書（医歯薬出版）　参考図書：関西電力病院のおいしい糖尿病レシピ（主婦の友社）

**準備学習・事後学習**

実施献立について、調理工程の手順の確認や試作をするなど予習をして臨むこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

オフィスアワーで適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

平常点　70%　課題・研究発表　30%　理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 研究室活動にきわめて積極的に活動し、食事療法の実践力を身につけ、さらに応用力を十分に身につけている。 |
| A | 研究室活動にかなり積極的に活動し、食事療法の基礎的な知識と実際をよく理解し、実践力を身につけている。 |
| B | 研究室活動にほぼ積極的に活動し、食事療法の基礎的な知識と実際を理解している。 |
| C | 研究室活動に最低限活動し、食事療法の基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 卒業研究　[Graduation Study] | 4 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 菊地　亨 | | N-S6062 | | |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 食品・調理科学<br>官能評価<br>食品加工 | 食品科学・調理科学分野での研究や調査、食品加工等を行なう。活動内容については学生とのディスカッションにより決定する。研究内容によって、調理のみならず、理化学分析（実験）、官能評価（人間の感覚を用いて製品の品質を判定する検査）、統計解析等の作業を行う可能性があることについて留意して頂きたい。テーマの例として挙げられるのは、「水の硬度と節の旨み成分の抽出濃度の関係」、「乾燥食品の水分活性と保存性」、「嚥下困難者向け食品のテクスチャー評価」、「食品加工副産物の有効利用」などである。 |

学習の到達目標

1．本学で学んだ調理学・食品学の知識・技術について、問題解決のために利用出来るようになる。
2．研究活動に必要な情報を自ら適切な手段で入手し、それらを活用出来るようになる（情報リテラシーの強化）。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ガイダンス |
| 2～5 | 研究内容に関する情報収集 |
| 6 | 研究テーマの決定 |
| 7~9 | 研究計画、資料調査 |
| 10 | 研究の方法 |
| 11~15 | 研究の準備 |
| 16~20 | 研究の実践 |
| 21~22 | データ処理 |
| 23~25 | レポート作成 |
| 26 | 発表資料作成（パワーポイント） |
| 27 | 研究室内での発表練習、打ち合わせ |
| 28 | 発表内容の修正 |
| 29・30 | 卒業研究発表会 |
| 試験等 | なし |

教科書及び参考図書

参考図書：「フローチャートによる 身近な調理の科学実験」 地人書館

準備学習・事後学習

授業時間外で活動することもある。食品学の分野について各々で復習しておくことが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を返却する。

成績評価の目安と方法

平常点 70%　研究発表 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学習の到達目標について、極めて高いレベルで達成していると判断できる。 |
| A | 学習の到達目標について、十分に達成していると判断できる。 |
| B | 学習の到達目標について、ある程度達成していると判断できる。 |
| C | 学習の到達目標について、最低限の範囲で達成していると判断できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 栄養基礎演習　[Basic Seminar for Nutritionists] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 茗荷 尚史 ・ 長島 洋介 ・ 菊地 亨 | 実 | N-S4063 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 基礎学力<br>初年次導入教育<br>栄養士教育 | 1、2 回目はガイダンスを行うが、3 回目以降は基本的に練習問題を解くこと等の作業を含む講義・演習を行う。各分野の講義終了後にはまとめおよび習熟度確認のための小テストを行って知識の定着を図っていく。 |

学習の到達目標

栄養士課程における専門教育は、小・中学校および高等学校における教育内容を基礎に展開される。すなわち確たる基礎が築かれていなければ、より高度な内容を理解することは困難であり、本授業　科目は基礎力を徹底的に補填することを目的とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス　その 1 | 講義を受ける心構え、ノート作成・定期試験対策勉強の実習 |
| 2 | ガイダンス　その 2 | 栄養士・管理栄養士の仕事(教科書 p.2~12) |
| 3 | 専門教育に必要な基礎　数学　その 1 | 四則演算(計算順序、括弧を含む式)、概算、小数(四則演算後の位取り)、分数の計算 |
| 4 | 専門教育に必要な基礎　数学　その 2 | 数値処理(切り上げ、切り捨て、四捨五入、有効数字、平均) |
| 5 | 専門教育に必要な基礎　数学　その 3 | 容積・重量の単位(k, d, m, μ, n)、比重、溶質と溶媒、指数、計算機の使い方(教科書 p.95) |
| 6 | 専門教育に必要な基礎　数学　その 4 | 割合・百分率の計算、ドリル |
| 7 | 小括 1 （含小テスト） | 数学分野のまとめ |
| 8 | 専門教育に必要な基礎　生物　その 1 | 細胞の構造、オルガネラの種類と機能 |
| 9 | 専門教育に必要な基礎　生物　その 2 | 消化器系および泌尿器系臓器とその機能(教科書 p.46~51) |
| 10 | 専門教育に必要な基礎　生物　その 3 | 代表的な消化酵素とホルモン(教科書 p.52~56) |
| 11 | 小括 2 （含小テスト） | 生物分野のまとめ |
| 12 | 専門教育に必要な基礎　化学　その 1 | 元素記号と周期律表、原子の構造(陽子、電子、中性子、オービタル)(参考図書 p.5~15) |
| 13 | 専門教育に必要な基礎　化学　その 2 | 化学結合(参考図書 p.16~25)、水素イオン濃度(pH)、簡単な官能基 |
| 14 | 専門教育に必要な基礎　化学　その 3 | 分子量とモルの概念、濃度(重量%、モル濃度、規定度)(参考図書 p.37~42) |
| 15 | 小括 3 （含小テスト） | 化学分野のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教 科 書：めざせ！栄養士・管理栄養士　まずはここからナビゲーション　小野 章史 編著　第一出版
参考図書：管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル　小野廣紀ら著　化学同人
　　基礎からのやさしい化学ーヒトの健康と栄養を学ぶためにー　田島 眞 編著　建帛社
＊その他単元ごとに教材となるプリントを配布する

準備学習・事後学習

準備および事後学習（週 1 時間）：基礎学力に不安を抱える学生は、自分のために開講される授業科目であると認識して、積極的に参加するよう心がけて欲しい。なお授業時間外学習については、小括 1、2、3 までに各回に学んだ内容を、復習を中心としてよく勉強しておくこと。小括毎に小テストを実施する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テスト解説、ドリル採点（完全解答まで）を行う。

成績評価の目安と方法

小テスト 60%　平常点 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、よく理解している。 |
| A | 栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、概ね理解している。 |
| B | 栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、一応理解している。 |
| C | 栄養士課程における専門科目への導入教育としての基礎知識を、最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 運動生理学実習 [Practice of Exercise Physiology] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 玉木 啓一 ・ 辻 将也 | | NSM-S4064 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| 教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者、スポーツ栄養士、共通科目Ⅰ Ⅱ Ⅲ、アスレティックトレーナー、介護予防運動スペシャリスト |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 生体機能測定<br>体力<br>筋出力 | 本科目は実習科目であり、学生諸君が互いに測定者・被測定者となり実習を進めていき、健康と運動について生理学との関連で学んでいく。実習毎にレポートの提出を予定している。<br>なお、本実習は、遅刻、服装などの準備をしていない学生は授業を受けることができない。 |

**学習の到達目標**

安静および運動中の生理学的変量を実際に測定することによって、運動生理学の知識を実際に確認することと、その測定方法を体得・理解することを本実習の目標としている。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 運動生理学測定の意義 | 運動生理学の分野の測定意義と、スポーツへの応用について解説する |
| 3・4 | 生体現象・機器 | ヒトにおける生体現象の特徴を解説し、それらを測定する機器等を説明する |
| 5・6 | 体力測定 | 文部科学省、新体力テストの測定方法を実習し、そのデータの解釈方法を学ぶ |
| 7・8 | 安静代謝 | ヒトのエネルギー消費量を、酸素摂取量を用いて測定する |
| 9・10 | まとめ１ | 体力テストの活用を学ぶ。安静代謝から健康について考える |
| 11・12 | 血圧 | 健康と血圧の関係を学習し、安静時の血圧の測定を実習する |
| 13・14 | 心電図 | 運動と心臓の働きを学習し、心臓の動きを捉える心電図の実習を行う |
| 15・16 | まとめ２ | 循環器と健康について学ぶ |
| 17・18 | 筋電図 | 運動が筋の働きによって起こることを筋電図の測定によって学習する |
| 19・20 | 筋パワー | 力とパワーの関係を知り、人体のパワー出力について学ぶ |
| 20・22 | まとめ３ | 筋の動き、力、パワーについてまとめ、スポーツへ応用するバイオメカニクスの理解を深める |
| 23・24 | 反応時間 | 反射運動、随意運動について学び、スポーツと反応時間について学ぶ |
| 25・26 | 心拍数 | 運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する |
| 27・28 | まとめ４ | 運動生理学と、健康、スポーツについて学習する |
| 29・30 | スポーツと情報 | スポーツのための情報収集、活用について考える |
| 試験等 | レポート | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：「身体運動の生理学」 猪飼道夫編 杏林書院、 「コーチと選手のためのスポーツ生理学」 フォックス 大修館書店
「栄養・スポーツ系の運動生理学」 樋口満 監修 南江堂 、 「スポーツ生理学」 青木・佐藤・村岡編著 市村出版

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 0.5 時間） ： シラバス、授業中の指示に従い、あらかじめ授業内容に関するイメージを持つこと。
事後学習（週 2.5 時間） ： 実習結果をまとめ、課題を作成すること。課題作成に当たっては、成書を調べること。

**課題に対するフィードバックの方法**

授業時間内に質問の時間を設けるので、その時間を活用すること。また、オフィスアワー等を中心に個別対応も準備している。

**成績評価の目安と方法**

レポート 90%　平常点 10%　理由のない欠席は減点とする

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 理解力、考察力ともに抜群であり、知識を活かして問題解決を行う能力がある。 |
| A | 運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解し、これを応用する力がある。 |
| B | 運動生理学の知識・各種測定方法を、よく理解している。 |
| C | 運動生理学の知識や各種測定方法を、理解・修得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ医学実習　[Practice of Sport Medicine] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・実習（集中授業）<br>アクティブ・ラーニング | 高橋 琴美 ・ 小泉 和史 ・ 板橋 明 | 実 | NSM-S5065 |

この授業に関係する資格

健康運動実践指導者、健康管理士一般指導員、スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、介護予防運動スペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 救急法<br>応急処置<br>コンディショニング | 「命」について真剣に考え、スポーツ現場における救急対策を中心に、次の内容について実習・講義を行う。<br>① 一次救命処置<br>② 外傷等に対する予防及び応急処置<br>スポーツ選手に対するコンディショニングとアンチ・ドーピング活動 |

学習の到達目標

事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 救急法とは | 救急法を学ぶ目的、一次救命処置について |
| 2 | 止血法 | きずの種類と止血法 |
| 3 | 包帯法 1 | 三角巾 1 枚を用いた包帯法 |
| 4 | 包帯法 2 | 三角巾 2 枚を用いた包帯法 |
| 5 | 固定法 1 | 三角巾を用いた固定法 |
| 6 | 固定法 2 | 副子を用いた固定法 |
| 7 | 搬送法 | 一人または複数名で搬送する方法 |
| 8 | 心肺蘇生法 1 | 心肺蘇生法の手順 |
| 9 | 心肺蘇生法 2 | 心肺蘇生法に伴う副損傷・同時処置について |
| 10 | 心肺蘇生法 3 | 乳児・幼児に対する心肺蘇生法、AED を用いた心肺蘇生法 |
| 11 | 応急処置 | 傷害発生時の応急処置、テーピング |
| 12 | コンディショニング 1 | スポーツ選手のコンディショニング、コンディションに影響する因子 |
| 13 | コンディショニング 2 | アイシング・ストレッチング |
| 14 | コンディショニング 3 | アンチ・ドーピング活動について |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 実技試験・レポート課題 | |

教科書及び参考図書

参考図書：赤十字救急法基礎講習教本、赤十字救急法講習教本（日本赤十字社）
公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅱ
また、プリント・資料を適宜配付する

準備学習・事後学習

準備学習：次回内容を参考図書等で予習しておくこと。
事後学習：実習した内容について、各自で繰り返し練習し、次回授業までに適切に行えるよう準備しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして毎時間実技小テストを実施し、学んだ技術が習得できているか確認しコメントする。

成績評価の目安と方法

実技試験 70%　平常点 20%　レポート 10%　理由のない遅刻・欠席は減点する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 正しい救急法の知識と技術を十分に身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。 |
| A | 正しい救急法の知識と技術を身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。 |
| B | 正しい救急法の知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。 |
| C | 正しい救急法の基礎知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ医学実習　[Practice of Sport Medicine] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・実習<br>アクティブ・ラーニング | 高橋 琴美 ・ 小泉 和史 ・ 板橋 明 | 実 | NSM-S5065 |

**この授業に関係する資格**

健康運動実践指導者、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、
スポーツクラブインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 救急法<br>応急処置<br>コンディショニング | 「命」について真剣に考え、スポーツ現場における救急対策を中心に、次の内容について実習・講義を行う。<br>① 一次救命処置<br>② 外傷等に対する予防及び応急処置<br>スポーツ選手に対するコンディショニングとアンチ・ドーピング活動 |

**学習の到達目標**

事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 救急法とは | 救急法を学ぶ目的、一次救命処置について |
| 3・4 | 止血法 | きずの種類と止血法 |
| 5・6 | 包帯法 1 | 三角巾 1 枚を用いた包帯法 |
| 7・8 | 包帯法 2 | 三角巾 2 枚を用いた包帯法 |
| 9・10 | 固定法 1 | 三角巾を用いた固定法 |
| 11・12 | 固定法 2 | 副子を用いた固定法 |
| 13・14 | 搬送法 | 一人または複数名で搬送する方法 |
| 15・16 | 心肺蘇生法 1 | 心肺蘇生法の手順 |
| 17・18 | 心肺蘇生法 2 | 心肺蘇生法に伴う副損傷・同時処置について |
| 19・20 | 心肺蘇生法 3 | 乳児・幼児に対する心肺蘇生法、AED を用いた心肺蘇生法 |
| 21・22 | 応急処置 | 傷害発生時の応急処置、テーピング |
| 23・24 | コンディショニング 1 | スポーツ選手のコンディショニング、コンディションに影響する因子 |
| 25・26 | コンディショニング 2 | アイシング・ストレッチング |
| 27・28 | コンディショニング 3 | アンチ・ドーピング活動について |
| 29・30 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 実技試験・レポート課題 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：赤十字救急法基礎講習教本、赤十字救急法講習教本（日本赤十字社）
公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅱ
また、プリント・資料を適宜配付する

**準備学習・事後学習**

準備学習：次回内容を参考図書等で予習しておくこと。
事後学習：実習した内容について、各自で繰り返し練習し、次回授業までに適切に行えるよう準備しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして毎時間実技小テストを実施し、学んだ技術が習得できているか確認しコメントする。

**成績評価の目安と方法**

実技試験 70%　平常点 20%　レポート 10%　理由のない遅刻・欠席は減点する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 正しい救急法の知識と技術を十分に身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。 |
| A | 正しい救急法の知識と技術を身につけ、傷病者に対して適切な手当ができる。 |
| B | 正しい救急法の知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。 |
| C | 正しい救急法の基礎知識と技術を身につけ、基本的な手当ができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 水泳 [Basic Swimming] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 ・ 高橋 季絵 | | NM-S4066 |

この授業に関係する資格

健康運動実践指導者

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 四泳法<br>水中運動<br>安全水泳指導法 | クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーの完泳をめざす。<br>水中運動指導の基礎技能を身につける。 |

学習の到達目標

健康づくり運動指導が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を高め、正しい泳法で泳ぐ技能を身につけるとともに安全な水泳指導法を身につける。健康づくりのための水中運動を理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 個人カード作成、能力判定表の作成 |
| 2 | プール清掃 | プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ |
| 3 | 試し泳ぎとクロール(1) | 試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳 |
| 4 | クロール(2) | チーム練習：ターン練習と 50m泳、100m泳、レポート作成 |
| 5 | 背泳ぎ(1) | チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳 |
| 6 | 背泳ぎ(2) | チーム練習：ターン練習と 50m泳、レポート作成 |
| 7 | 平泳ぎ(1) | チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった９動作で） |
| 8 | 平泳ぎ(2) | チーム練習：ターン練習と 50m泳、レポート作成 |
| 9 | バタフライ(1) | チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳 |
| 10 | バタフライ(2) | チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成 |
| 11 | 水中運動(1) | その場、歩いて、走って行う水中運動基礎プログラム |
| 12 | 水中運動(2) | 水中でのレジスタンストレーニング |
| 13 | 個別練習 | 10 分間泳、100m個人メドレー |
| 14 | 安全水泳(1) | 安全な水泳指導法講義と実技練習 |
| 15 | 安全水泳(2) | 子どもプール教室実習 |
| 試験等 | 実技試験、レポート | |

教科書及び参考図書

教科書（購入）：「基礎からの水泳（ＤＶＤ付き）」、柴田晴夫、ナツメ社

準備学習・事後学習

準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解しておくこと。
事後学習：毎時限の実技到達度を完成形として、次の練習に備える。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

成績評価の目安と方法

実技試験 70%　レポート・平常点 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ 10 分間に 400mを泳ぐ泳力がある。 |
| A | 100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ 10 分間に 375mを泳ぐ泳力がある。 |
| B | 100m個人メドレーが正しい泳法で泳げる。 |
| C | ４泳法が泳げる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ実習１　[Healthy Sports Training　Ⅰ] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブラーニング | 福島 邦男 ・ 辻 将也 ・ 江原 義智 | | NM-S4067 |

この授業に関係する資格

健康運動実践指導者、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 球技<br>レクリエーション<br>トレーニング | 体力測定（文部科学省）を行い、自分の体力レベルを知る。<br>【球技選択者】は、ゴルフとバドミントンを行う。<br>【レクリエーション選択者】は、ニュースポーツを中心に行う。<br>【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使用に慣れ、セットの組み方、指導法を身につける。 |

学習の到達目標

体力測定（文部科学省）を行い、現在の体力レベルを知る。【球技選択者】は、ゴルフとバドミントンを安全に行う知識を身につける。【レクリエーション選択者】は、ニュースポーツを安全に行う知識を身につける。【トレーニング選択者】は、トレーニング器具の使い方を覚え、安全なトレーニング方法を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 各種球技のトレーニング、ウォーミングアップ、クーリングダウンについて | | |
| 2 | 体力測定 | グラウンドで 50m走　立幅跳び　ハンドボール投げの測定 | | |
| 3 | 体力測定 | 体育館で反復横とび　上体起こし　握力　長座体前屈の測定 | | |
| 4 | 体力測定 | 体育館で 20mシャトルランの測定　体力測定を振り返り、自分の体力レベルを確認する | | |
| 5 | 球技選択者 | レクリエーション選択者 | トレーニング選択者（資格取得希望者） | |
| | ゴルフ　スタンス・グリップ | アイスブレーキング | 筋力マシーンの使い方 | |
| 6 | ゴルフ　アプローチショット１ | 仲間づくりゲーム | ストレッチング１ ストレッチングの意義と効果 | |
| 7 | ゴルフ　アプローチショット２ | グループでのレクリエーションゲーム | ストレッチング２ 効果的な実施方法と留意点 | |
| 8 | ゴルフ　ミドルアイアン | インディアカ１ ルールと基本の打ち方 | フリーウエイトの使い方 | |
| 9 | ゴルフ　ドライバー１ | インディアカ２ サービスとレシーブ | ダンベルの使い方 | |
| 10 | ゴルフ　ドライバー２ | インディアカ３ 試合形式の練習 | 自体重を用いたトレーニング | |
| 11 | バドミントン フォアハンドストローク | インディアカ４ グループ対抗のリーグ戦 | レジスタンストレーニングの回数、セット数の決定方法 | |
| 12 | バドミントン バックハンドストローク | フライングディスク１　基本の投げ方 | スーパーセット法を行う | |
| 13 | バドミントン ネット際の攻防 サーブ | フライングディスク２ ディスクの競技各種 | トライセット法を行う | |
| 14 | バドミントン スマッシュ | ドッジビー | ジャイアントセット法を行う | |
| 15 | 授業のまとめ | | | |
| 試験等 | なし | | | |

教科書及び参考図書

参考図書：ウイダー・トレーニング・バイブル（森永製菓健康事業部 出版）　その他必要に応じて資料を配布する

準備学習・事後学習

準備学習： 授業のキーワードとテーマに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておく。
事後学習： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

平常点７0%　課題・レポート３0%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、積極的かつ安全に実践することができる。 |
| A | 健康に対するスポーツの大切さを十分に理解し、安全に実践することができる。 |
| B | 健康に対するスポーツの大切さを理解し、安全に実践することができる。 |
| C | 健康に対するスポーツの大切さを理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ実習 2［Sport for health 2］ | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 辻 将也 ・ 江原 義智 | | NM-S5068 |

この授業に関係する資格

健康運動実践指導者

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ウォーキング&ジョギング<br>バドミントン<br>健康づくり | 自分の関心や能力にあった種目を選択し、基本技術を習得し、ルール、マナーを学習する。<br>ウォーキング&ジョギングは、ウォーキングやジョギングによる体力測定と評価、その結果を活かした運動プログラム作成を学ぶ。また、ウォーキングイベントに参加して、健康ウォーキングを実践する。 |

学習の到達目標

健康づくりのために必要な技能・知識を習得するとともに、自らが生涯スポーツの一つとして選択した種目を継続的に楽しめることができるようにする。
健康づくりのための正しいウォーキングやジョギングの方法を学び、実習を通して各自の能力に応じた運動プログラムを作成する。

| 回 | ウォーキング＆ジョギング（資格取得希望者） | | バドミントン |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業計画の作成 | ガイダンス |
| 2 | ウォーキング基礎知識 | 健康づくりとウォーキングの基礎知識を学ぶ | ラケットとシャトルに慣れる |
| 3 | ウォーキングテスト 1 | 自然に、やや速く、もっと速くの 3 段階のスピードでの 3 分間歩行テスト | ストロークの基本 |
| 4 | 運動メニュー作成 | ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践（大沼コース） | サービスの基本 |
| 5 | 運動メニュー作成 | ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践（市野川コース） | スマッシュの基本 |
| 6 | スリーデーマーチ 1 | ウォーキングイベント「スリーデーマーチ」の 10km 以上のコースを歩く | シングルスゲーム |
| 7 | スリーデーマーチ 2 | ウォーキングイベント「スリーデーマーチ」の 10km 以上のコースを歩く | シングルス①（リーグ戦） |
| 8 | 運動メニュー作成 | ウォーキングによる健康づくりプログラムの作成と実践（岩殿観音コース） | シングルス②（リーグ戦） |
| 9 | ノルディックウォーキング 1 | ノルディックウォーキングイベントを体験する | ダブルス基本練習 |
| 10 | ノルディックウォーキング 2 | ノルディックウォーキングイベントを体験する | ダブルス応用練習 |
| 11 | ノルディックウォーキング 3 | ノルディックウォーキングイベントを体験する | ダブルス①（リーグ戦） |
| 12 | ジョギング基礎知識 | 健康づくりとジョギングの基礎知識を学び、スロージョギングの実践 | 技能・体力テスト |
| 13 | スクエアステップエクササイズ 1 | スクエアステップエクササイズを体験する | ダブルス②（リーグ戦） |
| 14 | スクエアステップエクササイズ 2 | スクエアステップエクササイズを体験する | ダブルス③（団体戦） |
| 15 | まとめ | まとめ | まとめ |
| 試験等 | なし | | |

教科書及び参考図書

教科書：健康運動実践指導者養成テキスト

準備学習・事後学習

準備学習： 授業のキーワードとテーマに関する情報（テキスト、インターネット等）を入手し、実習に活かせるようにしておく。
事後学習： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

技能 50% 受講態度・意欲 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 自ら運動プログラムを作成し実践できるようになる。 |
| A | 運動プログラムを工夫し実践する。 |
| B | 運動プログラムに対する課題を見つけることができる。 |
| C | 運動プログラムを正しく行える。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 生涯スポーツ論　[Theory of life-long sports] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 福島 邦男 | SM-S2069 |

**この授業に関係する資格**

障がい者初級スポーツ指導者、スポーツクラブインストラクター、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ライフサイクル<br>発達課題<br>スポーツの機能 | エリクソンのライフサイクル論を参考に各ライフステージにおける発達課題達成のためにスポーツがどのような役割、機能を持っているか解説する。人生のそれぞれのライフステージにおいてスポーツが自己実現や健康維持、身体的発達とかかわっていることを紹介する。 |

**学習の到達目標**

生涯スポーツの基礎的知識を理解し、健康生活への応用力を身に付けることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要を理解する |
| 2 | ライフサイクル論 | エリクソンのライフサイクル論の概要を理解する |
| 3 | 乳児期とスポーツ | 乳児期における発達課題と運動について理解する |
| 4 | 幼児・児童とあそび | 幼児・児童の身体発達の特性について理解する |
| 5 | 幼児・児童とスポーツ | 幼児・児童の運動指導のポイントついて理解する |
| 6 | 幼児・児童のスポーツ指導 | 運動が苦手な幼児・児童の指導ついて理解する |
| 7 | 青年期とスポーツ | 青年期における発達課題とスポーツについて理解する |
| 8 | 成人前期とスポーツ | 成人前期における発達課題とスポーツについて理解する |
| 9 | 成人期とスポーツ | 成人期における発達課題とスポーツについて理解する |
| 10 | 高齢期とスポーツ | 高齢期における発達課題とスポーツについて理解する |
| 11 | 女性とスポーツ | 女性特有の社会的文化的特性とスポーツについて理解する |
| 12 | 障がい者とスポーツ | 障害者のスポーツのとらえ方や意義を理解する |
| 13 | 障がい者スポーツとは | 障害者がスポーツを安全に行う方法や安全管理について理解する |
| 14 | 生涯スポーツ行政 | 行政が生涯スポーツをどのように計画し実施しているか理解する |
| 15 | まとめ | この講義で取り上げた内容のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：「生涯スポーツの理論と実際」大修館書店
その他、必要に応じて資料を配付する

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：この授業のキーワードと毎回のテーマに関した情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：毎時間の資料と返却されたミニレポートは保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとしてミニレポートを回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

毎回のミニレポート 70%　筆記試験 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 生涯スポーツの理論を活かした、健康生活への応用力を充分身に付けている。 |
| A | 生涯スポーツの理論を良く理解している。 |
| B | 生涯スポーツの理論を理解している。 |
| C | 生涯スポーツの基礎的な知識を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ解剖学１　[Functional Anatomy 1] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S2070 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 解剖学<br>動作<br>傷害 | スポーツ健康・体力づくりの指導者として必要な最低限の知識である、スポーツ解剖学について基本を学ぶことによって、外傷・障害への理解やスポーツパフォーマンスに必要な動きの理解を深めることができる。 |

学習の到達目標

骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚える。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論 |
| 2 | 運動器の解剖と機能概論① | 体表の区分・全身の骨格と筋 |
| 3 | 運動器の解剖と機能概論② | 運動の表し方 |
| 4 | 運動器の解剖と機能概論③ | 運動器の構造と機能 |
| 5 | 運動器の解剖と機能概論④ | 関節の構造と機能 |
| 6 | 運動器の解剖と機能概論⑤ | 靭帯の構造と機能 |
| 7 | 運動器の解剖と機能概論⑥ | 筋・腱の構造と機能 |
| 8 | 運動器の解剖と機能概論⑦ | 骨格筋の神経支配 |
| 9 | 確認とまとめ | これまでの学習内容に関する確認とまとめ |
| 10 | 体幹の基礎解剖と運動① | 脊柱、頸椎の運動 |
| 11 | 体幹の基礎解剖と運動② | 胸椎と胸郭、腰椎、仙椎、骨盤の運動 |
| 12 | 上肢の基礎解剖と運動① | 上肢帯、肩関節の運動 |
| 13 | 上肢の基礎解剖と運動② | 肘関節、手関節の運動 |
| 14 | 下肢の基礎解剖と運動① | 股関節、膝関節の運動 |
| 15 | 下肢の基礎解剖と運動② | 膝関節、足関節・足部の関節 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　運動器の解剖と機能

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 ５０％　　課題提出 ３０％　　平常点 ２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を十分に理解している。 |
| A | 骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を理解している。 |
| B | 骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称および機能を覚えている。 |
| C | 骨・関節・筋肉についてそれぞれの名称を覚えている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ解剖学２　[Functional Anatomy 2] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S3071 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 解剖学<br>動作<br>外傷・障害 | スポーツ解剖学１の理解をさらに深めるために、全ての関節に関連する筋肉や靭帯についての総復習を行う。スポーツ外傷・障害との関連についての知識を学ぶ。 |

学習の到達目標

スポーツ解剖学１をベースに、関節や筋の機能についてさらに理解を深め、スポーツにおける障害や外傷についてその発生の原因などを考えられるようになる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論 |
| 2 | 機能概論① | 体表区分、運動の表し方 |
| 3 | 機能概論② | 運動器の構造と機能関節の構造と機能 |
| 4 | 機能概論③ | 腱・靭帯の機能と構造 |
| 5 | 機能概論④ | 骨格筋の構造と機能、神経支配 |
| 6 | 体幹の基礎解剖と外傷・障害① | 脊柱・頸椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 7 | 体幹の基礎解剖と外傷・障害② | 胸椎と胸郭・腰椎の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 8 | 体幹の基礎解剖と外傷・障害③ | 仙椎・骨盤の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 9 | 上肢の基礎解剖と外傷・障害① | 上肢帯・肩関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 10 | 上肢の基礎解剖と外傷・障害② | 肘関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 11 | 上肢の基礎解剖と外傷・障害③ | 手関節・手の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 12 | 下肢の基礎解剖と外傷・障害① | 股関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 13 | 下肢の基礎解剖と外傷・障害② | 膝関節の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 14 | 下肢の基礎解剖と外傷・障害③ | 足関節・足部の基礎解剖と発生するスポーツ外傷・障害 |
| 15 | 確認とまとめ | これまでの学習内容に関する確認とまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト２　運動器の解剖と機能

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 ５０％　　課題提出 ３０％　　平常点 ２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 関節や筋の機能について十分に理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。 |
| A | 関節や筋の機能について良く理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。 |
| B | 関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について、その発生の原因などを考えることができる。 |
| C | 関節や筋の機能について理解し、スポーツにおける外傷や障害について考えることができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | トレーナー測定評価実習<br>[Clinical Test of Physical Strength and Fitness] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S5072 | | |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>スペシャルテスト<br>評価 | 選手の姿勢、アライメント、筋力、バランス、柔軟性、身体蘇生、パワー、有酸素能力などの各種測定を通しその値から読み取られる選手の弱点や問題点および強みを知ることで次のトレーニングへのヒントを導き出すことが可能となる。 |

学習の到達目標

アスレティックトレーナーにとって必要とされる各種測定の技法を学び、測定者としての正確な技術とその値についての分析ができるようになる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本講座の学習内容・成績評価等に関する説明 |
| 2 | 概論 | 評価の目的と意義　測定項目について |
| 3 | 姿勢・身体アライメント① | 姿勢・静的アライメントについて学び→測定→分析・評価 |
| 4 | 姿勢・身体アライメント② | 姿勢・動的アライメントについて学び→測定→分析・評価 |
| 5 | スポーツ動作の観察と分析① | 歩行、走動作についてについて学び→測定→分析・評価 |
| 6 | スポーツ動作の観察と分析② | 跳躍動作、投動作についてについて学び→測定→分析・評価 |
| 7 | スポーツ動作の観察と分析③ | 方向転換動作、あたり動作、押し動作についてについて学び→測定→分析・評価 |
| 8 | 身体組成 | 身体組成、形態測定について学び→測定→分析・評価 |
| 9 | 関節弛緩性 | 関節弛緩性について学び→測定→分析・評価 |
| 10 | 関節可動域 | 関節可動域について学び→測定→分析・評価 |
| 11 | 筋タイトネス | 筋タイトネスについて学び→測定→分析・評価 |
| 12 | 徒手筋力 | 徒手筋力について学び→測定→分析・評価 |
| 13 | 筋パワー・筋持久力 | 筋パワー・筋持久力について学び→測定→分析・評価 |
| 14 | 全身持久力 | 全身持久力について学び→測定→分析・評価 |
| 15 | 確認とまとめ | これまでに学習した内容について確認とまとめ |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　検査・測定と評価

準備学習・事後学習

準備学習：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。

成績評価の目安と方法

実技試験　５０％　提出物　３０％　平常点　２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を十分に習得し、正確な技術での測定実施と値についての的確な分析ができる。 |
| A | アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、正確な技術での測定実施と値についての分析ができる。 |
| B | アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、測定実施と値についての分析ができる。 |
| C | アスレティックトレーナーにとって必要な各種測定の技法を習得し、測定実施ができ、値についての分析を試みることができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | アスレティックリハビリテーション論<br>[Principles of Exercise Rehabilitation] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義 | 小島 丈治 | 実 | S-S3073 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| アスレティックトレーナー |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 運動療法<br>評価法<br>傷害別・競技種目別特性 | 評価に基づいたアスレティックリハビリテーションプログラムの手順を学び、傷害特性や競技種目特性に応じたプログラミング方法を身につける。 |

**学習の到達目標**

アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学び、評価に基づいたプログラミングの手順を身につけ、対象者に合わせたメニューを作成できるようにする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 概要（1） | アスレティックリハビリテーションの意義 |
| 2 | 概要（2） | アスレティックリハビリテーションの手順およびリスク管理 |
| 3 | 運動療法（1） | 可動域回復・拡大エクササイズ |
| 4 | 運動療法（2） | 神経筋協調性回復・向上エクササイズ |
| 5 | 運動療法（3） | 外傷予防・再発予防のためのエクササイズの考え方 |
| 6 | 傷害評価 | 傷害評価の考え方 |
| 7 | 機能評価 | 機能評価の考え方 |
| 8 | 足関節疾患 | 足関節疾患に対する評価およびプログラミング方法 |
| 9 | 膝関節疾患（1） | 膝関節急性外傷に対する評価およびプログラミング方法 |
| 10 | 膝関節疾患（2） | 膝関節慢性外傷に対する評価およびプログラミング方法 |
| 11 | 肉離れ | 肉離れに対する評価およびプログラミング方法 |
| 12 | 腰部疾患 | 腰部疾患に対する評価およびプログラミング方法 |
| 13 | 肩関節疾患 | 肩関節疾患に対する評価およびプログラミング方法 |
| 14 | 競技種目特性 | 競技種目特性に応じたプログラミング方法 |
| 15 | まとめ | 本講義の総まとめ |
| 試験等 | 筆記試験、レポート提出 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト３　スポーツ外傷・障害の基礎知識
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト７　アスレティックリハビリテーション

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）： 事前に AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

レポートにコメントを入れて返却する。小テストの解答を解説する。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験 ５０％　レポート提出 ３０％　授業への取り組み ２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解している。 |
| A | アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解している。 |
| B | アスレティックリハビリテーションの基礎知識を理解している。 |
| C | アスレティックリハビリテーションの基礎知識を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | アスレティックリハビリテーション論実習<br>[Practice of Exercise Rehabilitation] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 小島 丈治 | 実 | S-S5074 | | |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 傷害別エクササイズ<br>競技種目別エクササイズ<br>指導方法 | 傷害ごとのリスク管理や競技種目特性に基づき、再発予防とパフォーマンス向上を目指したアスレティックリハビリテーションのプログラミング、および指導方法を学ぶ。 |

学習の到達目標

アスレティックリハビリテーションの基礎知識および指導方法を学び、対象者に適したプログラミングと、実際の指導を行えるようにする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | 概要 | アスレティックリハビリテーションの意義および手順 |
| 3・4 | 足関節疾患（1） | 足関節捻挫に対するジョギング開始前のアスレティックリハビリテーション |
| 5・6 | 足関節疾患（2） | 足関節捻挫に対するジョギング開始後のアスレティックリハビリテーション |
| 7・8 | 膝関節疾患（1） | 膝関節急性外傷に対するジョギング開始前のアスレティックリハビリテーション |
| 9・10 | 膝関節疾患（2） | 膝関節急性外傷に対するジョギング開始後のアスレティックリハビリテーション |
| 11・12 | 膝関節疾患（3） | 膝関節慢性外傷に対するアスレティックリハビリテーション |
| 13・14 | 大腿部疾患（1） | 肉離れに対するアスレティックリハビリテーション |
| 15・16 | 腰部疾患（1） | 腰部疾患に対する機能改善を目的としたアスレティックリハビリテーション |
| 17・18 | 腰部疾患（2） | 腰部疾患に対する動作改善を目的としたアスレティックリハビリテーション |
| 19・20 | 肩関節疾患（1） | 肩関節急性外傷に対するアスレティックリハビリテーション |
| 21・22 | 肩関節疾患（2） | 肩関節慢性外傷に対するジョギング開始前のアスレティックリハビリテーション |
| 23・24 | 競技別（1） | 各競技種目における体力要素およびスポーツ動作の考え方 |
| 25・26 | 競技別（2） | 各競技動作を踏まえたアスレティックリハビリテーション |
| 27・28 | 演習 | 傷害および競技種目に応じたプログラミングと指導方法 |
| 29・30 | まとめ | 本実習の総まとめ |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト７　アスレティックリハビリテーション

準備学習・事後学習

準備学習：　事前に、AT 教本のアスレティックリハビリテーションを読んでおくこと。
事後学習：　毎回授業の最初に前回の復習小テストを行うので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト、実技試験後に内容の解説を行う。

成績評価の目安と方法

実技試験　７０％　　授業への取り組み　３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックリハビリテーションの基礎知識を十分に理解し、選手に的確な指導をすることができる。 |
| A | アスレティックリハビリテーションの基礎知識をよく理解し、選手に指導することができる。 |
| B | アスレティックリハビリテーションの基礎知識と指導方法を理解している。 |
| C | アスレティックリハビリテーションの基礎知識と指導方法を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 衛生学及び公衆衛生学　[Hygiene and Public Health] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | 科目ナンバー |
|---|---|---|
| 講義 | 佐藤 亮輔 | SM-S2075 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）、NR・サプリメントアドバイザー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 公衆衛生<br>生活習慣病予防<br>保健衛生 | 衛生学および公衆衛生学の基礎を解説し、生活の中で「健康」をどのように考えたらよいのか、公衆衛生活動にはどのようなものがあるかを理解する。また、日本の保健衛生を世界各国と比較し、現在と将来の公衆衛生上の問題を認識させる。 |

学習の到達目標

衛生学及び公衆衛生学の知識を活かした、健康・栄養・スポーツへの応用力を身につけることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 社会と健康 | 健康の概念、公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史 |
| 2 | 環境と健康 1 | 生態系の中の人間生活、環境汚染と健康 |
| 3 | 環境と健康 2 | 環境汚染と健康、生活環境衛生 |
| 4 | 健康・疾病・行動に関わる統計資料 1 | 保健統計、人口静態統計 |
| 5 | 健康・疾病・行動に関わる統計資料 2 | 人口動態統計、生命表、傷病統計 |
| 6 | 健康状態・疾病の測定と評価 1 | 疫学の概念、疫学の指標・概要 |
| 7 | 健康状態・疾病の測定と評価 2 | 疫学の方法・概要、スクリーニング |
| 8 | 生活習慣の現状と対策 1 | 健康に関連する行動と社会、身体活動と運動 |
| 9 | 生活習慣の現状と対策 2 | 喫煙行動、飲酒行動、睡眠・休養・ストレス、歯科保健行動 |
| 10 | 主要疾患の疫学と予防対策 | がん、循環器疾患、代謝疾患、骨・関節疾患、感染症、精神疾患、その他の疾患 |
| 11 | 福祉・介護の制度 1 | 社会保障の概念、社会福祉制度 |
| 12 | 福祉・介護の制度 2 | 社会福祉制度、高齢者保護・介護 |
| 13 | 保健・医療の制度 1 | 母子保健、精神保健、地域保健 |
| 14 | 保健・医療の制度 2 | 産業保健、学校保健、国際保健、医療制度 |
| 15 | まとめ | 衛生学、公衆衛生活動のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：21 世紀の予防医学・公衆衛生
参考図書：シンプル衛生公衆衛生学　国民衛生の動向　厚生統計協会　※授業中にプリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：授業終了時に指定した教科書の復習と問題を解いておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

筆記試験　９０％　平常点及び提出物など　１０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 衛生学及び公衆衛生学の知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分に身につけている。 |
| A | 衛生学及び公衆衛生学の知識を活かした、健康・スポーツへ活かすことができる。 |
| B | 衛生学及び公衆衛生学の知識を理解している。 |
| C | 衛生学及び公衆衛生学の基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 玉木 啓一 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | 科学的思考 | 競技力向上にスポーツ科学をどのように応用できるか？効率的に健康を維持増進するにはどうすればよいか？など、学生自らテーマを設定し、それらの疑問を解決することを目指し演習を進めていく。<br>学園祭の時期を目処として各自のテーマを中間発表としてまとめ、通年で各自のテーマをまとめる。 |
| 2 | ダイエット | |
| 3 | 競技力向上 | |

学習の到達目標

スポーツ科学（主にスポーツ生理学、バイオメカニクス）の手法を用いて、スポーツの現場にこれらの学問をどのように役立てることができるかを実践的に学習する。各自の研究テーマ（スポーツ技能の向上、ダイエットの成功 など）で成果を出すことが本科目の目標である。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 演習概略 | 過去の本演習でのテーマを紹介しながら、本演習の進め方を説明する |
| 2 | 科学的思考 | 事実の把握と、その奥にあるものについて考える力を養う |
| 3 | スポーツと健康 | 本演習で主に応用する、スポーツ生理学からスポーツと健康について考える |
| 4 | スポーツ科学とダイエット | 科学的な観点からダイエットを考える |
| 5 | スポーツ科学と競技力 | スポーツ科学と競技力向上について学ぶ |
| 6 | 研究テーマの模索 | 各自の研究テーマについて考える |
| 7 | テーマを決めるということ | 研究テーマ決定のために必要なことを学ぶ |
| 8 | 研究テーマの決定 | 研究テーマの決定と研究方針の決定 |
| 9 | 研究方法の検討 | 研究テーマを調べるための方法・手法を調べ、どれが適切かを検討し決定する |
| 10 | 研究手法の修得 | 研究実践のための手法を修得し実践力を身につける |
| 11~14 | 情報・データの収集 | 研究を実践し、情報やデータを収集し、実験・測定などを行う |
| 15 | 前学期 まとめ | 研究の進捗状況を検証し、夏季休業中の計画を立てる |
| 16 | 研究計画検討 | 夏季休業中の状況を検討し今後の研究計画を確認する |
| 17~20 | 中間発表への準備 | 運動強度の指標としての心拍数を理解し、測定・実習する |
| 21 | 中間まとめ | 中間発表をふりかえり、研究計画を検討する |
| 22-23 | 研究の改善 | 実践してきた研究について課題があれば課題解決の方法を検討し実践していく<br>研究の幅を広げるために、関連分野の知識・理解力・応用力を養う |
| 24~25 | 研究のまとめ方 | 科学的思考に基づき、客観的な事実に基づいた正確な考察について学ぶ |
| 26~28 | レポート作成 | 作成途中のレポートの改善のための指導を毎時間実施する |
| 29 | レポート提出 | 提出されたレポートへの指導を行う |
| 30 | 研究発表 | 発表を行い、各自が行ってきた研究を他者からの評価を受け、さらに考察を深める |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：特になし　参考図書：アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 佐藤望編著 慶應義塾大学出版会

準備学習・事後学習

準備学習： 各自の研究課題、研究方法に関する情報を収集しまとめる。
事後学習： 授業で検討した事項を復習し、理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の討論が主となるが、実験・測定の現場でも様々なフィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

平常点 30%　学園祭ポスター発表、課題 40% 発表 30%
平常点：授業への参加意欲・活動状況を評価する（授業時間以外での測定、調査研究等も加点）

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を、応用力を備えて達成できる。 |
| A | スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上を、達成できる。 |
| B | スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に取り組むことができる。 |
| C | スポーツ科学（主にスポーツ生理学）の知識を活かした健康づくり、競技力向上に向けた基礎が備わっている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 杉山 仁志 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | バレーボール<br>戦術<br>スカウティング | バレーボールの戦術・スカンティング・練習方法等、色々な側面から捉え研究課題を見つける。<br>課題を実施及びレポート作成を行う。 |

学習の到達目標

あらゆるスポーツ競技の中で、バレーボールに限定し、探求する。
各自が研究課題となる事柄を考え、まとめる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1～3 | 用語 | 前学期 研究課題 ○バレーボールの研究<br>書籍（Ｖｏｌｌｅｙｐｅｄａｉ）を利用し、バレーボールの用語を正しく理解する |
| 4～7 | 技術・指導理論 | 書籍（バレーボール指導教本・コーチングバレーボール基礎編）を利用し、指導技術や指導理論を学ぶ |
| 8～11 | 戦術理解 | 実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームの戦術を検討する |
| 12～15 | スカウティング | 実際のゲーム（大学リーグ戦中心）を鑑賞し、様々なチームに対しスカウティングを行う |
| 16～18 | 研究１ | 後学期 研究の実施 ○研究の実施<br>前学期に学んだ内容を考慮し、研究テーマを検討する |
| 19～21 | 研究２ | 研究テーマを発表し、研究グループをつくる |
| 22～25 | 研究３ | 各グループでの研究内容に沿って課題に取り組む |
| 26～30 | 研究４ | 研究課題をまとめる |
| 試験等 | レポート及び発表 | |

教科書及び参考図書

参考図書：バレーボール指導教本（財）バレーボール協会編 大修館
コーチングバレーボール基礎編 日本バレーボール協会（編集）日本バレーボール学会（編集）大修館

準備学習・事後学習

準備学習：課題を取り組むにあたって必要な資料を探し、熟読しておくこと。
事後学習：自らの課題で分からなかった事を調べておく。

課題に対するフィードバックの方法

課題をまとめ発表し、問題点を探求する。

成績評価の目安と方法

平常点 100% （研究テーマへの取組等）

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | バレーボールの研究を自分のテーマに沿って十分に行い成果を発表できる。 |
| A | バレーボールの研究を自分のテーマに沿って行い成果を発表できる。 |
| B | バレーボールの研究を自分のテーマに沿って成果を発表できる。 |
| C | バレーボールの研究を自分のテーマに沿って行える。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習　[Seminar in Health and Sports Science] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 高橋　琴美 | | S-S6076 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 指導法<br>指導実践<br>ハンドボール | スポーツ指導に関する興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、より効果的な練習法や指導法などを調べ、検討する。また「武蔵丘ハンドボールクリニック」に補助員として参加し、指導実践を行う。 |

**学習の到達目標**

各自が興味・関心のあるテーマについて積極的に調べ、実践・実習を通して、練習法・指導法を学習する。
対象者が異なる講習会のサポートすることで、指導現場での実践力を身につけることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業展開、評価についての説明、演習においての注意点 |
| 2～9 | 調査 | 各自が興味・関心のあるテーマについて積極的に調べる |
| 10 | 指導実習 | 「武蔵丘ハンドボールクリニック」に指導補助員として参加し、指導法を学ぶ |
| 11～15 | 指導法 | 各自が興味・関心のあるテーマについて調べ、その練習方法・指導方法について発表する |
| 16～23 | 指導実践 | 各自が調べた内容をもとに練習計画を立て、練習方法・指導方法を実践する |
| 24 | 指導実習 | 「武蔵丘ハンドボールクリニック」に指導補助員として参加し、指導法を学ぶ |
| 25～30 | 指導法 | 各自が興味・関心のあるテーマについて調べ、その練習方法・指導方法について発表する |
| 試験等 | ポスター発表、課題提出 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：目からウロコのシュート術、目からウロコの個人技術、目からウロコの DF 戦術（グローバル教育出版）
また適宜資料を配付するが、必要に応じて各自で参考資料等を収集すること

**準備学習・事後学習**

準備学習：ハンドボール競技規則については毎時間しっかりと予習しておくこと。
事後学習：ゼミ活動を通して興味を持った内容について積極的に調べること。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、毎時間提出された小レポートにコメントを入れ返却する。

**成績評価の目安と方法**

演習への積極的な取り組み　50%　　調査・発表　50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ハンドボールへの理解を深め、対象者に合わせたより効果的な練習法や指導法を習得している。 |
| A | ハンドボールへの理解を深め、より効果的な練習法や指導法を習得している。 |
| B | ハンドボールへの理解を深め、効果的な練習法や指導法を習得している。 |
| C | ハンドボールへの理解を深め、基本的な練習法や指導法を習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習　[Seminar in Health and Sports Science] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 荒川 崇 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーニング<br>演習<br>ユビキタス | アスレティックトレーニングについての知識を高め、競技特性に応じた PDCA を実践する。<br>PC などを駆使し、ユビキタス社会に適応する能力を育成する。 |

学習の到達目標

コンディショニングにおけるアスレティックトレーニングを効果的にプログラミング、コーチング（ティーチング）、チェック、フィードバックすることでパフォーマンスを向上させることができる実践的能力（人間力含む）を学ぶ。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および概論 |
| 2~4 | 講義 | アスレティックトレーニングについての基本学習 |
| 5・6 | 講義 | アスレティックトレーニングのプログラミングについて基本学習 |
| 7・8 | 講義 | アスレティックトレーニングのコーチング（ティーチング）について基本学習 |
| 9・10 | 講義 | アスレティックトレーニングのチェック→フィードバックについて基本学習 |
| 11~14 | 実践 | アスレティックトレーニングをプログラミングし、演習内で実践 |
| 15 | 確認とまとめ | 前学期に実施した内容についての確認とまとめ |
| 16 | オリエンテーション | 前学期学習内容の確認と後学期実施内容についての説明 |
| 17~20 | 抄読会 | アスレティックトレーニングにおける研究テーマ決定のための準備（先行文献検索→抄読） |
| 21・22 | 研究テーマ決定 | アスレティックトレーニングにおける研究テーマを決定し発表 |
| 23~25 | 先行文献発表 | 研究テーマに関する先行文献を検索し、内容をまとめて発表 |
| 26~28 | 研究および論文作成 | 研究テーマに関する研究を実施し、論文作成作業をすすめる（毎回、作業状況や疑問点などを発表） |
| 29 | 発表 | 研究結果の発表 |
| 30 | 確認とまとめ | これまでに実施した内容についての確認とまとめ |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1～9

準備学習・事後学習

準備学習：毎回の演習終了時に次回の内容についての説明をするので事前に調査しておくこと。
事後学習：毎回の演習開始時に前回演習内容に関する口頭試問を実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

前回の演習内容に関する振り返りを実施し、解説を行う。

成績評価の目安と方法

授業の取組み 50%　論文作成 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックトレーニングを効果的にプログラミング、コーチング（ティーチング）、チェック、フィードバックすることでパフォーマンスを向上させることができる実践的能力を十分に獲得する。 |
| A | アスレティックトレーニングを効果的にプログラミング、コーチング（ティーチング）、チェック、フィードバックすることでパフォーマンスを向上させることができる実践的能力を獲得する。 |
| B | アスレティックトレーニングをプログラミング、コーチング（ティーチング）、チェック、フィードバックすることでパフォーマンスを向上させることができる実践的能力を獲得する。 |
| C | アスレティックトレーニングにおけるプログラミング、コーチング（ティーチング）、チェック、フィードバックなどのパフォーマンス向上スキルを理解する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 川井 明 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | バスケットボール | ファンダメンタルの指導方法を学ぶ。ゲーム分析の方法について学ぶ。 |
| 2 | ファンダメンタル | バスケットボールに関する自分の興味のあるテーマについて調べまとめる。 |
| 3 | ゲーム分析 | 事前に指導書などを読み、基本的な知識を学んでいることが望ましい。 |

学習の到達目標

バスケットボールにおけるファンダメンタルの指導をすることができる。バスケットボールにおける基本的なゲーム分析を行うことができる。
自分の決めたテーマについて調べ、順序立ててレポートにまとめることができる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | バスケットボールに関する自身の興味を探る |
| 2・3 | 競技特性の理解① | バスケットボールの競技特性の理解を深める。歴史的な背景等について、レポートやプレゼンを行う |
| 4・5 | 競技特性の理解② | バスケットボールの競技特性の理解を深める。競技規則等について、レポートやプレゼンを行う |
| 6・7 | 競技特性の理解③ | バスケットボールの競技特性の理解を深める。国内的な現状等について、レポートやプレゼンを行う |
| 8・9 | 競技特性の理解④ | バスケットボールの競技特性の理解を深める。国際的な現状等について、レポートやプレゼンを行う |
| 10・11 | プレゼンテーション① | これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う |
| 12・13 | プレゼンテーション② | これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う |
| 14・15 | プレゼンテーション③ | これまでのバスケットボール競技特性を理解した上で、自身の興味について、プレゼンを行う |
| 16・17 | ポスター発表準備① | 研究テーマを決定 |
| 18～20 | ポスター発表準備② | 先行研究を行う |
| 21・22 | ポスター発表準備③ | 各自の研究活動 |
| 23・24 | ポスター発表 | 学園祭において、自身の研究についてポスター発表を行う |
| 25・26 | まとめ① | 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出 |
| 27・28 | まとめ② | 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出 |
| 29・30 | まとめ③ | 年間を通じた各自の活動について、プレゼンを行い、レポート提出 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店

準備学習・事後学習

準備学習： バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。
事後学習： 授業中の内容を復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間のレポート提出やプレゼンテーション回収後に、フィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

レポート 50% プレゼンテーション 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | バスケットボールに関する知識を充分に身に付け、分かりやすく説明することができる。 |
| A | バスケットボールに関する知識を充分に身に付け、説明することができる。 |
| B | バスケットボールに関する知識を概ね身に付けている。 |
| C | バスケットボールに関する知識を最低限身に付けている。 |

2019 年度 学習支援計画書

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習　[Seminar in Health and Sports Science] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 田中 直美 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 学校教育<br>学習指導案<br>模擬授業 | 受講生は指導案作成及び模擬授業を行うことで授業の技術の向上を目指す。また、哲学対話や道徳教育における発問を考えることによって、「主体的・対話的で深い学び」がどのようなものかを実践しながら検討する。さらに、教員採用試験対策（筆記試験・論文試験・面接等）も行う。 |

学習の到達目標

積極的に自らの追求するテーマについての課題を設定して、そのテーマを考察し研究する能力を育成することを目標とする。また、模擬授業を行うことによって、教員としての指導能力の向上を目指す。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 演習の進め方に関する説明 |
| 2 ~4 | 指導案作成 | 模擬授業に向けた学習指導案の作成（1 回目） |
| 5~10 | 指導案検討 | 作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施・講評 |
| 11~15 | 教員採用試験対策 | 教員採用試験に向けた学習指導、論文の作成・添削、面接対策 |
| 16 | 教育実習のふりかえり | 教育実習で得られた成果と反省点の整理 |
| 17~19 | 哲学対話 | 哲学対話の実施・検討 |
| 20~21 | 道徳教育 | 道徳教育における発問を考える |
| 22~24 | 指導案作成 | 模擬授業に向けた学習指導案の作成（2 回目） |
| 25~29 | 指導案検討 | 作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施・講評 |
| 30 | ふりかえり | 学習成果の整理と今後の課題 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説　道徳編』 平成 27 年 7 月
文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』平成 29 年 7 月　　そのほか適宜資料を配布する

準備学習・事後学習

準備学習：ゼミでディスカッションする教育に関するニュースや最新動向を新聞記事から選び、それに対するコメントを用意する。
事後学習：指導案の改善。教員採用試験対策の問題に取り組む。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内のディスカッション、および指導案改善のための話しあいでフィードバックする。

成績評価の目安と方法

模擬授業や学習指導案の内容　 70%　　教育に関する議論の参加態度　 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 演習の議論に積極的に参加し、学習指導案や模擬授業でも完成度の高い成果を上げている。 |
| A | 演習の議論に積極的に参加し、学習指導案や模擬授業でも一定の成果を上げている。 |
| B | 演習の議論に参加し、学習指導案や模擬授業でも最低限の成果を上げている。 |
| C | 演習の議論に参加したが、学習指導案や模擬授業ではいくつかの課題が見られる。 |

2019　武蔵丘短期大学

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習［Seminar in Health and Sports Science］ | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 辻 将也 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 陸上競技<br>指導法<br>種目特性 | 陸上競技のルールおよび種目特性について学習する。また、幅広い年代への指導方法について検討・実践し、陸上競技に対する知識と理解を深める。 |

学習の到達目標

各種目および対象者における課題を発見し、その課題に適した練習方法・指導方法を身に付けることを目標とする。
各自が設定したテーマについて検討し、まとめる

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の概要を説明する |
| 2・3 | 陸上競技の基礎理論 | 陸上競技のルールおよび各種目特性について学ぶ |
| 4・5 | 指導法 | 各種目に適した指導法について学ぶ<br>各年代の特徴について学び、適切な指導法について検討する |
| 6・7 | コーディネーショントレーニング | コーディネーション能力およびトレーニングについて学び、実践する |
| 8・9 | 走種目のコーチング | 小学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ |
| 10・11 | 走種目のコーチング | 中学生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ |
| 12・13 | 走種目のコーチング | 高校生を対象とした走種目のコーチングについて学ぶ |
| 14・15 | 走種目のコーチング | 各年代への走種目のコーチングについて検討し、まとめる |
| 16・17 | 跳躍種目のコーチング | 小学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ |
| 18・19 | 跳躍種目のコーチング | 中学生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ |
| 20・21 | 跳躍種目のコーチング | 高校生を対象とした跳躍種目のコーチングについて学ぶ |
| 22・23 | 跳躍種目のコーチング | 各年代への跳躍種目のコーチングについて検討し、まとめる |
| 24・25 | 投てき種目のコーチング | 中・高生を対象とした投てき種目のコーチングについて学ぶ |
| 26・27 | 投てき種目のコーチング | 各年代への投てき種目のコーチングについて検討し、まとめる |
| 28～30 | まとめ | 各自が設定したテーマについて調べ、適切な練習方法および指導方法について発表する |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：陸上競技指導教本アンダー13：（公財）日本陸上競技連盟編集　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集　大修館書店

準備学習・事後学習

準備学習： 授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。
事後学習： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

演習への取り組み 60%　発表 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、特に優れた成果を上げている。 |
| A | 自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、優れた成果を上げている。 |
| B | 自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をし、成果を上げている。 |
| C | 自ら問題点を発見し、改善方法の検討・実践をしている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習 [Seminar in Health and Sports Science] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 江原 義智 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ゴルフ<br>研究方法<br>マナー・エチケット | ゴルフは、心・技・体を必要とし、バランスの取れた総合力が重要なスポーツである。本演習では、ゴルフの技術向上のためのトレーニング法および指導法をあらゆる領域から考究し、実践する。また、紳士のゴルフと言われるマナー・エチケットを習得することで、社会で活躍するために必要なソーシャルスキルを学ぶ。 |

学習の到達目標

本演習では、ゴルフの技術、指導法およびマナー・エチケットを習得することを目標とする。また、学生自らが、テーマを設定し、実験・分析を行い、成果をまとめる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 本演習の進め方について説明する |
| 2 | ゴルフの基礎知識 | ゴルフの歴史、ルール、マナー・エチケットおよび用具の知識について学ぶ |
| 3～4 | ゴルフの基礎技術 | スイング方法（アドレス、グリップ、テークバック、バックスイング、トップオブスイング、ダウンスイング、インパクト、フォロースルー、フィニッシュ）について学ぶ |
| 5～6 | フォーム分析① | スイングチェックシートに基づいて、自身のフォームチェックを行う |
| 7～8 | フォーム分析② | スイングチェックシートに基づいて、他者のフォームチェックを行う |
| 9～10 | ラウンドプレーの方法 | ラウンドプレーの方法について学ぶ |
| 11～12 | マナー・エチケットの活用 | マナー・エチケットについて理解を深め、社会で活躍するために必要なソーシャルスキルを学ぶ |
| 13～14 | 先行研究 | これまでに行われたゴルフに関する研究についてレビューする |
| 15～16 | 研究方法 | 研究方法について学ぶ |
| 17～18 | 研究テーマの検討 | 研究テーマについて検討し、ディスカッションを行う |
| 19～22 | 測定・分析 | 決定した研究テーマにおける測定・分析を行う |
| 23～28 | 研究ポスターの作成 | 得られたデータから成果をまとめる |
| 29 | 研究発表 | 研究発表を行う |
| 30 | まとめ | これまで学んだ内容についてまとめる |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：社団法人日本プロゴルフ協会 資格認証委員会（2010）『PGA 基本ゴルフ教本 FUNDAMENTAL LESSON FOR GOLFERS』

準備学習・事後学習

準備学習： シーズン中毎週行われれている国内外のプロのゴルフトーナメントをレビューしておくこと。
事後学習： 演習における自身の課題について取り込むこと。

課題に対するフィードバックの方法

演習中およびオフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

演習に対する取り組み 50% 発表 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ゴルフに関する知識、技術、指導法およびマナー・エチケットを十分身に付けている。 |
| A | ゴルフに関する知識、技術、指導法およびマナー・エチケットを身に付けている。 |
| B | ゴルフに関する知識、技術、指導法およびマナー・エチケットを理解している。 |
| C | ゴルフに関する知識、技術、指導法およびマナー・エチケットを学習している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康スポーツ演習　[ Seminar in health and sports science ] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習 | 田本　育代 | | S-S6076 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | サッカー<br>研究発表<br>情報の収集、分析 | 【前学期】 サッカーを科学的な視点でとらえ、自ら研究テーマを設定してレポートにまとめる。<br>【後学期】 前学期の成果をパワーポイントを用いて発表し、学園祭にてポスター発表を実施する。 |

学習の到達目標

サッカーを対象に研究テーマを各自で設定してレポートのまとめ、発表する。 本ゼミは「私の専門はサッカーです」と言うためのゼミです。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | ゼミの内容等を説明 |
| 2～4 | 先行研究の紹介 | サッカーを対象とした先行研究を紹介し、抄読会を実施する |
| 5 | 研究論文の書き方 | 論文を書く上での形式・マナーや仮説の立て方等を理解する |
| 6・7 | 研究方法の解説 | 研究するための方法について理解を深める |
| 8・9 | 研究テーマの設定 | 自らの興味をもとに、研究と呼ぶにふさわしいテーマを、教員とのディスカッションを介して設定する |
| 10～12 | データ収集・処理 | 実際の試合映像やインターネット上の情報からデータを収集し、解析・処理をしていく |
| 13・14 | 結果・考察のまとめ方 | データの扱い方および図表の呈示方法を整理し、仮説との整合性から考察をまとめる |
| 15・16 | 研究レポート作成 | まとめや参考文献等を整理して研究レポートを完成させる |
| 17～19 | プレゼンテーション | パワーポイントを用いて口頭発表用のプレゼンテーションスライドを作成する |
| 20・21 | 口頭発表の説明 | 発表のマナーなど、いかにして傍聴者に理解を得るか、その方法を解説する |
| 22・23 | 口頭発表会 | 各自の研究をパワーポイント上でわかりやすく発表し、質疑応答する |
| 24・25 | ポスター作製 | ゼミの成果として学園祭における発表用のポスターを仕上げる |
| 26・27 | ゲーム分析 | サッカーの試合を VTR に収め、ゲーム分析を実施して「サッカーを観る目」を養う |
| 28・29 | コーチング分析 | サッカー公認Ｃ級コーチ養成講習会「指導実践」の様子を VTR 撮影し、指導について理解する |
| 30 | まとめ | ゼミ活動について、グループディスカッションをもとにまとめていく |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：サッカー指導教本　日本サッカー協会

準備学習・事後学習

準備学習： 分析内容を探してくる。
事後学習： 授業時間内で終わらなかった点をまとめてくる。

課題に対するフィードバックの方法

コメントを入れ、返却する。

成績評価の目安と方法

レポート 40%、平常点 20%、研究発表 20%、ポスター発表 20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | サッカーを深く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえ論理的にその理解を表現できた。 |
| A | サッカーを良く理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の意見を踏まえその理解を表現できた。 |
| B | サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表において各自の感想を踏まえてその理解を表現できた。 |
| C | サッカーを理解したうえで、レポート、研究発表、ポスター発表においてその理解を表現できた。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 学校保健　[School Health] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 佐藤 亮輔 | | S-S2077 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 保健管理<br>保健教育<br>生活習慣病予防 | 学校保健の二大分野である保健管理と保健教育について学び、児童生徒の心身の発達及び健康に対する正しい知識を体得する。<br>講義を主体とするが、最近の学校に関連する問題や課題については、相互に討論する時間をとる。 |

学習の到達目標

学校保健の二大分野である保健管理と保健教育の内容について具体的に理解することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 学校保健の概説 1 | 健康の定義・学校保健とは・学校保健の目的 |
| 2 | 学校保健の概説 2 | 学校保健のしくみ・行政と法律 |
| 3 | 子どもの体 | 体力と健康・新体力テスト |
| 4 | 子どもの心 | 心の健康と課題 |
| 5 | 心の健康問題とその対応策 1 | 学童期と思春期、青年期の発達過程 |
| 6 | 心の健康問題とその対応策 2 | 児童生徒の精神身体的問題 |
| 7 | 心の健康問題とその対応策 | 現代青少年の心理社会的特徴 |
| 8 | 感染症とその対応 | 学校で予防すべき伝染病・結核 |
| 9 | 疾病および健康障害 1 | 生活習慣病とその予防 1 |
| 10 | 疾病および健康障害 2 | 生活習慣病とその予防 2 |
| 11 | 障害児の健康と教育 | 障害児の教育・教育措置基準・障害児に係る教育課程 |
| 12 | 保健室の役割 | 保健室のはたらきと健康相談活動 |
| 13 | 学校安全 | 体育活動中の事故防止・熱中症の予防 |
| 14 | 保健教育 | 保健教育の意義・保健指導の位置と特徴 |
| 15 | まとめ・振り返り | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：国民衛生の動向　厚生労働省の刊行物など
※授業中にプリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：新聞、テレビなどで、学校に関するニュースや話題などをまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 90%　平常点及び提出物など 10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学校保健の知識を活かした、健康・スポーツへの応用力を十分にもっている。 |
| A | 学校保健の知識をよく理解し、健康・スポーツへ活かすことができる。 |
| B | 学校保健の知識を理解している。 |
| C | 学校保健の基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 体育原理 [Sports　Philosophy] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 川井 明 | | S-S2078 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 体育・スポーツ史<br>スポーツ哲学<br>体育理論 | 体育やスポーツに関する歴史的な推移や意味をふまえ、現代の領域における諸問題を哲学的、倫理学的に考察し、スポーツ関係者として望ましい実践に貢献できるような価値観の形成を目指す。<br>毎時間、理解度確認レポートを提出する。 |

学習の到達目標

古代から現代までのスポーツや体育の歴史を理解し、それをふまえて社会における体育やスポーツの持つ意味や現代における課題お哲学的な考え方を理解し、体育・スポーツの指導者としての各自の考えや明確にし、実際の指導に活かすことができるようにする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業計画、歴史を学ぶ意味 |
| 2 | 古代スポーツの歴史 | ギリシャのスポーツと古代オリンピック |
| 3 | ヨーロッパのスポーツ史 | 古代ローマから中世ヨーロッパのスポーツの歴史 |
| 4 | 近代ヨーロッパの体育 | ヨーロッパにおける体操教育 |
| 5 | 近代イギリスのスポーツ教育 | イギリスのパブリックスクールの歴史 |
| 6 | 近代オリンピックの意義 | オリンピックの歴史とその意義 |
| 7 | 日本の体育・スポーツの歴史 | 日本の体育およびスポーツの歴史 |
| 8 | スポーツとジェンダー(1) | 女性の体育・スポーツへの参加とその意義 |
| 9 | スポーツとジェンダー(2) | 女性のスポーツ参加を阻害する要因 |
| 10 | スポーツマンシップを考える | スポーツマンシップとは何か |
| 11 | スポーツとハラスメント(1) | スポーツと暴力 |
| 12 | スポーツとハラスメント(2) | スポーツとセクシュアルハラスメント |
| 13 | パラリンピックの意義 | オリンピックの歴史とその意義 |
| 14 | 保健体育教師論(1) | 体育教師と暴力問題 |
| 15 | 保健体育教師論(2) | 体育教師と体育・スポーツ哲学 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：体育哲学原論、大橋道雄編、不昧堂出版、2011　　スポーツと教育の歴史、成田十次郎編、不昧堂出版、1988

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： 体育・スポーツに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。
事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認レポートの回収後、フィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

理解度確認レポート 70%　筆記試験 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解し、知識を体育・スポーツの指導に活用できる。 |
| A | 体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を十分に理解している。 |
| B | 体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義をよく理解している。 |
| C | 体育・スポーツの歴史や現代社会における体育・スポーツの意義を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | バイオメカニクス [Sports Biomechanics] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 玉木 啓一 | | S-S079 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 運動力学<br>身体構造<br>競技分析 | バイオメカニクスの基礎学問である、力学、解剖学、生理学についても解説していきながら、バイオメカニクスを利用して、スポーツや動作を自分で解説できるように学んでいく。自ら問題意識を持って解決策を考える意欲が必要な科目である。 |

学習の到達目標

バイオメカニクスの基本的な知識を理解・習得し、健康やスポーツへ活かせる考え方を学び、その応用力を身につけることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | バイオメカニクス概論 | スポーツの技術理解に役立つバイオメカニクスと各種学問の関係について学習する |
| 2 | 身体の構造と運動 | 身体を構成する骨格や筋肉について学習し、運動の源について理解する |
| 3 | 運動と重心 | 重心と運動の関わりについて考える |
| 4 | 身体運動と力 | ヒトの動きを起こす力について考える |
| 5 | パワーと力 | 力とパワーについて理解し、これを高めるトレーニングについて学習する |
| 6 | 反動動作 | 巧みな動き、パワフルな動きには反動動作が潜んでいる。反動動作について理解する |
| 7 | エネルギーと効率 | 運動の力学的エネルギーと効率について理解する |
| 8 | 流体の抵抗 | スポーツにおける、空気抵抗や水の抵抗について理解する |
| 9 | スポーツの情報解析 | スポーツ理解のための情報収集と測定・分析について学習する |
| 10 | 歩行・走運動 | これまで学習した知識を統合して、歩行・走運動ついて考える |
| 11 | 跳躍運動 | これまで学習した知識を統合して、跳躍運動ついて考える |
| 12 | 投動作 | これまで学習した知識を統合して、投動作ついて考える |
| 13 | 打動作 | これまで学習した知識を統合して、打動作ついて考える |
| 14 | 運動と技術 | 運動の技術について考える |
| 15 | 総合討論 | スポーツにおける課題を、バイオメカニクスを利用して考える |
| 試験等 | レポート課題 | |

教科書及び参考図書

参考書：スポーツ・バイオメカニクス入門 金子公宥 杏林書院
参考書：健康運動実践指導者養成用テキスト

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：前回の授業を受け、スポーツをバイオメカニクスで応用する話題を準備する。
事後学習（週 1.5 時間）：授業内容を復習し、討論内容を振返り各自が理解と応用力を考える。

課題に対するフィードバックの方法

授業中を中心として、解説・理解を繰り返していく。

成績評価の目安と方法

授業内の討論における平常点と課題　討論では自信の発表はもちろんであるが、他学生の意見に対する考察も重視する
課題では、各自の検討内容の広範さ、考察の深さを評価していく

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | バイオメカニクスの知識を活かした、スポーツへの応用力を十分に持っている。 |
| A | バイオメカニクスの知識を良く理解し、スポーツへ活かすことができる。 |
| B | バイオメカニクスの知識を理解している。 |
| C | バイオメカニクスの基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | テーピング実習　[Taping] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 高橋　琴美 | | S-S4080 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | テーピング<br>スポーツ傷害<br>関節の構造 | 関節の基本的構造と動きを理解するとともに、基本的なテーピングの理論と技術を習得する。 |

**学習の到達目標**

足関節内反捻挫予防のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。
様々な部位のテーピングについて、正しい知識と技術を修得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | テーピングの基礎知識 | テーピングの目的、基本的な巻き方 |
| 3・4 | 傷害・部位別テーピング | 足関節内反捻挫予防（基本 1） |
| 5・6 | 傷害・部位別テーピング | 足関節内反捻挫予防（基本 2） |
| 7・8 | 傷害・部位別テーピング | 足関節内反捻挫予防（基本 3） |
| 9・10 | 傷害・部位別テーピング | 足関節内反捻挫予防（応用 1） |
| 11・12 | 傷害・部位別テーピング | 足関節内反捻挫予防（応用 2） |
| 13・14 | 傷害・部位別テーピング | 足関節内反捻挫に対する応急処置 |
| 15・16 | 傷害・部位別テーピング | 足部のテーピング |
| 17・18 | 傷害・部位別テーピング | 下腿部のテーピング |
| 19・20 | 傷害・部位別テーピング | 膝関節のテーピング 1 |
| 21・22 | 傷害・部位別テーピング | 膝関節のテーピング 2 |
| 23・24 | 傷害・部位別テーピング | 大腿部のテーピング |
| 25・26 | 傷害・部位別テーピング | 手関節・手指のテーピング |
| 27・28 | 傷害・部位別テーピング | 筋肉サポートテープを用いたテーピング |
| 29・30 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 実技試験・筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：テーピングの教科書（日本文芸社）　また、必要に応じて資料等を適宜配付する

**準備学習・事後学習**

準備学習：次回内容をテキストで予習しておくこと。テキスト・配付資料・テープは、毎時間必ず持参すること。
事後学習：実習した内容は、各自繰り返し練習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。

**成績評価の目安と方法**

実技試験 40%　筆記試験 30%　平常点 30%　理由のない遅刻・欠席は減点とする

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を十分に習得している。 |
| A | 関節の基本的構造と動きを理解し、その知識を活かしたテーピング理論と技術を習得している。 |
| B | 関節の基本的構造と動きを理解し、テーピング理論と技術を習得している。 |
| C | 関節の基本的構造と動きを理解し、基本的なテーピング理論と技術を習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | アスレティックトレーナー論　[Principles of Athletic Training] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S3081 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>役割<br>運営 | アスレティックトレーナーの歴史からその業務内容およびスポーツドクターやコーチ、監督との連携についても学習する。 |

学習の到達目標

アスレティックトレーナーとしての哲学を学ぶ。
人間性や社会性を持ったアスレティックトレーナーになるために必要な内容を学ぶ。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | アスレティックトレーナーとは（1） | アスレティックトレーナーの歴史 |
| 2 | アスレティックトレーナーとは（2） | 諸外国のアスレティックトレーナーの状況 |
| 3 | アスレティックトレーナーの業務（1） | アスレティックトレーナーの任務と役割 |
| 4 | アスレティックトレーナーの業務（2） | スポーツ外傷・障害の予防 |
| 5 | アスレティックトレーナーの業務（3） | スポーツ現場における救急処置 |
| 6 | アスレティックトレーナーの業務（4） | アスレティックリハビリテーション |
| 7 | アスレティックトレーナーの業務（5） | コンディショニング |
| 8 | アスレティックトレーナーの業務（6） | 測定と評価 |
| 9 | アスレティックトレーナーの業務（7） | 健康管理と組織運営 |
| 10 | アスレティックトレーナーの業務（8） | 教育的指導 |
| 11 | コーチ・ドクターとの連携協力 | サポートスタッフの役割とスポーツドクターとの連携・協力 |
| 12 | 組織運営と管理（1） | スポーツの組織運営とアスレティックトレーナーの組織運営 |
| 13 | 組織運営と管理（2） | 健康管理と法的諸問題 |
| 14 | アスレティックトレーナーと倫理 | アスレティックトレーナーの社会的立場と倫理 |
| 15 | まとめ | 総まとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト１　アスレティックトレーナーの役割

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験およびプレゼンテーション７０％　平常点 ３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックトレーナーの現状と役割を十分に理解し、活動現場で的確に業務遂行する能力を身に付けている。 |
| A | アスレティックトレーナーの現状と役割を良く理解している。 |
| B | アスレティックトレーナーの現状と役割を理解している。 |
| C | アスレティックトレーナーの現状を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ生理学［Sports Physiology］ | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 辻 将也 | | S-S3082 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 生理学<br>エネルギー<br>トレーニング | トレーニングの基本理論、体力、スポーツのためのエネルギーを中心としながら、スポーツ生理学の知識を競技力向上に役立つように学んでいく。 |

学習の到達目標

アスレティックトレーナーの資格必修科目である。スポーツの特性を生理学的観点から理解し、競技スポーツで、この学問をどのように役立てていけるかを自らが考える授業である。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | スポーツを生理学と競技力向上との関連とその応用の限界を考える |
| 2 | スポーツと体力要素 | スポーツに重要な体力要素について考える |
| 3 | スポーツとエネルギー代謝 | 筋へのエネルギー供給の観点からスポーツを考える |
| 4 | スポーツと骨格筋機能 | スポーツに重要な骨格筋機能について考える |
| 5 | スポーツとスキル | スキル・戦術が重要なスポーツ種目を考える |
| 6 | スポーツと呼吸循環機能 | スポーツ活動における呼吸循環系の応答を考える |
| 7 | スポーツと体力トレーニング | トレーニングの原理・原則。トレーニングについて考える |
| 8 | スポーツと環境 | 環境がスポーツに及ぼす影響について考える |
| 9 | スポーツと疲労 | 疲労の生理学的意味を知り、スポーツとの関連を学ぶ |
| 10 | スポーツと酸化ストレス | 運動やスポーツと酸化ストレスとの関連を学ぶ |
| 11 | ウオームアップ | ウォーミングアップの生理学的意味を考える |
| 12 | クールダウン | クーリングダウンの生理学的意義を考える |
| 13 | スポーツと栄養およびサプリメント | 競技力と、飲料・サプリメントについて解説する |
| 14 | 競技力向上 | 競技力向上のための研究・ドーピングなどについて考える |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書は指定しないが、適宜資料を配布する
参考図書：「選手とコーチのためのスポーツ生理学」フォックス 大修館書店、「新・スポーツ生理学」村岡編著 市村出版

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： 授業内容に関する情報（参考図書、インターネット等）を、事前に読んで学習しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）： 授業中の内容を復習し、わからない単語は調べて覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 80% 平常点及び提出物など 20% 理由のない遅刻・欠席は減点
履修人数が少ない場合は、筆記試験を行わずに、平常点・提出物、口頭試験で成績評価を行う

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツ生理学の知識をいかして、競技力向上を達成する能力を充分に有している。未知の課題へも対応できる力を有している。 |
| A | スポーツ生理学の知識をいかして、競技力向上を達成する能力を充分に有している。 |
| B | スポーツ生理学の知識を、競技力向上に役立てる能力を有している。 |
| C | スポーツ生理学の知識を、競技力向上を役立てる基礎を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ外傷・障害　[Acute and Chronic Sports Injuries] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S3083 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | スポーツ<br>外傷<br>障害 | 全身の各パートにおいて発生する、各種外傷や障害の受傷機転、病態、診断、治療、予防について専門的に学ぶ。 |

学習の到達目標

アスレティックトレーナーの知識として最も重要なスポーツの外傷・障害についての内容であり、これらの内容を完璧に理解することで初めてトレーナーとして認められる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1･2 | 総論 | 講義の展開について、外傷と障害の違いについて　など |
| 3･4 | 体幹のスポーツ外傷・障害① | 頚部・腰背部 |
| 5･6 | 体幹のスポーツ外傷・障害② | 骨盤 |
| 7･8 | 上肢のスポーツ障害・外傷① | 肩部 |
| 9･10 | 上肢のスポーツ障害・外傷② | 肘関節 |
| 11･12 | 上肢のスポーツ障害・外傷③ | 手・手指 |
| 13･14 | 下肢のスポーツ障害・外傷① | 大腿部 |
| 15 | まとめ | 前期に行った各種パートについてのまとめ |
| 16･17 | 下肢のスポーツ障害・外傷② | 膝関節 |
| 18･19 | 下肢のスポーツ障害・外傷③ | 下腿部 |
| 20･21 | 下肢のスポーツ障害・外傷④ | 足・足関節 |
| 22･23 | 重篤な外傷① | 頭蓋骨骨折 |
| 24･25 | 重篤な外傷② | 脳損傷・脳震盪・脊髄損傷 |
| 26･27 | その他の外傷 | 顔面・目・鼻・耳・歯 |
| 28･29 | 年齢・性別による特徴 | 女性・成長期・高齢者 |
| 30 | まとめ | 後期に行った各種パートについてのまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門テキスト３　スポーツ外傷・障害の基礎知識

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験５０％　課題提出３０％　平常点２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツの外傷・障害について十分に理解し、現場での活動に活かすことができる。 |
| A | スポーツの外傷・障害について良く理解し、現場での活動に活かすことができる。 |
| B | スポーツの外傷・障害について理解し、現場で活動ができる。 |
| C | スポーツの外傷・障害について理解することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康管理とスポーツ医学　[Health Care Administration] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 集中講義 | 荒川 崇 ・ 太田 眞 | 実 | S-S3084 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>健康管理<br>スポーツ医学 | 海外遠征時や国内での遠征時の注意点、死亡事故につながる暑熱環境についておよびドーピングコントロールなどについて幅広く、スポーツ医学の中でも特に内科系の内容を学ぶ。 |

学習の到達目標

アスレティックトレーナーにとって内科的な知識は必要不可欠なものである。特に死亡事故が発生する可能性の高い暑熱環境の理解は必須である。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | アスリートにみられる疾患（1） | 内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて |
| 2 | アスリートにみられる疾患（2） | 内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置などについて |
| 3 | 感染症対策（1） | 注意すべき感染症の種別、業態、症状と対応策 |
| 4 | 感染症対策（2） | 海外遠征時における感染症対策 |
| 5 | アスリートにみられる 病的現象（1） | 病的現象の病態、症状、原因と対応策について |
| 6 | アスリートにみられる 病的現象（2） | 摂食障害、減量障害への対応策と飲酒・喫煙などの問題について |
| 7 | 特殊環境のスポーツ医学（1） | 高所、低圧及び高圧に対する生体の反応とその環境での障害について |
| 8 | 特殊環境のスポーツ医学（2） | 暑熱環境、低温環境に対する生体の反応とその環境での障害について |
| 9 | 特殊環境のスポーツ医学（3） | 時差に対する生体の反応と海外遠征時の諸問題について |
| 10 | 性別による特徴 | 女性特有の運動時の障害と運動参加時の注意点について |
| 11 | 年齢による特徴 | 高齢者・成長期の障害と運動参加時の注意点について |
| 12 | 内科的メディカルチェック（1） | メディカルチェックの目的とその内容について |
| 13 | 内科的メディカルチェック（2） | 運動負荷試験の目的とその内容について |
| 14 | ドーピングコントロール | アンチドーピングの目的・定義と禁止物質について |
| 15 | まとめ | 今までに学習したすべての領域の総復習を行い理解度を確認する |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト４　健康管理とスポーツ医学

準備学習・事後学習

準備学習：講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習：講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験５０％　課題提出３０％　平常点２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を十分に理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。 |
| A | アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を良く理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。 |
| B | アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識を理解し、対象アスリートの健康管理能力を身につけている。 |
| C | アスレティックトレーナーにとって必要な内科的医学知識と対象アスリートの健康管理について理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | コンディショニング論　[Strength Training & Conditioning] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S3085 | | |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | コンディショニング<br>ピークパフォーマンス<br>構成因子 | この授業では一般的な体力の向上のみならず専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を学ぶ。また、トレーニングメニューの作成を行うために必要なスポーツ生理学などの知識を含めて学ぶことになる。 |

学習の到達目標

コンディショニングとはピークパフォーマンス発揮するためのすべての因を整えることであり、パフォーマンスの向上のために必要な各種理論およびトレーニングメニューの作成ができるようになる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 本講座の学習内容・成績評価等に関する説明 |
| 2 | 概論 | コンディションとは？　コンディショニングとは？（定義・意義・目的） |
| 3 | 身体的因子 | コンディショニングにおける身体的因子 |
| 4 | 環境的因子 | コンディショニングにおける環境的因子 |
| 5 | 心因的因子 | コンディショニングにおける心因的因子 |
| 6 | 競技特性とコンディショニング① | 球技系競技におけるコンディショニング①　サッカー |
| 7 | 競技特性とコンディショニング② | 球技系競技におけるコンディショニング②　バレーボール |
| 8 | 競技特性とコンディショニング③ | 記録系競技におけるコンディショニング |
| 9 | 競技特性とコンディショニング④ | 採点系競技におけるコンディショニング |
| 10 | 競技特性とコンディショニング⑤ | 格闘系・コンタクトスポーツにおけるコンディショニング |
| 11 | ピリオダイゼーション | パフォーマンス向上のためのピリオダイゼーション |
| 12 | 傷害予防と環境整備① | 傷害予防のための環境整備（スタッフ・ステークフォルダー） |
| 13 | 傷害予防と環境整備② | 傷害予防のための環境整備（ファシリティ） |
| 14 | コンディショニング　プログラム作成 | 競技種目別コンディショニング　プログラム作成（グループワーク） |
| 15 | まとめ | 学習内容のまとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　予防とコンディショニグ

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：毎回の講義終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：毎回の講義開始時に前回講義内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

前回の講義内容に関する小テストを実施し、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験　４０％　課題　３０ ％　平常点　３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を十分に活かしたコンディショニングを考案・実践できる。 |
| A | 専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識をよく理解してコンディショニングを考案・実践できる。 |
| B | 専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解してコンディショニングを考案・実践できる。 |
| C | 専門的競技種目におけるピークパフォーマンス向上に必要な知識を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | コンディショニング論実習　[Conditioning] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・実習<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 ・ 辻 将也 | 実 | S-S5086 |

**この授業に関係する資格**

健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリスト

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | コンディショニング<br>トレーニング<br>指導法 | レジスタンストレーニング及び各種トレーニングの方法・説明・実施・それぞれをリードアップして実際に動かす。 |

**学習の到達目標**

各種トレーニング・ウォーミングアップ・ダウンなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行う。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | オリエンテーション<br>ｳｫｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟ①／ウエイトトレーニング① | 本講座の学習内容・成績評価等に関する説明および軽運動<br>ウォーミングアップの意義・目的／マシントレーニング説明・実践 |
| 3・4 | ｳｫｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟ②／ウエイトトレーニング② | スタティックストレッチ、ペアストレッチ／BIG３＋１　トレーニング説明・実践① |
| 5・6 | ｳｫｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟ③／ウエイトトレーニング③ | ﾀﾞｲﾅﾐｯｸｽﾄﾚｯﾁ、ﾊﾞﾘｽﾃｨｯｸｽﾄﾚｯﾁ／BIG３＋１　トレーニング説明・実践② |
| 7・8 | クーリングダウン／ウエイトトレーニング④ | クーリングダウンの意義・目的／BIG３＋１　トレーニング説明・実践③ |
| 9・10 | SAQ ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ①／ウエイトトレーニング⑤ | ｱｼﾞﾘﾃｨﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ説明・実践／ﾊﾟﾜｰ系ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（ﾊﾟﾜｰｸﾘｰﾝなど）説明・実践① |
| 11・12 | SAQ ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ②／ウェイトトレーニング⑥ | ｸｲｯｸﾈｽ・ｽﾋﾟｰﾄﾞﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ説明・実践①／ﾊﾟﾜｰ系ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（ﾊﾟﾜｰｸﾘｰﾝなど）説明・実践② |
| 13・14 | SAQ ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ③／レジスタンストレーニング | ｸｲｯｸﾈｽ・ｽﾋﾟｰﾄﾞﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ説明・実践②／自重を利用したレジスタンストレーニング |
| 15・16 | SAQ ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ④／スタビリティトレーニング | プライオメトリクストレーニング①／スタビリティトレーニング説明・実践 |
| 17・18 | SAQ ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ⑤／サーキットトレーニング | プライオメトリクストレーニング②／サーキットトレーニング説明・実践 |
| 19・20 | リードアップ／代謝系トレーニング | ダイナミックドリル／代謝系トレーニング説明・実践 |
| 21・22 | トレーニング指導実践① | トレーニングプログラム作成 |
| 23・24 | トレーニング指導実践② | トレーニングプログラム指導実践 |
| 25・26 | トレーニング指導実践③ | トレーニングプログラム指導実践 |
| 27・28 | トレーニング指導実践④ | トレーニングプログラム指導実践 |
| 29・30 | まとめ | 実習内容のまとめ |
| 試験等 | 実践指導試験 | |

**教科書及び参考図書**

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト６　予防とコンディショニング

**準備学習・事後学習**

準備学習：毎回の実習終了時に次回の内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する振り返りを実施するので、復習しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

実践指導試験・課題提出　７０％　　平常点３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を十分に理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。 |
| A | 各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、安全で効果的なプログラミング及び指導を行うことができる。 |
| B | 各種トレーニングなどの特異性や手順・方法を理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。 |
| C | 各種トレーニングなどを理解し、プログラミング及び指導を行うことができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 救急処置　[Emergency Treatment] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 小島 丈治 | 実 | S-S3087 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | スポーツ現場における救急処置 | スポーツ現場で発生する様々な傷病に関する基礎知識、現場での評価、およびリスク管理について学び、状態に応じた正しい救急処置の手順を学ぶ。また、傷病発生の予防と発生時の対応計画についても学ぶ。 |
| 2 | リスク管理 | |
| 3 | 評価 | |

学習の到達目標

スポーツ現場で発生する傷病に対し、現場での評価と正しい救急処置の方法を修得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 概要 | スポーツ現場における救急処置の意義 |
| 2 | 心肺蘇生法 | 心肺蘇生法の意義と基礎知識 |
| 3 | 外傷時の評価 | 外傷の発生機序、評価手順 |
| 4 | 外傷時の処置 | 外傷による炎症の徴候、ＲＩＣＥ処置 |
| 5 | 固定法 | スポーツ現場における患部固定法、留意点 |
| 6 | 止血法 | 出血の種類と止血処置、留意点 |
| 7 | 創傷処置 | 創傷の種類と創傷の処置、留意点 |
| 8 | 内科的疾患の処置（１） | 熱中症の発生機序、分類、処置、予防 |
| 9 | 内科的疾患の処置（２） | ショック、呼吸困難の発生機序と対処 |
| 10 | 内科的疾患の処置（３） | その他の緊急を要する内科疾患 |
| 11 | 頭部外傷の処置 | 頭部外傷の発生機序、評価、処置および留意点 |
| 12 | 頸部外傷の処置 | 頸部外傷の発生機序、評価、処置および留意点 |
| 13 | 運搬法 | 頭頚部外傷における運搬法、留意点 |
| 14 | 救急体制 | 対応計画の必要性、事前確認事項 |
| 15 | まとめ | 本講義の総まとめ |
| 試験等 | 筆記試験、実技試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト８　救急処置

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　事前に、AT 教本の救急処置を読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：　毎回授業初めに、前回の確認を行うので復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

テスト後に解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験　４０％　実技試験　４０％　授業への取り組み　２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を十分に理解している。 |
| A | 様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順をよく理解している。 |
| B | 様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を理解している。 |
| C | 様々な外傷・疾病に関する知識および評価と救急処置の手順を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 見学実習　[Practical Observation] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習（集中）<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S5088 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>活動現場<br>見学 | アスレティックトレーナーが実際に働いている姿をみることによって、具体的な仕事の内容、 コーチやドクターとの関係および選手との接し方を学ぶ。得た知識を活動現場でどのように活かすのかを学ぶ。 |

学習の到達目標

アスレティックトレーナーの仕事の実際を見学することにより、具体的な仕事の内容を理解し、自らの方向性を知ると同時に、将来への意欲を喚起する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1<br>～<br>15 | アスレティックトレーナーの具体的役割の現状を知る | 見学実習予定先<br>大崎電気ハンドボール部（埼玉県入間郡）<br>R-body project（都内）<br>各種大会<br>学内部活動　　など<br><br>実習先においてアスレティックトレーナーの活動の様子を学ぶ<br>○選手とのコミュニケーション<br>○コーチ・監督とのコミュニケーション<br>○スポーツドクターとの連携<br>○当日の仕事の流れ<br>○アスレティックリハビリテーション<br>○現場での応急処置<br>○トリートメントの様子 |
| 試験等 | 課題レポート | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻

準備学習・事後学習

準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので事前に調査しておくこと。
事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。

成績評価の目安と方法

レポート ７０％　平常点 ３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を十分に理解し、活動のイメージを想像できる。 |
| A | 活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を良く理解し、活動のイメージを想像できる。 |
| B | 活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解し、活動のイメージを想像できる。 |
| C | 活動現場におけるアスレティックトレーナー業務の実際を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 検査・測定と評価実習<br>[Special Test and Clinical Assessment of Injury] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・実習<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S5089 | | |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>スペシャルテスト<br>評価 | レンジオブモーション（ＲＯＭ）の測定、徒手筋力検査法（ＭＭＴ）、各種反射試験、代謝系の測定、筋力・筋パワー測定ほか、測定と評価を行う。 |

学習の到達目標

アスレティックトレーナーとして必要な検査および測定の各種項目についての理論を学び、測定手技を正確に行えるようになる。またデーターについて評価できるようになる。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ＨＯＰＳにおける競技者に関する情報収集 |
| 2 | 姿勢身体アライメントの観察 |
| 3 | 関節弛緩性検査 |
| 4 | 関節可動域測定 |
| 5 | 筋タイトネス検査 |
| 6 | 徒手筋力測定 |
| 7 | 筋力・筋パワー測定 |
| 8 | 全身持久力の測定 |
| 9 | 敏捷性および協調性の測定 |
| 10 | 身体組成検査 |
| 11 | 一般的体力測定 |
| 12 | 歩行動作の観察 |
| 13 | 走動作の観察 |
| 14 | 運動連鎖 |
| 15 | 全測定にいての総復習を行う |
| 試験等 | 課題レポート |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト５　検査・測定と評価

準備学習・事後学習

準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。
事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。

成績評価の目安と方法

レポート ７０％　平常点 ３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を十分に理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。 |
| A | アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を良く理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。 |
| B | アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論を理解し、正確な測定手技とデーター評価能力を獲得する。 |
| C | アスレティックトレーナーに必要な検査および測定についての理論と正確な測定手技とデーター評価について理解する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツ現場実習　[Internship of Athletic Training] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S5090 |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>現場<br>実践 | トレーナー業務の遂行において必要な各種テクニックを学ぶ。ＲＩＣＥ処置、準備、片付け、記録、データー処理、連絡、報告の実践を行う。 |

学習の到達目標

スポーツの現場におけるトレーナー活動を通して、トレーナー業務の実践および選手とのコミュニケーション能力を高める。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1<br>～<br>15 | アスレティックトレーナーの現場活動における経験を積む | チームへの帯同により日々のトレーナー業務を遂行<br>準備（水、アイス）<br>テーピング<br>ウォーミングアップのリードアップ<br>リハビリテーション指導補助<br>ケガの応急処置<br>コンディショニングメニューのリードアップ<br>クールダウン<br>運動後のトリートメント<br>トレーナー日誌の記入<br>ヘッドトレーナーへの報告 |
| 試験等 | 課題レポート | |

教科書及び参考図書

教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻

準備学習・事後学習

準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので事前に調査しておくこと。
事後学習：毎回の実習終了時に実習内容に関するレポート課題を指示するので、次回実習開始時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。

成績評価の目安と方法

レポート ７０％　平常点 ３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得し、活動現場に活かせる。 |
| A | トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を十分に獲得する。 |
| B | トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力を獲得する。 |
| C | トレーナー業務の実践経験から知識、技能、選手とのコミュニケーション能力の重要性を理解する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | アスレティックリハビリテーション実践実習<br>[Clinical Therapeutic Exercise and Rehabilitation Technique] | 1 | N | S | M |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・実習<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S5091 | | |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| アスレティックトレーナー |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>アスレティックリハビリテーション<br>実践 | ＯＫＣ、ＣＫＣプログラム、心臓循環系のプログラム、可動域訓練、徒手抵抗運動、無酸素系の運動、スピードトレーニング、アジリティトレーニングなどの各種アスレティックリハビリテーションプログラムを実践する。 |

| 学習の到達目標 |
|---|
| アスレティックリハビリテーションの実践を通し、スポーツ外傷・障害からの復帰の全てを学び、実践力を身につける。 |

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 本実習の学習内容・成績評価等に関する説明および概論 |
| 2 | ＳＯＡＰノートの書き方を学ぶ |
| 3･4 | アスレティックトレーニングルームでの各種業務の遂行 |
| 5･6 | 各種障害別リハビリテーションメニューの作成実践 |
| 7･8 | 復帰期のコンディショニング |
| 9･10 | アスレティックリハビリテーション／スポーツドクターとの連携／ＳＯＡＰノートの作成 |
| 11･12 | アスレティックリハビリテーション／ヘッドトレーナーとの連携／ＳＯＡＰノートの作成 |
| 13･14 | アスレティックリハビリテーション／コーチ監督との連携／ＳＯＡＰノートの作成 |
| 15 | これまでに実施した内容についての確認とまとめ |
| 試験等 | 課題レポート |

| 教科書及び参考図書 |
|---|
| 教科書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト７　アスレティックリハビリテーション |

| 準備学習・事後学習 |
|---|
| 準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についてのプリントを配布するので事前に読んでおくこと。<br>事後学習：毎回の実習開始時に前回実習内容に関する口頭試問を実施するので復習しておくこと。 |

| 課題に対するフィードバックの方法 |
|---|
| 毎回の実習内容に関する実技確認を実施し、解説を行う。 |

| 成績評価の目安と方法 |
|---|
| レポート ７０％　平常点 ３０％ |

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、段階的で安全なアスレティックリハビリテーションが実践できる。 |
| A | アスレティックリハビリテーションの理論を活かした、アスレティックリハビリテーションが実践できる。 |
| B | アスレティックリハビリテーションの理論を理解して実践できる。 |
| C | アスレティックリハビリテーションが実践できる。 |

2019　武蔵丘短期大学

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | トレーナー総合実習　[Athletic Training] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 演習・実習<br>アクティブ・ラーニング | 荒川 崇 | 実 | S-S5092 | | |

この授業に関係する資格

アスレティックトレーナー

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アスレティックトレーナー<br>ミーティング<br>実習 | アスレティックトレーナーとして必要な各種業務を遂行できる能力を身につけるために、必要な知識と技能およびコミュニケーション能力を高める総合的な実習をおこなう。 |

学習の到達目標

フィールドにおける実習およびリハ室での実習を通し、応急処置、けがの予防、コンディショニング、選手の教育、アスレティックリハビリテーション、測定と評価などが総合的にできるようになる。

| 回 | テーマおよび授業内容 |
|---|---|
| 1 | 本実習の学習内容・成績評価等に関する説明および概論 |
| 2~5 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、測定・評価実践① |
| 6~9 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、スポーツ外傷・障害別応急処置 |
| 10~13 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践① |
| 14・15 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、前学期のまとめ（プレゼンテーション） |
| 16~19 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、競技スポーツ種目別コンディショニング実践 |
| 20~23 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、各種傷害別アスレティックリハビリテーション実践② |
| 24~27 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、測定・評価実践② |
| 28・29 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、後学期のまとめ（プレゼンテーション） |
| 30 | ミーティング（スケジュール確認、インジュリーリポート、アセスメント→アクション）、アスレティックトレーナーについてのディスカッション |
| 試験等 | 課題レポート |

教科書及び参考図書

参考図書：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト全巻

準備学習・事後学習

準備学習：毎回の実習終了時に次回の実習内容についての説明をするので資料を作成しておくこと。
事後学習：毎回の実習終了時にレポート課題を指示するので作成し、次回の実習開始時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の実習内容に関する内容確認を実施し、解説を行う。

成績評価の目安と方法

プレゼンテーション　４０％　課題提出　３０％　平常点 30％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、総合的にトレーナー業務を遂行することができる。 |
| A | アスレティックトレーナーの役割を十分に理解し、知識をトレーナー業務に活用することができる。 |
| B | アスレティックトレーナーの役割を理解し、トレーナー業務を行うことができる。 |
| C | アスレティックトレーナーの役割を理解するとともに、トレーナー業務に活かそうと努力できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 陸上競技 1［Basic Track & Field］ | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 辻　将也 | | S-S4093 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）、健康運動実践指導者

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 走種目<br>跳躍種目<br>投てき種目 | 陸上競技（走・跳・投種目）の基本的な技術を習得し、各種目がより良く実施することが出来るようにする。 |

学習の到達目標

陸上競技に必要な基礎動作を学び、走・跳・投の基本を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要（展開方法・評価方法）を説明する |
| 2 | 短距離走Ⅰ | 短距離走のフォームを学ぶ。各グループでフォームチェックをし合い、正しいフォームを習得する |
| 3 | 短距離走Ⅱ | スプリントドリル、スタート動作を学ぶ |
| 4 | 中・長距離走 | 集団ペース走を行う |
| 5 | ハードル走Ⅰ | ハードル走の基本動作を学ぶ。各グループで基本動作の確認し合い、正しい動作を習得する |
| 6 | ハードル走Ⅱ | ハードリング技術（リード足・抜き足）の習得 |
| 7 | リレーⅠ | バトンパスの方法を学ぶ。2 人 1 組でバトンパスの練習を行う |
| 8 | リレーⅡ | 2 人 1 組でのバトンパスを用いた 100m 走のタイム計測 |
| 9 | 跳躍Ⅰ | 走り高跳びの助走（短～全助走）を学ぶ。各グループで助走を確認し合い、正しい助走距離を習得する |
| 10 | 跳躍Ⅱ | 走り高跳びの踏切動作と空中動作を学ぶ。各グループでフォームチェックをし合い、正しいフォームを習得する |
| 11 | 跳躍Ⅲ | 走り幅跳びの助走（短～全助走）と踏切動作を学ぶ。各グループで助走を確認し合い、正しい助走距離を習得する |
| 12 | 跳躍Ⅳ | 走り幅跳びの空中動作と着地動作を学ぶ。各グループでフォームチェックを行い、正しいフォームを習得する |
| 13 | 投てきⅠ | 砲丸投げの立ち投げとグライド投法を学ぶ。各グループでフォームチェックを行い、正しいフォームを習得する |
| 14 | 投てきⅡ | 円盤投げの立ち投げとターン投げを学ぶ。各グループでフォームチェックを行い、正しいフォームを習得する |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集　大修館書店

準備学習・事後学習

準備学習： 指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。
事後学習： 自己の課題を把握し、事後学習に活用できるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

平常点（意欲・態度）70%、運動技能 30%、理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を十分に身に付けている。 |
| A | 授業に意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を概ね身に付けている。 |
| B | 授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を概ね身に付けている。 |
| C | 授業にやや意欲的に取り組み、陸上競技に必要な基礎動作を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 陸上競技 2［Advanced Track & Field］ | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 辻　将也 | | S-S5094 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 指導法<br>トラック競技<br>フィールド競技 | 短距離走・リレー・ハードル・中・長距離走・走り高跳び・走り幅跳び・砲丸投の指導を行う。 |

学習の到達目標

陸上競技の指導法を学び、将来指導者となるために必要な指導技術を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要（展開方法・評価方法）を説明する |
| 2 | 陸上競技 1 の復習 | 陸上競技 1（短距離走Ⅰ・Ⅱ・リレーⅠ・Ⅱ）の復習 |
| 3 | 短距離走・リレーの指導実践 | 小学生対象を想定した短距離走・リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する） |
| 4 | 短距離走・リレーの指導実践 | 中学生対象を想定した短距離走・リレーの指導実践（指導案を作成し、指導実践する） |
| 5 | 陸上競技 1 の復習 | 陸上競技 1（中・長距離走）の復習 |
| 6 | 中・長距離走の指導実践 | 中学生対象を想定した中・長距離走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する） |
| 7 | 陸上競技 1 の復習 | 陸上競技 1（ハードル走Ⅰ・Ⅱ）の復習 |
| 8 | ハードル走の指導実践 | 中学生対象を想定したハードル走の指導実践（指導案を作成し、指導実践する） |
| 9 | 陸上競技 1 の復習 | 陸上競技 1（跳躍Ⅰ・Ⅱ）の復習 |
| 10 | 走り高跳びの指導実践 | 中学生対象を想定した走り高跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する） |
| 11 | 陸上競技 1 の復習 | 陸上競技 1（跳躍Ⅲ・Ⅳ）の復習 |
| 12 | 走り幅跳びの指導実践 | 中学生対象を想定した走り幅跳びの指導実践（指導案を作成し、指導実践する） |
| 13 | 陸上競技 1 の復習 | 陸上競技 1（投てきⅠ）の復習 |
| 14 | 砲丸投げの指導実践 | 中学生対象を想定した砲丸投げの指導実践（指導案を作成し、指導実践する） |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：陸上競技指導教本アンダー13：（公財）日本陸上競技連盟編集　大修館書店
陸上競技指導教本アンダー16・19 初級編：（公財）日本陸上競技連盟編集　大修館書店

準備学習・事後学習

準備学習：　指定した種目に関する情報（参考図書、インターネット等）を事前に調べておくこと。
事後学習：　自己の課題を把握し、事後学習に活用できるようにしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして提出物にコメントを入れ、返却する。

成績評価の目安と方法

指導実践での指導内容（指導案を含む）70%　平常点（意欲・態度）　30%　　理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、安全面に考慮した指導を実践することができる。 |
| A | 陸上競技の特性および適切な指導方法を十分に理解し、指導を実践することができる。 |
| B | 陸上競技の特性および指導方法を概ね理解し、指導を実践することができる。 |
| C | 陸上競技の特性および指導方法を理解し、指導を実践することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 体操・器械運動１　[Basic Gymnastics] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 馬場 亮輔 | | S-S4095 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）、子ども身体運動発達指導士

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | マット<br>跳び箱<br>鉄棒 | 器械運動とは、マット・跳び箱・鉄棒などの器械を使って自己の持つ能力を最大限に発揮し、多種多様な運動を行なう個人的スポーツである。すべての技は「技術」の上に成り立ち、各技における技術の獲得を本授業の目的とする。また、他者との競争や記録の向上を目指すものではなく、各種の障害や難しさに挑戦し、それを克服する楽しさを感じてもらいたい。 |

学習の到達目標

授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達することを目的とする。教員や指導者として最低限必要な技能を獲得すること。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業計画、内容の説明 |
| 2 | マット | 前転系 & 後転系 |
| 3 | マット | 倒立の練習（倒立前転） |
| 4 | マット | 側方系（側方倒立回転　側方倒立回転とび） |
| 5 | マット | 前方倒立回転とび（ハンドスプリング） |
| 6 | マット | マット運動　演技実施 |
| 7 | 鉄棒 | 入り技（足掛け上がり　逆上がり支持　け上がり） |
| 8 | 鉄棒 | 中技（前回り支持　後ろ回り支持） |
| 9 | 鉄棒 | 下り技（支持振動下向きひねり下り　開脚足裏支持回転下り　振りとび下り） |
| 10 | 鉄棒 | 鉄棒　演技実施 |
| 11 | 鉄棒 | 切り返し系（1 型開脚とび、2 型開脚とび） |
| 12 | 跳び箱 | 切り返し系（1 型閉脚とび、2 型閉脚とび） |
| 13 | 跳び箱 | 回転系（台上前転、頭はねおき、転回とび） |
| 14 | 跳び箱 | 跳び箱　演技実施 |
| 15 | 他種目 | 他種目を体験 |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：「教師のための運動学」 監修：金子明友

準備学習・事後学習

準備学習： 体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を事前にしておくこと。
事後学習： 実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中は勿論のこと、授業前後の時間を用いて適宜対応する。

成績評価の目安と方法

各種目における技の修得・課題解決方法への理解　　実技試験 60%　 授業態度および取り組み姿勢 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 授業態度が良く、実技能力が抜群である。 |
| A | 授業態度が良く、実技能力が優秀である。 |
| B | 授業態度が良く、実技能力が中程度である。 |
| C | 授業態度が良く、実技能力を基本的には身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 体操・器械運動２　[Advanced Gymnastics] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 馬場 亮輔 | | S-S5096 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | マット<br>跳び箱<br>トランポリン | 器械運動とは、器械を使って自己の持つ能力を最大限に発揮し、多種多様な運動を行なう個人的スポーツである。すべての技は「技術」の上に成り立ち、各技における技術の獲得を本授業の目的とする。また、器械運動において必要とされる空中感覚を養うためにトランポリンを用いる。 |

学習の到達目標

授業では、各種器械の基本技術を身につけることから出発し、「できない」⇒「できる」⇒「より上手に（美しく）できる」に到達することを目的とする。また、本授業では各種目において応用技の習得を目指す。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業計画説明 |
| 2 | マット | 前転系　後転系　倒立 |
| 3 | マット | 側方系　ハンドスプリング導入 |
| 4 | マット | ハンドスプリング |
| 5 | マット | 後転とび |
| 6 | マット | 後転とび |
| 7 | マット | 後転とび |
| 8 | マット | 後転とび |
| 9 | 跳び箱 | 切り返し系（開脚とび　閉脚とび　屈伸とび） |
| 10 | 跳び箱 | 回転系（台上前転　倒立倒れこみ　前方倒立回転とび） |
| 11 | 跳び箱 | 回転系（前方倒立回転とび　側方倒立回転とび） |
| 12 | トランポリン | 基礎技（レギュレーション） |
| 13 | トランポリン | 応用技（レギュレーション） |
| 14 | トランポリン | ミニトランポリンを用いた技など |
| 15 | 他種目 | 平行棒　平均台　あん馬　円馬 |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：図解コーチ 体操競技・男子 (スポーツシリーズ)　竹本正男 (監修)

準備学習・事後学習

準備学習：体操競技に関する基本的な知識の把握、実技練習に対する心身の準備（ストレッチなど）を事前にしておくこと。
事後学習：実技練習で習得した課題技のポイントを振り返り、次回の授業に反映させること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中は勿論のこと、授業前後の時間を用いて適宜対応する。

成績評価の目安と方法

各種目における技の修得・課題解決方法への理解　　実技試験 60%　授業態度および取り組み姿勢 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 授業態度が良く、実技能力が抜群である。 |
| A | 授業態度が良く、実技能力が優秀である。 |
| B | 授業態度が良く、実技能力が中程度である。 |
| C | 授業態度が良く、実技能力を基本的には身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 水泳１　[Basic Swimming] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 ・ 高橋 季絵 | | S-S4097 |

この授業に関係する資格

教育免許（保健体育）、健康運動実践指導者

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | 四泳法 | クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の技能を習得し、100m個人メドレーの完泳をめざす。 |
| 2 | 水中運動 | 水中運動指導の基礎技能を身につける。 |
| 3 | 安全水泳指導法 | 子どもの安全な水泳指導法を身につける。 |

学習の到達目標

保健体育の授業運営が可能となるように各泳法の段階的指導を通じて泳力を高め、正しい泳法で泳ぐ技能を身につける。
健康づくりのための水中運動を理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 個人カード作成、能力判定表の作成 |
| 2 | プール清掃 | プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ |
| 3 | 試し泳ぎとクロール(1) | 試し泳ぎとチーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳 |
| 4 | クロール(2) | チーム練習：ターン練習と 50m泳、100m泳、レポート作成 |
| 5 | 背泳ぎ(1) | チーム練習：キック、プル、呼吸法の練習、25m泳 |
| 6 | 背泳ぎ(2) | チーム練習：ターン練習と 50m泳、レポート作成 |
| 7 | 平泳ぎ(1) | チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳（伸びをとった９動作で） |
| 8 | 平泳ぎ(2) | チーム練習：ターン練習と 50m泳、レポート作成 |
| 9 | バタフライ(1) | チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳 |
| 10 | バタフライ(2) | チーム練習：キック、プル、息継ぎの練習、25m泳、レポート作成 |
| 11 | 水中運動(1) | その場、歩いて、走って行う水中運動基礎プログラム |
| 12 | 水中運動(2) | 水中でのレジスタンストレーニング |
| 13 | 個別練習 | 10 分間泳、100m個人メドレー |
| 14 | 安全水泳(1) | 安全な水泳指導法講義と実技練習 |
| 15 | 安全水泳(2) | 子どもプール教室実習 |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

教科書（購入）：「基礎からの水泳（ＤＶＤ付き）」、柴田晴夫、ナツメ社

準備学習・事後学習

準備学習：教科書の種目別練習法の泳法の画像から動作のイメージをつかみ、泳法習得のポイントを理解して備えること。
事後学習：毎時の練習記録を授業ノートにまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

成績評価の目安と方法

実技試験 70%　レポート・平常点 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ 10 分間に 400mを泳ぐ泳力がある。 |
| A | 100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ 10 分間に 375mを泳ぐ泳力がある。 |
| B | 100m個人メドレーが正しい泳法で泳げる。 |
| C | ４泳法が泳げる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 水泳２　[Advanced Swimming] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 ・ 高橋 季絵 | | S-S5098 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 四泳法<br>100m個人メドレー<br>指導実習 | クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四泳法の指導法を学ぶ。<br>水中運動指導の指導法を学ぶ。<br>幼児や小学生の安全な水泳指導法をみつける。 |

学習の到達目標

保健体育の授業運営が可能となるように各泳法の段階的指導法を理解し、指導計画、実践、点検し、改善する能力を習得する。
子どもの安全な水泳指導法を理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 個人カード作成、能力判定表の作成 |
| 2 | プール清掃 | プール清掃をとおして、プール管理の方法を実践的に学ぶ |
| 3 | 指導法(1) | 指導案の作成 |
| 4 | 模擬授業：クロール | キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習 |
| 5 | 模擬授業：背泳ぎ | キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習 |
| 6 | 模擬授業：平泳ぎ | キック、プル、呼吸法の個別指導法と泳法練習 |
| 7 | 模擬授業：バタフライ | キック、プル、息継ぎの個別指導法と泳法練習 |
| 8 | 模擬授業のまとめ | 画像による模擬授業の指導振り返りとレポート作成 |
| 9 | 実技のまとめ | 泳法テスト、100m個人メドレー、10 分間泳 |
| 10 | 指導実習 (1) | 水泳指導実習 |
| 11 | 指導実習 (2) | 水泳指導実習 |
| 12 | 指導実習 (3) | 水泳指導実習 |
| 13 | 指導実習 (4) | 水泳指導実習 |
| 14 | 指導実習 (5) | 水泳指導実習 |
| 15 | 指導実習 (6) | 水泳指導実習 |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

教科書（購入）：「水泳指導の手引　（三訂版）」、文部科学省、日本文教出版株式会社

準備学習・事後学習

準備学習： テキストの泳法指導法に目を通して、指導段階を理解しておくこと。
事後学習： 毎時の授業内容を学習ノートにまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

成績評価の目安と方法

実技試験 40%　指導レポート 40%　平常点 20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 200m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、かつ 10 分間に 400mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。 |
| A | 100m個人メドレーが正しい泳法で速く泳げ、かつ 10 分間に 375mを泳ぐ泳力があり、高い水泳指導能力がある。 |
| B | 100m個人メドレーが正しい泳法で泳げ、水泳指導能力がある。 |
| C | ４泳法が泳げ、水泳指導ができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技１（バレーボール） [Basic Volleyball] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 杉山 仁志 | | S-S4099 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | バレーボール<br>基礎技術<br>審判法 | バレーボールの基本的技術（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・スパイク）を習得し、ゲームを楽しむことが出来る様にする。 |

学習の到達目標

バレーボールの特性にふれ、基本的な技能を身につけ、自らがバレーボールの楽しさを知ることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業展開についての説明 評価についての説明 |
| 2 | 基礎技術１ | オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得 |
| 3 | 基礎技術２ | オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得 |
| 4 | 基礎技術３ | 対人パスからレシーブ技術の習得 |
| 5 | 基礎技術４・連携技術１ | 複数人でのレシーブ技術の習得 |
| 6 | 基礎技術５ | スパイクの技術習得 |
| 7 | 基礎技術６・連携技術２ | パス及びレシーブからのスパイク技術の習得 |
| 8 | 基礎技術７ | サーブの技術習得 |
| 9 | 基礎技術８・連携技術３ | サーブからのレシーブ技術習得 |
| 10 | 基礎技術９・連携技術４ | 複数人でのサーブレシーブからの攻撃展開 |
| 11 | 連携技術５ | ゲームを行う際の基本的なルール解説 |
| 12 | 連携技術６ | ６人制バレーボールのゲーム |
| 13 | 連携技術７ | ６人制バレーボールのゲーム |
| 14 | 連携技術８ | ６人制バレーボールのゲーム |
| 15 | まとめ・技術の確認 | まとめ |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：バレーボールの学習指導 小鹿野友平、杤堀申二 著（不昧堂出版）
ルールブック（財）日本バレーボール協会

準備学習・事後学習

準備学習：楽しくゲームが行えるようにルールブック等を参照し、理解しておく。
事後学習：技術習得が不十分な場合には、時間外に個別で練習を行い、習得に心がける。

課題に対するフィードバックの方法

技術習得状況を授業の初めに確認する。

成績評価の目安と方法

実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）８０％ 平常点・授業態度 ２０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）すべての技術を習得している。 |
| A | 実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）のうち３種目の技術を習得している。 |
| B | 実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）のうち２種目の技術を習得し、平常点も良好である。 |
| C | 実技試験（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・レシーブ・スパイク）のうち２種目の技術を習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技１（ハンドボール） [Basic Handball] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 高橋 琴美 ・ 福田 丈 | | S-S4099 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ハンドボール<br>チームワーク<br>歴史・ルールの理解 | 本授業ではハンドボールの基本的な技術を習得し、歴史・ルールを理解することで、よりハンドボールというスポーツへの理解を深めることをねらいとする。また、授業を通して各チーム内での公正性・協調性を養い、マナー等を身につけることによって、指導者としての態度を育てる。 |

学習の到達目標

ハンドボールへの理解を深め、ハンドボールを楽しむこと、そしてハンドボールの基本的な技術を習得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業展開・評価についての説明、授業においての注意事項、ルール説明とハンドボールの歴史 |
| 2 | 基本技術１ | パス・キャッチ技術の習得、<br>動きの中でのパス・キャッチ技術の習得（ハーフコート→オールコート） |
| 3 | 基本技術２ | 動きの中でのパス・キャッチ技術の習得（練習方法）<br>基本的なシュート技術の習得①　（ステップシュート・ジャンプシュート） |
| 4 | 基本技術３ | 基本的なシュート技術の習得②　（シュートコースを意識する） |
| 5 | 基本技術４ | 各ポジションにおけるシュート技術の習得、ゴールキーパー技術の解説 |
| 6 | 基本技術５ | 速攻２：１での攻撃（縦 1/2 コート）と防御 |
| 7 | 基本技術６ | 速攻１：0、１：１での動きの習得、パスカット |
| 8 | グループ戦術１ | 遅攻３：２（パラレルプレー）での攻撃と防御 |
| 9 | グループ戦術２ | 遅攻３：２（クロスプレー）での攻撃と防御 |
| 10 | グループ戦術３ | 遅攻４：３（ポストプレー）での攻撃と防御 |
| 11 | ゲーム１ | 簡易ゲーム（ハーフコート）における個人技術の習得とルール解説と審判法 |
| 12 | ゲーム２ | ゲームにおけるグループ戦術の習得と審判法の習得 |
| 13 | ゲーム３ | ゲームにおけるグループ戦術の習得と審判法の習得とスコアのつけ方 |
| 14 | ゲーム４ | ゲームにおけるグループ戦術の習得と審判法の習得とスコアの活用法 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 実技試験・レポート課題 | |

教科書及び参考図書

参考図書：ハンドボール指導教本（大修館書店）、ハンドボール競技規則

準備学習・事後学習

準備学習：ルールについて、競技規則や映像などで確認しておくこと。

事後学習：授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、毎時間学んだ技術をどのくらい習得できているか確認し、コメントする。

成績評価の目安と方法

平常点 50%　実技試験 40%　レポート 10%　理由のない遅刻・欠席は減点とする

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術ともに十分に習得している。 |
| A | ハンドボールへの理解を深め、基本的技術・グループ戦術を習得している。 |
| B | ハンドボールへの理解を深め、基本的技術を十分に習得している。 |
| C | ハンドボールへの理解を深め、基本的技術を習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技１（テニス） [Tennis] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 佐藤 亮輔 | | S-S4099 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ボールコントロール<br>サービス<br>ダブルスゲーム | 基本技術（ボレー、サービス、グラウンドストローク、スマッシュ等）を習得し、ダブルスのゲームができるルール、マナーを学習する。 |

学習の到達目標

スポーツの指導者として必要なテニスの技能・知識を習得するとともに、自らが生涯スポーツの一つとしてテニスを継続的に楽しめることができるようにする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要を理解する。用具に慣れる |
| 2 | ストローク（基本） | ワンバウンドのボールを打ってみる |
| 3 | ボレー（基本） | ボールをダイレクトで打ってみる |
| 4 | ミニゲーム | ミニゲームをしながら、ゲームの進め方を理解する |
| 5 | サービス | サービスの打ち方を習得する |
| 6 | ミニゲーム | サービスを使ってミニゲームをする |
| 7 | スマッシュ | 高いボールの打ち方を習得する |
| 8 | ボレー（応用） | 高さの違うボール（ロー、ハイ）をボレーする技能を習得する |
| 9 | ストローク（応用） | 前後、左右に移動してストロークを打つ技能を習得する |
| 10 | 実践練習① | ダブルスのゲームに必要なルール、マナーを習得する |
| 11 | 実践練習② | ダブルスのゲームに必要な技能、戦略を習得する |
| 12 | 実践練習③ | ダブルスのゲームに勝つための技能、戦略を習得する |
| 13 | ゲーム① | ダブルスのゲームを楽しむ |
| 14 | ゲーム② | リーグ戦形式でダブルスのゲームをする |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 実技試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：スポーツ・ステップアップ テニスパーフェクトマスター

準備学習・事後学習

準備学習：世界４大大会のうち、最低１試合は見てイメージや感想等をまとめておくこと。
事後学習：授業で学んだルールについてまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

技能 60%　平常点 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | テニスの応用技術を十分に身に付けている。 |
| A | テニスの応用技術を身に付けている。 |
| B | テニスの基本技術を身に付けている。 |
| C | テニスのボールコントロールを身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技１（バスケットボール） [Basic Basketball] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 川井 明 | | S-S4099 |

この授業に関係する資格

教員免許状（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | バスケットボール<br>ファンダメンタル<br>リーダーシップ | 授業の前半部分でパス、ドリブル、シュートなど基本練習を行い、後半部分はそれらをふまえゲームを行う。<br>※運動に適した服装で受講すること（ジーンズなどでの参加は認めない）。運動靴で構いませんが、怪我の予防の為、素足は不可とする。<br>前回の授業で学んだ内容のなかで苦手とする内容については空き時間を活用し反復練習すること。 |

学習の到達目標

バスケットボールを楽しむための技術・知識・態度を学び、社会性（協調性、チームワーク、リーダーシップなど）の育成を目指す。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、評価に関する説明 チーム編成 |
| 2 | レイアップシュート１ | アンダーハンドのレイアップ |
| 3 | レイアップシュート２ | オーバーハンドのレイアップ、レイバック |
| 4 | セットシュート１ | セットシュートの基本（ボールの持ち方、姿勢、膝の使い方） |
| 5 | セットシュート２ | セットシュートの基本（ゴール下のシュート、フリースロー） |
| 6 | パス１ | チェストパス、サイドハンドパス |
| 7 | パス２ | スクウェアパス |
| 8 | ドリブル１ | ボールハンドリング、ドリブルの基本 |
| 9 | ドリブル２ | ボールハンドリング、状況に応じたドリブル |
| 10 | 速攻１ | ツーメン速攻 |
| 11 | 速攻２ | スリーメン速攻 |
| 12 | 速攻３ | ２対１、３対２のアウトナンバーでの攻防 |
| 13 | コーディネーショントレーニング | バスケットボールにおけるコーディネーショントレーニングの紹介 |
| 14 | 試験対策 | 班ごとに実技試験の練習 |
| 15 | 実技試験 | レイアップシュート、マイカンドリル他 |
| 試験等 | 実技試験 マルチプル・シューティングテスト他 | |

教科書及び参考図書

参考図書：バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会 大修館書店

準備学習・事後学習

準備学習： バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。
事後学習： 授業中の内容を復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

運動技能 60% 授業態度 20% 実技試験 20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 基本的な技能を充分に身に付け、授業内でリーダーシップを発揮している。 |
| A | 基本的な技能をおおむね身に付け、意欲的に取り組む姿勢が見られる。 |
| B | 基本的な技能をある程度身に付け、ゲームに活かすことができる。 |
| C | 基本的な技能を理解し、いくつかを身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技１（サッカー） [Basic Soccer] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 田本 育代 | | S-S4099 |

この授業に関係する資格

サッカー公認Ｃ級コーチ、教員免許（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | サッカー・フットサルコース<br>実技＆講義<br>語源・歴史・ルールの理解 | 個人の技術・戦術を中心に、ボールポゼッションに特化したグループ戦術へと展開していく。授業は、その時間のテーマに則り、前半を技術・戦術の練習にあて、後半にミニゲームを行なう。また、簡単な実技試験を課す。雨天時はサッカーの歴史や語源、ルール等を理解するための講義とし、筆記テストを実施する。 |

学習の到達目標

世界でもっとも愛され親しまれているサッカー（フットボール）を楽しむことにより、その魅力に迫るとともに基礎技術と個人戦術の習得や歴史・ルールの理解を通してサッカーに対する造詣を深めることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | ガイダンスとアセスメントゲーム |
| 2 | ドリブル | ジグザグドリブル、顔を上げたドリブル、スピーディなドリブル、ミニゲーム |
| 3 | コントロール | クッション＆ウエッジコントロール、グラウンダーのコントロール、ミニゲーム |
| 4 | キック | インサイドキック、アウトサイドキック、インステップキック、インフロントキック、ミニゲーム |
| 5 | フェイント | マシューズ、シザースを初めとした６種類のフェイントの習得、ミニゲーム |
| 6 | スクリーン＆ターン | スクリーンと６種類のターン技術の習得、ミニゲーム |
| 7 | ボールポゼッション① | ２対１、３対１、ミニゲーム |
| 8 | ボールポゼッション② | ３対１、４対２、ミニゲーム |
| 9 | ボールポゼッション③ | ５対３、５対５、ミニゲーム |
| 10 | 実技まとめ：試合 | 11 対 11 の試合、リーグ戦 |
| 11 | 講義:サッカーの歴史 | ＦＡ設立とサッカーの語源、サッカーの母国の特権、W杯とオリンピックの比較 |
| 12 | 講義:競技規則① | フェアプレーの精神、第一条 競技のフィールド、第２条 ボール他 |
| 13 | 講義:競技規則② | 反則と不正行為、フリーキック、オフサイド |
| 14 | 講義:システムの変遷 | 守備の方法とオフサイドルール改正等に伴うシステムの変遷 |
| 15 | 講義まとめ | 振り返りとまとめ |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：サッカー指導の教科書（日本サッカー協会著）

準備学習・事後学習

準備学習： 個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。
事後学習： 授業で学んだことを振り返ること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストに解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

授業への参加度 60%　実技試験 20%　筆記試験 20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | サッカーへの造詣を深めたうえに、習修した技術と戦術をゲームでいかすことができ、さらに、教育実習においても満足な指導ができる。 |
| A | サッカーへの造詣を深めたうえに、習修した技術と戦術をゲームで活かすことができる。 |
| B | サッカーへの造詣を深めたうえに、基礎的な技術と戦術を習得することができる。 |
| C | サッカーの基礎的な技術を習得することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技２（バレーボール） [Advanced Volleyball] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 川合 武司 ・ 杉山 仁志 | | S-S5100 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | バレーボール<br>指導法<br>審判法 | 授業の前半は、教育現場での指導を想定し展開する。<br>授業の後半は、社会体育の現場を想定し展開する。 |

**学習の到達目標**

バレーボールの基本技術を確認し、指導するために必要な技術と知識を習得する。
バレーボールの基本技術を活かし、高度な技術を習得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | オリエンテーション　授業展開の方法及び評価方法について説明 |
| 2~3 | 指導法１ | 中学校保健体育教員志望の学生に対し、教育現場での指導法を習得する。またそれを想定し、指導案を作成。模擬授業を行う |
| 4~7 | 指導法２ | 教員志望の学生を中心に、指導案を作成しそれにそって模擬授業を行う |
| 8~10 | 指導法３ | 地域スポーツでのバレーボール指導法を習得する。またそれを想定し、練習プログラムを作成する |
| 11~14 | 指導法４ | 地域スポーツでのバレーボール指導に必要なプログラムを各自で作成し、そのプログラムに則って、展開する |
| 15 | まとめ | まとめ・レポート作成 |
| 試験等 | レポート | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：バレーボール指導教本　（財）日本バレーボール協会編　大修館

**準備学習・事後学習**

準備学習：事前にバレーボールの指導書を熟読し理解をして授業に取り組む。
事後学習：自分が楽しむだけでなく、指導することを考え技術の習得、ルールの理解に励む。

**課題に対するフィードバックの方法**

授業の初めに技術習得状況の確認を行う。

**成績評価の目安と方法**

模擬授業及び模擬教室での指導内容（レポート含む）80%　平常点・授業態度 20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 模擬授業及び模擬教室での指導内容が十分に行え、レポートが良くまとまられている。 |
| A | 模擬授業及び模擬教室での指導内容が行え、レポートが良くまとまられている。 |
| B | 模擬授業及び模擬教室での指導内容が十分に行え、レポートを提出している。 |
| C | 模擬授業及び模擬教室での指導内容が行え、レポートを提出している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技２（ハンドボール） [Advanced Handball] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 高橋 琴美 ・ 福田 丈 | | S-S5100 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ハンドボール<br>指導法<br>審判法 | 球技 1（ハンドボール）で習得した技術、戦術をもとに授業を発展させ、さらに進んだ技術・戦術を習得する。その中でグループでの取り組みを重視し、グループ活動を中心に授業を展開させていく。特に「指導法」を意識し、課題に対するグループでの発表等を通して、指導法を理解していく。 |

学習の到達目標

ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術を習得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業展開・評価についての説明 授業においての注意事項とルール説明 |
| 2 | グループ戦術１ | 様々なパスの練習方法の解説 １：１突破（フェイント）の動きづくりと防御技術の習得 |
| 3 | グループ戦術２ | 様々なシュートの練習方法の解説 遅攻２：2→4：4の攻撃と防御 |
| 4 | グループ戦術３ | 様々なディフェンスの練習方法の解説 速攻２：2→4：4の攻撃と防御 |
| 5 | 指導法１ | 与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する） |
| 6 | 指導法２ | 与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する） |
| 7 | 指導法３ | 与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する） |
| 8 | 指導法４ | 与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する） |
| 9 | 指導法５ | 与えられた課題に対するグループ発表（指導案を作り、実際に指導する） |
| 10 | チーム戦術 | 速攻での６：６の攻撃と防御 遅攻での６：６の攻撃と防御 |
| 11 | ゲーム１ | 各グループでの基本技術習得 ミニゲームにおける個人技術の習得 |
| 12 | ゲーム２ | ゲームにおけるチーム戦術の習得 審判法の解説 |
| 13 | ゲーム２ | ゲームにおけるチーム戦術の習得 審判法の習得 |
| 14 | ゲーム４ | ゲームにおけるチーム戦術の習得 審判法の習得 |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | レポート課題 | |

教科書及び参考図書

参考図書：ハンドボール指導教本（大修館書店）、ハンドボール競技規則、誰でも教えられる！ハンドボール（梓書院）

準備学習・事後学習

準備学習：毎時間、指導法についてのレポートを提出するため、課題に対する教材研究をしておくこと。
事後学習：授業で学んだことを振り返り、しっかりと身につけられるよう練習をしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、提出されたレポートにコメントを入れ返却する。

成績評価の目安と方法

実技及びレポート 40% 平常点 30% グループ発表 30% 理由のない遅刻・欠席は減点とする

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ハンドボールの課題に対する指導法を理解、実践することができ、グループ戦術・チーム戦術を習得している。 |
| A | ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術・チーム戦術を習得している。 |
| B | ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、グループ戦術を習得している。 |
| C | ハンドボールの課題に対する指導法を理解し、基本的なグループ戦術を習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 球技２（バスケットボール） [Advanced Basketball] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 川井 明 | | S-S5100 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | バスケットボール<br>模擬授業<br>指導方法 | 授業の前半は指導方法の実践、後半はゲームを行う。グループでの話し合いにより、与えられた課題に対する練習メニューを決定し、実際に指導することにより、指導方法に対する理解を深める。<br>※球技１（バスケットボール）を履修して「A」評価以上を得ていることが望ましい。 |

学習の到達目標

球技１（バスケットボール）で習得した基本的な技術・戦術を確認し、さらに発展させていくことを目指す。更にグループごとに課題を決定し、バスケットボールの指導を実践していく。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方　評価に関する説明 |
| 2 | 復習 | 球技１で学んだ内容の復習 |
| 3 | １対１ | オフェンスの考え方　アウトサイド　インサイド |
| 4 | １対１ | ディフェンスの考え方　アウトサイド　インサイド |
| 5 | チームオフェンス１ | ハーフコートバスケットにおける基本的なポジショニング |
| 6 | チームオフェンス２ | パス＆ゴー |
| 7 | チームオフェンス３ | スクリーンプレイを用いた攻防 |
| 8 | ファストブレイク１ | ツーメン |
| 9 | ファストブレイク２ | 状況に応じたスリーメンの作り方　アーリーオフェンス |
| 10 | チームディフェンス１ | シェルディフェンス |
| 11 | チームディフェンス２ | ヘルプディフェンス |
| 12 | チームディフェンス３ | ゾーンディフェンス |
| 13 | 模擬授業１ | 上記の内容をふまえた模擬授業の展開１ |
| 14 | 模擬授業２ | 上記の内容をふまえた模擬授業の展開２ |
| 15 | 模擬授業３ | 上記の内容をふまえた模擬授業の展開３ |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：バスケットボール指導教本　日本バスケットボール協会　大修館書店

準備学習・事後学習

準備学習：　バスケットボールに関する情報を、新聞やニュース・雑誌・インターネットや書籍等を通して収集すること。
事後学習：　授業中の内容を復習すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中において、個人やグループ、チームに対して、随時適切なフィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

理解・技能 70%　　意欲・態度 30%
特に、実技試験は行わないが、授業中の積極的な態度や模擬授業の内容について、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 仲間と連携した動きを充分に理解・実践し、授業内でリーダーシップを発揮できる。 |
| A | 仲間と連携した動きを充分に理解し・実践できる。 |
| B | 仲間と連携した動きをよく理解し・実践できる。 |
| C | 仲間と連携した動きをおおむね理解し・実践できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 武道（柔道） [Judo] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技（集中）<br>アクティブ・ラーニング | 竹澤 稔裕 ・ 杉山 仁志 ・ 川井 明 | | S-S4101 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 柔道<br>中学校教員<br>礼法 | 柔道の特性である精神善用・自他共栄とは何かを知り、身体への影響・精神への影響及び対人的スポーツとしての柔道の内容を理解する。技能としては、投げ技・固め技及び受け身の基本動作を習得する。 |

学習の到達目標

中学校教員として、授業を行う際の基本的な技術と指導方法を身に付けることを目標とする。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション、柔道衣の取り扱い方、柔道の歴史と特性についての知識を深める、柔道学習におけるリスクマネージメントについて |
| 2 | 礼法と受け身、崩しと体捌きなどの基本動作の学習、受け身については、後ろ受け身の学習と、受け身の指導原則について |
| 3 | 横受け身、投げ技の基本動作の原理と指導の留意点 |
| 4 | 膝車、支え釣り込み足の学習と指導方法、特に段階別指導法について |
| 5 | 大腰、体落としの学習と指導方法、特に投げ技の指導の原理と原則 |
| 6 | 固め技の基本動作、袈裟固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法 |
| 7 | 横四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と、上四方固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法 |
| 8 | 固め技の攻撃・防御のための補強運動の理解、縦四方固め、肩固めの学習【抑え方、逃れ方】と指導法 |
| 9 | 一本背負い投げ、背負い投げの学習と指導法、かかり練習、約束練習、自由練習の考え方と指導法 |
| 10 | 大外刈り、大内刈り、小内刈りの学習と指導法 |
| 11 | 既習の投げ技の連絡技と変化技。既習の抑え技の連絡技 |
| 12 | 払い腰、内股の学習と指導方法、試合練習の考え方 |
| 13 | 裸絞め、送り襟絞めの学習と指導法、様々な試合練習の考え方 |
| 14 | 柔道の特性に基づく学習指導と評価について【授業実施に向けて】 |
| 15 | まとめ |
| 試験等 | 受け身と投げ技の実技試験 |

教科書及び参考図書

参考図書：中学校学習指導要領解説 保健体育編、Q＆A中・高校柔道の学習指導 大修館書店

準備学習・事後学習

準備学習：寒い中での活動になるので、体調管理を整え、実技に取り組めるよう努める。
事後学習：運動量が多いので、家でもストレッチ等を行うなど、疲れを残さないように努める。

課題に対するフィードバックの方法

技の確認におけるフィードバックはその都度口頭で行い、必ず理解をしてから次のステップに進むようにする。

成績評価の目安と方法

平常点 50%　実技試験 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 柔道の技術を十分に習得している。 |
| A | 柔道の技術を習得している。 |
| B | 柔道の基本的な技術を十分に習得している。 |
| C | 柔道の基本的な技術を習得している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ダンス・表現運動 [ Beginning Dance Exercise ] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 岡本 恵子 | 実 | S-S4102 |

この授業に関係する資格

教員免許（保健体育）、子ども身体運動発達指導士

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ダンス<br>表現<br>からだ | ステップ・フレーズ練習や、いろいろな課題による表現、フォークダンス、キッズダンス、日本民踊などを学び、最後にグループで一つのまとまりのある創作作品の完成発表を目指す。 |

学習の到達目標

グループ創作を中心に、自らの体験を通して踊る楽しさを知り、体への意識を高める。ダンス学習に積極的に取り組み、お互いの個性や表現を認め合い、人間の表現について理解を深める。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス（授業概要の説明） | ダンスの基礎知識　レポート課題 |
| 2 | ステップ・フレーズ練習１　いろいろな課題による表現１ | 布を使って表現　シャドーとミラー　即興 |
| 3 | ステップ・フレーズ練習２　フォークダンス基礎 | シングルサークルのダンス　マイムマイム　ほか |
| 4 | ステップ・フレーズ練習３　フォークダンス | ダブルサークルのダンス　カップルポジション |
| 5 | ステップ・フレーズ練習４　いろいろな課題による表現２ | キッズダンス　英語の歌 |
| 6 | からだほぐし１　日本民踊１ | 炭坑節　春駒　ほか |
| 7 | からだほぐし２　日本民踊２ | 花笠音頭 |
| 8 | からだほぐし３　アジアのダンス | 中国　採茶舞曲　ほか |
| 9 | いろいろな課題による表現３　グループ創作１ | 花　曲選び　イメージ |
| 10 | いろいろな課題による表現４　グループ創作２ | 大きな布を使って表現　テーマ　モチーフ |
| 11 | グループ創作３ | 全体の流れを考える　モチーフからの発展 |
| 12 | グループ創作４ | 音楽に合わせて |
| 13 | グループ創作５ | 一つの作品にまとめる |
| 14 | グループ創作作品発表会 | ビデオ撮影 、 レポート提出 |
| 15 | 全体のまとめ | グループ創作作品鑑賞 |
| 試験等 | 実技試験 、 レポート課題 | |

教科書及び参考図書

参考図書：「ダンスの教科書」（成美堂出版）　　＊授業中に必要に応じて、教材を配布する

準備学習・事後学習

準備学習：日頃から身体表現・ダンスに関心を持ち、積極的にふれるよう心がけること。
事後学習： 授業内容の復習と、グループ創作作品の個人練習・グループ練習。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の自己評価、レポートにコメントを入れ、返却する。

成績評価の目安と方法

平常点６０％ 、 創作作品３０％ 、 レポート１０％ として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ダンス学習と創作に積極的に取り組め、表現についての理解を深めることができる。 |
| A | ダンス学習に楽しく取り組め、表現できる。 |
| B | ダンス学習に取り組める。 |
| C | ダンスの基礎を体験できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | エアロビクス１　[Basic Aerobics] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技（演習）<br>アクティブ・ラーニング | 矢島 しのぶ | | NSM-S4103 |

この授業に関係する資格

健康運動実践指導者、GFI（ADI・ADBI）、スポーツクラブインストラクター

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | グループエクササイズ | フィットネスについての基本的概念とエアロビクスについての基礎知識を学ぶ。特にエアロビックダンスについて取り上げ、今までの歴史的背景と現在の状況を理解した上で、実際に指導者になっていくためには何が必要であるかを演習形式で学ぶ。グループで実習課題に取り組みながら指導者として必要な最低限の知識と実技を身につける。 |
| 2 | エアロビクス | |
| 3 | フィットネス | |

学習の到達目標

講義と実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビックダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。基本的プログラムを理解して覚え、指導（キューイング）できるようにする。

| 回 | 授業内容 | |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、運動実施の準備（アップ、ダウン） | |
| 2 | フィットネス概論 | 実技　エアロビクス基礎 1（ウォーキングエクササイズ１） |
| 3 | エアロビックダンスの生理的効果 | 〃　2（ウォーキングエクササイズ２） |
| 4 | エアロビックダンスの特性 | 〃　3（ジョギングエクササイズ１） |
| 5 | エアロビックダンスのプログラムとは？ | 〃　4（ジョギングエクササイズ２） |
| 6 | ウォームアップとクールダウン | エアロビックダンス基本　基本１ |
| 7 | メインエクササイズ | 〃　基本２ |
| 8 | コンディショニング | 〃　基本３ |
| 9 | エアロビックダンスと傷害 | 〃　応用１ |
| 10 | エアロビックダンスと栄養 | 〃　応用２ |
| 11 | エアロビックダンスグループ指導実習１ | |
| 12 | エアロビックダンスグループ指導実習２ | |
| 13 | エアロビックダンスグループ指導実習３ | |
| 14 | エアロビックダンスグループ指導実習４ | |
| 15 | まとめ・演習ノート提出 | |
| 試験等 | 実技試験、筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：エアロビックダンス基礎理論ハンドブック　池田美知子 等　（有）教育インフォメーションサービス
エアロビックダンスエクササイズ指導理論　（公社）　日本フィットネス協会

準備学習・事後学習

準備学習：　授業で学んだことを日常生活に取り入れ、体調を整えて授業に備えること。
事後学習：　授業内容を振り返り、テキスト等で確認しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フォードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。

成績評価の目安と方法

１．平常点　25%　２．演習ノート　25%　３．実技試験　25%　４．筆記試験　25%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 指導者として必要な知識・動作を身につけ、参加者を観察しながら基本プログラムを指導することができる。 |
| A | 指導者として必要な知識・動作を身につけ、基本プログラムを指導することができる。 |
| B | 指導者として必要な知識・動作を身につけている。 |
| C | 指導者として必要な最低限の知識・動作を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | エアロビクス２　[Advanced Aerobics] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技（演習）<br>アクティブ・ラーニング | 矢島 しのぶ | | NS-S5104 |

この授業に関係する資格

GFI（ADI）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | グループエクササイズ<br>エアロビクス<br>フィットネス | 現在フィットネスの現場で要求されている「グループエクササイズインストラクター」として 最低限必要な知識及び技術の獲得を目指す。さらに目的にあったプログラムの作成、安全性を考慮した明確で、分かりやすく楽しい指導を目標に実技技能をステップアップしていく。 |

学習の到達目標

講義及び実技を合わせた演習形式で行い、必ず演習ノートを提出する。単元毎に目標を明確にし、積み上げ学習とする。実技では、エアロビックダンスの様々なプログラムを経験し、正確に手本となる動作を身につける。自分で目的に合った基本的なプログラムを組み立て、指導できるようにする。

| 回 | 授業内容 | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | | |
| 2 | 講義（30 分）　フィットネスとは | 実技　基本プログラム | 1 |
| 3 | エアロビックダンスの特徴 | 〃 | 2 |
| 4 | エアロビックダンスプログラム | 応用プログラム | 1 |
| 5 | エアロビックダンスの指導者の役割① | 〃 | 2 |
| 6 | エアロビックダンスの指導者の役割② | 〃 | 3 |
| 7 | エアロビックダンスの指導者の役割③ | 指導法　1（プログラム） | |
| 8 | プログラム①　ウォームアップ | 〃 | 2 |
| 9 | プログラム②　メインエクササイズ | 〃 | 3 |
| 10 | プログラム③　筋コンディショニング | 〃 | 4 |
| 11 | プログラム④　クールダウン | 〃 | 5 |
| 12 | エアロビックダンスプログラム指導実践 1 | | |
| 13 | エアロビックダンスプログラム指導実践 2 | | |
| 14 | エアロビックダンスプログラム指導実践 3 | | |
| 15 | まとめ・演習ノート提出 | | |
| 試験等 | 実技試験、筆記試験 | | |

教科書及び参考図書

教科書：エアロビックダンスエクササイズ指導理論　（公社）日本フィットネス協会
フィットネス基礎理論　（公社）日本フィットネス協会

準備学習・事後学習

準備学習：　指導者になる意識を持って、明るく元気に休まずに出席すること。
事後学習：　授業で学んだことを振り返り、指導法を実践する機会を持つこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。

成績評価の目安と方法

１．平常点　25%　２．演習ノート　25%　３．実技試験　25%　４．筆記試験　25%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | グループエクササイズインストラクターとして、目的にあった運動プログラムを作成し、安全性を考慮した楽しい指導ができる。 |
| A | グループエクササイズインストラクターとして、安全性を考慮した楽しい指導ができる。 |
| B | グループエクササイズインストラクターとして、必要な知識・動作を身につけている。 |
| C | グループエクササイズインストラクターとして、必要な最低限の知識・動作を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ゴルフ１ [Basic Golf] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 川合 武司 ・ 江原 義智 | 実 | S-S4105 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ゴルフ<br>マナー・エチケット<br>ルール | ゴルフにおいて技術練習のみならずルールや安全への配慮についても学ぶ。テーマに応じた課題を各自に課し、自己発見・自己解決型の授業になるように努める。他のスポーツにない技能も求められるが、実践的な解説と練習を重ねながら、全員が上達できるように進めて行く。 |

学習の到達目標

ゴルフの基本的な知識・技能を身に付けることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う |
| 2 | ゴルフの基礎知識 | 用具の取扱い、安全確保の留意点、グリップの握り方 |
| 3 | 基本技術 1 | アドレス、スタンス |
| 4 | 基本技術 2 | スイング軸、スイング軌道 |
| 5 | 基本技術 3 | ハーフウェイバック、トップ、切り返し、インパクト、フォロー |
| 6 | アプローチショット | 基本的なアプローチショット、ピッチショット、バンカーショット |
| 7 | アイアンの打ち方 1 | 番手別クラブの共通性と相違点 |
| 8 | アイアンの打ち方 2 | ドローボール、フェードボールの打ち方 |
| 9 | アイアンの打ち方 3 | 傾斜での打ち方 |
| 10 | ウッドの打ち方 1 | フェアーウェイウッドの打ち方 |
| 11 | ウッドの打ち方 2 | ドライバーの打ち方 |
| 12 | パッティング | パターの基礎的な知識、技術 |
| 13 | 総合実践１ | ショートホールを利用した実践練習 |
| 14 | 総合実践２ | ロールプレイングを行い、ルールやマナー・エチケットの重要性再確認 |
| 15 | まとめ | 上達度と目標達成度確認 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司（本学学長）著 青春出版社

準備学習・事後学習

準備学習・事後学習：授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中適宜対応する。

成績評価の目安と方法

技能 50% 受講態度・意欲 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ゴルフの知識・技術を十分に身に付け、ゴルファーとしてプレイできる。 |
| A | ゴルフの知識・技術をよく身に付けている。 |
| B | ゴルフの知識・技術を身に付けている。 |
| C | ゴルフの基礎的な知識・技術を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ゴルフ２　[Intermediate Golf] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 川合 武司 ・ 江原 義智 | 実 | S-S5106 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ゴルフ<br>生涯スポーツ<br>ゴルフ指導法 | 本授業を通して、ゴルフに対する知識・技能をさらに発展させ、実際にコースを回れる能力を身に付けて頂きたいと願っている。そのため、技術の安定性を高め、ルールや安全への配慮についても学ぶ。単調なドリル練習だけでなく、テーマに応じた課題を各自で見つけ、受講生が主体となって授業を進めていただく。ゴルフ１より高度な技術が求められるが、詳しい解説と実践を重ね、全員が上達できるように進めて行く。受講意欲の高い学生に限ってゴルフ１を履修していなくても受け入れる。 |

学習の到達目標

1．ゴルフコースを回わる為　正しいグリップ、アドレス、スイングの習得と戦略を理解する。
2．ルールを理解しマナーとエチケットを身につけ、理想的な同伴競技者となる。
3．授業に、積極性・協調性・責任感をもって臨み、リーダーシップ・スポーツマンシップを発揮しながら、安全の確保にも留意し、生涯スポーツの一手段としてゴルフを取り入れる能力を養う。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う |
| 2 | ゴルフの基本確認 | (1)正しいグリップ、アドレス、スイング (2)ゴルフの危険性 (3)ゴルフルールと審判法の独自性 (4)スイングドリル |
| 3 | 基本スイング１<br>アイアンでの小さなスイング | (1)指、肘、肩の使い方 (2)リズム、反動動作とは (3)小さいスイングと大きなスイングの違い<br>(4)寄せのドリルとゲーム |
| 4 | 基本スイング２<br>アイアンでのハーフスイング | (1)スクエアなアドレスとは (2)肩と腰の回転方法 (3)正しい体重移動のポイント(4)距離感と方向性を高めるには |
| 5 | パッティング | (1)“パットに型なし”の意味 (2)ターゲットの捉え方 (3)ショートパットとロングパットの共通点と相違点 (4)パターゴルフ |
| 6 | 基本スイング３<br>色々なアイアンでのスイング | (1)クラブの特性の理解 (2)力は入れないと飛ばない！と力を抜け！の意味は (3)チップショットとピッチショット<br>(4)ターゲットゲーム |
| 7 | 基本スイングの完成へ向けて１<br>アイアン編 | (1)スイング軌道とインパクトのポイント (2)点とラインの意味は (3)誤動作の修正法 (4)色々なアイアンのドリル |
| 8 | プレショットルーティンの習得 | (1)自身の癖を知る (2)ゴルフにおける“ライン先取り”と“リズム鼻歌”の法則 (3)ルーティンの作り方<br>(4)ルーティンのドリル |
| 9 | 基本スイングの完成へ向けて２<br>ウッド編 | (1)ウッドとアイアンの共通点と相違点 (2)ウェッジからドライバーまでの連続性とは (3)ウッドの活用法<br>(4)各自の特性に応じたクラブの見つけ方 |
| 10 | 応用技能への発展とドリル | (1)ハザードに対する対処の考え方 (2)ラフからのショットのドリル (3)バンカーからのショットのドリル<br>(4)スコアーメイクとは |
| 11 | ルールの理解を深める | ショートホールを利用した実践練習でのルール解説（OB 等に対する対処法） |
| 12 | アドバイスの送り方 | (1)なぜ“教え魔”は嫌われるのか (2)アドバイスできることとできないこと、してはいけないこと<br>(3)効果的アドバイスの実践練習 |
| 13 | 総合実践１<br>技能を統合する | (1)長所、弱点の自己理解（ビデオによるイメージ化） (2)ショートホールを利用した実践練習 |
| 14 | 総合実践２<br>好かれるゴルファーになる | ショートホールを利用してロールプレイングを行い、ルールやマナー・エチケットの重要性再確認 |
| 15 | まとめ | 上達度と目標達成度確認 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：ゴルフ飛びの運動法則 川合武司（本学学長）著 青春出版社、ゴルフ“実戦の壁”を打ち破る運動法則 川合武司（本学学長）著 青春出版社、ゴルフもっと飛ばす運動法則 川合武司（本学学長）著 青春出版社、水巻善典・全美貞 ゴルフスイングの真実～これがわかればうまくなる～DVD 全３枚セット（本学学長出演）NHK エンタープライズ

準備学習・事後学習

授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中適宜対応する。

成績評価の目安と方法

技能 50%　受講態度・意欲 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ゴルフの知識と能力について応用力と指導法を十分に身に付け、リーダーシップも発揮できる。 |
| A | ゴルフの知識と能力について応用力を十分に身に付けている。 |
| B | ゴルフの知識と能力について力をつけている。 |
| C | ゴルフの能力についての基礎的な力をつけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 上級ゴルフ [Advanced Golf] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 江原 義智 | 実 | S-S5107 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | プロゴルファー<br>ティーチングプロ<br>プロキャディ | トーナメントプロ、プロキャディまたはティーチングプロを目指すために必要な実践的な技術、体力およびメンタルトレーニング法を学ぶ。実習では、近隣ゴルフ場におけるラウンド、筋力トレーニングを行い、座学では、競技力向上に必要なゴルフに特化した体力・メンタルに関する知識を学ぶ。 |

学習の到達目標

トーナメントプロ、プロキャディまたはティーチングプロとして現場で活用するために必要な知識、技能を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う |
| 2 | ゴルフの技術の確認 | ドライバー、フェアウェイウッド、アイアン、アプローチ、パター |
| 3 | ラウンド実践 1 | ハーフラウンドにおけるスコア集計 |
| 4 | ラウンド実践 2 | ハーフラウンドにおけるスコア集計 |
| 5 | スコア評価 | スコアの分析と評価、評価に基づく練習方法の構築 |
| 6 | ショートゲーム | 様々な場面におけるアプローチショット、ピッチショット、バンカーショット、パター |
| 7 | ラウンド実践 3 | プロトーナメントの現場からのコースメモの活用法 |
| 8 | 練習場の活用法 1 | 練習場におけるスイングマネジメント |
| 9 | ラウンド実践 4 | コースマネジメント |
| 10 | 練習場の活用法 2 | 各ショットにおけるドリルの実践 |
| 11 | ラウンド実践 5 | 傾斜地におけるスイングマネジメント |
| 12 | 体力・メンタル | 筋力および柔軟性トレーニング、メンタルトレーニングの実践 |
| 13 | ラウンド実践 6 | プレッシャーに対する対処法 |
| 14 | ラウンド実践 7 | スコアメイクの再確認 |
| 15 | まとめ | 上達度と目標達成度確認 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

『基本ゴルフ教本』日本プロゴルフ協会、『PGA ジュニア基本ゴルフ教本』日本プロゴルフ協会、
『GOLF ANATOMY』HUMAN KINETICS、 その他、適宜教材を配付・指示する。

準備学習・事後学習

授業時間外においても、ゴルフの競技力向上を目指してトレーニングを欠かさないことが望ましい。また、ラウンド実践には毎回¥3,000~¥5,000程度の費用が必要である。この授業を履修するには 2 時間以内でラウンドできる者、90 ストローク以内でラウンドできる者とする。

課題に対するフィードバックの方法

授業中およびオフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

技能 50% 受講態度・意欲 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 競技ゴルフに必要な知識や技術を、各場面のゴルフスタイルに応用できる能力を十分に身に付けている。 |
| A | 競技ゴルフに必要な知識や技術を、各場面のゴルフスタイルに応用できる能力を身に付けている。 |
| B | 競技ゴルフに必要な基礎的な知識や技術ついて理解している。 |
| C | 競技ゴルフに必要な基礎的な知識や技術ついて学習している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | サッカー・フットサル　[Soccer・Futsal] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 田本　育代 | | S-S4108 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| サッカー公認Ｃ級コーチ |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | サッカー・フットサルコース<br>両競技種目の比較<br>非指導側 | フットサルに特有な技術・戦術を習得するとともに、サッカーとは異なるルールを整理・理解してフットサルを楽しむ。２年生の「公認Ｃ級コーチ養成講習」における指導実践を、指導される側から体験してディスカッションに加わることで指導者としての第一歩(サッカー・フットサルコース)を踏み出す。 |

**学習の到達目標**

フットサルを楽しむことによりその魅力に迫り、フットサルに特有な技術の獲得とルールの理解を目標とする。２年次の「公認Ｃ級コーチ養成講習」に備え、指導される側を体験してコーチングについて理解することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | ガイダンス、ボール慣れ、アセスメントゲーム |
| 2 | ドリブル | 足の裏を使った運ぶドリブル、顔を上げた突破のドリブル、ゲーム |
| 3 | コントロール | 足の裏を使ったコントロール他、ゲーム |
| 4 | キック・シュート | トォーキック、スプーンパス、セカンドポストシュート、ゲーム |
| 5 | フェイント | フットサル特有のフェイントの習得、ゲーム |
| 6 | ボールポゼッション | ４対２、４対３、ゲーム |
| 7 | 攻撃 | ２人の関係での突破、ゴー・壁パス・ディアゴナル・ブロック＆コンティニューなど |
| 8 | 守備① | 数的不均衡な状況での守備、１対２、２対３、ゲーム |
| 9 | 守備② | リトリートディフェンスとプレッシングディフェンス、ゲーム |
| 10 | リスタート・サインプレー | コーナーキック、フリーキック、キックイン他、ゲーム |
| 11 | 実技まとめ・試合 | ナンバーカードゲーム |
| 12 | 指導実践：ドリル① | 公認Ｃ級コーチ養成講習の指導実践１回目（ドリル）で指導を受ける |
| 13 | 指導実践：ドリル② | 公認Ｃ級コーチ養成講習の指導実践１回目（ドリル）で指導を受ける |
| 14 | 指導実践：ゲーム① | 公認Ｃ級コーチ養成講習の指導実践２回目（ゲーム）で指導を受ける |
| 15 | 指導実践：ゲーム② | 公認Ｃ級コーチ養成講習の指導実践２回目（ゲーム）で指導を受ける |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：フットサルのルール（日本サッカー協会編）

**準備学習・事後学習**

準備学習：個人練習。最低限のルールについては覚えておくこと。
事後学習：授業で学んだことを振り返ること。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして理解度確認テストの解答を解説する。

**成績評価の目安と方法**

授業への参加度 60%　実技点 30%　指導実践のディスカッションでの発言 10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用でき、指導実践においてもディスカッションでの発言が活発である。 |
| A | サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を応用してプレーし、指導実践においてもディスカッションができる。 |
| B | サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違を理解し、積極的にプレーできる。 |
| C | サッカーとフットサルのルールや技術・戦術の相違に触れ、実践することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 上級サッカー [ Advanced Soccer ] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技<br>アクティブ・ラーニング | 齋藤 登 | 実 | S-S5109 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| サッカー 公認Ｃ級コーチ |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | サッカー・フットサルコース<br>公認Ｃ級コーチ・実技<br>指導実践 | (公財)日本サッカー協会「公認Ｃ級コーチ養成講習会」のカリキュラムに則って実技指導を行う。そのうえで、指導実践１回目（ドリル）並びに指導実践２回目（ゲーム）を実施する。なお、本講習は 12 歳以下の選手を対象とした指導者の養成である。 ※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。 |

**学習の到達目標**

(公財)日本サッカー協会「公認Ｃ級コーチ養成講習会」のカリキュラムのテーマに従い、楽しい雰囲気で指導実践１回目（ドリル）ができること、さらには指導実践２回目においてのパフォーマンス改善を目標とする。シンクロ並びにフリーズコーチングの使い分けができるようになる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 心構えと評価法 |
| 2 | ゲームとコーディネーション | スライディング、ボディコンタクト、ダブルフィールド４対４、背面ゴールゲーム |
| 3 | ゴールキーパー | スローイング、キャッチング、ステッピング、ローリングダウン、アングルプレー、ゲーム４対４+GK |
| 4 | 観る | ４対１ポゼッション、２対 2+1 サーバー+1 ターゲット、ゲーム５対３・３ゴール |
| 5 | ボールフィーリング＆ドリブル | ドリブルゲーム、３対３ラインゴール、ゲーム４対４+GK |
| 6 | パス＆コントロール | 対面パス、スクエアパス、６対３⇔6 対 2、４対４+1F、ゲーム４対４+GK |
| 7 | シュート | 多彩なキック・ヘディング・ボレー、キック＆シュートドリル、２対 2+5 サーバー、ゲーム３対 3+4 サーバー+GK |
| 8 | 守備のテクニック | ドジング、１対１の対応、１対 1+1、３対 3+3 サーバー+GK、ゲーム４対 4+1 フリーマン+GK |
| 9 | ボールを奪う | ３対 3+サーバーラインゴール、２対 2+2 対 2+GK、ゲーム４対４+GK |
| 10 | ポゼッション（サポート） | ４対 2(2 対 1+2 対 1)、４対４+サーバー ４ゴールゲーム、ゲーム５対 5+GK |
| 11 | ゴールを目指す | シュートドリル、３対 3+2 サーバー+GK、ゲーム５対 5+GK |
| 12 | 指導実践１回目 | 各自のテーマでの指導実践１回目における反省とディスカッション |
| 13 | 指導実践２回目 | 各自のテーマでの指導実践２回目における反省とディスカッション |
| 14 | 指導実践 振り返りと追試 | 各自のテーマでの指導実践における振り返りと追試 |
| 15 | ガイダンス 閉講式 | 実技および指導実践の振り返り 今後に向けて |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

教科書：(公財)日本サッカー協会「公認Ｃ級コーチ養成講習会」の全テキスト

**準備学習・事後学習**

準備学習： 実技が多いため、各自コンディショニングが必要。
事後学習： 指導教本にて実技内容を復習。

**課題に対するフィードバックの方法**

指導実践に対し、受講者同士のディスカッションおよび教員よりフィードバックを行う。

**成績評価の目安と方法**

指導実践 60% 参加態度 20% ディスカッションでの発言・発表 20% ※本授業は「全出席」が前提である

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 楽しい雰囲気かつ改善が明らかな指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的かつ的確な発言ができる。 |
| A | 楽しい雰囲気かつ改善が認められた指導実践ができ、ディスカッションにおいて積極的な発言ができる。 |
| B | 楽しい雰囲気で指導実践ができ、ディスカッションにおいて発言ができる。 |
| C | 指導実践ができ、ディスカッションに参加できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | サッカー指導法 [ Coaching Method of Soccer ] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 齋藤 登 | 実 | S-S3110 |

この授業に関係する資格

サッカー 公認Ｃ級コーチ

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | サッカー・フットサルコース<br>公認Ｃ級コーチ・講義<br>通信教育課題 | 「公認Ｃ級コーチ養成講習」のカリキュラムに則って講義を展開する。下記授業内容のテーマを確実に理解し、日本サッカーの指導法の基本と考え方をマスターする。なお、本講習は 12 歳以下の選手を対象とした指導者の養成である。 ※教育実習、介護等体験との重複を必ず避けること。 |

学習の到達目標

(公財)日本サッカー協会「公認Ｃ級コーチ」のライセンス取得を目標とする。本科目は「私の専門はサッカーです」と言うためのサッカー・フットサルコースである。サッカーに関する知識はもちろん、発育発達、技術・戦術、コーチング法等に関する知識を確実に習得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 日本サッカーの夢、理念、ビジョン、組織、本コースについて |
| 2 | ゴールキーパー | 育成年代のＧＫの指導、求められるＧＫ像 |
| 3 | 発育発達と一貫指導 | 一貫指導の考え方、成長のプロセスと各時期の特徴、U-12 年代にすべきこと |
| 4 | 技術戦術理論Ⅰ | サッカーの特性、目的、仕組み他 |
| 5 | 技術戦術理論Ⅱ | 攻撃と守備の目的・手段・方法、個人戦術（攻撃）、個人戦術（守備） |
| 6 | 技術戦術理論Ⅲ | テクニックの重要性、サッカーのテクニック、テクニック指導の考え方、サッカー選手に必要な要素 |
| 7 | コーチング法Ⅰ | コーチングの目的、プレーの分析、プランニング、M-T-M |
| 8 | コーチング法Ⅱ | 働きかけの考え方、コーチングの方法、トレーニングの留意点 |
| 9 | 指導者の役割Ⅰ | 大人の役割、環境整備、勝つことと育てること、女子サッカー |
| 10 | 指導者の役割Ⅱ | 指導者の関わり、指導者のあり方、子ども達に伝えること、暴力の根絶、サッカー・スポーツを文化に |
| 11 | 審判 | 競技規則、審判員の役割、審判法の理解、たくましい選手の育成 |
| 12 | メディカル | 外傷と障害、熱中症と突然死と救命措置、応急処置、コンディショニング・食事と睡眠、脳震盪、低体温症 |
| 13 | 指導実践ガイダンス | 指導実践１・２回目のテーマ決めと指導実践の解説と振り返り |
| 14 | グループワーク | グループワーク、通信教育課題の解説・評価 |
| 15 | まとめ | 講義のまとめ 閉講ガイダンス |
| 試験等 | 筆記試験、その他通信教育（レポート）あり | |

教科書及び参考図書

教科書：(公財)日本サッカー協会「公認Ｃ級コーチ養成講習会」の全テキスト

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： シラバスの内容を確認して、教科書等で指導法のイメージを持つように予習。
事後学習（週 1.5 時間）： テキストにて授業内容を復習。

課題に対するフィードバックの方法

筆記試験及びレポートに対し、フィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 40%　通信教育課題レポート 30%　参加態度 30%　※本授業の全出席が前提である

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | サッカーに関する知識を深く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を十二分に兼ね備えている。 |
| A | サッカーに関する知識を良く理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を十分兼ね備えている。 |
| B | サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を兼ね備えている。 |
| C | サッカーに関する知識を理解したうえで、レポート、研究発表、筆記試験を通じて指導者としての資質を得ている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 医療事務１、２　[Medical Office Work Ⅰ, Ⅱ] | 各２ | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 若菜 智子 | | M-S2111 |

この授業に関係する資格

医療事務検定試験

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 医療事務<br>病院<br>レセプト | 今日、わが国では超高齢社会が到来し、国民医療費は増大の一途をたどっている。このため医療の現場ではレセプト（医療機関が国や市町村、健保組合などに支払いの請求を行うための請求書）件数も大幅に増加している。こうした状況に伴い、レセプトを的確かつ迅速に処理できる「スペシャリスト」になるための知識と技術を身につけ、医療機関から必要とされる人材になることが本講座のねらいである。 |

学習の到達目標

本講座では、保険の概要から学び、最終的には医療機関への就職に必要な受付・会計の技術を身につけ、国公立病院をはじめ、大学病院や診療所の事務員として幅広く医療業界に就職し、即戦力で活躍できる知識習得を目標とする。最終的には「医療事務検定試験」の資格取得を目指す（検定試験の合否は成績評価には関与しない）。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1･2 | 【医療事務１】 | 医療事務の基礎 |
| 3･4 | 【医療事務２】 | 基本診療料Ａ |
| 5･6 | 【医療事務３】 | 基本診療料Ｂ |
| 7･8 | 【医療事務４】 | 医学管理等・在宅医療 |
| 9･10 | 【医療事務５】 | 投薬 |
| 11･12 | 【医療事務６】 | 注射 |
| 13･14 | 【医療事務７】 | 処置Ａ |
| 15･16 | 【医療事務８】 | 処置Ｂ・リハビリテーション |
| 17･18 | 【医療事務９】 | 手術・麻酔Ａ |
| 19･20 | 【医療事務 10】 | 手術・麻酔Ｂ |
| 21･22 | 【医療事務 11】 | 検査Ａ |
| 23･24 | 【医療事務 12】 | 検査Ｂ |
| 25･26 | 【医療事務 13】 | 画像診断 |
| 27･28 | 【医療事務 14】 | 請求事務関連・修了課題 |
| 29･30 | 【医療事務 15】 | 補足・まとめ |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：医療事務講座テキスト一式

【持ち物】電卓（携帯電話・パソコン等は使用不可）　蛍光ペン３色　筆記用具　教科書

【医療事務検定試験】※試験は大学構内で受験となる。授業中の携帯電話の使用は禁じる。

準備学習・事後学習

準備学習（週１時間）：　次回の項目をテキストで読んで内容を確認する。

事後学習（週２時間）：　授業の復習としてカルテ問題集と共にテキスト内の「課題」「練習問題」を実施。（該当箇所は授業内で指定する）

課題に対するフィードバックの方法

誤った箇所を解説して返却。

成績評価の目安と方法

平常点 100%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 医療事務の知識を十分身に付けている。 |
| A | 医療事務の知識を身に付けている。 |
| B | 医療事務の知識が理解している。 |
| C | 医療事務の知識を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 医療事務３ [Medical Office Work Ⅲ] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 若菜 智子 | | M-S3112 | | |

この授業に関係する資格

「医事コンピュータ能力技能検定試験」・「調剤報酬請求事務技能検定試験」

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 医療事務コンピュータ<br>調剤事務<br>病院 | ＜医療事務コンピュータ＞<br>医療機関ではコンピュータによる会計システムが導入され、特に医療費の算定に関わる業務ではその操作スキルが必須とされている。医療事務１・２で学習する基礎スキルに加えて、医療事務の会計システムに精通し、幅の広い知識とスキルを持つことで、就職を有利に進め、就業後のキャリアアップにも役立てていただくことが本講座のねらいである。<br>＜調剤薬局事務＞<br>数年前より、病院から薬局を部外に出し、病院のコストダウンをはかろうという国の政策が進められている。それに伴い、調剤薬局も急激に増えてきていますが、現場では請求事務のできる方が不足している状態である。こうした状況に伴い、保険・調剤の基礎から調剤報酬明細書（レセプト）の作成までを習得し、調剤薬局から必要とされる人材になることが本講座のねらいである。 |

学習の到達目標

＜医療事務コンピュータ＞ 本講座では、医療事務１・２の講義で学んだ知識を基に、医療事務コンピュータの操作に慣れ、実務に就いた時に慌てることなく、現場で即戦力として働く為の知識の習得を目指し、最終的には「医事コンピュータ能力技能検定試験」の資格取得を目指す（検定試験の合否は成績評価には関与しない）。

＜調剤薬局事務＞ 本講座では、保険・調剤の基礎から調剤報酬明細書（レセプト）の作成までを習得し、実務ですぐ役立つ知識を身に付ける。最終的には、「調剤報酬請求事務技能検定試験」の資格取得を目指す（検定試験の合否は成績評価には関与しない）。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 【医療事務コンピュータ１】 | システムの概要、基本診療 |
| 2 | 【医療事務コンピュータ２】 | 投薬、会計等、注射 |
| 3 | 【医療事務コンピュータ３】 | 処置、手術、麻酔Ａ |
| 4 | 【医療事務コンピュータ４】 | 処置、手術、麻酔Ｂ |
| 5 | 【医療事務コンピュータ５】 | 検査、画像診断Ａ |
| 6 | 【医療事務コンピュータ６】 | 検査、画像診断Ｂ |
| 7 | 【医療事務コンピュータ７】 | 入院Ａ |
| 8 | 【医療事務コンピュータ８】 | 入院Ｂ |
| 9 | 【医療事務コンピュータ９】 | 補講・修了課題 |
| 10 | 【調剤薬局事務１】 | 医療保険の概要と薬剤の基礎知識 |
| 11 | 【調剤薬局事務２】 | 薬剤料の計算 |
| 12 | 【調剤薬局事務３】 | 調剤技術料 |
| 13 | 【調剤薬局事務４】 | 薬学管理料 |
| 14 | 【調剤薬局事務５】 | レセプト作成（基本編） |
| 15 | 【調剤薬局事務６】 | 補講・修了課題 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：医療事務コンピュータテキスト一式　　調剤薬局事務テキスト一式

【持ち物】電卓（携帯電話・パソコン等は使用不可）　蛍光ペン３色　筆記用具　教科書

【医事コンピュータ能力技能検定試験】【調剤報酬請求事務技能検定試験】　※試験は大学構内で受験となる

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：【医療事務コンピュータ】医療事務講座のテキストにて算定方法を復習として確認する。

事後学習（週 1.5 時間）：【調剤薬局事務】授業の復習を問題集にて練習する。（該当箇所は授業内で指定する）

課題に対するフィードバックの方法

間違った箇所を解説して返却。

成績評価の目安と方法

平常点 100%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を十分身に付けている。 |
| A | 医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を身に付けている |
| B | 医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識が理解している。 |
| C | 医療事務コンピュータ・調剤薬局事務講座の知識を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | ビジネス文書（ワード） [Business Documents MS-Word] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習 | 佐藤 亮輔 | | M-S4113 |

この授業に関係する資格

MOS

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ビジネス文書<br>マイクロソフトオフィス・ワード<br>MOS | ビジネス文書を作成する際のマナーやルールを理解、習得し実際の業務に活用できるように場面を想定しながら実践的に行っていく。 |

学習の到達目標

ビジネス文書とは、企業や団体が業務遂行上、外部と通信するために作成する文書のことである。したがって、ビジネスに必要な文書作成に関する原則を理解、習得し、情報を伝達・確認・保存記録することができる能力を身に付けることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う |
| 2 | Word の基礎知識 | Word 操作に関する基本事項について学習する |
| 3 | 文字の入力 | 文字の入力・変換、文章の変換、保存方法について学習する |
| 4 | | |
| 5 | 文書の作成 | 文書を作成し、編集、配置、修飾、書式設定について学習する |
| 6 | | |
| 7 | 表の作成 | 表の作成・レイアウト、書式について学習する |
| 8 | | |
| 9 | 文書の編集 | 文字の割付け、囲い文字、文字の効果、段組みについて学習する |
| 10 | | |
| 11 | 表現力をアップする | ワードアート、クリップアート、図形の作成・挿入について学習する |
| 12 | | |
| 13 | ビジネス文書の作成 | ビジネス文書の概要、及びビジネスでのメール活用について学習する |
| 14 | | |
| 15 | まとめ | これまでの学習内容を総合的に用いて課題を解決する |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：よくわかる Word2010

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。
事後学習（週 1.5 時間）： 授業の内容を復習し、操作を覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

課題提出の内容 70%　授業への参加度 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ワードを有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。 |
| A | ワードの操作方法をとてもよく理解し、目的とするビジネス文書を丁寧に作成することができる。 |
| B | ワードの操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。 |
| C | ワードの基本的な操作方法を理解し、目的とするビジネス文書をある程度作成することができる。 |

2019 年度 学習支援計画書

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通専門科目 | ビジネス文書（エクセル） [Business Documents MS- Excel] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習 | 佐藤 亮輔 | | M-S4114 |

この授業に関係する資格

MOS

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ビジネス文書<br>マイクロソフトオフィス・エクセル<br>MOS | ビジネス文書を作成する際のマナーやルールを理解、習得し実際の業務に活用できるように場面を想定しながら実践的に行っていく。 |

学習の到達目標

ビジネス文書とは、企業や団体が業務遂行上、外部と通信するために作成する文書のことである。したがって、ビジネスに必要な文書作成に関する原則を理解、習得し、情報を伝達・確認・保存記録することができる能力を身に付けることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業目標やスケジュール、具体的にどのように進めるかなどの説明を行う |
| 2<br>3 | 表の作成・計算 | データの入力、変換、保存方法、簡単な計算について学習する |
| 4<br>5 | 表の計算 | 関数を用いて高度な計算をする |
| 6<br>7 | グラフ作成 | データをもとに様々なグラフを作成する |
| 8 | ビジネス文書の<br>基礎知識及び作成 | カレンダーの作成、編集 |
| 9 | | 名簿、当番表の作成、編集 |
| 10 | | トーナメント表、リーグ戦の作成、編集 |
| 11 | | 家計簿、記録簿の作成、編集 |
| 12 | | アンケートの作成、編集 |
| 13<br>14 | | 見積書、請求書、領収書の作成、編集 |
| 15 | まとめ | これまでの学習内容を総合的に用いて課題を解決する |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：よくわかる Excel2010

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。
事後学習（週 1.5 時間）： 授業の内容を復習し、操作を覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

課題提出の内容 70%　授業への参加度 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | エクセルを有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。 |
| A | エクセルの操作方法をとてもよく理解し、目的とするビジネス文書を丁寧に作成することができる。 |
| B | エクセルの操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。 |
| C | エクセルの基本的な操作方法を理解し、目的とするビジネス文書をある程度作成することができる。 |

2019　武蔵丘短期大学

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ビジネス文書　（パワーポイント）<br>[Business Documents MS-PowerPoint] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・演習 | 佐藤　亮輔 | | M-S4115 | | |

この授業に関係する資格

MOS

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ビジネス文書<br>スライドショー<br>アニメーション | ビジネス文書を作成する際のマナーやルールを理解、修得し、実際の業務に活用できるように場面を想定しながら実践的に行っていく。 |

学習の到達目標

ビジネス文書とは、企業や団体が業務遂行上、外部と通信するために作成する文書のことである。したがって、ビジネスに必要な文書作成に関する原則を理解、修得し、情報を伝達・確認・保存・記録することができる能力を身に付けることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業目標やスケジュール、具体的にどのようにすすめるのかなどの説明を行う |
| 2 | PowerPointの基礎知識 | PowerPoint の概要について |
| 3 | テキストの入力 | 自己紹介するためのスライドの作成 |
| 4 | 挿入・編集 | 「図」をスライドに挿入し、編集する |
| 5 | | 「グラフ」をスライドに挿入し、編集する |
| 6 | | 「表」をスライドに挿入し、編集する |
| 7 | アニメーション | スライドにアニメーションを設定する |
| 8 | 画面の切り替え | 画面を切り替え設定とビデオ作成 |
| 9 | ビデオの作成 | 自己紹介ＶＴＲの作成 |
| 10 | 作成ビデオの発表 | 自己紹介ＶＴＲの発表 |
| 11 | ビジネス文書の基礎知識および作成 | 案内状の作成、編集 |
| 12 | | 企画の作成、編集 |
| 13 | | アンケートの作成、編集 |
| 14 | | カタログの作成、編集 |
| 15 | まとめ | これまでの学習内容を総合的に用いて課題を解決する |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：よくわかる PowerPoint2010

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： ブラインドタッチを身に付けられるように、タイピングする時間を作って練習をすること。
事後学習（週 1.5 時間）： 授業の内容を復習し、操作を覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして課題を回収後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

課題提出の内容 70%　授業への参加度 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | パワーポイントを有効に活用し、迅速かつ丁寧に目的とするビジネス文書を作成することができる。 |
| A | パワーポイントの操作方法をとてもよく理解し、目的とするビジネス文書を丁寧に作成することができる。 |
| B | パワーポイントの操作方法を理解し、目的とするビジネス文書を作成することができる。 |
| C | パワーポイントの基本的な操作方法が身につき、目的とするビジネス文書をある程度作成することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ホテルビジネス総論１ [Introduction of Hotel Business 1] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習 | 植松 大介 | 実 | M-S2116 |

この授業に関係する資格

ホテルビジネス実務検定

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ホテルビジネス<br>部門別業務理解<br>ホテル英語 | ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 2 級の内容を踏まえながら、検定合格とホテル業の実務を学ぶ。また受講者は「ホテル概論」を受講している者が望ましい。 |

学習の到達目標

ホテル産業の概要と実務知識を学び、ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 2 級合格を目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意 |
| 2 | ホテルの基礎① | ホテルとは、ホテルの経営形態と運営形態、サ-ビスの基本と職能別サービス |
| 3 | ホテルの基礎② | ホテル関連法規と概要、ホテル・旅館関連の政府系機関と団体、ホテル英語 |
| 4 | 宿泊部門の基本 | 組織、業務内容、基本的な流れ、宿泊約款、客室機能 |
| 5 | 宿泊部門の実務① | フロントサービス、宿泊予約、オペレーター |
| 6 | 宿泊部門の実務② | フロントオフィス、ハウスキーピング、コンシェルジュ、バトラー |
| 7 | 料飲部門の基本 | 組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング |
| 8 | 料飲部門の実務① | フランス料理レストラン |
| 9 | 料飲部門の実務② | 中国料理、その他の外国料理専門店 |
| 10 | 料飲部門の実務③ | コーヒーショップ、バー・ラウンジ、ティーラウンジ その他 |
| 11 | 宴会部門の基本 | 組織、業務内容、基本的な流れ、市場動向 |
| 12 | 宴会部門の実務 | 形式、料理、ブライダル |
| 13 | 調理部門の基本 | 組織、業務内容、基本的な流れ、環境、空間、シーティング |
| 14 | 調理部門の実務① | メインキッチン、レストランキッチン、設備機器 |
| 15 | 調理実務の実務② | 料理とメニューの基礎知識 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選
授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 80%　平常点（予習状況、授業の態度、意欲など）20%とし、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ホテルビジネスに関して、資質、知識を深く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| A | ホテルビジネスに関して、資質、知識を良く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| B | ホテルビジネスに関して、資質、知識をかなり深く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| C | ホテルビジネスに関して、資質、知識を理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ホテルビジネス総論 2 [Introduction of Hotel Business 2] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習 | 植松 大介 | 実 | M-S3117 |

この授業に関係する資格

ホテルビジネス実務検定

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ホテルビジネス<br>部門別業務理解<br>管理業務 | ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 1 級の内容を踏まえながら、検定合格とホテル業の実務を学ぶ。<br>また受講者は「ホテル概論」「ホテルビジネス総論 1」を受講している者に限る。 |

学習の到達目標

ホテル産業の概要と実務知識を学び、ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル 1 級合格を目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意 |
| 2 | マーケティング部門の概要 | 組織、業務役割、売上予算 |
| 3 | マーケティング部門の実務① | 分析、戦略、マーチャンダイジング、CRM、 |
| 4 | マーケティング部門の実務② | 宴会セールス、宿泊セールス、婚礼セールス |
| 5 | マーケティング部門の実務③ | 広報・企画、顧客管理 |
| 6 | 総務・人事部門の概要 | 組織、業務役割 |
| 7 | 総務・人事部門の実務 | 採用、福利厚生、内部運営、コンプライアンス |
| 8 | 施設管理部門の概要 | 組織、業務役割 |
| 9 | 施設管理部門の実務① | 設備と付帯設備、省エネとエコ、IT 関連、廃棄処理 |
| 10 | 施設管理部門の実務② | 関連法令、関連資格 |
| 11 | 仕入・購買部門の概要 | 組織と業務役割 |
| 12 | 仕入・購買部門の業務 | 仕入と出庫、在庫管理、食品衛生 |
| 13 | 経理・会計部門の概要 | 組織と業務役割 |
| 14 | 経理・会計部門の業務① | 収益会計と費用会計、予算管理、経営分析、税の知識 |
| 15 | 経理・会計部門の業務② | 各部門（宿泊・料飲・宴会）の会計実務 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選

授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：テキストを事前に読み、併せて練習問題を解きながら検定合格に向けて準備しておくこと。

事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解し、また試験問題を解いておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

各章修了後に確認テストを行い、テスト回収後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 80%　平常点（予習状況、授業の態度、意欲など）20%とし、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ホテルビジネスに関して、資質、知識を深く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| A | ホテルビジネスに関して、資質、知識を良く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| B | ホテルビジネスに関して、資質、知識をかなり深く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| C | ホテルビジネスに関して、資質、知識を理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 和文化と作法　[Japanese culture and Courtesy] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 蔦　洋子 | | M-S3118 |

この授業に関係する資格

マナー・プロトコール検定

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 和文化と作法<br>伝統文化<br>日本料理と和食 | マナー・プロトコール検定の内容を踏まえながら、検定合格と就職活動へのマナー・作法を学ぶ。<br>さらに就職への実技訓練も行い、知識と技術を精錬する。 |

学習の到達目標

国際人・社会人としての基本的な資質や「社会人」として、知っておくべき知識や技能の習得、プロトコール検定２級の合格を目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、評価の仕方、各種検定試験について、その他受講上の注意など |
| 2 | 和の文化について | 和の文化とは |
| 3 | 和室における作法 | 和室の入り方、歩き方、座り方、座布団の扱い方等 |
| 4 | 日本の伝統的な衣服 | 着物文化、浴衣、作務衣など |
| 5 | 和食について① | 日本料理と和食の違い、歴史、日本料理の種類 |
| 6 | 日本料理の特徴と和食器 | 日本料理の陰と陽、和食器（やきもの、漆器等） |
| 7 | 和食について② | 「和食」と伝統的な嗜好品（和菓子、日本茶）、和食文化考察（テーマ決め、レポート作成） |
| 8 | 和食について③ | 和食文化考察、提案 |
| 9 | 道の世界 | 茶道、華道、書道、香道、武道とは |
| 10 | 伝統的な娯楽 | 歌舞伎、能、狂言とは、お抹茶のいただき方 |
| 11 | 日本の季節と節句 | 和の季節の感じ方、節句と二十四節季 |
| 12 | 日本の行事について | 通過儀礼、日本独特の行事、祭事 |
| 13 | 日本料理店での作法 | 会席、茶懐石、寿司屋でのマナー |
| 14 | 和装での立ち居振る舞い | 浴衣着装、立ち居振る舞い実践、茶話会テーマ決め |
| 15 | 総復習 | テーマに沿った茶話会（抹茶を点てる、浴衣での振る舞い） |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：「さすが!」といわせる大人のマナー講座 ―マナー・プロトコール検定標準テキスト 改訂版（日本マナー・プロトコール協会）

＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： 事前に、新聞、インターネット等で情報収集しておくこと。

事後学習（週 1.5 時間）： 学んだことが日常生活の中に根付いていることを意識し、疑問点等調べ、確認しながら生活を送ること。

課題に対するフィードバックの方法

質疑応答・実践によって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 80%　予習状況、授業中の積極的な態度などを 20%とし、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| A | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。 |
| B | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。 |
| C | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を 6 割程度身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | マナー・プロトコール　[Manners and Protocol ] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 蔦　洋子 | | M-S3119 |

この授業に関係する資格

マナー・プロトコール検定

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | マナーとプロトコール<br>エチケット<br>通過儀礼と年中行事 | マナー・プロトコール検定の内容を踏まえながら、検定合格と就職活動へのマナー・作法を学ぶ。<br>さらに就職への実技訓練も行い、知識と技術を精錬する。 |

学習の到達目標

国際人・社会人としての基本的な資質や「社会人」として、知っておくべき知識や技能の習得、プロトコール検定 3 級の合格を目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | マナー・プロトコールとは何か、授業の進め方、評価の仕方、検定試験について、受講上の注意など |
| 2 | 基本姿勢 | ～第一印象について、挨拶、態度、直立姿勢、着席姿勢、お辞儀、返答、滑舌、表情 |
| 3 | 言葉遣いと話し方 | ～正しい敬語や丁寧な話し方、クッション言葉、会話～ |
| 4 | 自己紹介と会話 | ～自己紹介をしてみる（笑顔、歩き方、姿勢、話し方、敬語の総練習・実践）～ |
| 5 | プロトコールとは | ～５原則、席次、国旗、握手、異文化を知る～ |
| 6 | 洋食文化と作法 | ～料理の種類、カトラリーの使い方、会話の進め方～ |
| 7 | 和食文化と作法 | ～お箸、和食器、日本料理と文化～ |
| 8 | 社会人に必要なマナー | ～会社とは何か、社会人意識、礼装、贈答、手紙など～ |
| 9 | 電話応対とビジネス文書 | ～電話応対の心得、電話の取り次ぎ方、かけ方、名刺交換～ |
| 10 | 来客応対とトラブル応対 | ～来客応対、茶菓応対、トラブル対応、文書の書き方～ |
| 11 | 儀礼と節句②「冠」 | ～知識の確認、誕生から亡くなるまでの人生における儀礼としきたり～ |
| 12 | 儀礼と節句③「婚」 | ～知識の確認、祝儀袋とふくさ～ |
| 13 | 儀礼と節句④「葬」 | ～知識の確認、不祝儀袋、焼香の仕方～ |
| 14 | 儀礼と節句⑤「祭」 | ～知識の確認、神社の参拝の仕方～ |
| 15 | 日本の年中行事 | ～知識の確認、法令、待遇、その他～ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：「さすが!」といわせる大人のマナー講座　―マナー・プロトコール検定標準テキスト 改訂版（日本マナー・プロトコール協会）

＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。

事後学習（週 1.5 時間）：　授業で学んだことを実際の生活に取り込み、実際に行ってみること。

課題に対するフィードバックの方法

質疑応答・実践によって都度チェックし、理解度確認テストで確認・解説する。

成績評価の目安と方法

筆記試験 80%　予習状況、授業中の積極的な態度などを 20%とし、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| A | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。 |
| B | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。 |
| C | マナー・プロトコールの資質・知識・マナー・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を 6 割程度身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ホテル接客英会話　[Hotel Customer Service English] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・演習・アクティブラーニング | 植松 大介 | 実 | M-S3120 | | |

この授業に関係する資格

ホテルビジネス実務検定

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 実務英語<br>クレーム対応<br>予約・精算対応 | 視聴覚教材などを効率よく使用し、現場で役に立つ基本的な接客英語の表現やフレーズの習得と運用能力を講義と演習によって養う。英語での接客に必要な英語の基本的な文法力・語彙力も身に付けるためにロールプレイングを通して、接客技法を学ぶ。 |

学習の到達目標

国際語として英語の役割を理解し、基本的な接客英語の表現やフレーズを修得する。
またそれらを駆使し、ホテル現場や日常生活の中で、英語でロールプレイングや実売プレゼンテーションができることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 受講上の注意など | 授業の方針・進め方、評価の仕方、その他受講上の注意など |
| 2 | Sales Introduction | Introducing Employee & Company Outlines (Who we are…) |
| 3 | Rooms ① | Booking & Check In |
| 4 | Rooms ② | House Keeping & Order Taking |
| 5 | Rooms ③ | Check Out |
| 6 | Real English ① | Native 講師による実践講義 |
| 7 | Food & Beverage ① | Reservation, Greeting & Seating |
| 8 | Food & Beverage ② | Order Taking & Menu Description |
| 9 | Food & Beverage ③ | Cashier & Complaints |
| 10 | Real English ② | Native 講師による実践講義 |
| 11 | Guest Service ① | Concierge & Butler Service |
| 12 | Guest Service ② | Transportation & Location |
| 13 | Guest Service ③ | Booking & Confirmation |
| 14 | Guest Service ④ | Message  Service |
| 15 | Total Exercise | Total Role-Playing |
| 試験等 | ロールプレイング | |

教科書及び参考図書

参考図書：ホテルビジネス（基礎編）（財）ホテル教育センター / 練習過去問集 700 選
※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：自分の興味のあるジャンルに対して新聞やニュース、インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からない単語やフレーズは調べて覚えること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして各講義中に行うロールプレイング後により実践的な解説を行う。

成績評価の目安と方法

ロールプレイング 70%　予習状況・授業中の積極的な態度などの平常点 30%として総合的に評価

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対が十分に行える。 |
| A | 基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がほぼ行える。 |
| B | 基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がかなり行える。 |
| C | 基本的な接客英語の表現やフレーズを理解、また駆使し、平易な英語での応対がある程度行える。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ホテル概論 [Outline of Hotel] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習 | 植松 大介 | 実 | M-S2121 |

この授業に関係する資格

ホテルビジネス実務検定

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 観光業界<br>ホテル産業<br>日系と外資系 | 世界と日本のホテル業界の現状を解説し、日本の観光業におけるホテル業の位置づけと今後の展望を考察・理解する。 |

学習の到達目標

ホテル領域に関する基礎的知識を理解することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、評価の仕方、その他受講上の注意 |
| 2 | 観光と旅行産業 | 世界と日本の観光・旅行産業の現状 |
| 3 | 日本の観光業の現状分析 | 観光白書を読み、業界を紐解く |
| 4 | ホテル史 | 世界と日本のホテルの歴史 |
| 5 | シティホテル | 都市部のホテルの運営形態 |
| 6 | リゾートホテル | 都市近郊のホテルの運営形態 |
| 7 | アーバンリゾート・旅館 | 都市型リゾートホテル及び旅館の運営形態 |
| 8 | 日系ホテル① | 日系ホテルの老舗と新興 |
| 9 | 日系ホテル② | 日系ホテルグループ その特徴と運営形態 |
| 10 | 外資系ホテル① | 外資系（欧米・アジア）ホテルの老舗と新興 |
| 11 | 外資系ホテル② | 外資系ホテルグループ その特徴と運営形態 |
| 12 | 日外ホテル比較分析 | 帝国ホテルとリッツカールトン |
| 13 | 日系グループ比較分析 | 西武と東急 |
| 14 | 外資グループ比較分析 | ヒルトンとマリオット |
| 15 | 日米ホテル比較分析 | ディズニーホテル |
| 試験等 | レポート | |

教科書及び参考図書

参考図書：国土交通省「観光白書」 ホテルビジネス（ベーシックレベルテキスト：基礎編） （財）ホテル教育センター
授業中、必要に応じて適宜指示及び資料プリントを配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：業界に関する事項に対して業界誌やインターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。

成績評価の目安と方法

平常点（授業の態度、意欲）70%　調査、発表、提出物（レポートなど）30%とし、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ホテル業に関して、資質、知識を深く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| A | ホテル業に関して、資質、知識を良く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| B | ホテル業に関して、資質、知識をかなり深く理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| C | ホテル業に関して、資質、知識を理解し実務に必要な項目を十分身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ビジネスマナー[Business Manners ] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義・演習<br>アクティブラーニング | 植松 大介 | | M-S3122 | | |

この授業に関係する資格

マナー・プロトコール検定

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 資質と職務知識<br>敬語と接遇用語<br>文書の取り扱いと資料管理 | マナー・プロトコール検定（３級）の内容を踏まえながら、資質・知識・マナー・技能などに焦点を当て、社会人としての資質、知識、オフィス実務、ケーススタディーについて解説をする。 |

学習の到達目標

社会人・国際人知っておかなければならない知識や技能の座学と実践形式を通して習得を目指す。
マナー・プロトコール検定３級の合格を目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、評価の仕方、各種検定試験について、その他受講上の注意など |
| 2 | 自己紹介と基本姿勢 | 自己紹介の仕方、直立姿勢、着席姿勢、お辞儀 |
| 3 | 歩行姿勢 | 本当に美しい歩き方とエスコートの仕方 |
| 4 | 言葉遣いと応対 | 笑顔、歩き方、姿勢、話し方 |
| 5 | 服装と身だしなみ | カジュアル、フォーマル、セミフォーマルの違い |
| 6 | 正装選びと着こなし方 | 高いスーツ＝良いスーツ？かっこいい自分の演出方法 |
| 7 | 電話応対 | 打倒コールセンター！電話応対法 |
| 8 | 社会向け第一印象 | 社会とは何か、社会人意識、名刺交換、来客応対 |
| 9 | 日本人講座 ① | きれいな言葉の扱い方 |
| 10 | 日本人講座 ② | 気遣いと心遣い |
| 11 | 日本人講座 ③ | 正しいお茶の出し方・飲み方 |
| 12 | 日本人講座 ④ | 洋人と和人、洋子と和子の作り方 |
| 13 | 和の衣装 | 浴衣、振袖、袴　日本人の美を考える |
| 14 | 総合実践 | 和の心のおもてなし実践 |
| 15 | まとめ | まとめ |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：就職活動テキスト
「さすが!」といわせる大人のマナー講座― マナー・プロトコール検定標準テキスト 改訂版（日本マナー・プロトコール協会）
＊授業中に必要に応じて、適宜指示及び資料プリント(実問題など)を配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：学習に関する事項に対してインターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験　70%　予習状況、授業中の積極的な態度など 30%とし、総合的に評価する。

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ビジネスマナーに関して、資質・知識・マナー・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| A | ビジネスマナーに関して、資質・知識・マナー・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。 |
| B | ビジネスマナーに関して、資質・知識・マナー・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。 |
| C | ビジネスマナーに関して、資質・知識・マナー・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を６割程度身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ダイエット実践論 [Theory of diet] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 玉木 啓一 ・ 菊地 亨 | | NM-S2123 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ダイエット<br>食生活<br>運動 | 減量を成功させるために、食と生活と体のメカニズムについて学んでいく。エネルギーの摂取と消費、これらをどのように把握しダイエットが成功していくかを考える。また、ダイエット実践について各自が考察を進めていき、健康的なダイエットについて学んでいく。 |

学習の到達目標

ダイエットという言葉は、減量や治療のための規定食が本来の意味である。世の中では、食事だけではなく、運動を含めた痩せるための行動をダイエットと呼んでいる。この講義では、減量のメカニズムを身体的側面と食物摂取の側面の両面から理解することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ダイエットとは | ダイエットを解説し、その有用性と留意点を学習する |
| 2 | エネルギー摂取 | エネルギー摂取の基本について学ぶ |
| 3 | エネルギー摂取量（１） | エネルギー摂取量の把握方法のための基本を学ぶ |
| 4 | エネルギー摂取量（２） | エネルギー摂取量の把握方法ついて実践してみる |
| 5 | エネルギー消費 | 人体内でのエネルギーの消費について、その仕組みを学ぶ |
| 6 | エネルギー消費量把握 | 運動などによる、エネルギー消費量の測定・推定方法を学ぶ |
| 7 | エネルギー消費量推定 | エネルギー消費量の把握について実践を通じて学ぶ |
| 8 | ダイエットの本質 | 減量を成功させるための、理論的本質を考察する |
| 9 | ダイエットのための食事 | ダイエットのための食事法の基本を学習する |
| 10 | ダイエットのための運動 | ダイエットのための運動について学ぶ |
| 11 | ダイエットの考察１ | 流行しているダイエットについて調べ、ダイエットについて理論的に考える能力をつける |
| 12 | ダイエットの考察２ | 効果が期待できるダイエットとは何かを考察する |
| 13 | 理想的ダイエット（運動） | ダイエットのための運動について考える |
| 14 | 理想的ダイエット（食事） | 対象者のライフスタイルを考慮したダイエットについて検討する |
| 15 | 発表 | 各自の考える正しいダイエットを発表する |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書　なし（適宜資料を配布）
参考図書：「いつまでもデブと思うなよ」 岡田斗司夫　新潮新書

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：ダイエットに興味をもって情報を集め、授業で話題を提供できるように準備する。
事後学習（週 1.5 時間）：自分なりの「正しいダイエット」をまとめるに当たって講義内容を復習する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中を中心に討議、対話を通じてフィードバックを行う。

成績評価の目安と方法

授業中の話題提供・発言、発表内容を総合的に評価する　100%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットを創造する力を持っている。 |
| A | ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断する力を持っている。 |
| B | ダイエットとは何かを理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断する力を持っている。 |
| C | ダイエットとは何かを理解し、健康的なダイエットを考える力を持っている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ダイエット実践実習 [Practice of dieting] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 玉木 啓一 | | M-S4124 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ダイエット<br>食事<br>エネルギー消費量 | 具体的なダイエットの理論、方法論を、実験的な方法を用いて可能な限り検証し理解を深めていく。実際にダイエットを実践し、その効果を検証する。ダイエットの実践は学生本人に限らず、家族等の身近な実践者でも構わない。 |

**学習の到達目標**

本実習では、「ダイエット」を減量としてとらえ、巷で実施されている「ダイエット」を検証・考察する。ダイエットの成功と失敗を分ける原因は何なのかを考えて、成功するダイエットを実践し、成功するダイエットを実践できる方策を検討していく。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1・2 | ダイエットとは | 世の中で実施されている、ダイエットを考える |
| 3・4 | エネルギー出納 | エネルギー摂取（食物摂取）とエネルギー消費（運動）について学ぶ |
| 5・6 | 摂取エネルギー 1 | 料理カードを用いてエネルギー摂取量の目安を知る |
| 7・8 | 摂取エネルギー 2 | 料理カードを用いて、エネルギーと食品や調理法との関係性について学ぶ |
| 9・10 | 摂取エネルギー 3 | 市販されている食品の構成や量を検証し、摂取エネルギー量を実践的に学ぶ |
| 11・12 | エネルギー消費 1 | エネルギー消費量の測定方法について学ぶ |
| 13・14 | エネルギー消費 2 | 様々なエネルギー消費量の推定方法について学ぶ |
| 15・16 | エネルギー消費 3 | 様々な身体活動のエネルギー消費量を測定（推定）する |
| 17・18 | ダイエットのための食品 | 既に流通するダイエット食品の食品表示を見て、食材の効果を考える |
| 19・20 | 摂取エネルギー量の管理 | 食事管理ソフトなどを用い自身の食事管理をして、その効果を検証する |
| 21・22 | ダイエットのための運動 | ダイエットに効果的な運動について、考え検証していく |
| 23・24 | 消費エネルギー量の管理 | 具体的なダイエット法について、考え検証していく |
| 25・26 | ダイエット実践の検証 | 各自が着目したダイエットの効果について検証する |
| 27・28 | ダイエット実践のまとめ | 各自が着目したダイエットの効果について考察・まとめを行う |
| 29・30 | 総括・成果発表 | ダイエット実践に関する成果発表 |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

教科書 なし（適宜資料を配布）
参考図書：「いつまでもデブと思うなよ」 岡田斗司夫 新潮新書

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 0.5 時間） ： 1 週間のダイエット実践ついて、授業中に報告する準備を行う。
事後学習（週 2.5 時間） ： ダイエットの研究、実践をまとめる。

**課題に対するフィードバックの方法**

授業中を中心に討議、対話を通じてフィードバックを行う。

**成績評価の目安と方法**

授業中の話題提供・発言、発表内容およびダイエット実践を総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットを創造・実践する力を持っている。 |
| A | ダイエットとは何かを良く理解し、健康的で効果的なダイエットかを判断・実践する力を持っている。 |
| B | ダイエットとは何かを理解し、健康的で効果的なダイエットかを実践する力を持っている。 |
| C | ダイエットとは何かを理解し、健康的なダイエットを考える力を持っている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ホスピタリティ基礎演習 [Basic Study of Hospitality] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習・アクティブ・ラーニング | 植松 大介 | 実 | M-S4125 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | ホスピタリティ<br>サービス<br>おもてなし | 「サービス」、「おもてなし」、「ホスピタリティ」とは何か。「人が人と接し、人をもてなす職業」に対する意識を高め、その業種に就職するために必要な知識、技能を身につける。 |

**学習の到達目標**

「人材」としてではなく「人財」としてホスピタリティ産業で活躍できるよう必要な知識、技能を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業内容の紹介 |
| 2 | サービス | サービスとは何か |
| 3 | おもてなし | おもてなしとは何か |
| 4 | ホスピタリティとは何か | ホスピタリティとは何か |
| 5 | 日本と世界 | 日本のホスピタリティと世界のホスピタリティ |
| 6 | 日本と世界の美学 | 侘びと寂びとチップ |
| 7 | 職業理解１ | ホテル業界の概要と業務 |
| 8 | 職業理解２ | ホテル業実務者による業界説明 |
| 9 | 職業理解３ | ホテル見学実習 |
| 10 | 職業理解４ | ホテル業界研究（プレゼンテーション） |
| 11 | 職業理解５ | 医療事務業務界の概要と業務 |
| 12 | 職業理解６ | 医療事務実務者による業務説明 |
| 13 | 職業理解７ | 医療機関での見学実習 |
| 14 | 職業理解８ | 医療業界研究（プレゼンテーション） |
| 15 | 職業理解９ | まとめ |
| 試験等 | レポート | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：ホテルビジネス　基礎編　（財）日本ホテル教育センター
※授業中に必要に応じて、適宜指示及び教材プリントを配布する

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

平常点（授業の態度・意欲・服装など）60%　プレゼンテーション 20%　提出物（見学実習レポート、感想文など）20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 授業の成果を活かし、サービス産業界で働く十分な知識と技能を身に付けている。 |
| A | 授業の成果を活かし、サービス産業界で働く基礎的な知識と技能を身に付けている。 |
| B | 授業の成果を活かし、サービス産業界で働く準備ができている。 |
| C | 授業の成果から、サービス産業界で働くことについて考えをまとめられている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | サービス・接遇実習　[Practice of Service and Reception] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 | | M-S5126 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 社会人<br>就業意識育成<br>マナー実践 | 業界に必要とされる人材の基礎的な技能と知識をみにつける。<br>業界の基礎知識を活かし医療・サービス産業界で実習的・研修的な就業体験を行う。<br>サービスを提供するために必要なマナーを学ぶ。 |

**学習の到達目標**

社会人として必要なマナーを活かし、医療・サービス産業界で活躍できるようになる。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1<br>～<br>30 | 実習時期：原則として、後期（１０月上旬から１月下旬）に毎週決まった曜日の決まった時間に就業体験実習を行う<br>1・2 回目：ガイダンス（就業体験実習の準備）<br><br>3 回目～26 回目：医療機関またはサービス産業での就業体験実習<br>医療機関：病院、医院のボランティア実習）<br>サービス産業：ホテル　等<br><br>27・28 回目：実習のまとめと就業体験実習の発表準備<br>パワーポイントによる体験発表の準備<br><br>29・30 回目：就業体験発表会<br>実習先の担当者を招いての就業体験実習発表会 |
| 試験等 | なし |

**教科書及び参考図書**

参考図書：医療事務テキスト
ゼロから教えてビジネスマナー、松本昌子、かんき出版

**準備学習・事後学習**

準備学習：事前に返却される実習日誌に目を通し、課題を設定しておくこと。
事後学習：毎回返却される実習日誌に目を通し、課題を発見して、解決策を考えておくこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

**成績評価の目安と方法**

(１)準備の姿勢に対する評価　20%　(２)実習施設の指導担当者による評価　40%
(３)実習終了後の発表資料、提出物（実習日誌）についての評価　40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができている。 |
| A | 体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、サービス産業に従事する準備ができている。 |
| B | 体験実習に取り組み、サービス産業に従事する準備ができている。 |
| C | 体験実習を通して、サービス産業を理解できている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 地域事業実習　[ Practice of Regional Business ] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習（集中授業）<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 | | M-S5127 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 地域事業<br>就業意識<br>マナー実践 | 公共施設でのサービスマネージメント業を定期的かつ長期にわたり実習生として出向き、１年次での学習と実際のサービス現場での学びを統合する学外での実習形式の授業である。<br>具体的には、東松山市の教育部スポーツ課及び子育て支援課に出向き、課の補助業務を通して、公務員業務の実習的・研修的な就業体験を行い、実務実践能力を身につける。 |

**学習の到達目標**

毎週１回の事業参加で、日本スリーデーマーチ実行委員会等の就業体験を通じて、事業の運営方法を身につける。

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1<br>～<br>15 | 学内授業（１・2、ガイダンス）<br>授業概要と事業内容等の説明および日本スリーデーマーチについて学ぶ<br><br>学外授業（3～14、東松山市役所業務補助）<br>東松山市役所の業務全般について業務補助を体験する<br><br>学外授業（15～26、日本スリーデーマーチ推進委員会業務補助）<br>東松山市の日本スリーデーマーチ推進委員会の業務を中心に業務補助を体験する<br><br>学内授業（27・28）<br>実習体験の資料作成と発表準備<br><br>学内授業（29・30）<br>実習体験発表 |
| 試験等 | 課題レポート |

**教科書及び参考図書**

参考図書：東松山市の市政だより、日本スリーデーマーチ総合計画書など
その他、必要に応じて資料を配付する

**準備学習・事後学習**

毎週東松山市へ出向いての実習のため、地域スタッフとのコミュニケーション能力も必要となる。あらかじめ、世代を問わず会話できるように、普段の生活から練習する。
実習記録の内容をふりかえり、翌日の実習に生かせる用、体調を整えて実習に備えること。

**課題に対するフィードバックの方法**

毎日、実習記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢　70%　　実習体験発表・レポート　30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法を身につけ、十分な発表をすることができる。 |
| A | 地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法について発表をすることができる。 |
| B | 地域事業へ取り組み、実態を理解して、事業運営方法について発表をすることができる。 |
| C | 地域事業を通して実態を理解し、事業運営方法の体験を発表することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 地域事業運営実習 [ Practice of Regional Business ] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習（集中授業）<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 ・ 福島 邦男 ・ 植松 大介 | | M-S5128 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 地域事業<br>就業意識<br>マナー実践 | 1 年次、2 年前期の公共施設でのサービスマネージメント業での就業体験を活かし、実際の事業運営に担当者として関わり総合的な課題解決学習を行う、学外での実習形式の授業である。<br>具体的には、東松山市の日本スリーデーマーチ推進委員会や吉見町の公共施設に出向きイベント」や教室運営業務に携わることを通して、公務員業務の実務実践能力を向上させる。 |

学習の到達目標

東松山市や吉見町のイベントや教室の準備、実施、終了後点検業務の就業体験を通じて、事業の運営の方法を学ぶ。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1<br>～<br>30 | 学内授業（１・2、ガイダンス）<br>授業概要と関係町村の事業内容等担当事業について学ぶ<br><br>学外授業（3～26、東松山市役所、吉見町業務）<br>東松山市役所（日本スリーデーマーチ、保育園運動指導等）、吉見町のイベントや教室業務（子育て支援事業等）をスタッフの一員として運営する<br><br>学内授業（27・28）<br>実習体験の資料作成と発表準備<br><br>学内授業（29・30）<br>実習体験発表 市町の関係者をお招きして、実習での学習成果を発表する |
| 試験等 | なし |

教科書及び参考図書

参考図書：東松山市、吉見町の広報誌、日本スリーデーマーチ総合計画書など
必要に応じて資料を配付する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：東松山市や吉見町の施策に目をとおし、その日の課題に関する社会事象を把握しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：毎回の活動を実習日誌にまとめ、次回の課題を設定しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

成績評価の目安と方法

学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢 70% 実習体験発表・レポート 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営方法を身につけて実践し、十分な成果発表をすることができる。 |
| A | 地域事業へ積極的に取り組み、実態を理解して、事業運営を実践し、成果を発表することができる。 |
| B | 地域事業へ取り組み、実態を理解して、事業運営方法を実践し、成果を発表することができる。 |
| C | 地域事業へ取り組み実践を通して実態を理解し、成果を発表することができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康マネジメント演習　[Seminar in Health and Management] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 | | M-S6129 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | スポーツマンジメント<br>プレゼンテーション<br>イベント・事業運営 | 幼児体育やポーツマネジメントの対象領域について、情報を収集し、現場で実習を行い、成果を、パワーポイントを用いたプレゼンテーションにまとめる。イベント・事業の企画運営学習の一環として、日本スリーデーマーチ 10ｋｍコースに参加したり、吉見町の高齢者の体力測定イベントや学園祭キッズコーナーを企画運営する。 |

**学習の到達目標**

スポーツマネジメントの現場で使う指導法やコミュニケーション方法を学び、実践してまとめ、成果を振り返り、次につなげるＰＤＣＡサイクルをみにつける。マネジメントに必要なプレゼンテーション、 経費計算などのスキルのアップをはかりながら、イベント企画運営能力を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | |
| 2 | プレゼンテーション１ | 学校紹介プレゼンテーションのテーマを考える |
| 3~4 | プレゼンテーション２~4 | プレゼンテーションの資料収集（1）、パワーポイントによるプレゼンテーションの作成(1)、(2) |
| 5 | イベント運営企画１ | 幼児運動指導の指導計画、吉見町健康体力測定イベントの企画案作成、企画実施準備 |
| 6 | イベント運営企画２ | 指導、企画実施準備 |
| 7 | イベント運営実習１ | 保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営実習(1) |
| 8~14 | イベント運営企画２~8 | 保育園運動指導、吉見町健康体力測定イベント運営実習(2)～(8) |
| 15 | イベント運営振り返り | 保育園運動指導、吉見町体力測定イベント運営の総括 |
| 16･17 | 学園祭ブース運営企画 | 学園祭キッズコーナー運営企画(1)、(2) |
| 18 | 学園祭運営実習１ | 学園祭キッズコーナー運営実習(1) |
| 19~21 | 学園祭運営実習 2~4 | 学園祭キッズコーナー運営実習 (2)~(4) |
| 22 | データ処理１ | 吉見町体力測定イベントデータ処理　入力(1) |
| 23~24 | データ処理 2,3 | 体力測定イベントデータ処理　入力(2)(3) |
| 25 | データ処理１,2 | 体力測定イベントデータ処理（統計処理）(1)(2) |
| 26~30 | データ処理 3~6 | 体力測定イベントデータ処理（図表作成）(3)(4)(5)(6) |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：マーケティングを学ぶ人が最初に読む本、 重田修治、総合法令出版(2004)

**準備学習・事後学習**

準備学習： 担当する実習の内容についてインターネット等で調べておくこと。
事後学習： 毎時の授業内容を日誌にまとめて、レポート作成の準備をすること。

**課題に対するフィードバックの方法**

実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

**成績評価の目安と方法**

平常点 50%　 提出物 50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 高いイベント企画運営能力があり、実践できる。 |
| A | 十分なイベント企画運営能力があり、実践できる。 |
| B | イベント企画能力があり、実践できる。 |
| C | イベント企画運営、実践できる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康マネジメント演習　[Seminar in Health and Management] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 | | M-S6129 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 野外活動<br>野外教育<br>レクリエーション | 前学期はイニシアティブゲームについて調査し、体験学習について学ぶ。また、プールでカヌーを練習し、社会貢献としてボランティア活動に参加する。後学期は本学の施設や周辺の自然環境を利用して、ノルディックウォーキング、アウトドアクラフトについて実践を通して学ぶ。 |

学習の到達目標

野外活動に興味を持ち、積極的に参加することはもちろんであるが、活動での直接体験を重視し、体験するとともにその指導法についても学び、相互に教え合うことを通して、指導者としての力を身につけることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | この授業の内容とその進め方について |
| 2~4 | イニシアティブゲーム 1 | イニシアティブゲームについて実践を通して学ぶ |
| 5~7 | イニシアティブゲーム 2 | イニシアティブゲームについて調査する |
| 8・9 | ゲームのまとめ | イニシアティブゲームについて、ポスターにまとめる |
| 10~13 | カヌー | カヌー（カヤック）について、その基本から、実践を通して学ぶ |
| 14 | カヌーのまとめ | カヌーついて、学んだことを基にボランティア活動に参加する |
| 15 | 前学期のまとめ | 前学期全般についてのまとめ |
| 16~18 | ノルディックウォーキング 1 | ノルディックウォーキング（NW）の基本動作について実践を通して学ぶ |
| 19~20 | ノルディックウォーキング 2 | 本学周辺のコースを歩くことで実践的に学ぶ |
| 21~22 | NW のまとめ | NW について学んだことをポスターにまとめ、学園祭で発表する |
| 23~24 | NW の発表 | 学園祭時に NW 体験コーナーを設けて運営する |
| 25 | 野外活動 1 | 自然を活用した野外活動やレクリエーション活動について学ぶ |
| 26・27 | 野外クラフトの基本 | 自然の材料を活用した野外工作と安全管理について学ぶ |
| 28・29 | 野外クラフトの応用 | 野外工作を発展させ、テーブル作成に挑戦する |
| 30 | この演習のまとめ | この演習での成果を発表しあう |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：ティーチング　イン　ザ　アウトドアーズ、D.R.Hammerman 他著、日本野外教育研究会監訳、杏林書院
その他、必要に応じて資料を配布する

準備学習・事後学習

準備学習：この授業のキーワードと毎回のテーマに関した情報を新聞、雑誌、インターネット等から入手し、各回で生かせるように目を通しておく。
またポスター発表等では、完成に向けて各自が課題に関する調査を事前に行っておく。
事後学習：授業内容をふりかえり、次回に活かせるようにしておく。毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてミニレポートを回収し、解説を加えて返却する。オフィスアワーで適宜対応する。

成績評価の目安と方法

平常点 70%　調査・発表・レポート 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 野外教育とレクリエーションの意義を理解し、人生を豊にする応用力を身に付けている。 |
| A | 野外教育とレクリエーションの意義を理解し、実践することができる。 |
| B | 野外教育とレクリエーションの意義を理解できる。 |
| C | 野外教育とレクリエーションの意義に対して基礎的な理解ができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康マネジメント演習 [Seminar in Health and Management] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習<br>アクティブ・ラーニング | 植松 大介 | | M-S6129 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | おもてなし<br>ホスピタリティ<br>作法 | 「サービス」とは？「ホスピタリティ」とは？<br>人の心に響き、相手を思いやる気持ちを動作・しぐさ、様々な道具を用いて習得する。 |

学習の到達目標

人の心に響き、相手を思いやる気持ちを様々な道具を使い、さらに様々なおもてなしを体感しながら「かっこいい・かわいい」自分を作る。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 進め方、評価の仕方、その他受講上の注意 |
| 2～14 | 就職活動準備 | 履歴書・面接・ビジネスマナー等の再確認 |
| 15 | 発表 | 実践報告 |
| 16 | オリエンテーション | 前期ふりかえり、進め方、評価の仕方、その他受講上の注意 |
| 17～29 | ホスピタリティ実技講習 | 基礎サービストレーニング・応用サービストレーニング<br>美味しいお茶の淹れ方（紅茶等）<br>ゲストニーズに合わせたコーヒーの淹れ方（ペーパー・フレンチ・ドリップ・エアロ）<br>ノンアルコールカクテル（定番とオリジナル） |
| 30 | 発表 | 総合実演発表 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：サービス・マネジメント カール・アルブレヒト著 ダイヤモンド出版
I am a man.―チームワークと顧客第一主義がポイント!奇跡のレストラン「カシータ」の作り方 高橋慈 著

準備学習・事後学習

準備学習：学習する事項に対して新聞やニュース、業界誌・インターネット・書籍を通して情報の収集をしておくこと。
事後学習：講義内容を復習し、分からないところは調べて理解しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして各講義後にディスカッションを行い、解説を行う。

成績評価の目安と方法

平常点 70% 予習状況、調査・発表・実演 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 演習に関して、知識・技能などを深く理解し、実務に必要な項目を十分身に付けている。 |
| A | 演習に関して、知識・技能などをほぼ理解し、実務に必要な項目を良く身に付けている。 |
| B | 演習に関して、知識・技能などをかなり理解し、実務に必要な項目を身に付けている。 |
| C | 演習に関して、知識・技能などの基本事項を理解し、実務に必要な項目を６割程度身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 健康マネジメント演習　[Seminar in Health and Management] | 4 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習<br>アクティブ・ラーニング | 佐藤 亮輔 | | M-S6129 |

**この授業に関係する資格**

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 生活習慣病予防<br>効果的な運動<br>ライフスタイルの改善 | 生活習慣病、生活習慣病予防、生活習慣病予防のための運動等について、特に公衆衛生学的観点から捉え研究課題を見つける。また、生活習慣病予防のための運動で、効果的な運動を研究する。<br>研究課題を実施し、レポート作成を行う。 |

**学習の到達目標**

公衆衛生学の観点から「生活習慣病」を取り上げ、疾患の種類、予防、ライフスタイルの改善、栄養、運動、休養等について探求し、各自が研究課題となる事柄を考え、まとめる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 演習の進め方に関する説明 |
| 2~4 | 生活習慣病の研究 1 | 書籍、インターネット等を利用し、生活習慣病の知識を高める |
| 5~7 | 生活習慣病の研究 2 | 生活習慣病の疾患の知識を高める |
| 8~10 | 生活習慣病の研究 3 | 生活習慣病を予防するためのライフスタイルの改善の知識を高め、各自考える |
| 11~12 | 生活習慣病の研究 4 | 生活習慣病を予防するための栄養についての知識を高める |
| 13~15 | 生活習慣病の研究 5 | 生活習慣病を予防するための運動についての知識を高め、各自で運動を考える |
| 16 | 生活習慣病の研究 6 | 生活習慣病を予防するための休養についての知識を高める |
| 17~19 | 生活習慣病予防 | 生活習慣病を予防するための効果的な運動を考える |
| 20~25 | 研究課題 1 | 学園祭の発表にむけての準備 |
| 26 | 研究課題 2 | 学園祭の発表の反省と今後の検討課題 |
| 27~30 | 研究課題 3 | 研究課題をまとめる |
| 試験等 | レポート課題 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：21 世紀の予防医学・公衆衛生

**準備学習・事後学習**

準備学習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
事後学習：毎回の授業で研究したことを復習しまとめ、次回の授業時に発表すること。

**課題に対するフィードバックの方法**

オフィスアワーで適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

調査・研究・提出物 60%　平常点 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 生活習慣病予防のための効果的な運動の研究を行い、健康・スポーツへの応用力を十分に身につけている。 |
| A | 生活習慣病予防のための効果的な運動の研究を行い、健康・スポーツへ活かすことができる。 |
| B | 生活習慣病予防のための効果的な運動の研究を行い、基礎的な知識を身につけている。 |
| C | 生活習慣病予防のための効果的な運動の研究を自分のテーマに沿って行うことができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | インターンシップ [Internship] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 ・ 茗荷 尚史 ・ 大野 勝生 ・ 辻 将也 | | NSM-S9130 |

この授業に関係する資格

レクリエーション・インストラクター

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 就業体験<br>就業意識育成<br>専門職体験 | 短期大学で学んできた知識や指導技術を活かす場として、企業や団体において、健康福祉や健康産業、生涯スポーツに関する実習的・研修的な就業体験を行う。 |

学習の到達目標

実習的・研修的な就業体験を行うことにより、実際的な知識や指導技術の習得し、指導者としての自覚を高め、就業意識を涵養して、進路を明確にし、専門職として社会で活躍することができるようになる。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1<br>〜<br>30 | 実習時期：原則として、春季休業中（２月下旬から３月下旬）<br>実習期間：原則として、２週間（実質 10 日間以上）<br>実習日程：実習受け入れ先と検討して決定<br>事前授業<br>１回目：実習施設内容紹介、先輩の体験談、希望調査（11 月）<br>２回目：個人調書、誓約書の作成（11 月）<br>３回目：書類提出、マナー研修（12 月、１月）<br>４回目：コミュニケーショントレーニング（１月）<br>５回目：人工心肺蘇生法講習会、メイクアップ教室（１月、補講期間）<br>２～３月：実習（就業体験） ３月下旬：最終レポートの作成、お礼状発送<br>実習終了後：実習日誌（含む最終レポート）提出、最終指導<br>原則として短期大学が紹介する施設の中から選択する。他に実習を希望する施設がある場合は相談に応じる。実習施設は以下のとおりである<br>１．フィットネス・スポーツクラブ業務 （ア）フィットネス・スポーツクラブ（イ）サッカースクール（ウ）公的スポーツ施設（エ）総合型地域スポーツクラブ（オ）スポーツ少年団（カ）その他健康フィットネス産業やプロチーム<br>２．野外活動団体 ３．学童保育所 ４．福祉施設（介護施設、知的障害者授産施設など） ５．スポーツショップ<br>６．その他（ホテル・レストラン業務、販売業務、農業就業など） |
| 試験等 | なし |

教科書及び参考図書

参考図書：インターンシップの手引き、インターンシップ実習日誌（無料 授業時に配布）

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：実習の手引き、事前研修で配布される資料を読んで学内事前授業や実習の内容を確認しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）：実習日誌の指導コメントを読み返し、次回の課題を解決する方策や情報を確認しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌の内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

成績評価の目安と方法

以下の３項目による総合評価とする
(１)準備の姿勢に対する評価 20% (２)実習施設の指導担当者による評価 40%
(３)実習終了後の提出物（実習日誌）についての評価 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 体験実習に積極的に取り組み、日誌にその成果を十分にまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができている。 |
| A | 体験実習にしっかりと取り組み、日誌にその成果をまとめることができ、健康に関わる産業に従事する準備ができている。 |
| B | 体験実習に取り組み、健康に関する産業に従事する準備ができている。 |
| C | 体験実習を通して、健康に関する産業を理解できている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | レクリエーションスポーツ実習　[Recreational Sports] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 | | NSM-S4131 |

| この授業に関係する資格 |
|---|
| レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、子ども身体運動発達指導士 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | レクリエーションスポーツ<br>ニュースポーツ<br>障害者スポーツ | 現在、生涯スポーツの一手段として、また健康づくりを目的として、様々なレクリエーションスポーツが行われている。本授業では、それぞれの種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果について考えながら、対象にあわせて指導を展開する際に必要なコミュニケーションスキルについても学習する。 |

**学習の到達目標**

単に技術やルールの習得にとどまることなく、その指導方法について学習して、模擬授業を担当することで指導技術も身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 実習ガイダンス | レクリエーションスポーツの特性とその目的 |
| 2 | 信頼関係づくりの方法 1 | ホスピタリティについて |
| 3 | 信頼関係づくりの方法 2 | 自己紹介　伝えることと、受け止めることについて |
| 4 | 信頼関係づくりの方法 3 | コミュニケーションワークについて　集団をまとめる |
| 5 | 良好な集団づくりの方法 1 | アイスブレーキングについて実践を通して学ぶ |
| 6 | 良好な集団づくりの方法 2 | アイスブレーキング要素の高いレクリエーションゲーム |
| 7 | 良好な集団づくりの方法 3 | アイスブレーキングの支援技術 |
| 8 | 楽しむ力を高める方法 1 | 課題解決型グループワークを体験する |
| 9 | 楽しむ力を高める方法 2 | 体験学習プログラムとしての活用方法 |
| 10 | 楽しむ力を高める方法 3 | イニシアティブゲームの展開方法 |
| 11 | レクリエーション支援のプログラム 1 | 子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず、誰もが楽しめるニュースポーツの展開 |
| 12 | レクリエーション支援のプログラム 2 | 子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず、誰もが楽しめる身体活動　歌やゲーム |
| 13 | レクリエーション支援のプログラム 3 | 障がい者スポーツ 1　誰もが楽しめるアクティビティ |
| 14 | レクリエーション支援のプログラム 4 | 障がい者スポーツ 2　障がいの程度別の指導について |
| 15 | 実習のまとめ | 授業で取りあげたスポーツのまとめ |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり、（財）日本レクリエーション協会，レクリエーション支援の基礎、（財）日本レクリエーション協会
その他　必要に応じて資料を配付する

**準備学習・事後学習**

準備学習：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネットの動画など）を入手し、毎回の実習に生かせるように目を通しておく。
事後学習：毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、毎時授業日誌を回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。

**成績評価の目安と方法**

平常点 70%　提出物・レポート 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | レクリエーションスポーツの意義を活かした、健康生活への応用力を十分に身につけている。 |
| A | レクリエーションスポーツの意義を良く理解している。 |
| B | レクリエーションスポーツの意義を理解している。 |
| C | レクリエーションスポーツの基礎的な理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スクーバダイビング実習　[Scuba diving] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習（集中授業）<br>アクティブ・ラーニング | 太田 あや子 | | NSM-S5132 |

この授業に関係する資格

スクーバダイビング Ｃカード（オープンウォーター）、レクリエーションインストラクター

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | Ｃカード（オープンウォーター）<br>講義講習・プール講習<br>海洋実習 | クーバダイビング指導団体（ＤＡＣＳ）の教程に従って、安全潜水のための講義講習とプール実習を学内集中授業で受講した後、２泊３日の海洋実習を行う。教材や実習にかかる経費の負担がある（８万円程度）。 |

学習の到達目標

スクーバダイビングの知識と知識を身につけ、希望者はオープンウォーターのＣカードを取得することをめざす。

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ガイダンス：Ｃカード取得に必要な書類の作成 |
| 2 | 講義講習 1:ダイビングと身体、ダイビングと環境 |
| 3 | 講義講習２：スキンダイビング、スクーバダイビング |
| 4 | 講義講習３：ダイビングと障害と症状、ダイビングと安全 |
| 5 | 講義講習４：ダイビングの実際、水中生物、器材管理と点検 |
| 6 | プール講習１：スキンダイビング実技（シュノーケルクリア、マスククリア、潜泳、200m水面移動） |
| 7 | プール講習２：スクーバダイビング１（セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力） |
| 8 | プール講習３：スクーバダイビング２（バディブリージング、スイミングアセント） |
| 9 | プール講習４：スクーバダイビング３（器材脱着、各スキルの復習とチェック） |
| 10 | プール講習５：スクーバダイビング４（200m水面移動） |
| 11 | プール講習６：深度体験と耳抜き、深度プールでのスキルチェック（学外実習）エントリーとエキジット |
| 12 | 海洋実習１：スクーバダイビング１（セッティング、レギュレータークリア、マスククリア、中性浮力）（学外実習） |
| 13 | 海洋実習２：スクーバダイビング２（バディブリージング、スイミングアセント）（学外実習） |
| 14 | 海洋実習３：スクーバダイビング３（器材脱着）（学外実習） |
| 15 | 海洋実習４：計画潜水：30 分程度のスクーバダイビング（学外実習） |
| 試験等 | 筆記試験 |

教科書及び参考図書

DacsOW 教本（実習費８万円程度に含まれる）

準備学習・事後学習

スクーバダイビングのライセンス取得を目指す授業である。ライセンスは２泊３日の海洋実習で４回海に潜水しないと取得できないので、日程や経費に関して十分な準備をしておくことが望ましい。５０mの泳力があると安心して受講できるため水泳関係の授業の履修を勧める。

課題に対するフィードバックの方法

学習ノートの内容をふまえた課題解決にむけた指導助言を行う。

成績評価の目安と方法

実技試験５０%、筆記試験５０%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スクーバダイビングに関する知識が豊富で、高い技能レベルにある。 |
| A | スクーバダイビングに関する十分な知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。 |
| B | スクーバダイビングに関する知識があり、安全潜水に必要な技能レベルにある。 |
| C | スクーバダイビングに必要な基礎的知識と技能がある。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 冬季アウトドア実習　[Winter Outdoor Activity] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習（集中授業）<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 | | NSM-S5133 |

この授業に関係する資格

レクリエーション・インストラクター、キャンプインストラクター

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 野外活動<br>冬季の自然<br>スキー | スキーはウインタースポーツの代表であり、冬季の自然の中で素晴らしい満足感・達成感をわれわれに与えてくれる。本授業では、冬の自然を理解し、スキーを安全に楽しむために必要な基本的技術・知識を身につける。また、生涯スポーツの一つになるよう、受講者のレベルにあわせて指導する。さらに、指導者として必要な知識・技術も身につける。 |

学習の到達目標

３泊４日のスキーを体験することで、共同生活の中で望ましい人間関係を築き上げ、安全に滑走を楽しむ基本技術を身につける。
初心者指導法を学ぶことで、安全に楽しく確実にスキー技能が向上する初心者指導法を身につける。

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1<br>～<br>15 | 学内事前授業（10 月から合計３回実施する）<br>授業概要と参加費等の説明および用具合わせと取り扱い方法を学ぶ<br><br>集中授業<br>参加者のスキー技術レベルに応じてグループを編成し、練習する<br>ここでは「超・スキー練習法」に基づく指導体系により、初心者は初日からプルークボーゲンをできる様にし、リフトを使いながら、安全に確実に滑れる様になる。経験者はスキーと身体の操作能力を高める練習をし、技術のレベルアップを図る<br>また、個人の欠点の矯正も行い、より安全で確実な技術を身につける<br>なお、技術指導だけでなく、スキー場での行動規則を学び、安全に配慮したマナーのある行動を身につける<br>さらに、指導者として身につけておくべき指導法についても学習し、最終日には学生同士による模擬指導を実施する<br>宿舎での講義で「スキーと安全」「スキーが上手になるために」「スキー指導法」を行い、スキー技術と安全管理について学ぶ<br><br>講習内容をどれだけ理解したかを実習の記録に記載し提出する<br>合宿形式の集中授業なので実習費（30,000 円）が必要である他、別途レンタル料、リフト券代が必要となる |
| 試験等 | 課題レポート |

教科書及び参考図書

参考図書：野外活動　その考え方と実際、日本野外教育研究会編、杏林書院
キャンプ指導者入門、（社）日本キャンプ協会 ，　超・スキー練習法、野沢巌監修・指導、山海堂
その他　必要に応じて資料を配付する

準備学習・事後学習

３泊４日の合宿形式の集中授業である。初心者でも参加可能である。実技練習に支障がないよう、日頃から運動を心がける。
実技講習の内容をふりかえり、翌日の講習に生かせる用、体調を整えて翌日の講習に備えること。

課題に対するフィードバックの方法

毎日、実習の記録を回収し、解説やコメントを加えて返却する。休憩時間等にも適宜対応する。

成績評価の目安と方法

学内ガイダンスと実習へ取り組む姿勢　70%　　記録記載内容・レポート　30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術と安全確実な指導方法を身に付けている。 |
| A | 冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術と安全な指導方法を理解している。 |
| B | 冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの技術を身に付けている。 |
| C | 冬季の自然と、スキーの持つ本質的な危険を理解し、スキーの基礎的技術を身に付けている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | アロマテラピー [Aromatherapy] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・実習<br>アクティブ・ラーニング | 鯨岡 久美 | 実 | NSM-S3134 |

この授業に関係する資格

日本アロマ環境協会 アロマテラピー検定 1 級

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アロマテラピーの基礎<br>生活の中でのアロマテラピー<br>健康とアロマテラピー | アロマテラピーの基礎を学び、正しく活用できる知識を養う。<br>アロマテラピーを学び、生活の中に取り入れることで、自分の生活をより豊かにする。<br>アロマテラピーを学び、自分や家族の心と身体の健康に役立て、将来職場でも役立てられる力を養う。 |

学習の到達目標

アロマテラピーを正しく理解し、自分や家族の健康に役立てられる力を養う。
検定試験合格レベルの知識を、楽しみながら習得し、今後ますます必要となる予防代替療法としてのアロマテラピー活用の知識・方法を学ぶ。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | アロマテラピーの基本 | アロマテラピーの定義について |
| 2 | アロマテラピーの基礎知識 | 精油の定義、香りのイメージレッスン、精油の香り当て |
| 3 | アロマテラピーのメカニズム | 精油の作用、アロマテラピーのメカニズム、精油学習① |
| 4 | 実習Ⅰ：アロマ石鹸作り | アロマテラピーの利用法、精油の学習②、アロマ石鹸作りの実習 |
| 5 | 精油の基礎知識 | 精油の作用、精油の製造方法、精油の学習③ |
| 6 | 安全な精油の使い方 | 精油の取り扱いの注意事項、精油の学習④ |
| 7 | アロマテラピー利用法Ⅰ | 利用法の注意点、基材、用具について、精油の学習⑤ |
| 8 | 実習Ⅱ： ルームフレグランス | 様々なアロマテラピー利用法について、精油の学習⑥、ルームフレグランス作りの実習 |
| 9 | アロマテラピーと健康Ⅰ | 食生活と栄養、運動、疲労と休養・睡眠、精油の学習⑦ |
| 10 | アロマテラピーと健康Ⅱ | 生活習慣病、ストレスとメンタルヘルス、ライフステージと健康、精油の学習⑧ |
| 11 | 実習Ⅲ：化粧水作り | 古代～中世のアロマテラピーの歴史、精油学習⑨、化粧水作りの実習 |
| 12 | アロマテラピーの歴史 | 近世～現代、日本におけるアロマテラピーの歴史、精油学習⑩ |
| 13 | アロマテラピーと地球環境 | 現在の地球環境と環境問題、精油の復習① |
| 14 | アロマテラピーに関係する法律 | アロマテラピーの関連法規、精油の復習② |
| 15 | まとめ、実習Ⅳ：マッサージ | 全体の総括とまとめ、ハンドマッサージの実習 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：日本アロマ環境協会発行 アロマテラピー検定 公式テキスト 1 級、アロマ精油費

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： 指定したテキストの次回講義該当箇所を読んでおくこと。
事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業始めに、前回授業内容の理解度確認のため小テストを行うので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認の小テストを回収後、解答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記試験 80%　平常点（授業態度・小テスト） 20%　理由のない欠席、遅刻、早退は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 筆記試験結果を中心に、授業に積極的に参加し、発言や、質問などを特に活発にしている。 |
| A | 筆記試験結果を中心に、授業に積極的に参加し、発言や、質問などをしている。 |
| B | 筆記試験結果を中心に、授業への参加、発言、質問が平均的である。 |
| C | 筆記試験結果を中心に、授業中の発言や質問が消極的である。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | スポーツマッサージ　[Sports Massage] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 伏見 由紀乃 | 実 | NSM-S3135 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | コンディション調整 | スポーツマッサージはコンディション調整だけでなく、障害の予防・治療、リハビリテーション等に用いられている物理療法の一つである。本授業ではスポーツマッサージの理論や作用、施術時の注意事項等を理解し、基本的な手技の習得を目指す。 |
| 2 | 障害の予防・治療 | |
| 3 | リハビリテーション | |

学習の到達目標

スポーツマッサージの基本的な手技の習得を目指す。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 定義、概要(講義形式) | スポーツマッサージの理論や注意点 |
| 2 | 基本的な手技 | 各手技の説明、二人一組で実技 |
| 3 | うつぶせマッサージ | 背部のマッサージ |
| 4 | うつぶせマッサージ | 腰背部、臀部のマッサージ |
| 5 | うつぶせマッサージ | 下肢のマッサージ |
| 6 | 仰向けのマッサージ | 上肢、頸部のマッサージ |
| 7 | 仰向けのマッサージ | 下肢のマッサージ |
| 8 | 仰向けのマッサージ | その他のマッサージ |
| 9 | 側臥位のマッサージ | 上肢のマッサージ |
| 10 | 側臥位のマッサージ | 下肢、臀部のマッサージ |
| 11 | 側臥位のマッサージ | 腰背部、肩背部のマッサージ |
| 12 | 全身のマッサージⅠ | 腰痛へのアプローチ |
| 13 | 全身のマッサージⅡ | 肩こりへのアプローチ |
| 14 | 全身のマッサージⅢ | 全身のマッサージ |
| 15 | まとめ | 全体の総括 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

必要に応じてプリントを配布します
参考図書：改訂版 身体運動の機能解剖(医道の日本社)、 改訂版 ボディ・ナビゲーション(医道の日本社)

準備学習・事後学習

準備学習（週１時間）： マッサージについて、シラバス、参考図書等でマッサージのイメージを持つようにすること。
事後学習（週２時間）： 授業で行ったマッサージ解剖・手技の復習。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で随時、対応、確認。

成績評価の目安と方法

筆記試験 50%　 授業態度（実技に取り組む姿勢） 50%　　理由のない遅刻、欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | スポーツマッサージの理論や注意点を良く理解し、主訴によって手技を使い分け全身のマッサージができる。 |
| A | スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、応用しながら全身のマッサージができる。 |
| B | スポーツマッサージの理論や注意点を理解し、全身のマッサージができる。 |
| C | スポーツマッサージの理論や注意点を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | ヨガ・ピラティス　[Yoga/Pilates] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実技・演習<br>アクティブ・ラーニング | | | NSM-S5136 |

この授業に関係する資格

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | ヨガ | ヨガ・ピラティスを体験する事で、呼吸法、ストレッチング、コアトレーニング、リラクゼーションのスキルを獲得し、自分自身のコンディショニング方法を身に付ける。<br>ヨガ・ピラティスの基本を毎回、テーマを決めて学び、体調、実技内容、感想を毎回演習ノートに記入する。 |
| 2 | ピラティス | |
| 3 | 指導法 | |

学習の到達目標

いくつかのヨガのポーズ・ピラティスエクササイズを自分で組み合わせ、ポイントを説明しながら発表できるようにする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ヨガ・ピラティスの概論とこの授業の目的 |
| 2 | アライメントについて | 姿勢チェック |
| 3 | 呼吸法 | 腹式呼吸他 |
| 4 | リラクゼーション | 体ほぐし、足もみ |
| 5 | ヨガ基本１ | 座って行うアサナ（ポーズ） |
| 6 | ヨガ基本２ | うつ伏せで行うアサナ（ポーズ） |
| 7 | ヨガ基本３ | 立って行うアサナ（ポーズ） |
| 8 | ピラティス１ | 基本姿勢・基本動作 |
| 9 | ピラティス２ | ローリングライカボール、ロールアップ、ハンドレッド他 |
| 10 | ピラティス３ | ハンマー、シザース、ブリッジ、プーリー他 |
| 11 | プログラム指導法１ | 太陽礼拝 |
| 12 | プログラム指導法２ | 目的に合わせたピラティスプログラム |
| 13 | 実技発表１ | プログラム指導の発表１ |
| 14 | 実技発表２ | プログラム指導の発表２ |
| 15 | 総まとめ | 全体の総括・演習ノートまとめ及び提出 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

適宜、必要な資料を配付する
参考図書：図解 YOGA アナトミー：筋骨格編、アーサナ編 –医師が教えるヨガの機能解剖学　YOGA BOOKS

準備学習・事後学習

準備学習（週１時間）： ヨガ・ピラティスについて、シラバス、参考図書等でヨガ・ピラティスのイメージを持つようにすること。
事後学習（週２時間）：記録するトレーニングです。休まず、授業時間外で自分の体をしっかり観察し、記録する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で随時、対応、確認。

成績評価の目安と方法

１．平常点：50%　２．実技発表：30%　３．演習ノート：20%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、対象者を観察し、修正しながら指導することができる。 |
| A | ヨガ・ピラティスの課題を正確に示し、指導することができる。 |
| B | ヨガ・ピラティスの課題を正確に示すことができる。 |
| C | ヨガ・ピラティスの課題を最低限示すことができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | グループエクササイズ実習　[Group Exercise] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 実習<br>アクティブ・ラーニング | 矢島 しのぶ | | NS-S5137 |

この授業に関係する資格

GFI

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | グループエクササイズ | グループエクササイズについての理解を深め、指導者としての役割を学び、実際の指導法について学習する。また、骨格筋に関する基礎知識を身につけ、安全で効果的なレジスタンスエクササイズ・ストレッチングエクササイズの指導ができるようにする。 |
| 2 | レジスタンスエクササイズ | |
| 3 | ストレッチングエクササイズ | |

学習の到達目標

グループエクササイズ指導に関する基礎知識を身につけ、指導者としての知識、動きを習得することを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | グループエクササイズとは | グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割、指導者の心得 |
| 2 | グループエクササイズ指導 1 | グループエクササイズ指導の準備 |
| 3 | グループエクササイズ指導 2 | グループエクササイズ指導の実際 |
| 4 | グループエクササイズ指導 3 | 指導者の動き |
| 5 | グループエクササイズ指導 4 | グループエクササイズのクラス運営 |
| 6 | 身体の構造と骨格筋 | 骨格筋に関する基礎知識 |
| 7 | レジスタンスエクササイズ指導 1 | レジスタンスエクササイズの基礎知識 |
| 8 | レジスタンスエクササイズ指導 2 | レジスタンスエクササイズの基本の動き |
| 9 | レジスタンスエクササイズ指導 3 | レジスタンスエクササイズのプログラミング |
| 10 | レジスタンスエクササイズ指導 4 | レジスタンスエクササイズの指導法 |
| 11 | ストレッチングエクササイズ指導 1 | ストレッチングエクササイズの基礎知識 |
| 12 | ストレッチングエクササイズ指導 2 | ストレッチングエクササイズの基本の動き |
| 13 | ストレッチングエクササイズ指導 3 | ストレッチングエクササイズのプログラミング |
| 14 | ストレッチングエクササイズ指導 4 | ストレッチングエクササイズの指導法 |
| 15 | まとめ・振り返り | 全体の総括 |
| 試験等 | 実技試験、筆記試験 | |

教科書及び参考図書

参考図書：グループエクササイズ指導理論　（公社）日本フィットネス協会
レジスタンスエクササイズ指導理論　（公社）日本フィットネス協会
ストレッチングエクササイズ指導理論　（公社）日本フィットネス協会

準備学習・事後学習

準備学習：　授業で学んだことを振り返り、体調を整えて授業に備えること。
事後学習：　積極的に指導実践に参加できるよう、練習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、レポート・課題を回収後、コメントを入れて返却する。

成績評価の目安と方法

指導実践（実技試験）50%　筆記試験 40%　平常点及び提出物など 10%　理由のない遅刻・欠席は減点

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | グループエクササイズ指導に関する知識を十分に活かし、対象者に配慮した安全で効果的な運動指導が行える。 |
| A | グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、安全で効果的な運動指導が行える。 |
| B | グループエクササイズ指導に関する知識を理解し、適切な運動指導ができる。 |
| C | グループエクササイズ指導に関する基礎的な知識を身につけ、指導者として見本となる動きができる。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | キャリアデザイン　[Career Design Program] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習 | 岡﨑 英規 ・ 川井 明 ・ 植松 大介 | | NSM-S9138 |

**この授業に関係する資格**

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 就職活動<br>就職試験<br>就業意識 | 自分の適性を知り、各自の能力が活かせるような企業（進路先またはキャリア）を探す方法を学び、インターネットでのアクセス方法（ナビ登録の仕方、エントリーシートでの応募の仕方など）、就職（及び編入学、進学）活動に必要な書類の作成、面接試験対策（模擬個人・グループ面接）などを 1 年次に引き続き行う。 |

**学習の到達目標**

社会人として自立できるように、職業に対する意識を高め、自分に適した職業を選択し、就職するために必要な知識、技能を身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 受講上の注意など | 授業内容と進行方法、心構え、評価方法について、就職活動に役立つ PDCA を学ぶ、就職活動情報（企業説明会・採用状況他）収集法など<br>＊（1）企業の人事担当者に聞く（業界・企業の採用人物像など）<br>＊（2）企業の人事担当者に聞く（業界・企業の採用人物像など）<br>◎週のテーマに関わらず、下記の①～⑬の内容から、各自希望の項目を選び、受講又は作業・ 活動することができる<br>①エントリーの仕方など（パソコン利用法）　②模擬グループ面接　③模擬個別面接<br>④グループディスカッションでの役割やポイントなど（模擬グループディスカッション）<br>⑤公務員試験、一般常識・時事問題対策（模擬試験など）　⑥作文・小論対策<br>⑦編入学・進学試験問題対策（模擬試験など）⑧教員採用試験対策<br>⑨魅力的なエントリーシートのための書き方とポイント<br>⑩魅力的な履歴書のための書き方とポイント　⑪パソコン講習（情報処理室）<br>⑫最終模擬面接、書類の書き方と最終確認など<br>⑬就職活動で活かせるマナー（電話・メール・手紙のマナーなど）<br>⑭その他（メイクアップ講座、企業の情報収集など、於:情報処理室・図書館など） |
| 2 | 就職活動の現状、情報収集 | |
| 3 | 企業説明会（1） | |
| 4 | 面接特訓セミナー(1) | |
| 5 | 面接特訓セミナー（2） | |
| 6 | グループディスカッション | |
| 7 | 筆記試験対策、その他 | |
| 8 | 編入学試験説明会及び試験対策 | |
| 9 | 貴教員採用試験対策 | |
| 10 | 企業説明会（2） | |
| 11 | エントリーシート完成セミナー | |
| 12 | 履歴書完成セミナー | |
| 13 | 就活スキルアップセミナー 1,2,3 | |
| 14 | | |
| 15 | 振り返り | |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

教科書：就職活動テキスト
その他、必要に応じて教材用のプリントを配布

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）： 各自のテーマに関する章を読んで授業に参加する。
事後学習（週 1.5 時間）： 中途半端で終わった場合にそのままにせず課題をしっかりと終わらせ、復習する。

**課題に対するフィードバックの方法**

提出物を返却する。

**成績評価の目安と方法**

提出物（感想文など）80%　受講態度 20%として総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 授業の成果を活かし、将来の進路を決定する応用力を身につけている。 |
| A | 授業の成果を活かし、将来の進路を決定する基礎的な力を身につけている。 |
| B | 授業の成果を活かし、将来の進路を決定する準備ができている。 |
| C | 授業の成果から、将来の進路について考えをまとめられている。 |

# 教職に関する専門教育科目

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 教職概論 [Introduction to Teacher Training] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 大野 勝生 | 実 | NS-T2139 |

**この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項**

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）
・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 教師論<br>教師を取り巻く諸問題<br>ディスカッション | 本講義は「教師」そのものを学習の対象とする。履修学生の理想とする教師像を把握した上で、教師という職業に関するテーマを取り上げ、その理解を深めていく。教育、学校、教師を取り巻く状況は複雑さを増しているので、理論的な知識のみならず、学校現場において実践的に対応できる知識の習得を目指し講義を進める。 |

**学習の到達目標**

教職課程を履修する学生が「なぜ教師になりたいのか」「どのような教師になりたいのか」「教師の専門性、教師の責務とは何か」を、教職全般に係る知識を用いて深く考察できるようにすることである。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、教師を目指すに当たって、教職とは何か、教師とは何か |
| 2 | 教職への道Ⅰ | 教師になることの意味、理想の教師像とは・・・ |
| 3 | 教職への道Ⅱ | 教員免許制度をめぐる昨今の現状 |
| 4 | 教員養成と採用試験 | 教員採用試験の概要と基本知識 |
| 5 | 教職員の多様化 | 教員の仕事－校務分掌とは、その種類、決定方法等 |
| 6 | 教師を取り巻く諸問題Ⅰ | 学校現場における“いじめ問題”の現状 |
| 7 | 教師を取り巻く諸問題Ⅱ | いじめ問題に関するディベート |
| 8 | 教師の職務Ⅰ | 授業者として、学級担任として、組織の一員として |
| 9 | 教師の職務Ⅱ | 教師の一日を考える |
| 10 | 教師の専門性Ⅰ | 教師の専門性とは何か、求められる資質能力とは何か |
| 11 | 教師の専門性Ⅱ | これからの時代の教師に求められる資質能力を身に付けるために |
| 12 | 教師の専門性Ⅲ | 「チーム学校」の一員としての役割 |
| 13 | 目標とする教師像Ⅰ | グループごとのディスカッション（１） |
| 14 | 目標とする教師像Ⅱ | グループごとのディスカッション（２）と発表準備 |
| 15 | ふりかえり | 目標とする教師像の発表と講義のまとめ |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：井藤 元 編『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版 2017 年
高木展郎・三浦修一・白井達夫 共著『「チーム学校」を創る』三省堂 2015 年 ※その他、教材プリント配布

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）： 予定される講義テーマに関して、新聞、書籍、ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ等で情報収集し理解を深める。
事後学習（週 1.5 時間）： 各回実施の演習問題の復讐、テーマごとのレポートを作成する。

**課題に対するフィードバックの方法**

演習問題は各回ごとに解答解説、優良なレポートを題材に課題の確認とフィードバックを行う。

**成績評価の目安と方法**

各回に課すレポートの内容６０％、発表会の内容２０％、講義への参加態度２０％として、総合的に評価する

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等を理解し、自らの教職観を的確に構築できる。 |
| A | 教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等は良く理解している。 |
| B | 教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等をある程度理解している。 |
| C | 教職の意義、教師の役割と職務内容、専門性等を十分に理解できず、継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 教育原理　[Principles of Education] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 大野 勝生 ・ 田中 直美 | 実 | NS-T2140 |

**この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項**

教員免許（保健体育、栄養教諭）、社会福祉主事
・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 教育学<br>現代の学校の諸問題<br>ディスカッション | 教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識と、教育に関する経営的事項について基本的な知識を習得し、教師として学校現場で教育活動に従事する際に必要と思われる教育の原理を理解する。 |

**学習の到達目標**

1　教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理念と理論についての理解ができるようになる。
2　これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できるようになる。
3　教育に関する経営的事項について基本的な知識を身に付け、学校と地域との協働の意義と在り方、及び学校安全の目的と具体的な取組を学び、理解できるようになる。
以上の知識を踏まえてディスカッションに臨み、理解を深めることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、教育とはなにか、教育学を学ぶとはどういうことか（担当：田中） |
| 2 | 学校の歴史 | 学校の歴史、学校教育の意義をめぐるディスカッション（担当：田中） |
| 3 | 西洋教育史 | 西洋教育史１（コメニウス、ロック、ルソー、カント、ペスタロッチ）（担当：田中） |
| 4 | 西洋教育史 | 西洋教育史２（フレーベル、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリ）（担当：田中） |
| 5 | 現代の学校教育 | 現代の学校教育の課題を考える１（いじめ、不登校）（担当：田中） |
| 6 | 現代の学校教育 | 現代の学校教育の課題を考える２（モンスターペアレント、英語教育）（担当：田中） |
| 7 | 現代の学校教育 | 現代の学校教育の課題を考える３（道徳教育、SNS）（担当：田中） |
| 8 | 学校経営 | 学校経営の望むべき姿（担当：大野） |
| 9 | 学校経営 | 教育活動の年間の流れと学校評価の重要性（担当：大野） |
| 10 | 学校経営 | 学校経営の仕組みと効果的な方法（担当：大野） |
| 11 | 学校経営 | 開かれた学校づくりの経緯とその意義（担当：大野） |
| 12 | チーム学校 | 教職員および学校外の関係者との協働の在り方（担当：大野） |
| 13 | チーム学校 | 学校と地域との協働の方法を事例から考える（担当：大野） |
| 14 | 学校安全 | 学校安全の目的と取り組み（担当：大野） |
| 15 | ふりかえり | 講義内容のまとめとディスカッション（現代の教育課題を再考する）（担当：田中・大野） |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009 年　そのほか授業中に適宜資料を配布する。

**準備学習・事後学習**

準備学習（週1.5時間）：講義で配布される各回のテーマに関する資料を次回の講義までに熟読し、次のテーマとの関連性がわかるように理解を深める。
事後学習（週 1.5 時間）：各回のテーマごとの小レポートの作成。

**課題に対するフィードバックの方法**

資料および小レポートをもとにおこなうディスカッションにおいて、意見の共有を通してフィードバックをおこなう。

**成績評価の目安と方法**

各回に課す小レポートの内容　60%　講義への参加態度　40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を習得し、自らの考えを良く表現できている。 |
| A | 教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容をとても良く理解している。 |
| B | 教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を十分に理解している。 |
| C | 教育の理念、学校教育論、現代の学校の諸問題等の内容を理解したものの、継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 発達と学習の心理学<br>[Psychology of Learning and Development] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 高橋 勇一 | | NS-T2141 |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 発達と発達課題<br>学習のメカニズム<br>発達と学習の理論 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達はどのようになされるか、発達に影響を及ぼす要因、各発達段階の特徴、発達課題等について概説する。また、学習に影響を及ぼす要因、学習の動機づけ、集団づくり、学習評価のあり方等について、教育実践に役立つ内容を学習する。 |

学習の到達目標

1.発達の過程及び特徴について理解する。2.学習のメカニズムを理解する。3.発達と学習の諸理論について理解する。以上の 3 点を基に、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 発達について | 教育心理学・発達と学習について |
| 2 | 心と記憶 | 心と脳、記憶のしくみ、忘却、メタ認知など |
| 3 | 発達に関する諸理論 | 発達段階と発達課題、ピアジェ、エリクソンの発達理論 |
| 4 | 幼児期の発達 | 乳幼児期の特徴、運動発達・言語発達、愛着（アタッチメント）など |
| 5 | 学童期の発達 | 学童期の特徴、認知発達・社会性の発達、「9（10）歳の壁」 |
| 6 | 青年期の発達（１） | 青年期の特徴、自我の芽生え、反抗期、アイデンティティ |
| 7 | 青年期の発達（２） | 思春期学、10 代の脳と心、職業選択について |
| 8 | 生涯発達 | ライフサイクル、運動発達・認知発達・社会性の発達、未来予想など |
| 9 | 知性・パーソナリティ | 人間（ヒト）の知性、パーソナリティの発達について |
| 10 | 学習意欲 | 動機づけ、期待効果、学習結果の振り返りなど |
| 11 | 学習理論と学習方法 | 学習理論、学習方法、学習形態など |
| 12 | 学習評価 | 評価の理論と方法、評価の活かし方 |
| 13 | 学級集団と人間関係 | 学級集団、人間関係と測定法、リーダーとフォロワー |
| 14 | 発達障害と学習 | 発達障害に対する理解と学習支援など |
| 15 | 総合・まとめ | 発達を踏まえた学習支援・学習指導、振り返り学習 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書・参考資料等 和田万紀 編『Next 教科書シリーズ 教育心理学』弘文堂、 外山紀子・外山美樹 著『やさしい発達と学習』有斐閣アルマ、 安藤寿康・鹿毛雅治 編『教育心理学』慶応義塾大学出版会
※ 授業中に適宜資料を配付する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.0 時間）：書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。
事後学習（週 2.0 時間）： 授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題やリアクションペーパーなどにコメント等を入れて返却する。

成績評価の目安と方法

授業参加態度・小レポートの内容 ５０%、授業内課題 ５０%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 発達と学習の心理学についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身に付けている。 |
| A | 発達と学習の心理学についての知識を身につけ、十分に理解を深めている。 |
| B | 発達と学習の心理学の概略について概ね理解している。 |
| C | 発達と学習の心理学の概略について最低限は理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 特別支援教育　[special needs education] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義 | 清水 光雄 | 実 | NS-T3142 |

**この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項**

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 特別な教育的ニーズ<br>インクルーシブ教育<br>特別支援教育を推進するシステム | 特殊教育から特別支援教育へ理念と基本的な考えの転換、障害とは何か、特別支援教育への転換に伴う数々の法的整備、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解、特別支援教育を推進するシステム、特別支援教育に関する教育課程及び支援の方法、特別支援教育の対象と範囲の拡大、新たな課題などについて概説する。 |

**学習の到達目標**

1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について理解する。
2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について理解する。
3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について理解する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解 | 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程の理解など |
| 2 | 特別支援教育とは何か | 特殊教育から特別支援教育へ理念と基本的な考えの転換、特別支援教育対象者数の変化など |
| 3 | 障害とは何か | これまでの障害観と新たな障害観（ICF）、「共生社会」の実現を目指す日本など |
| 4 | 法的整備 | 特別支援教育への転換に伴う数々の法的整備、インクルーシブ教育システムなど |
| 5 | 様々な障害児の発達特性 | 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難についての理解など |
| 6 | 特別支援教育を推進するシステム | 「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成、「通級による指導」や特別支援学級、巡回相談、特別支援学校のセンター的役割など |
| 7 | 学習指導要領と教育課程及び支援の方法 | 特別支援教育に関する教育課程及び支援の方法、「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容など |
| 8 | 特別支援教育の対象と範囲の拡大 | 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒を含めた具体的な指導・支援のあり方、新たな課題の認識など |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

テキスト：柘植雅義 著『特別支援教育 -多様なニーズへの挑戦-』中公新書

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：特別な支援を必要とする児童生徒が学校でどのような支援を受けているか、学校生活を振り返る等して考えを整理しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：授業中の内容を復習し、特別な支援を必要とする児童生徒に対しどのような支援が必要か、様々な視点から整理しておく。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、理解度を確認するテストを回収後、解答の解説を行う。

**成績評価の目安と方法**

筆記試験７０％ 授業参加の意欲・態度・提出物など３０％

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 特別の支援についての知識を身につけ、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身につけた。 |
| A | 特別の支援についての知識を身につけ、理解を深めた。 |
| B | 特別の支援の概略を概ね理解することができた。 |
| C | 特別の支援の概略を部分的に理解した。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 道徳教育の理論と実践<br>[Moral Education and Teaching Methods] | 1 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 田中 直美 | | NS-T3143 | | |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・道徳の理論及び指導法

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 道徳教育論<br>指導法<br>学習指導案 | 中学校学習指導要領に示されている道徳教育の内容を理解したうえで学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 |

学習の到達目標

1 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、およびその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解する。
2 学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力を身に付ける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の進め方、学校における道徳教育のあり方 |
| 2 | 学習指導要領 | 学習指導要領が定める道徳の位置づけと内容 |
| 3 | 道徳教育の歴史 | 道徳教育の歴史 |
| 4 | 学習指導案 | 学習指導案の書き方 |
| 5 | 学習指導案 | 資料の活用類型と発問構成の工夫 |
| 6 | 学習指導案 | 指導案の作成 |
| 7 | 模擬授業 | 模擬授業と評価１（グループ１、２、３） |
| 8 | 模擬授業 | 模擬授業と評価２（グループ４、５、６） |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

中学校学習指導要領、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）
中学校学習指導要領解説 道徳編、小学校学習指導要領解説 道徳編（文部科学省）
＊文部科学省ホームページ 中学校学習指導要領解説よりダウンロードすることができる
他に使用する資料を授業時に配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： 次の授業で扱う資料を読み、自分の意見を発言できるようにしておく。
事後学習（週 1.5 時間）： 学習指導案の改善。授業で扱った資料を再度熟読し、復習する。

課題に対するフィードバックの方法

資料についてのディスカッション。および指導案の回収、コメントをおこなう。

成績評価の目安と方法

学習指導案 50%　授業への参加態度 50%（模擬授業、リアクションペーパー、グループワーク）

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 道徳教育の目標・内容・方法をよく理解し、自分の考えも適切に表現できている。 |
| A | 道徳教育の目標・内容・方法を理解している。 |
| B | 道徳教育の概要は理解している。 |
| C | 道徳教育の概要は理解しているが、継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 特別活動指導法　[Special Activities] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 | | NS-T3144 |

**この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項**

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・特別活動の指導法

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 特別活動<br>集団活動<br>話し合い活動 | 小学校及び中学校学習指導要領における特別活動の領域について、その特質・活動内容を学習しながら、学校教育全体における特別活動の意義について学ぶ。さらに、児童・生徒が集団や社会における役割と責任を自覚して、人間形成し自己実現して行くうえで必要となる教師の役割を十分に果たすための基礎的知識と具体的指導内容・方法を、実際例をあげながら学習して行く。 |

**学習の到達目標**

・学校教育全体における特別活動の意義を理解する。
・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点で捉えることができる。
・学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 特別活動の目標及び内容 | 授業の進め方、特別活動の目標と内容 |
| 2 | 特別活動の位置づけ | 特別活動と他の教科等との関連について |
| 3 | 学級活動 | 学級活動について　学級活動のねらいと「話合い活動」、「合意形成」 |
| 4 | 児童会活動、生徒会活動 | 児童会活動、生徒会活動の特質とねらい |
| 5 | クラブ活動、学校行事 | クラブ活動、学校行事それぞれの特質について |
| 6 | 取り組みと評価 | 特別活動の指導の在り方について |
| 7 | 地域との連携 | 合特別活動における、家庭・地域、関係諸機関との連携について |
| 8 | 評価と改善活動 | 特別活動における取り組みの評価・改善活動 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領
その他、必要に応じて配布する

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポートに生かせるように目を通しておく。
事後学習（週 1.5 時間）：授業内容をふりかえり、復習しておくとともに、毎時間配付する資料は保管しておき、いつでも確認できるようにしておく。

**課題に対するフィードバックの方法**

フィードバックとして、毎時ミニレポートを回収し、次時に返却をする。

**成績評価の目安と方法**

毎時間の提出物・レポート 60%　　筆記試験 40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 特別活動の理論を活かした、指導法を充分に身に付けている。 |
| A | 特別活動の理論と指導法を良く理解している。 |
| B | 特別活動の理論と指導法を理解している。 |
| C | 特別活動の理論と指導法に対して基礎的な内容を理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 教育方法の理論と実践<br>[Theory and Practice of Educational Method] | 1 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義（集中授業）<br>アクティブ・ラーニング | 押尾 恵吾 | | NS-T3145 | | |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | アクティブラーニング<br>グループ学習<br>情報機器の活用 | 本講義では、教育実践（授業）に活かすことができる知識を獲得し、受講者自身の授業計画に効果的に活かすことができるようになることを目的とする。そのために、学期のはじめでは、学習に関連する学習者の個人差となる特徴について学習する。そして、学習者の活動性を高めるアクティブラーニングの手法と理論的背景について学習する。この 2 点をさらに効果的に応用できる手段として、情報機器の活用法にも触れ、より教育効果の高まる授業が行えるようになることを目指す。この授業自体も一種の教材と位置づけ、様々なアクティブラーニングの手法を取り入れて行う。 |

学習の到達目標

1.学習活動における理論と学習者の特徴を理解し、説明することができる。
2.アクティブラーニングの理論と手法を理解し、授業計画に取り入れることができる。
3.教材の工夫の仕方と情報機器の活用について理解し、自分自身の授業方法に活かすことができる。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション<br>教育方法の歴史 | 授業内容と受講学生が求められる学習<br>代表的な教育学の理論（復習も） |
| 2 | 授業の研究 | 基礎的な行動科学からの変遷 |
| 3 | 授業と学習の理論 | 学習の理論と授業 |
| 4 | 新しい学習指導要領と授業展開 | 2020 年度から施行される予定の学習指導要領とアクティブラーニング及び学習評価の基礎的な考え方について学ぶについて |
| 5 | 協同学習・グループ学習 | 協同学習・グループ学習を実際に体験しながら、授業への適用を考える |
| 6 | アクティブラーニングの授業<br>知識構成型ジグソー法 | アクティブラーニングとは何かを学ぶ<br>知識構成型ジグソー法を実際に体験しながら、授業への適用を考える |
| 7 | 教材と情報機器 | 教材の工夫、情報機器の活用 |
| 8 | 授業のまとめ | 総括 |
| 試験等 | レポート課題 | |

教科書及び参考図書

参考図書：安永 悟・関田 一彦・水野 正朗 (編著)『アクティブラーニングの技法・授業デザイン』 東信堂 2016 年
上記以外にも、授業で用いる、もしくは授業と関連する文献は随時紹介する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：自分の担当する教科などで自分が良いと思った指導案を複数入手し、期間中は持参する。
事後学習（週 1.5 時間）：毎授業時に配布された資料を用いて、指導案の作成を行う（初回授業時に詳細を伝える）。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、回収したリアクションペーパーに対して回答する。また、レポートに評価及びコメントし、返却する。

成績評価の目安と方法

最終レポート 60%　　毎授業後に提出をするリアクションペーパーおよび授業参加の積極性　40%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、すべて有効な形で組み込まれている。 |
| A | 最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、ひと通り組み込まれている。 |
| B | 最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、部分的に組み込まれている。 |
| C | 最終レポートに、本授業で教授した学習の理論や授業法が、ひとつも組み込まれていない。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 生徒・進路指導論　[Student and Career Guidance] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 田中 直美 ・ 林　亜美 | | NS-T3146 |

**この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項**

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・生徒指導の理論及び方法
・進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 生徒指導<br>進路指導<br>グループワーク | 生徒指導は学習指導と並ぶ重要な教育機能を有している。一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるために、教育活動全体を通じ、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に指導を進めることを理解した上で、生徒指導の実際を視野に入れた講義を、グループワークや哲学対話を取り入れながら展開する。<br>進路指導は、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動を学ぶため、ケーススタディを用いたロールプレイング実践を取り入れる。 |

**学習の到達目標**

・実際の生徒指導の場面での問題の原因を追究し、実践に生かすことのできる知識と技術を身に付ける。
・進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や要素を身に付ける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、生徒指導の領域と内容（担当：田中） |
| 2 | 生徒指導のあり方 | 児童生徒理解の重要性と生徒指導の組織的な取り組み（担当：田中） |
| 3 | 校則と体罰 | 校則と懲戒の正当性の要件、体罰の禁止（担当：田中） |
| 4 | SNS の指導法 | SNS の適切な使用方法の指導（担当：田中） |
| 5 | いじめ | いじめ問題の理解とその対応（担当：田中） |
| 6 | 進路指導の理論 | 進路指導・キャリア教育の理論的背景や理論体系（担当：林） |
| 7 | 進路指導のあり方 | すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方（担当：林） |
| 8 | 多様な進路指導 | 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方（担当：林） |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書：生徒指導提要（平成２２年３月　文部科学省）
江川玟成編『生徒指導の理論と方法』三訂版、学芸図書、2010 年
授業中に適宜資料を配布する

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.5 時間）：　各テーマに関する新聞記事やニュースを共有できるように準備してくる。
事後学習（週 1.5 時間）：　各回で使用する資料を再度熟読し、小レポートを作成する。

**課題に対するフィードバックの方法**

授業で新聞記事やニュースを共有しディスカッションする。小レポートは回収し、コメントをする。

**成績評価の目安と方法**

参加態度２５％　各回に課すリアクションペーパー５０％　レポート２５％
＊講義および相互学習形式の授業です。授業中にスマホを利用する・他用を行う、授業やグループワークの進行を妨げる・加わらないなどの態度は減点とします

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を習得し、自身の生徒指導の実践に活かすことができる。 |
| A | 生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容をとても良く理解している。 |
| B | 生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を十分に理解している。 |
| C | 生徒・進路指導の理論と現代の問題点等に関する内容を理解したものの、継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 教育相談　[School　Counseling] | 1 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 高橋　勇一 | | NS-T3147 |

**この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項**

教員免許（保健体育、栄養教諭）
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 教育相談<br>カウンセリングの技法<br>問題行動への対応 | 現代の児童生徒はさまざまな問題を抱えている。教職員は児童生徒の相談役となり、学習・生活・進路をはじめ、いじめや不登校あるいは問題行動の解決に向けて助言、支援、指導していく必要がある。この授業では、児童生徒が直面する課題の解決に向けて、助言、支援、指導していくための基礎知識を身につけ、望ましい方向に導いていくための実践的方法について学習する。 |

**学習の到達目標**

1.教育相談の意義と理論を理解する。
2.カウンセリングマインドを理解し、カウンセリングの基礎的技法を身につける。
3.問題行動への対処の方法を学び、学級・学校全体の取り組みの方略について修得する。
以上の３点を基にして教育相談に応用できる能力とスキルを身につける。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 教育相談とは | 教育相談とは何か、教育相談の必要性と意義について |
| 2 | 教育相談に関わる心理学 | 人間理解・人間関係・人格成長（ユング、アドラー、ロジャーズ） |
| 3 | カウンセリングについて | カウンセリングの基礎知識、カウンセリングマインド |
| 4 | カウンセリングの技法 | 信頼関係、受容、傾聴、共感的理解、解決支援、グループアプローチ、構成的グループエンカウンター |
| 5 | 学校体制づくり | 教育相談体制のあり方、関係機関との連携、保護者対応など |
| 6 | いじめ・不登校問題 | いじめ問題への対応、不登校問題への対応 |
| 7 | 障がい理解・問題行動 | 配慮が必要な子どもへの対応、問題行動への対応 |
| 8 | 総合・まとめ | 改めて教育相談の意義を考える（振り返り学習） |
| 試験等 | なし | |

**教科書及び参考図書**

参考図書・参考資料等　文部科学省『生徒指導提要』教育図書、河村茂雄編著『教育相談の理論と実際』図書文化
※ 授業中に適宜資料を配付する。

**準備学習・事後学習**

準備学習（週 1.0 時間）： 書籍（参考図書）やインターネット・配付資料等を通して、予習をしておくこと。
事後学習（週 2.0 時間）： 授業の内容をよく復習するとともに、生きた知識として活用し、さらに探究の学習を行うこと。

**課題に対するフィードバックの方法**

課題やリアクションペーパーなどにコメント等を入れて返却する。

**成績評価の目安と方法**

授業参加態度・小レポートの内容　５０%、授業内課題　５０%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 教育相談についての知識を身に付け、十分に理解を深め、教育実践に応用できる力を身に付けている。 |
| A | 教育相談についての知識を身につけ、十分に理解を深めることができる。 |
| B | 教育相談の概略について概ね理解している。 |
| C | 教育相談の概略について最低限は理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 保健体育科教育法<br>［Teaching Theory & Methods Physical Education］ | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 杉山 仁志 ・ 辻 将也 | | S-T3148 | | |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（保健体育）
・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 保健体育<br>学習指導要領<br>学習指導案 | 中学校の教育における「保健体育科」の意義を理解し、保健体育教員としての心構えから指導計画（案）の作成、保健体育授業の内容・方法を概説する。 |

学習の到達目標

学習指導要領を中心にした中学校の保健体育科教員に必要な知識を理解し、習得する。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 体育分野１ | 総則 教育課程編成の一般方針 |
| 2 | 体育分野２ | 保健体育の目標 |
| 3 | 体育分野３ | 各分野の目標及び内容１、２学年 目標 体つくり運動 器械運動 |
| 4 | 体育分野４ | 各分野の目標及び内容１、２学年 陸上競技 水泳 球技 |
| 5 | 体育分野５ | 各分野の目標及び内容１、２学年 武道 ダンス 体育理論 |
| 6 | 体育分野６ | 各分野の目標及び内容３学年 目標 体つくり運動 器械運動 |
| 7 | 体育分野７ | 各分野の目標及び内容３学年 陸上競技 水泳 球技 |
| 8 | 体育分野８ | 各分野の目標及び内容３学年 武道 ダンス 体育理論 指導案作成１ |
| 9 | 体育分野９ | 内容の取扱い 体つくり運動 器械運動 陸上競技 水泳 指導案作成２ |
| 10 | 体育分野 10 | 内容の取扱い 球技 武道 ダンス 体育理論 指導案作成３ 情報機器・教材の活用法 |
| 11 | 保健分野１ | 保健分野の目標 |
| 12 | 保健分野２ | 保健分野の内容 |
| 13 | 保健分野３ | 保健分野の内容の取扱い |
| 14 | 保健分野４ | 指導案作成１ |
| 15 | 保健分野５ | 指導案作成２ 情報機器・教材の活用法 |
| 試験等 | 筆記試験 | |

教科書及び参考図書

教科書：中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、中学体育実技、中学校保健体育

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）： 授業の内容に関する情報（教科書、インターネット等）を事前に読んで学習しておくこと。
事後学習（週 1.5 時間）： 毎回授業の初めに前回授業の内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答の解説を行う。

成績評価の目安と方法

筆記テスト 80% 小テスト 10% 平常点（意欲・態度）10%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学習指導要領における保健体育分野の内容を十分に理解している。 |
| A | 学習指導要領における保健体育分野の内容を理解している。 |
| B | 学習指導要領における保健体育分野の内容を概ね理解している。 |
| C | 学習指導要領における保健体育分野の内容を最低限理解している。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 授業研究　[Study of Class Teaching ] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 ・ 大野 勝生 ・ 川井 明 | 実 | S-T3149 | | |

| この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項 |
|---|
| 教員免許（保健体育）<br>・大学が独自に設定する科目 |

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 教育学<br>現代の学校の諸問題<br>ディスカッション | 体育授業を展開するための諸条件について実践的に探究する。模擬授業担当以外の学生は生徒役となって授業を分析、検討する。グループは教員側で割り振る（主に実技２や部活等で選択していないものの模擬授業を担当する）。模擬授業時は各種目の専門実技教員がサポートする。 |

| 学習の到達目標 |
|---|
| 学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般について理解し、実践に活かせるように検討する。 |

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーションと指導案作成の準備（担当：大野、福島、川井） |
| 2 | 指導案作成１（担当：大野、福島、川井） |
| 3 | 指導案作成２（担当：大野、福島、川井） |
| 4 | 集団行動（担当：大野、福島、川井） |
| 5 | 体づくり運動の模擬授業 グループＡ（担当：大野、福島、川井） |
| 6 | 球技 サッカーの模擬授業 グループＢ（担当：大野、福島、川井） |
| 7 | 球技 バレーボールの模擬授業 グループＣ（担当：大野、福島、川井） |
| 8 | 球技 バスケットボールの模擬授業 グループＤ（担当：大野、福島、川井） |
| 9 | 球技 ハンドボールの模擬授業 グループＥ（担当：大野、福島、川井） |
| 10 | 体操器械運動の模擬授業 グループＦ（（担当：大野、福島、川井） |
| 11 | 陸上競技（短距離・リレー）の模擬授業 グループＧ（担当：大野、福島、川井） |
| 12 | 陸上競技（ハードル走）の模擬授業 グループＨ（担当：大野、福島、川井） |
| 13 | 武道の模擬授業 グループＩ（担当：大野、福島、川井） |
| 14 | 反省会と今後の課題の検討（担当：大野、福島、川井） |
| 15 | 反省会と今後の課題の検討（担当：大野、福島、川井） |
| 試験等 | なし |

| 教科書及び参考図書 |
|---|
| 参考図書：文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』平成 29 年７月　　そのほか適宜資料を配布する |

| 準備学習・事後学習 |
|---|
| 準備学習（週 1.5 時間）：模擬授業実施のための準備を行う。また、自分の担当以外の模擬授業からも自分の授業に活かせる点を見つけ、実際に活かすことで授業研究全般について理解を深める。<br>事後学習（週 1.5 時間）：模擬授業後に内容を改めて検討し、改善策を明示する。模擬授業の指導案は保管しておき、改善していく。 |

| 課題に対するフィードバックの方法 |
|---|
| 各教員が授業中にコメントする他、オフィスアワーを利用して対応する。 |

| 成績評価の目安と方法 |
|---|
| 指導案　３５％　模擬授業　３５％　各回に課す小レポート　３０％ |

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般について十分理解し、実践に活かせるように検討できている。 |
| A | 学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省を通じて、授業研究全般についておおむね理解している。 |
| B | 学習指導案を作成し、授業実践を行い、反省することはできるが、授業研究全般について理解できるよう努力を要する。 |
| C | 学習指導案を作成し、授業実践を行うことはできるが、反省を通じて授業研究全般について理解できるよう継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 食教育実践論　[School Nutrition Guidance] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 講義<br>アクティブ・ラーニング | 小板 由美子 | | N-T3150 | | |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（栄養教諭）
・栄養に係る教育に関する科目

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1 | 食教育 | 栄養教諭に必要な基礎知識を習得するとともに、児童・生徒の食行動の現状と課題について把握し、適切な指導を行うための総合的な指導力を身につける。また、給食の時間や特別活動において各教科との関連性を踏まえた学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。 |
| 2 | 栄養教諭 | |
| 3 | 給食 | |

学習の到達目標

指導に係る全体的な計画の作成と模擬授業を実施し、指導の効果的評価方法を学ぶとともに、栄養教諭としての資質を養う。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 食教育の意義 | 栄養教育実習の意義と目的 |
| 2 | 栄養教諭の職務と給食 | 教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和 |
| 3 | 児童・生徒の食教育 | 教科および特別活動との関わり |
| 4 | 法令・行政・諸制度 | 学級活動および総合的な学習の時間、給食時間等の関わりおよびその他教育活動との関わり |
| 5 | 児童・生徒に係る課題 | 学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連 |
| 6 | 食生活の歴史・文化 | 栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい |
| 7 | 食に関する指導 1 | 栄養教育実習の課題別指導計画の立案 1 |
| 8 | 食に関する指導 2 | 栄養教育実習の課題別指導計画の立案 2 |
| 9 | 食に関する指導 3 | 指導計画案に基づいた教材作り |
| 10 | 各教科との関連指導 | 模擬授業 |
| 11 | 実習演習 1 | 小学校または中学校における栄養教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む） |
| 12 | 実習演習 2 | 栄養教育実習を振り返っての反省 |
| 13 | 実習演習 3 | 反省・問題点を踏まえての指導案作成 |
| 14 | 実習演習 4 | 今後の課題の検討 |
| 15 | まとめ | レポート作成および教育実習の報告会 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：栄養教育実習の手引き（初回の授業内で配布する）

準備学習・事後学習

準備学習：資料をもとに指導案作成、媒体作成の準備をしておくこと。また、学習指導要領は事前に必ず一読しておくこと。
事後学習：評価シートの内容を指導案構成に反映させる。
栄養教育実習における研究授業を想定し、学習指導案作成及び模擬授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

模擬実習で実施した評価シートをもとに再構成させる。添削後グループディスカッションを行う。

成績評価の目安と方法

平常点 40%　筆記試験 30%　指導案及び教材 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業が展開され、指導成果について理解している。 |
| A | 栄養教諭としての知識を活かし、指導案にそった模擬授業をする方法を身につけている。 |
| B | 栄養教諭としての基礎的な知識を活かした指導方法を身につけている。 |
| C | 栄養教諭としての基礎的な知識を身につけている。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 教職実践演習（中学校）　[Seminar on Teaching Practice] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 演習<br>アクティブ・ラーニング | 福島 邦男 ・ 大野 勝生 ・ 川井 明 ・ 田中 直美 | 実 | S-T5151 |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（保健体育）
・教育実践に関する科目　教職実践演習

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 保健体育指導<br>学校教育<br>模擬授業 | 実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、カリキュラム開発、教科指導、学級経営の方法等について議論を深める。 |

学習の到達目標

本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④円滑な学級経営ができる、⑤カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の５つである。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | オリエンテーション、教育実習のふり返り |
| 2 | 学校運営 | 学級活動の運営方法 |
| 3 | 学校運営 | チーム学校に必要なスキル |
| 4 | 学校運営 | 体罰をめぐる諸問題 |
| 5 | 授業分析 | 保健体育の授業分析と指導方法（保健） |
| 6 | 授業分析 | 保健体育の授業分析と指導方法（実技） |
| 7 | 授業分析 | 道徳教育における問いの立て方 |
| 8 | 授業分析 | 特別活動・レクリエーション論 |
| 9 | 特別支援 | 学外講師による特別授業１ |
| 10 | 教師への道 | 学外講師による特別授業２ |
| 11 | 模擬授業 | 指導案作成 |
| 12 | 模擬授業 | 模擬授業およびロールプレイ発表会１ |
| 13 | 模擬授業 | 模擬授業およびロールプレイ発表会２ |
| 14 | 模擬授業 | 模擬授業およびロールプレイ発表会３ |
| 15 | 模擬授業 | 模擬授業およびロールプレイ発表会４ |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：特になし　必要な資料は適宜配布する

準備学習・事後学習

準備学習（週 1.5 時間）：　教育実習先での学びをふりかえり、指導案作成、及び模擬授業の準備。
事後学習（週 1.5 時間）：　模擬授業をふりかえり、指導案の改善。

課題に対するフィードバックの方法

各教員が授業中にコメントする。

成績評価の目安と方法

レポート課題 40%　演習への参加態度 30%　模擬授業の発表 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。 |
| A | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義をとてもよく理解している。 |
| B | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を十分に理解している。 |
| C | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、中学校教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 教職実践演習（栄養教諭）　[Seminar on Teaching Practice] | 2 | | | |

| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー |
|---|---|---|---|
| 講義・演習<br>アクティブ・ラーニング | 小板 由美子 ・ 大野 勝生 ・ 田中 直美 | 実 | N-T5152 |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（栄養教諭）
・教育実践に関する科目　教職実践演習

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 教育心理学<br>栄養指導<br>学校教育 | 実践的指導者の育成という観点から、教職履修学生の教員としての資質・能力を育成する。そのため実習での経験や体験をもとに演習を進める。具体的には、教育実習の振り返りを行い、教員の職務・職責、学校の役割、学校栄養指導の方法、栄養指導と各教科内容との関連、カウンセリング等について議論を深める。 |

学習の到達目標

本演習の到達目標は、①教師としての使命感や責任感を持つことができる、②教育的愛情をもって生徒を指導できる、③社会性を身につけ、他者とコミュニケーションを図ることができる、④カウンセリングマインドをもって生徒を理解できる、⑤円滑な学級経営ができる、⑥カリキュラム開発と授業を一体化して実践できる、の６つである。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 教育実習のふり返り |
| 2 | 生徒理解・カウンセリング | 生徒理解の方法・学校相談とカウンセリングマインド |
| 3 | 栄養指導１ | 学校栄養指導の方法（小学校、中学校） |
| 4 | 栄養指導２ | 各教科での指導と栄養指導との関連 |
| 5 | 教員・学校 | 教員の職務と職責・学校の意味 |
| 6 | 教育の最新事情１ | 学校をめぐる諸問題 |
| 7 | 教育の最新事情２ | 教育改革の動向 |
| 8 | 教員という仕事の現状１ | 学外講師による特別授業１ |
| 9 | 教員という仕事の現状２ | 学外講師による特別授業２ |
| 10・11 | 発表会準備 | 模擬授業およびロールプレイ発表のための媒体作り |
| 12 | 発表会１ | 模擬授業およびロールプレイ発表会１ |
| 13 | 発表会２ | 模擬授業およびロールプレイ発表会２ |
| 14 | 発表会３ | 模擬授業およびロールプレイ発表会３ |
| 15 | 発表会４ | 模擬授業およびロールプレイ発表会４ |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

参考図書：原田恵理子・森山賢一編著『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版

準備学習・事後学習

準備学習：その内容に関する図書や最新動向について入念に調査した上でレポートを作成すること。
事後学習：模擬授業の評価を踏まえて指導案の再構成を行う。
この演習では、それぞれの担当教員の専門分野に関する講義を踏まえて、各回でレポートを課す。

課題に対するフィードバックの方法

教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめ提出。添削後グループディスカッションを行う。

成績評価の目安と方法

レポート課題　40%　演習への参加態度　30%　模擬授業の発表 30%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解し、教員としての資質を十分に得ている。 |
| A | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義をとてもよく理解している。 |
| B | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を十分に理解している。 |
| C | これまで履修してきた教職課程科目を振り返り、栄養教諭の役割や意義を理解したものの、継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 教職専門科目 | 保健体育教育実習<br>[Teaching Practice of Nutritional Education] | 5 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 事前・事後指導・学外演習・アクティブ・ラーニング | 杉山 仁志 ・ 福島 邦男 ・ 大野 勝生 ・ 田中 直美 | 実 | S-T9153 | | |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（保健体育）、レクリエーション・インストラクター
・教育実践に関する科目　教育実習

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 教育実習<br>学校教育<br>保健体育指導 | 中学校において原則３週間の教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導では、教育実習の心構え、学校制度の理解、授業における生徒の指導方法、生徒に接する基本的な態度や技術をしっかり身に付ける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。 |

学習の到達目標

学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育の実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにすることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 事前指導１ | 教育実習の内容、及び教育実習の意義と目的 |
| 2 | 事前指導２ | 学校組織の理解、中学校の組織、役割、地域との関連、教師の仕事 |
| 3 | 事前指導３ | 特別授業：中学校の実態と教育実習生の心構え |
| 4・5 | 事前指導４ | 特別授業：中学校の授業参観 |
| 6 | 事前指導５ | 教材研究：教材と授業 |
| 7 | 事前指導６ | 授業実習の方法：授業計画、単元計画 |
| 8～10 | 事前指導７ | 学習指導案の作成：指導計画の立案、指導案作成 |
| 11～72 | 教育実習 | 中学校における教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む） |
| 73 | 事後指導１ | 教育実習の振り返り、討論 |
| 74~75 | 事後指導２ | 今後の課題の検討、教員採用試験に向けて |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：教育実習の手引き（初回の授業内で配布する）

準備学習・事後学習

準備学習：実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨む。
事後学習：毎回行った内容を授業後に整理する。
　　教育実習後は、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出する。

課題に対するフィードバックの方法

各教員が授業中にコメントする。

成績評価の目安と方法

実習校における評価　50%　　事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容、および提出物など　50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。 |
| A | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術をとてもよく修得している。 |
| B | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。 |
| C | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したものの、継続的な努力を要する。 |

| 授業科目区分 | 科目名 [英文名] | 単位 | N | S | M |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門教育科目 | 栄養教育実習<br>[Teaching Practice of Nutritional Education] | 2 | | | |
| 授業形態 | 担当教員名 | | 科目ナンバー | | |
| 事前・事後指導・学外演習・アクティブ・ラーニング | 小板 由美子 ・ 大野 勝生 ・ 田中 直美 | 実 | N-T9154 | | |

この授業に関係する資格及び含めることが必要な事項

教員免許（栄養教諭）、レクリエーション・インストラクター
・教育実践に関する科目　教育実習

| この授業のキーワード | | 授業概要 |
|---|---|---|
| 1<br>2<br>3 | 教育実習<br>学校教育<br>栄養指導 | 学校給食を実施している小・中学校において、１週間の栄養教育実習を受ける。そのための事前指導、事後指導を含む。事前指導においては教育実習の心構えや児童生徒に接するための基本的態度、技術を身に付ける。事後指導においては、実習を経験しての反省点・今後の課題を検討する。 |

学習の到達目標

学校現場において教育実習を行うことにより、学校教育の実際を知る。あわせて自らの教職に対する適性を測り、今後の課題を明らかにすることを目標とする。

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|---|---|---|
| 1 | 事前指導１ | 栄養教育実習の意義と目的 |
| 2・3 | 事前指導２ | 教師の役割、仕事、近隣校長先生による講和 |
| 4 | 事前指導３ | 教科および特別活動との関わり |
| 5 | 事前指導４ | 学級活動および総合的な学習の時間等への関わり、給食時間等の関わり、およびその他教育活動との関わり |
| 6 | 事前指導５ | 学校組織の理解、小学校・中学校の組織、役割、家庭、地域との関連 |
| 7 | 事前指導６ | 栄養に関する指導の意義と位置づけ、栄養に関する指導のねらい |
| 8 | 事前指導７ | 栄養教育実習の課題別指導計画の立案１ |
| 9 | 事前指導８ | 栄養教育実習の課題別指導計画の立案２ |
| 10～12 | 事前指導９ | 指導計画案に基づいた教材作り |
| 13 | 事前指導 10 | 模擬授業 |
| 14～35 | 教育実習 | 小学校または中学校における栄養教育実習（事前打ち合わせ、事後反省を含む） |
| 36 | 事後指導１ | 栄養教育実習を振り返っての反省 |
| 37 | 事後指導２ | 反省・問題点を踏まえての指導案作成 |
| 38 | 事後指導３ | 今後の課題の検討 |
| 39・40 | まとめ・報告会 | レポート作成および教育実習の報告会 |
| 試験等 | なし | |

教科書及び参考図書

教科書：栄養教育実習の手引き（初回の授業内で配布する）

準備学習・事後学習

準備学習：教育実習に行くまでに、それぞれの実習校の特色や教育目標など、実習校に関する情報をくまなく調べ、頭に入れて実習に臨むこと。
事後学習：教育実習を終えたら、実習を通しての収穫と今後の反省点について自分で振り返り、感想文としてまとめて提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

教育実習で実施した研究授業及び見学した授業の内容をまとめ提出。添削後グループディスカッションを行う。

成績評価の目安と方法

実習校における評価　50%　事前・事後指導や教職関連行事におけるレポートの内容および提出物など　50%

| 評価 | 成績評価別の到達度 |
|---|---|
| S | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得し、創意工夫ある授業実践ができる。 |
| A | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術をとてもよく修得している。 |
| B | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を十分に修得している。 |
| C | 教育実習やその事前・事後指導を通して、具体的な指導方法や指導技術を修得したものの、継続的な努力を要する。 |

MUSASHIGAOKA
COLLEGE